

---

江 南 市  
男女共同参画に関するアンケート調査  
結果報告書

---

令和3年6月  
江南市 市民サービス課



# 江南市男女共同参画都市宣言

木曾川の清流に育まれた、藤の花香る水と緑のまち江南市。  
この地に住むわたしたちは、男女が互いに尊重し、  
協力し合うとともに、健やかで安心安全に暮らせるまちを目指し、  
ここに「男女共同参画都市」を宣言します。

1. わたしたちは 男女が 互いの人権を尊重し 思いやりと  
感謝の心があふれるまちをつくります
1. わたしたちは 男女が その個性と能力を発揮し 共に  
いきいきと輝き 心の豊かさを感じるまちをつくります
1. わたしたちは 男女が 家庭 地域 職場において  
共に助け合い 協力することができるまちをつくります

平成22年2月20日

江南市

# 目 次

I. 調査の概要.....	1
1. 調査について.....	3
(1) 調査目的.....	3
(2) 調査項目.....	3
(3) 調査設計.....	3
(4) 回収結果.....	3
(5) 報告書の見方.....	4
II. 結果概要.....	5
1. 男女の地位に関する意識について.....	7
2. 職業・職場環境などについて.....	8
3. 家庭・地域生活について.....	9
4. 性的少数者（性的マイノリティ）について.....	11
5. DV（ドメスティック・バイオレンス）について.....	12
6. 男女共同参画全般について.....	13
III. 調査結果.....	15
1. 回答者の属性.....	17
2. 男女の地位に関する意識について.....	23
3. 職業・職場環境などについて.....	35
4. 家庭・地域生活について.....	45
5. 性的少数者（性的マイノリティ）について.....	93
6. DV（ドメスティック・バイオレンス）について.....	103
7. 男女共同参画全般について.....	113
IV. 自由記述.....	119
V. アンケート調査票.....	127
江南市 男女共同参画に関するアンケート調査.....	129



## I. 調査の概要

---



# 1. 調査について

## (1) 調査目的

本調査は、男女平等、社会活動、女性の就労や人権等についての考え方など、市民の男女共同参画に関する意識や実態を把握するとともに、市民からの意見等を広く聴き、「第3次こうなん男女共同参画プラン」策定の基礎資料とすることを目的とします。

## (2) 調査項目

アンケート調査は、以下に示す項目について実施しました。具体的な調査項目については、巻末資料（P129）の「アンケート調査票」を参照してください。

- ①男女の地位に関する意識について
- ②職業・職場環境などについて
- ③家庭・地域生活について
- ④性的少数者（性的マイノリティ）について
- ⑤DV（ドメスティック・バイオレンス）について
- ⑥男女共同参画全般について

## (3) 調査設計

調査地域	江南市全域
調査対象者	江南市在住の18歳以上の2,000人 男性1,000人、女性1,000人を無作為抽出
調査期間	令和3年（2021年）4月20日～5月6日
調査方法	調査票による本人記入方式 郵便配布・郵便回収及びWEB回答による郵送・WEB調査方法

## (4) 回収結果

	配布数	回収数（うちWEB回答数）	有効回収率
女性	1,000	477（48）	47.7%
男性	1,000	359（49）	35.9%
その他*		15（0）	
合計	2,000	851（97）	42.6%

※答えたくないとは回答した2件を含む

## (5) 報告書の見方

### ●集計について

本報告書は、設問ごとに「全体（単純集計）および性別」の集計結果を記載しています。また、設問によっては、「年齢別」の結果、令和元（2019）年度に内閣府が実施した調査（全国調査）や愛知県が実施した調査（県調査）、平成 22（2010）年度に江南市が実施した調査（前回調査）、平成 12（2000）年度に江南市が実施した調査（前々回調査）との比較を行っています。

### ●「N」について

グラフ中の「N」とは、Number of Cases の略で、各設問に該当する回答者総数を表します。したがって、各選択肢の％に「N」を乗じることで、その選択肢の回答者数が計算できます。

### ●「％」について

グラフ中の「％」は、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、単数回答の設問（1 つだけに○をつけるもの）であっても、合計が 100％にならない場合があります。また、複数回答の設問の場合（あてはまるものすべてに○をつけるものなど）は、「N」に対する各選択肢の回答者数の割合を示しています。

### ●選択肢の記載について

グラフ中の選択肢は、原則として調査票に記載された表現のまま記載しています。

### ●比較分析において利用した調査について

比較分析において利用した調査名は次のとおりです。

- ・江南市「男女共同参画に関するアンケート調査」 平成 22（2010）年度実施  
(以降前回調査)  
『男女共同参画基本計画』策定にあたってのアンケート調査  
平成 12（2000）年度実施
- ・内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」 令和元（2019）年度実施
- ・愛知県「男女共同参画意識に関する調査」 令和元（2019）年度実施



## II. 結果概要

---

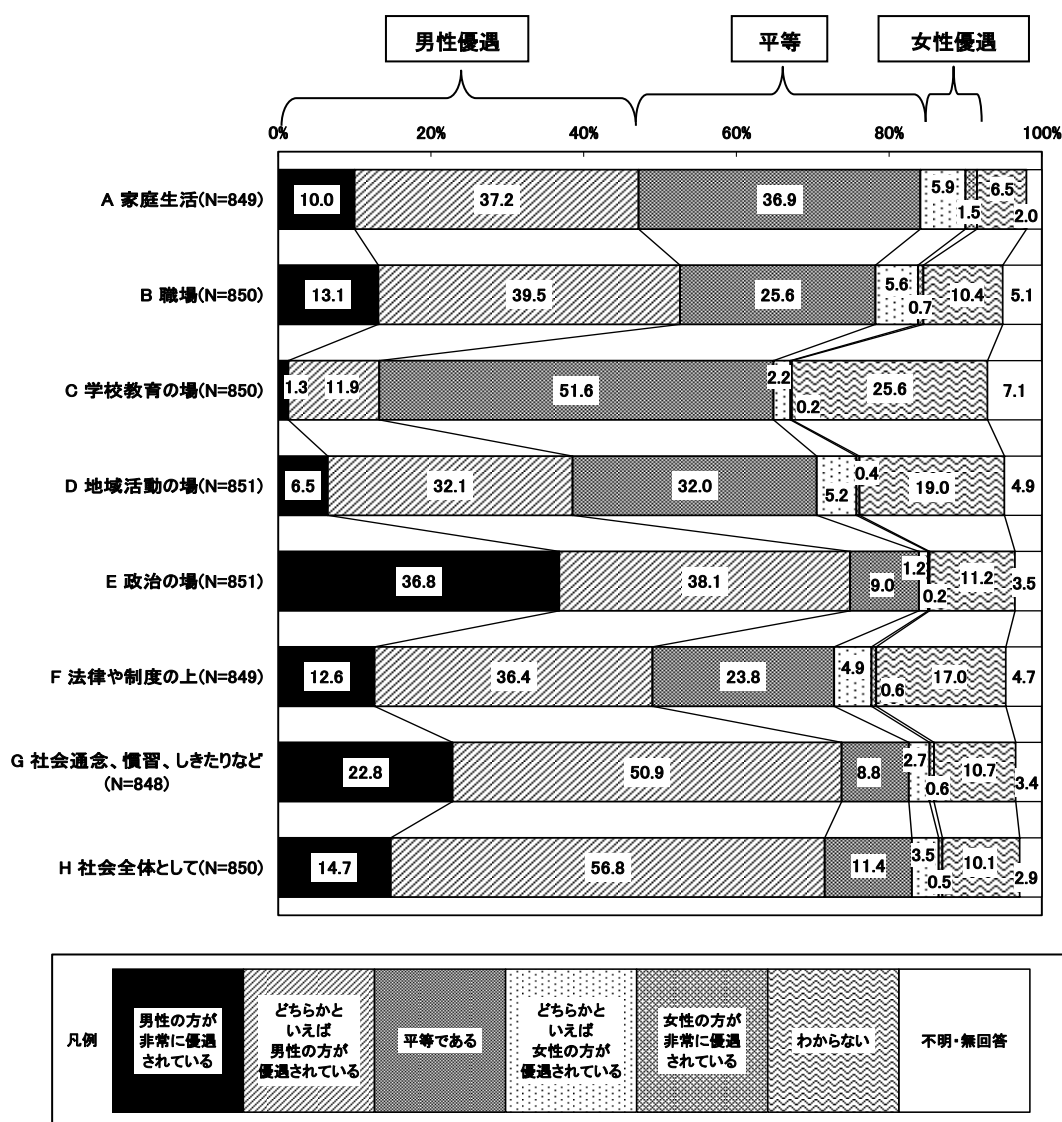


# 1. 男女の地位に関する意識について(P23)

私たちの生活のあらゆる場面において、性別による平等・不平等の存在を把握するため、調査を行いました。また、あらゆる分野において平等になるためには何が重要かということ調査しました。

分野ごとの平等・不平等の感じ方については、「社会通念、慣習、しきたりなど」「社会全体として」「政治の場」で『男性優遇感』が強く、比較的平等だと感じているのは「学校教育の場」であることがわかりました。

【問7 あなたは、次のような場面において、男女の地位は平等になっていると思いますか。（各項目単数回答）】



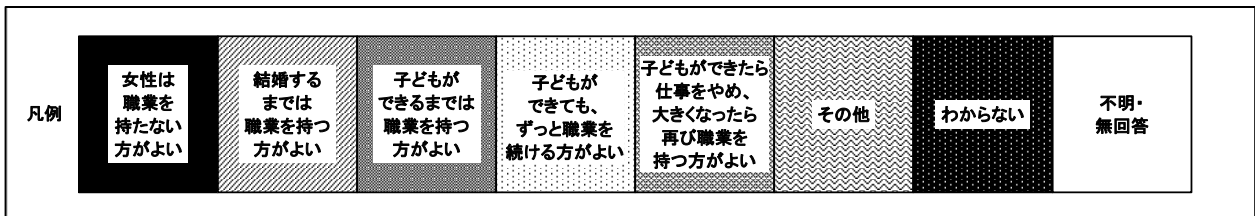
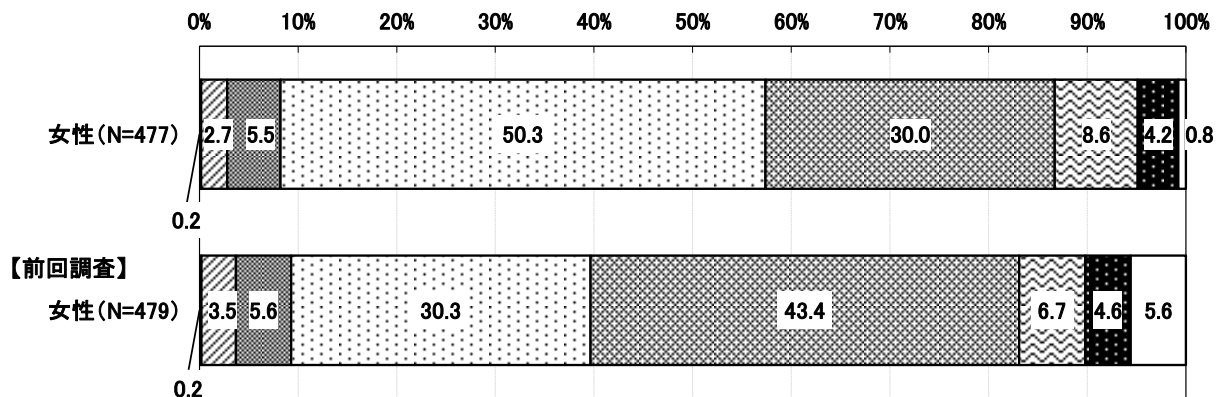
また、あらゆる分野において平等になるための必要な施策としては、「男女を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」ことが求められています。

## 2. 職業・職場環境などについて(P35)

男女が各々職業を持つことに関する意識を知るため、結婚、子どもが産まれる場面等想定した調査を行いました。また、職場における、セクシュアル・ハラスメントの存在、その問題をなくすための必要な対策、及び女性が安心して働ける環境をつくるため必要なことについて、調査しました。

女性についてしてみると、望ましい働き方は『就労継続』と『子どもができれば辞め、再就職』で回答が二分しています。ただし、前回調査に比べると『就労継続』の回答割合が高くなっています。

【問9 あなたは、女性が職業を持つことについてどう思いますか。(単数回答)】



男性の働き方について、『「結婚」や「子どもができた」ことで仕事量を調整する』という意見と『常に職業に専念した方がよい』の回答が多い結果となっています。

女性の28.7%、男性の6.9%が、セクシュアル・ハラスメントを「自分が直接経験したことがある」と答えています。セクシュアル・ハラスメント防止のために必要なことは「事業主がセクハラ防止の啓発に取り組む」が最も高いです。

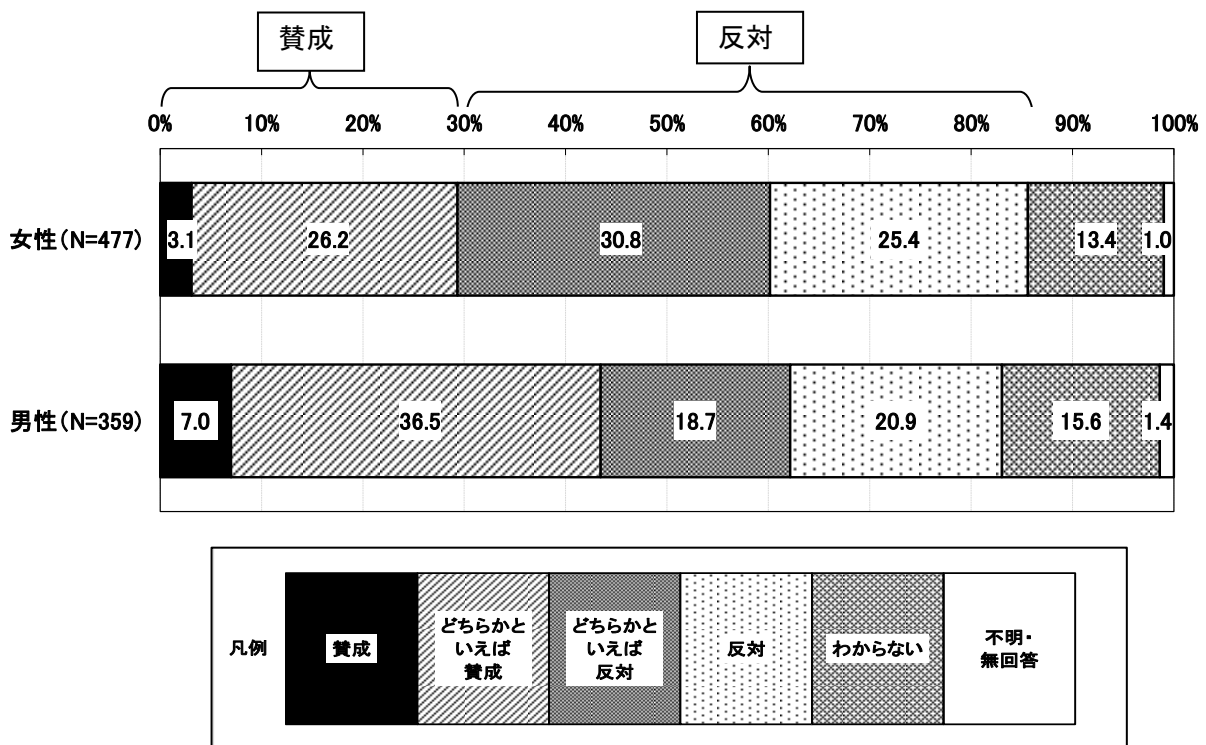
女性が安心して働ける環境をつくるために、「職業(仕事)と家庭の両立に職場が理解し協力する」ことが求められています。

### 3. 家庭・地域生活について(P45)

固定的性別役割分担の意識について、変化をみるため調査しました。また家庭の中の家事分担、家事・育児・介護に関わる時間、子育てや子どもの育て方に関する意識についても、これまでとの変化をみるため調査を行いました。「仕事」「家庭生活」「地域、個人の生活」を重視しているバランスや、仕事以外の地域・社会活動への参加状況及び参加希望、その活動における性別を理由にした不平等な扱いについても調査を行いました。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」には、男性の43.5%が『賛成』、女性の56.2%が『反対』ということがわかりました。

【問14 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。(単数回答)】



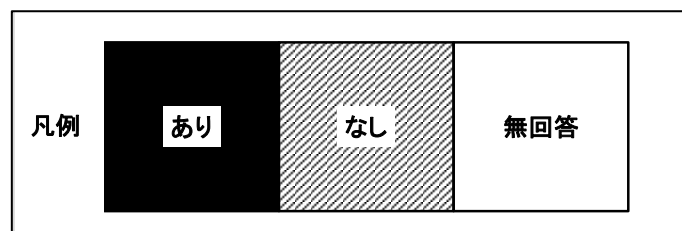
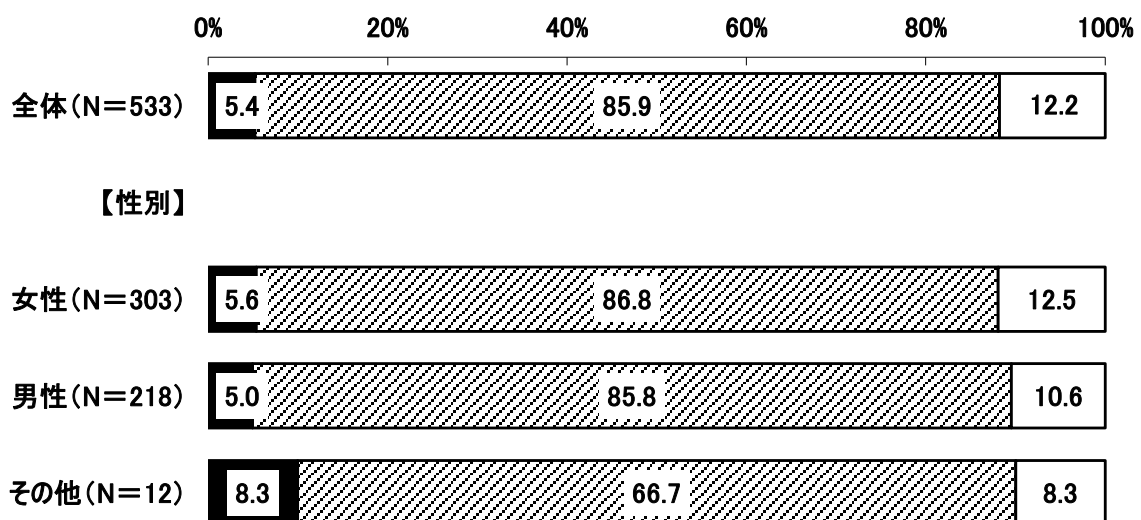
子育てや子どもの育て方については、「小さいうちは母親は育児に専念」「親が仕事のため、子育て支援サービスを活用してもよい」「性別にこだわらず個性をのぼす」を回答した割合が高いことがわかります。

男女ともに『「仕事」「家庭生活」と「地域・個人生活」を全て重視』する生活を希望していますが、実際は、男女ともに『「仕事」と「家庭生活」をともに重視』の生活となっています。しかし、意識の面においては現実と希望はほぼ同じと感じている人は半数程度です。

地域・社会活動に参加している、参加したことのある割合は男性よりも女性で高くなっています。

参加している、参加した中で、性別を理由にした不平等な扱いを受けた経験は9割弱程ないということがわかりました。

【問22 仕事以外で地域、社会活動に参加している（したことがある）中で、性別を理由にした不平等な扱いを受けた経験はありますか。】

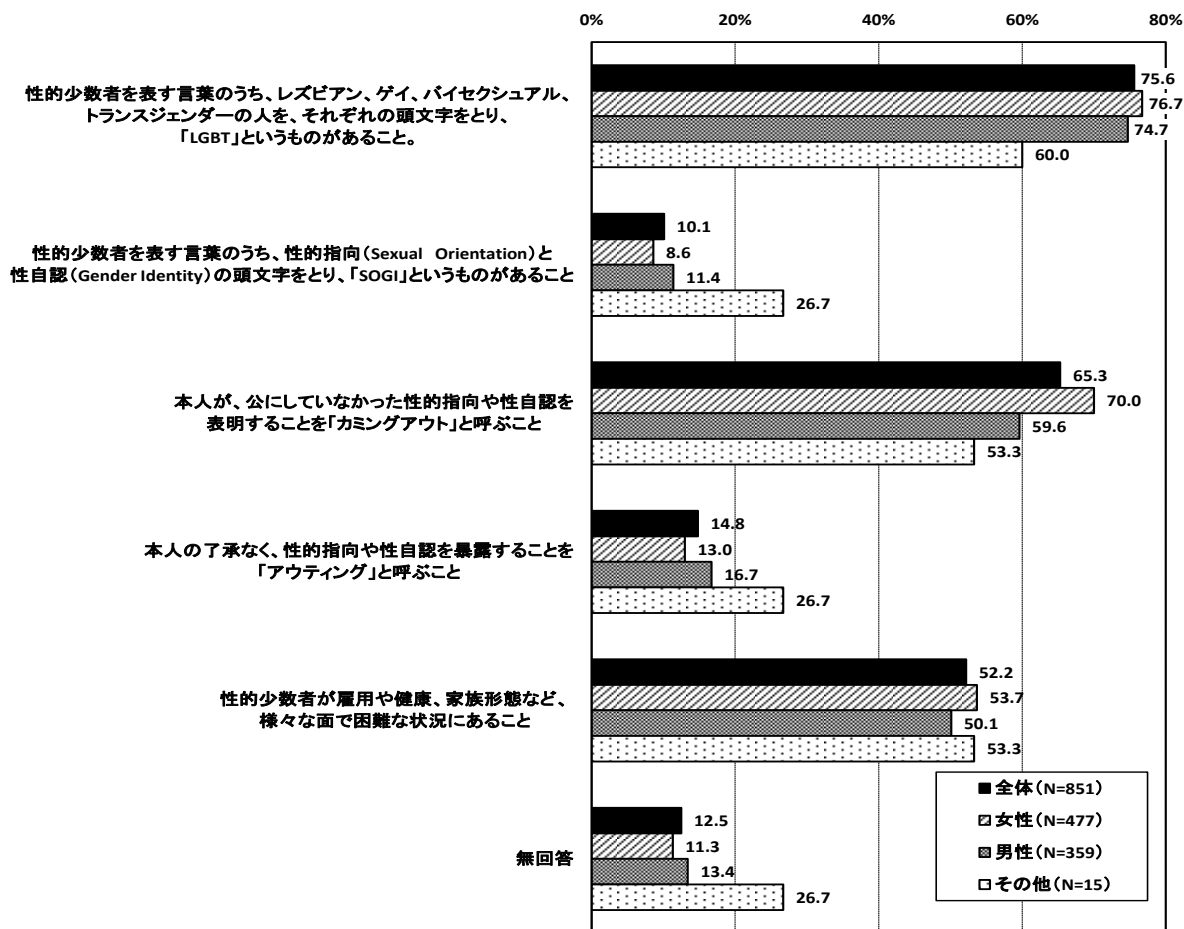


## 4. 性的少数者(性的マイノリティ)について(P93)

最近メディアでもよく目にするようになってきている性的少数者(性的マイノリティ)について、市の現状を把握するため、関連する言葉の認知度、自分を含む周囲における存在、性的少数者が必要とする取り組み等、意識調査を行いました。

「LGBT」の認知度は75.6%、「カミングアウト」の認知度は65.3%となっています。

【問24 あなたは、性的少数者に関する次のことについて知っていますか(複数回答)】



周囲の性的少数者の存在は、全体で見ると「いない」が52.5%となっています。

性的少数者であることを打ち明けられた場合「今まで通り接する」が56.3%、「驚くが、話を聞く」が54.6%となっています。

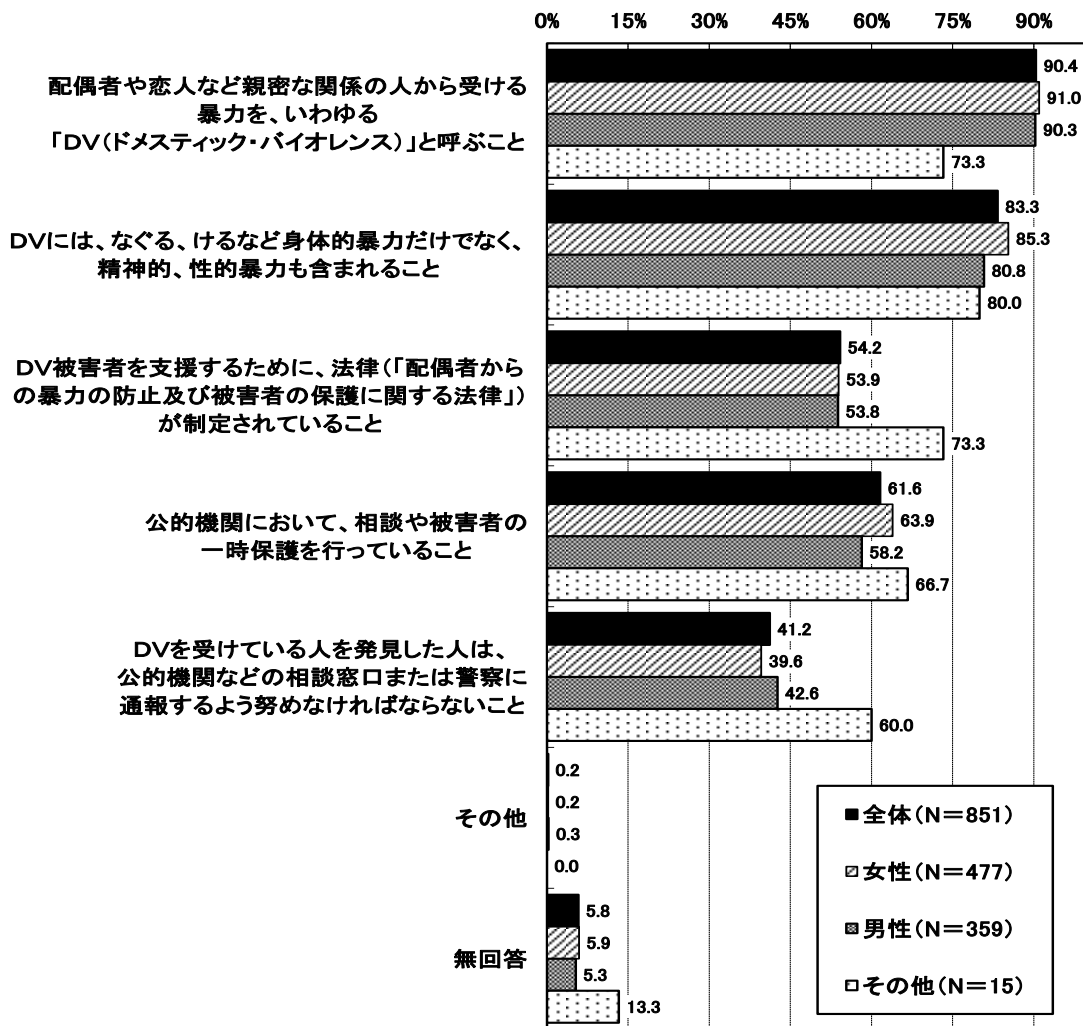
性的少数者に関する必要な取り組みについて、「社会制度の見直し(パートナーシップ証明書など)」が56.4%、「教育現場での啓発活動(性的少数者に関する講演会や授業など)」が54.9%となっています。

## 5. DV(ドメスティック・バイオレンス)について(P103)

DVについて、これまでの意識変化等を把握するため、DV経験や、経験した時の相談の有無、男性を対象として相談機関を含む相談窓口の認知度、DVを防止するための必要なことを調査しました。

DVについて「配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「ドメスティック・バイオレンス(DV)」と呼ぶこと」と知っている割合が最も高いです。

【問30 あなたは、DVに関する次のことについて知っていますか。(複数回答)】



女性のDVの被害経験は11.3%、男性は3.9%であり、その内容は「精神的な暴力(おどす、ののしる、無視する等)」「身体的な暴力(なぐる、ける等)」が多い傾向にあります。

防止のために必要だと思う施策は、全体では「被害者のための相談窓口や保護施策を整備する」が最も高いです。

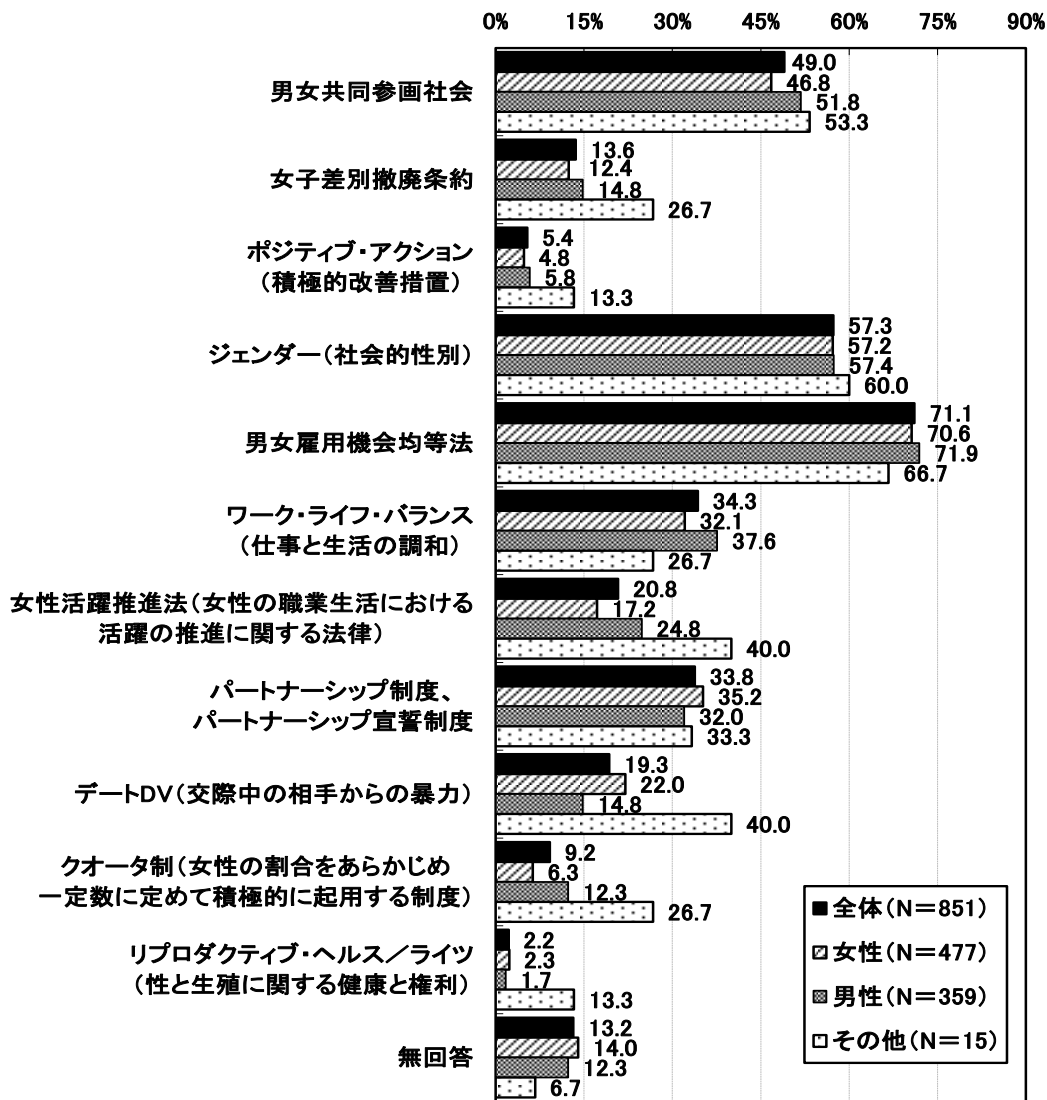


## 6. 男女共同参画全般について(P113)

男女共同参画全般について、男女共同参画社会を実現するために、市民として、企業が、行政が、どのようなことに力を入れていくべきか、意識調査を行いました。また、江南市が男女共同参画都市宣言を行ったことについての周知度も調査しました。

男女雇用機会均等法の認知度は71.1%、ジェンダーの認知度は57.3%でした。

【問37 あなたは次にあげる男女共同参画に関する言葉を知っていますか。(複数回答)】



男女共同参画の推進のために必要な取組みは、市民は「家族が協力して家事や育児を行う」、企業は「育児休業制度、介護休業制度などを利用しやすい職場環境をつくる」、行政は「保育サービス、高齢者・介護サービスを充実」が最も高い回答でした。

江南市男女共同参画都市宣言の認知度は、7.8%でした。



### III. 調查結果

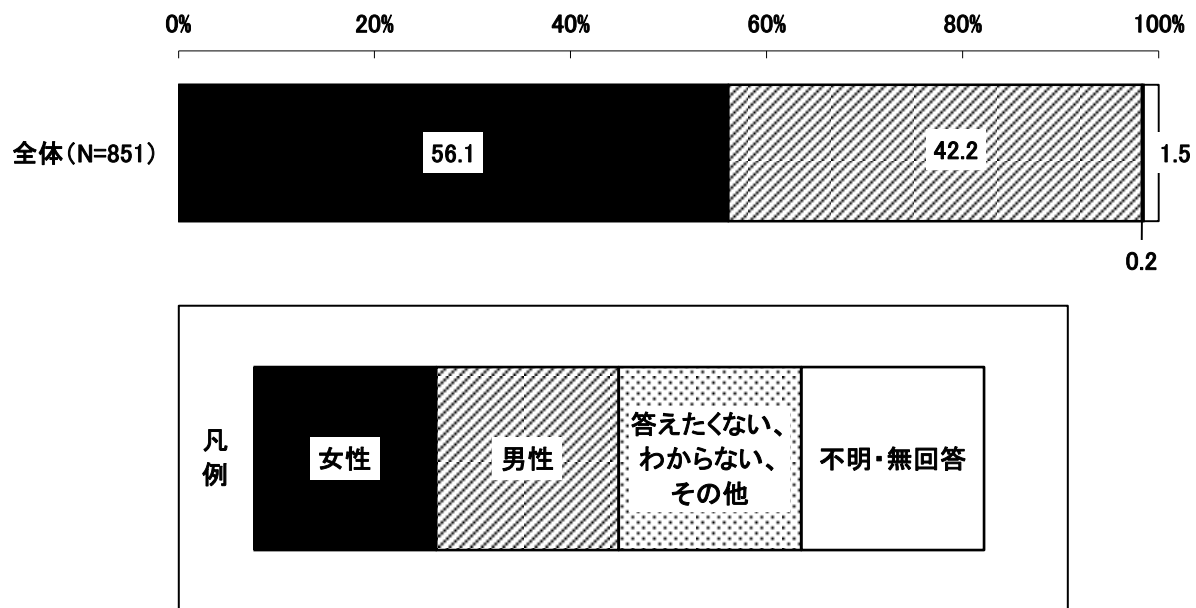
---



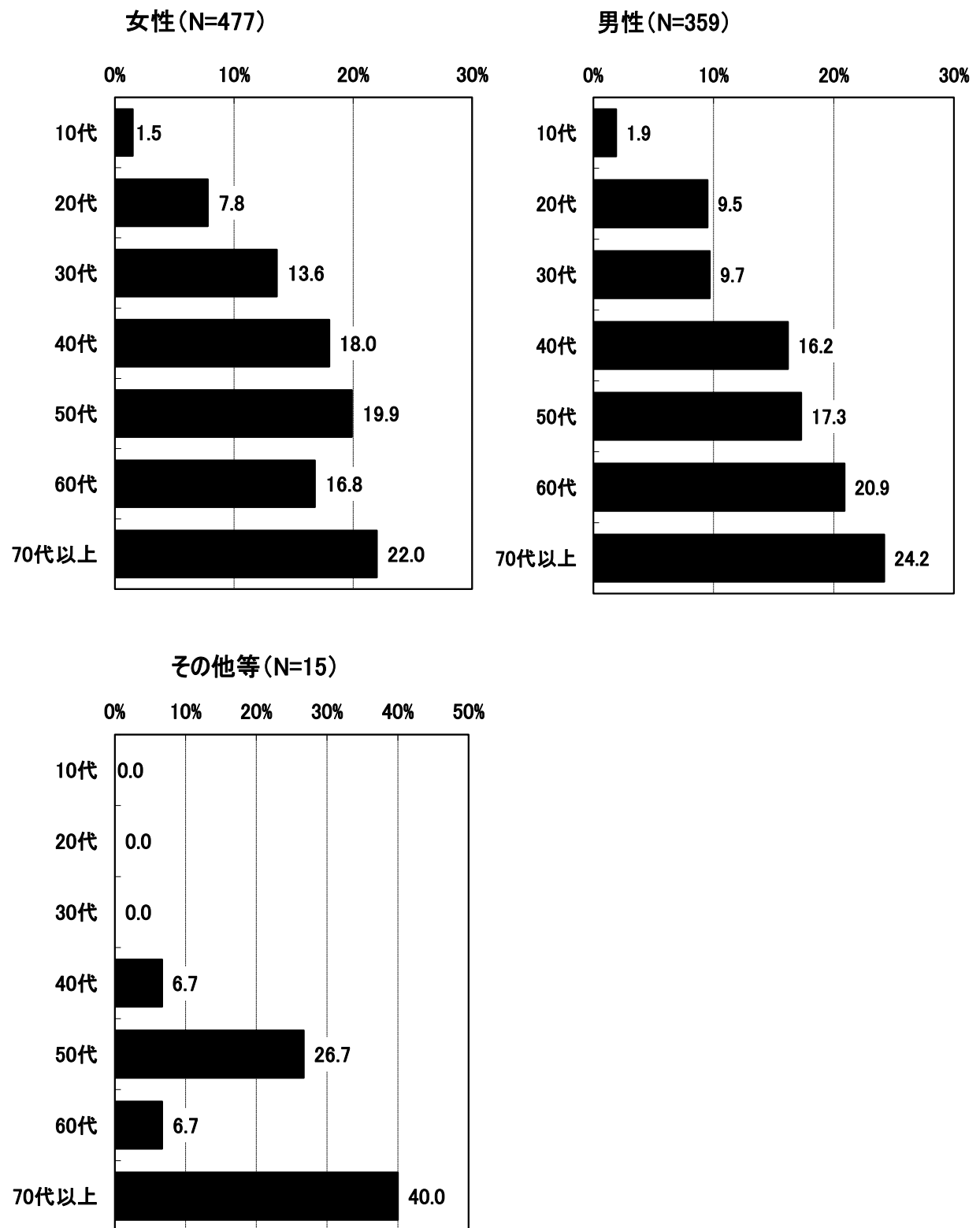
# 1. 回答者の属性

以下の集計結果は、今回の調査票に回答した回答者の「性別」「年齢」「職業」「婚姻状況」「家族構成」について、または既婚の場合、「配偶者の職業」といった回答者の属性を示しています。

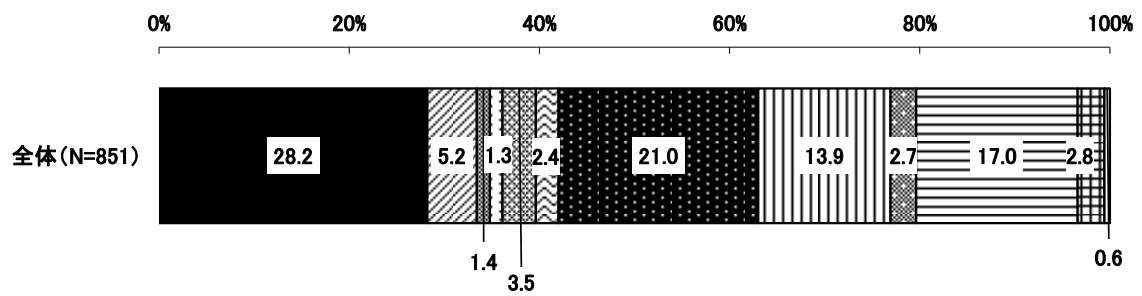
問1 あなたの性についてお答えください。（単数回答）



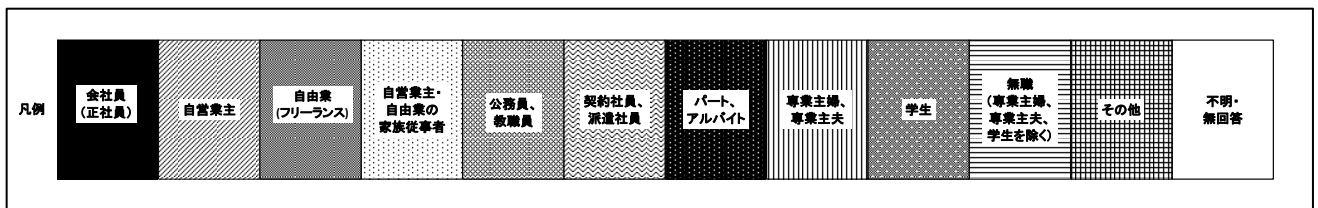
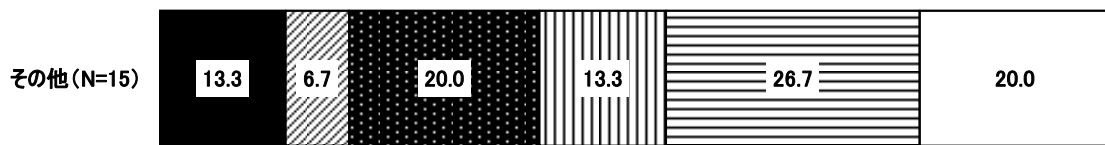
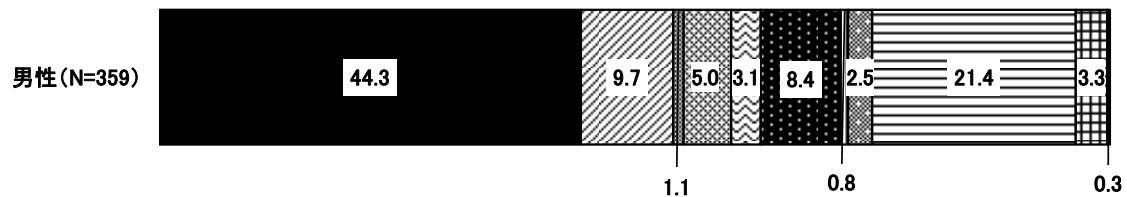
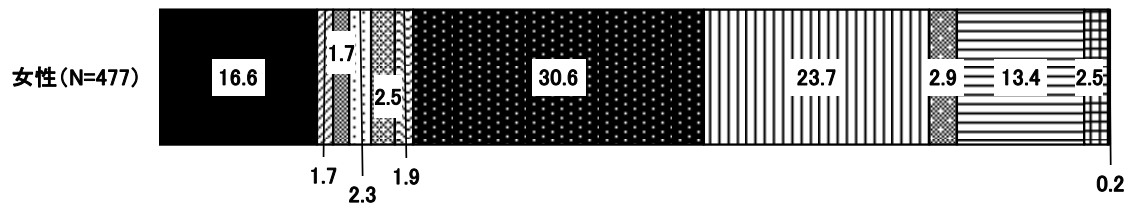
問2 あなたの年齢についてお答えください。(単数回答)



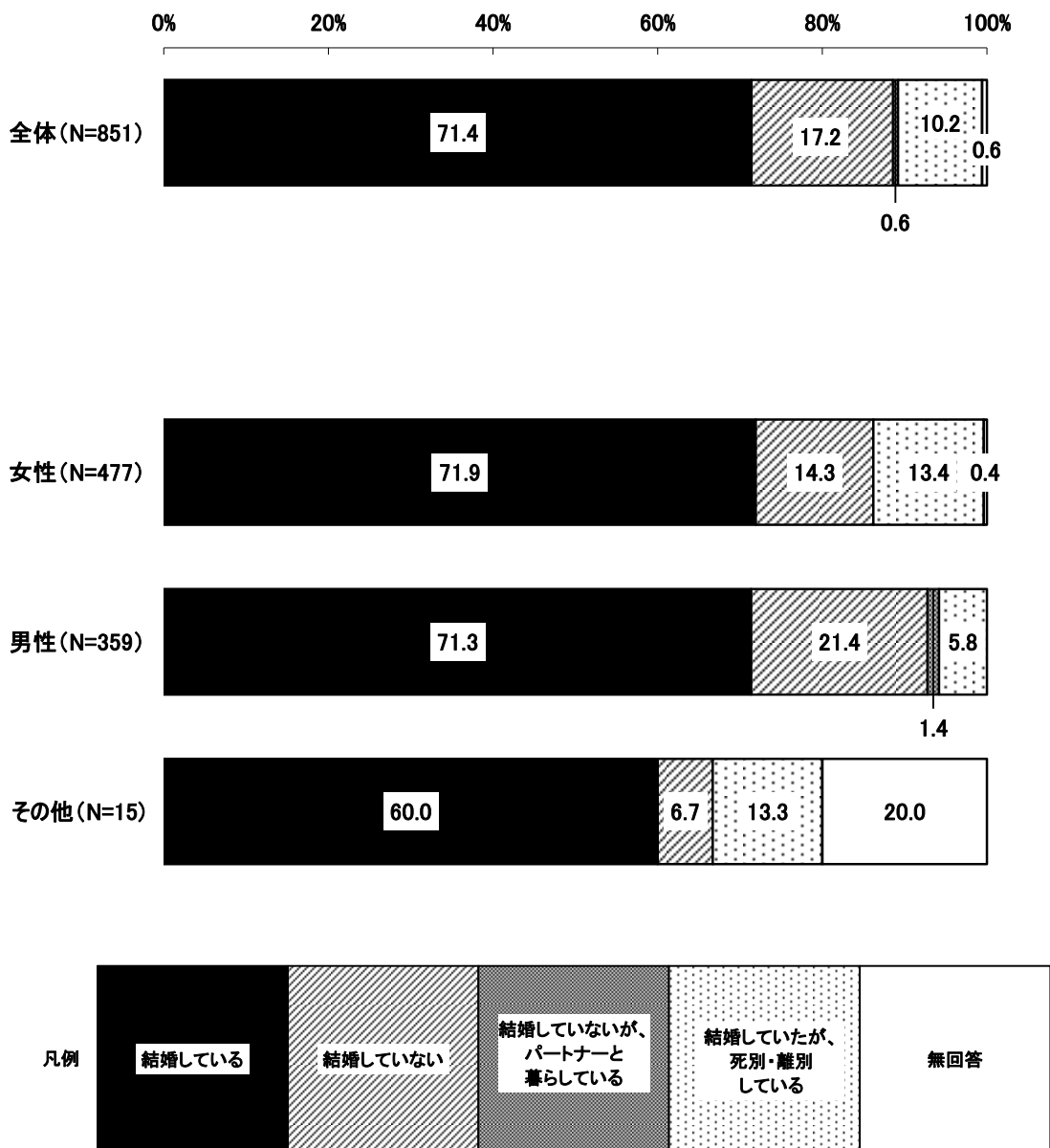
問3 あなたの職業についてお答えください。(単数回答)



【性別】

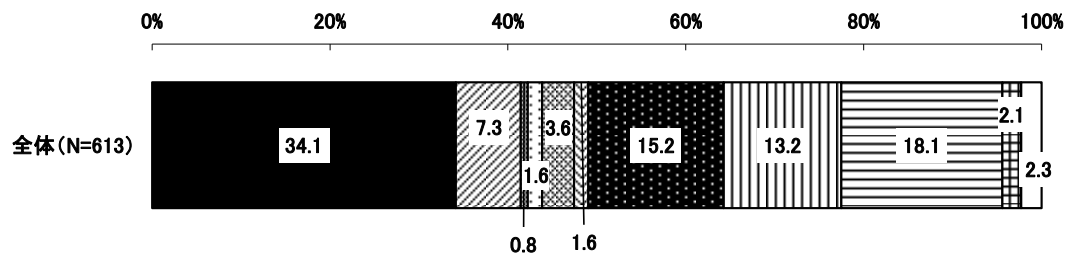


問4 あなたは、結婚していますか。(単数回答)

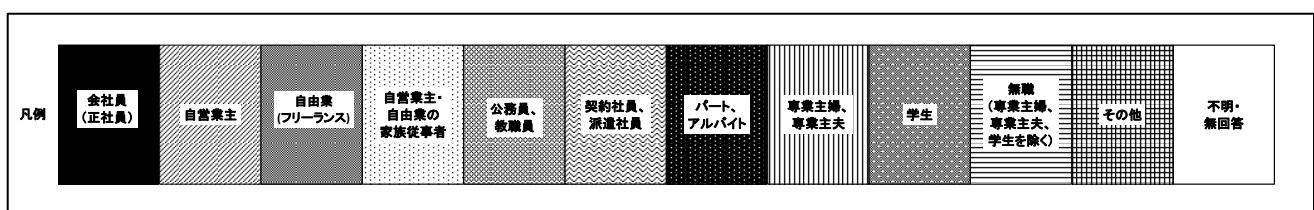
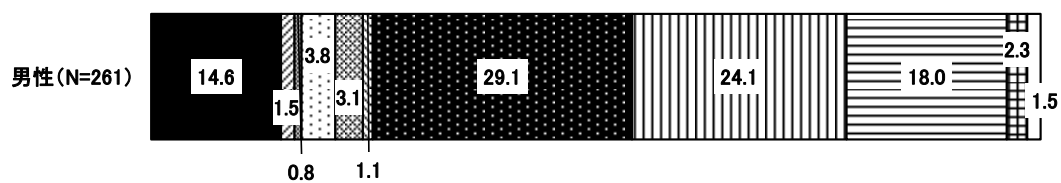




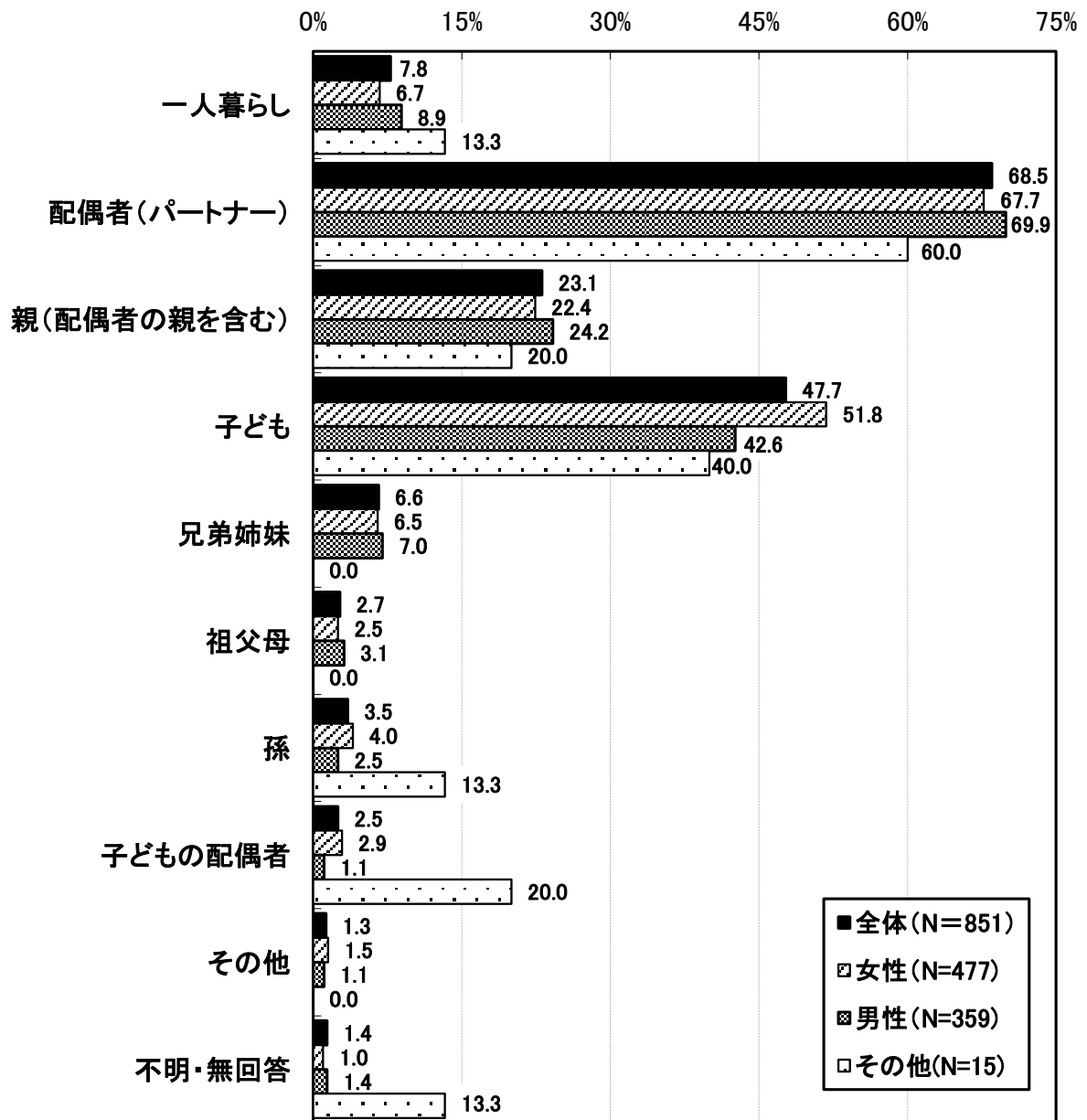
<「結婚している」「パートナーと暮らしている」と答えた方におたずねします>  
 問5 あなたの配偶者（パートナー）の職業は何ですか。（単数回答）



【性別】



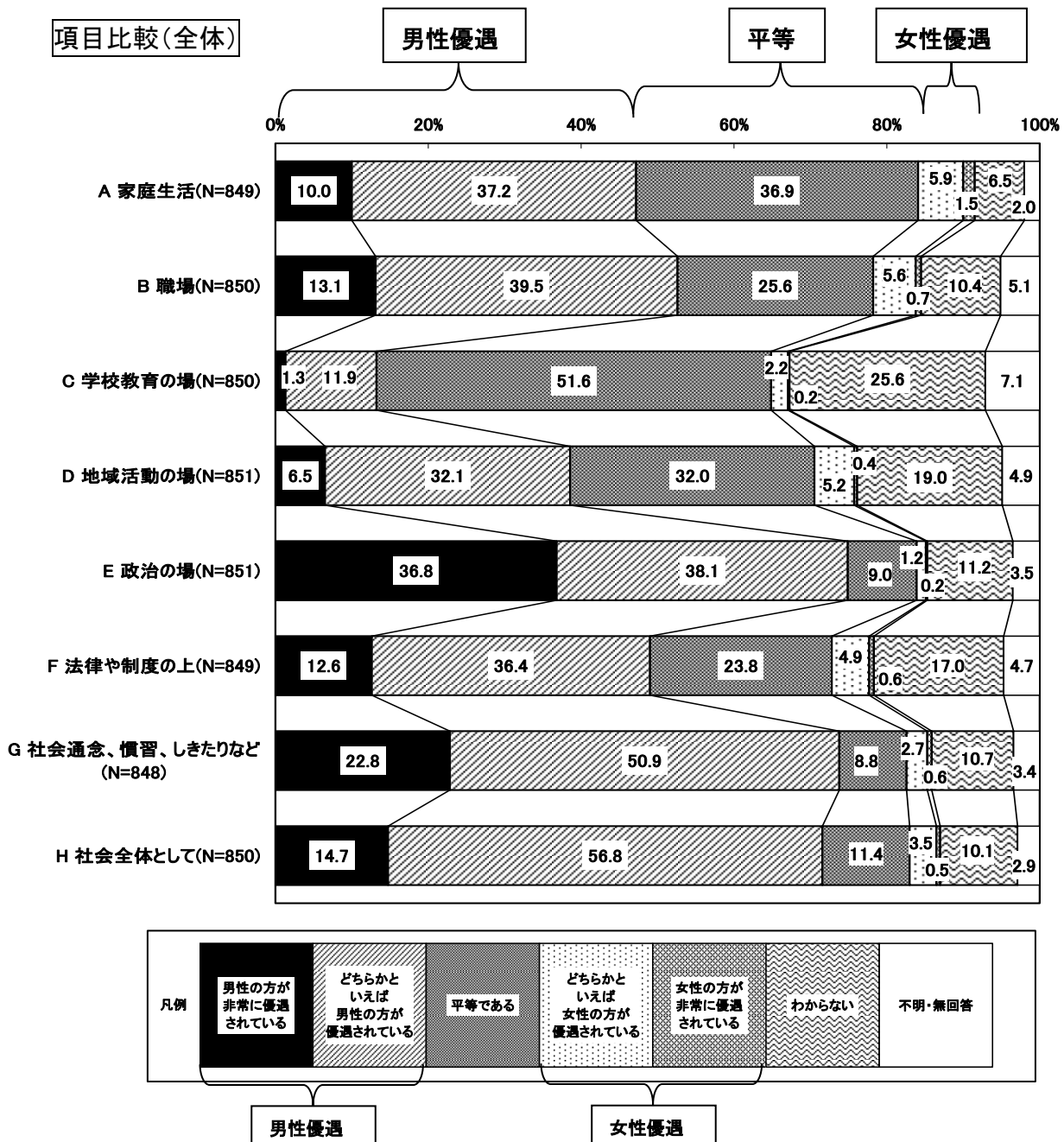
問6 あなたが、いま一緒に住んでいる家族は誰ですか。(複数回答)



## 2. 男女の地位に関する意識について

※問7の選択肢にかかる表現は以下のように区分しており、以降の文中においても反映されています。  
 ・『男性優遇』…「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」  
 ・『女性優遇』…「女性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば女性の方が優遇されている」

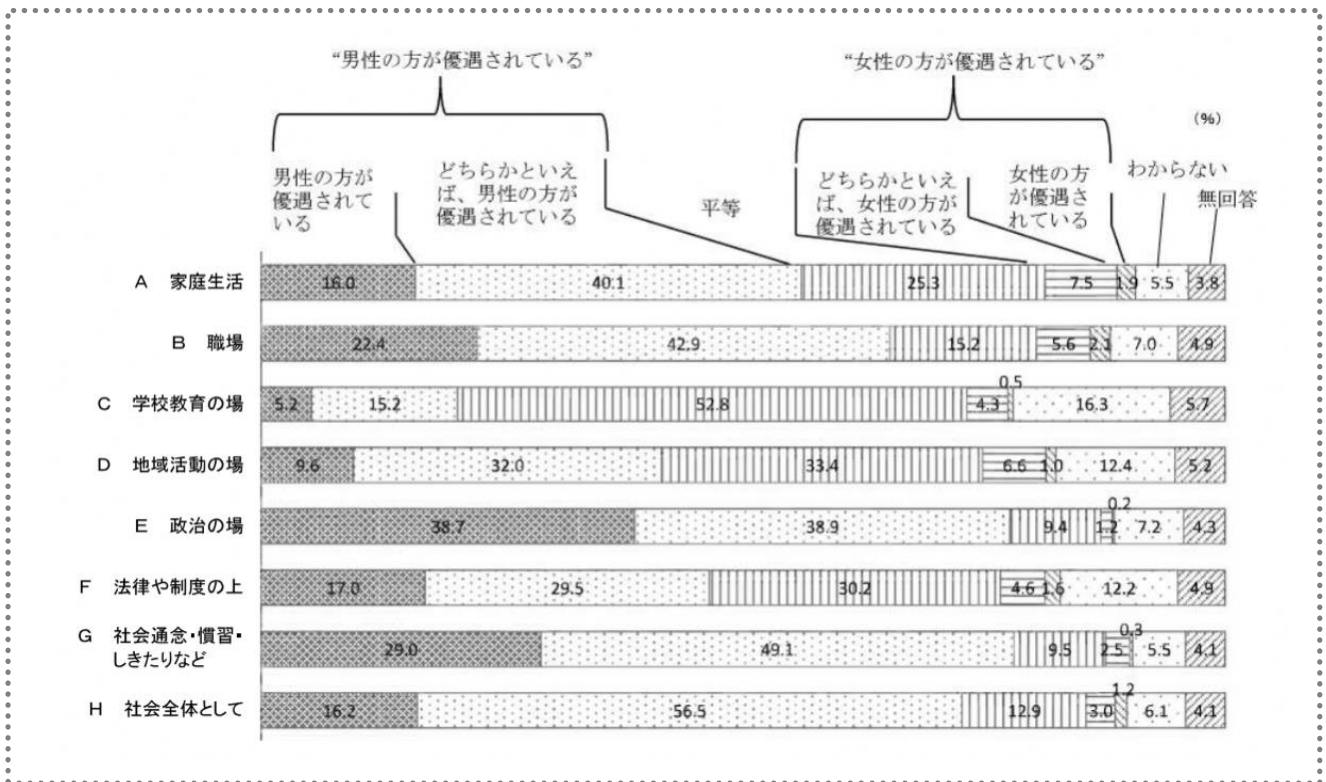
問7 あなたは、次のような場面において、男女の地位は平等になっていると思いますか。  
 (各項目単数回答)



「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた人の割合は、「E 政治の場」「G 社会通念、慣習、しきたりなど」「H 社会全体として」が高く7割程度を占めています。どの項目においても、女性優遇と答えた割合は低くなっています。

また、「C 学校教育の場」では、5割の人が「平等である」と答え、最も高くなっています。

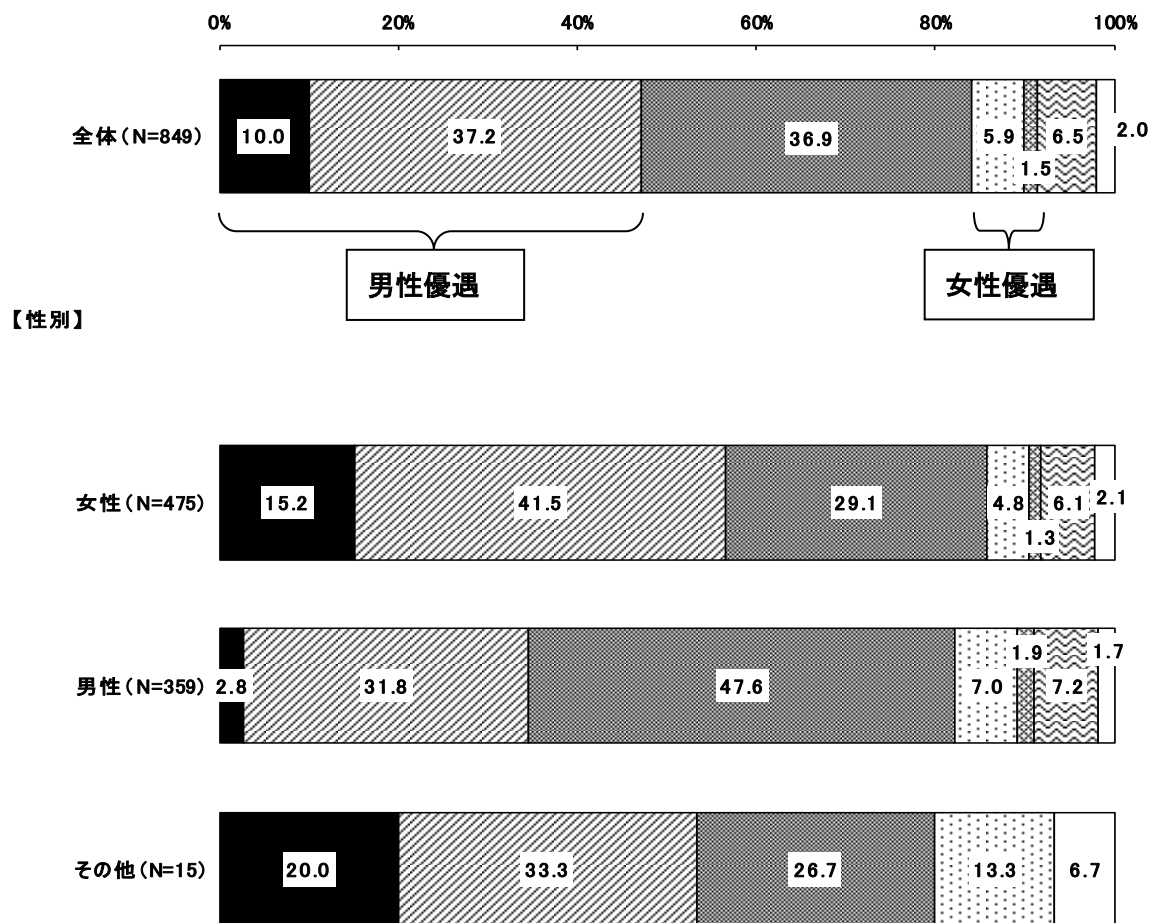
参考：男女の地位の平等感（分野別）（愛知県）



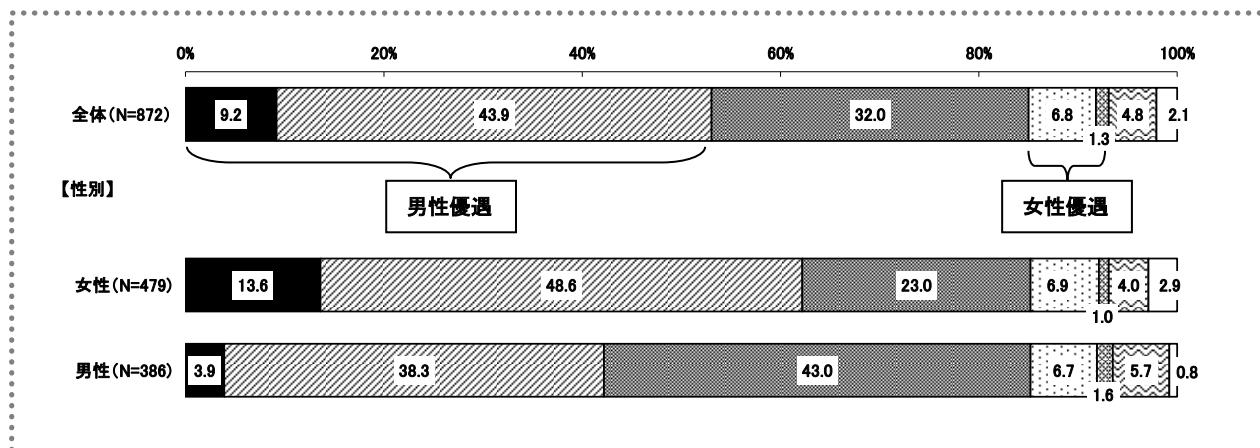
資料：愛知県「男女共同参画意識に関する調査」（2019年）

県と江南市を比較すると、「B職場」において、江南市は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた割合は低く、「平等である」と答えた割合は高くなっています。

A 家庭生活(A~Hまで凡例は P.23 参照)



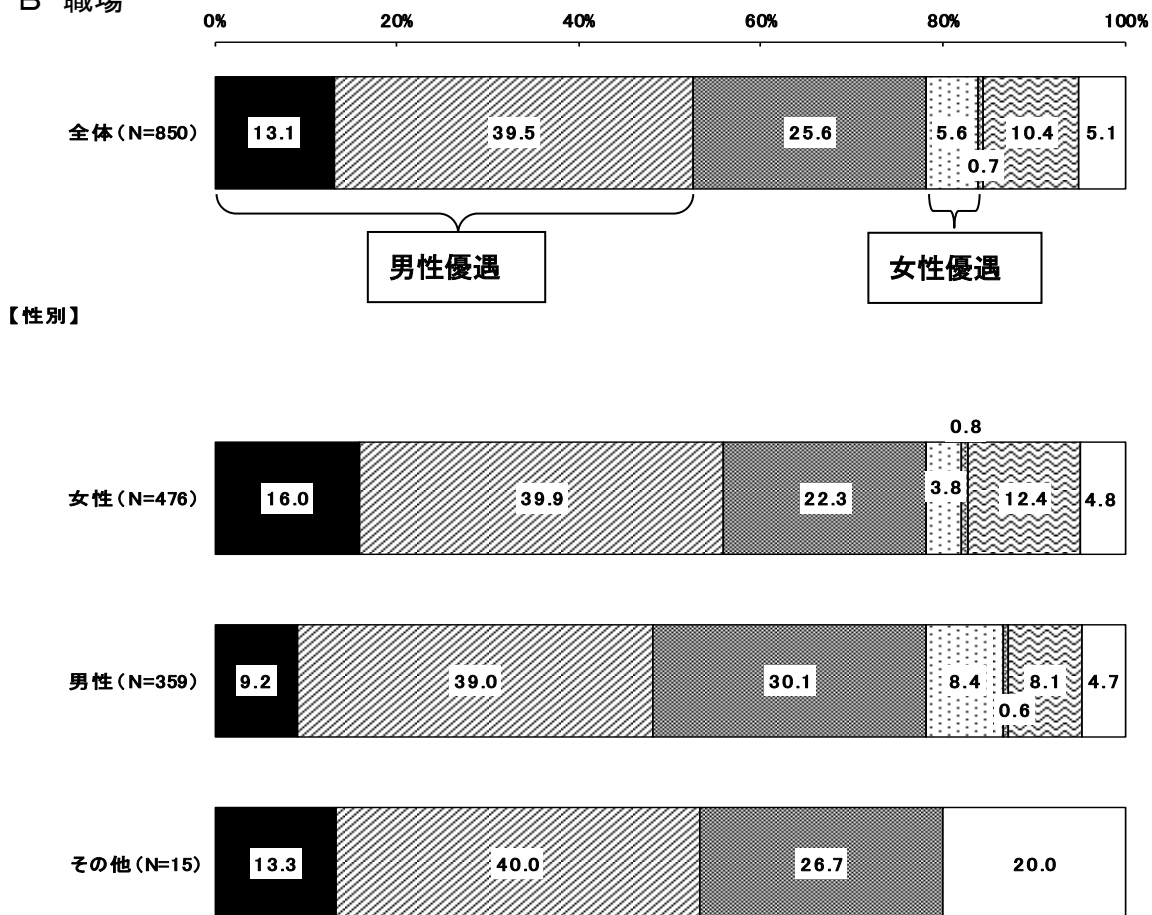
参考: 前回調査



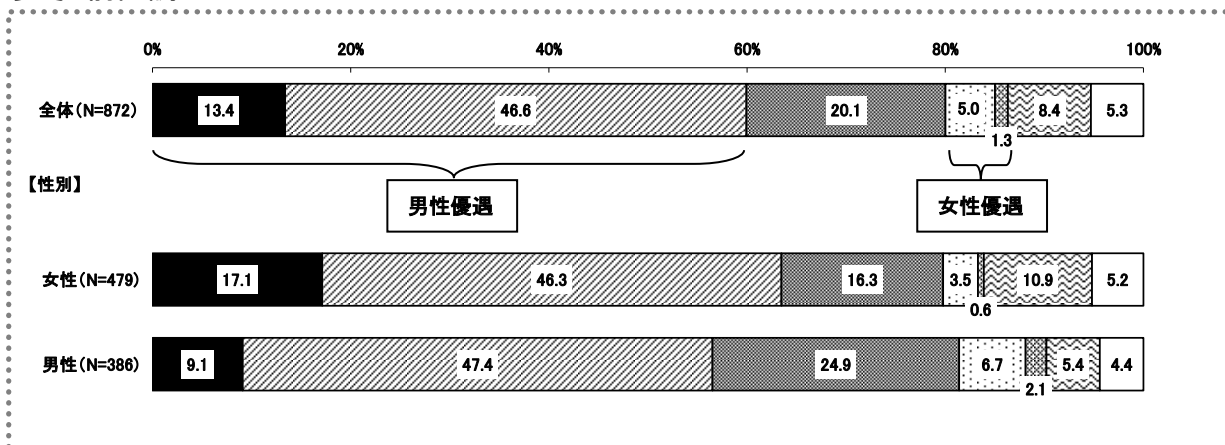
家庭生活においては、全体で見ると『男性優遇』47.2%、「平等である」36.9%、『女性優遇』7.4%となっており、『男性優遇』『女性優遇』の割合には39.8ポイントと前回調査と変わらず大きな差がみられます。

性別では、女性は「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も高く41.5%なのに対して、男性は「平等である」が47.6%と最も高く、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は31.8%となっています。

## B 職場



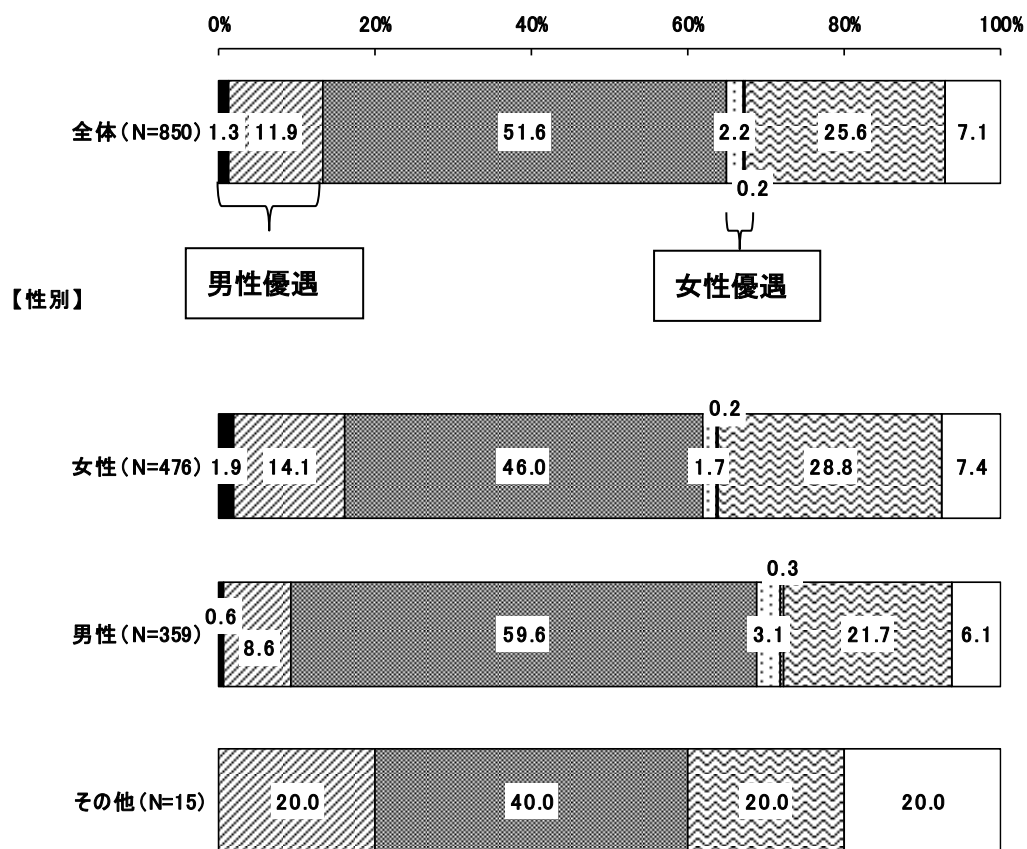
### 参考: 前回調査



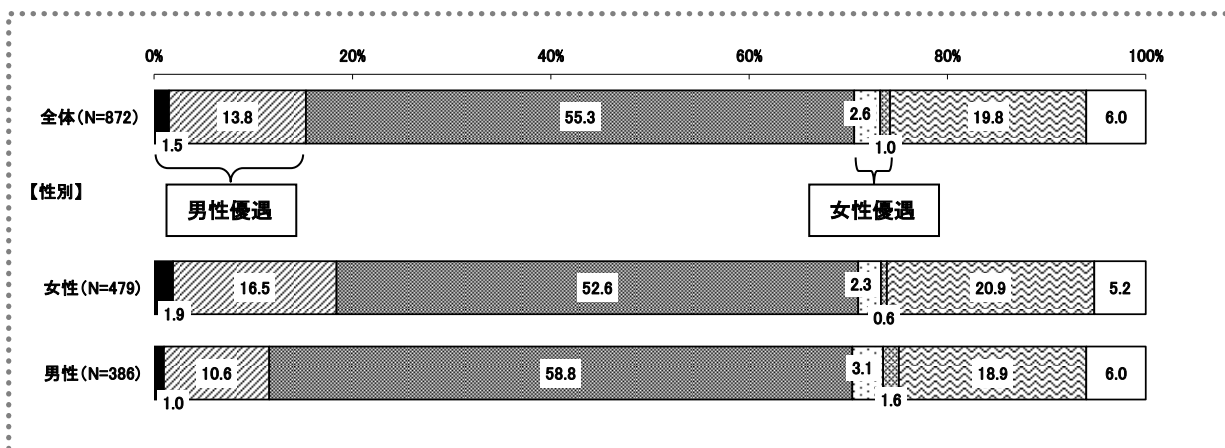
職場においては、全体・性別いずれの回答でも「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高く、全体 39.5%、女性 39.9%、男性 39.0%となっています。

前回調査と比較すると、全体・性別いずれの回答も『男性優遇』の割合は低くなり、「平等である」と回答した割合が高くなっています。

### C 学校教育の場

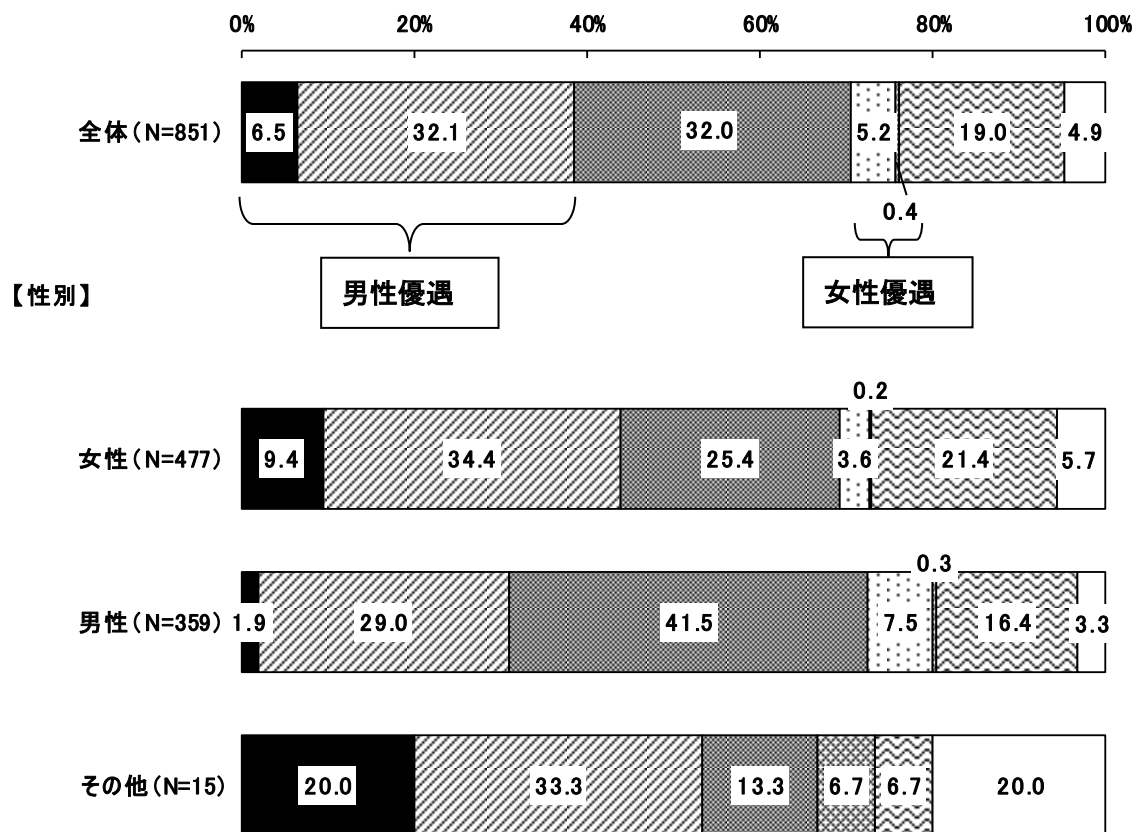


### 参考: 前回調査

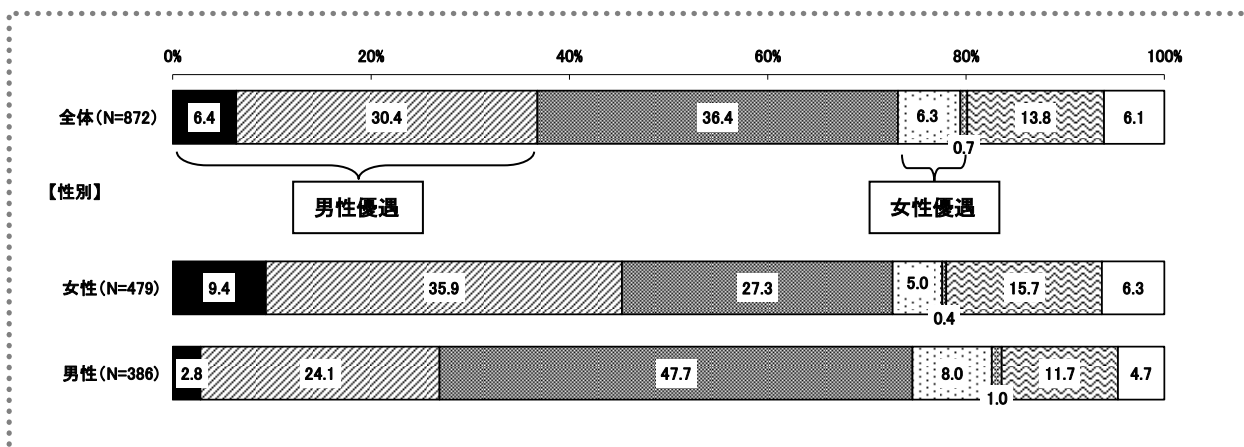


学校教育の場においては、全体・性別ともに「平等である」が最も高く、全体では 51.6%、女性は 46.0%、男性は 59.6%となっています。前回調査と比較すると傾向は変わりません。

## D 地域活動の場



### 参考: 前回調査

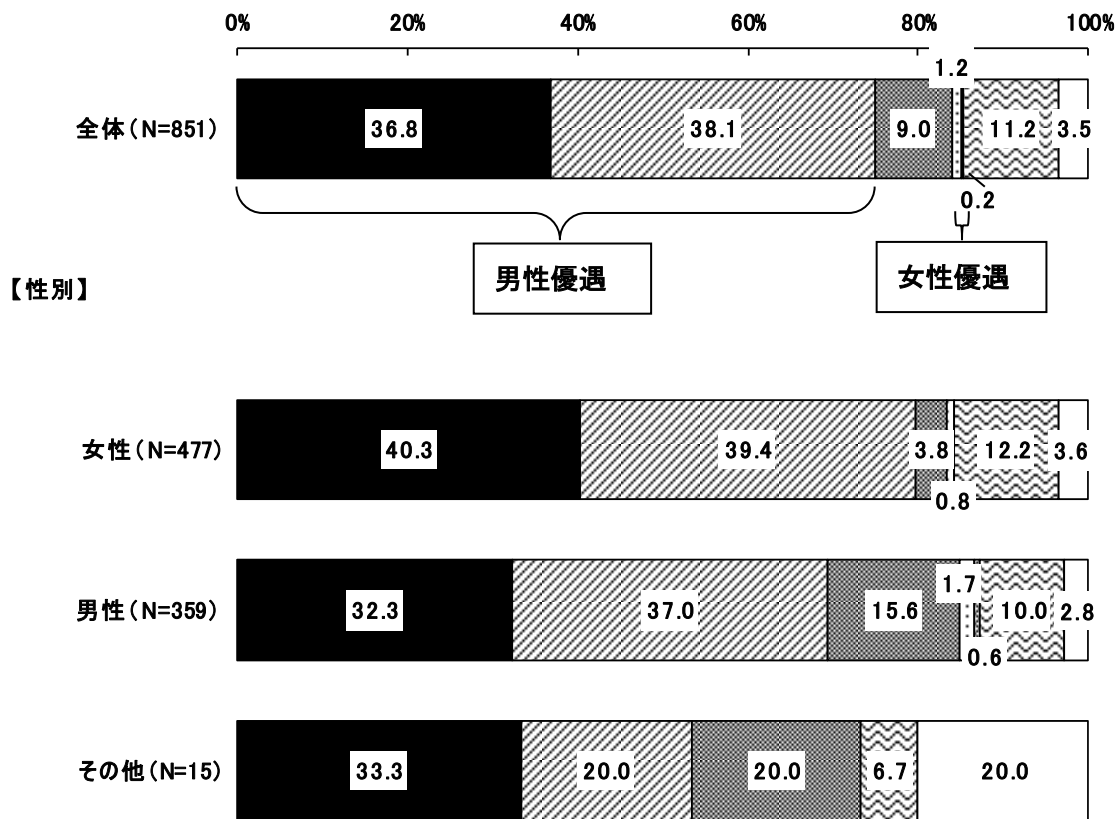


地域活動の場においては、全体で『男性優遇』が38.6%なのに対して、『女性優遇』は5.6%となっており、33ポイントの差がみられます。

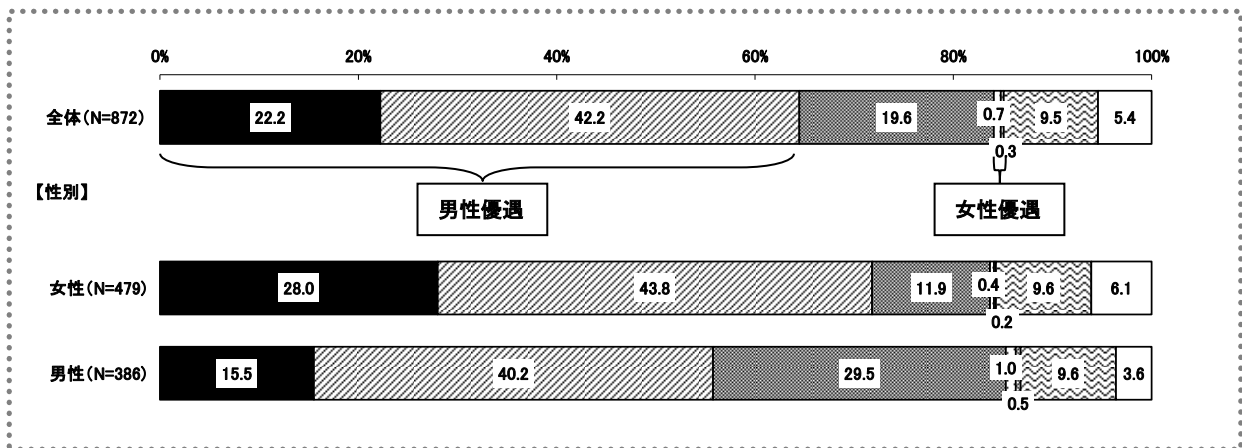
また、女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が34.4%、男性では「平等である」が41.5%とそれぞれが最も高くなっており、これは前回調査の傾向と変わらず、女性と男性における意識の差がみられます。



### E 政治の場

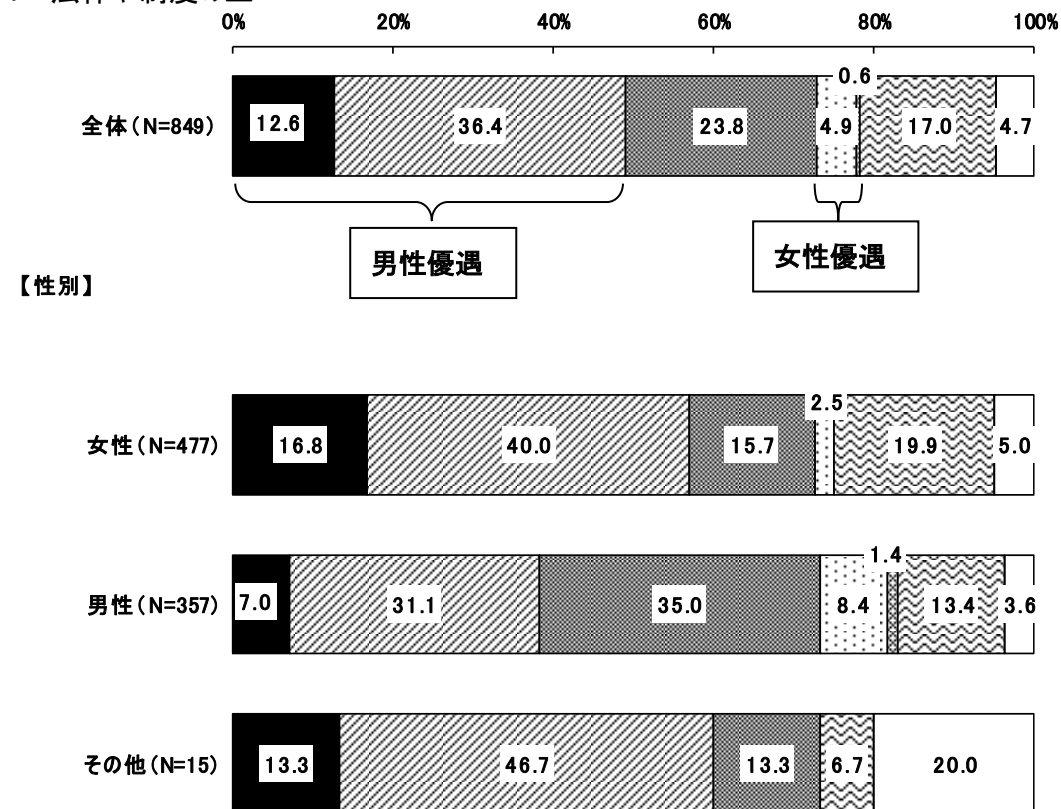


### 参考: 前回調査

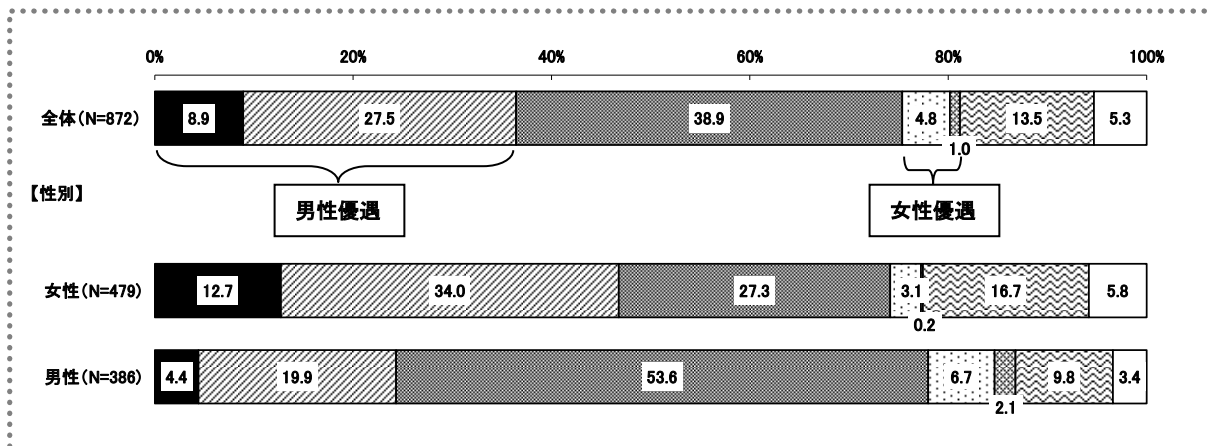


政治の場においては、全体、性別いずれも『男性優遇』は全体 74.9%、女性 79.7%、男性 69.3%で、前回調査と比較すると高くなっています。特に「男性の方が非常に優遇されている」と答えた割合が前回調査よりも高くなっています。

F 法律や制度の上

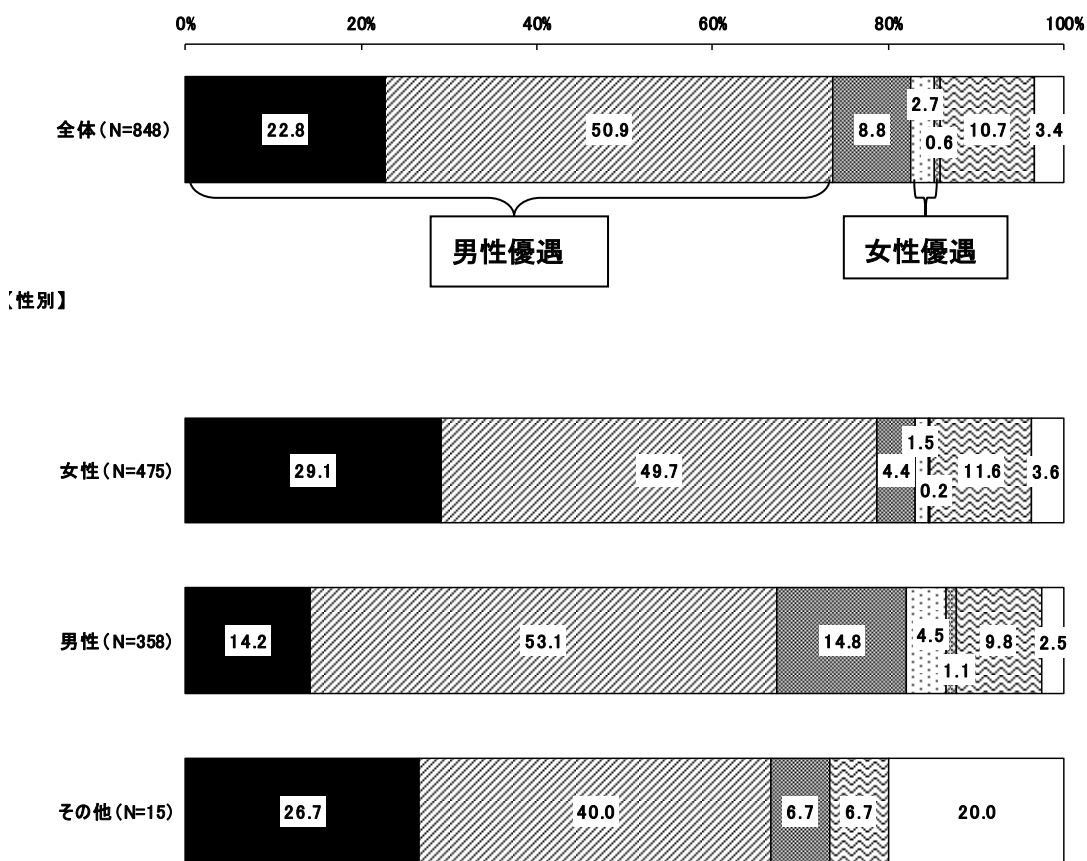


参考: 前回調査

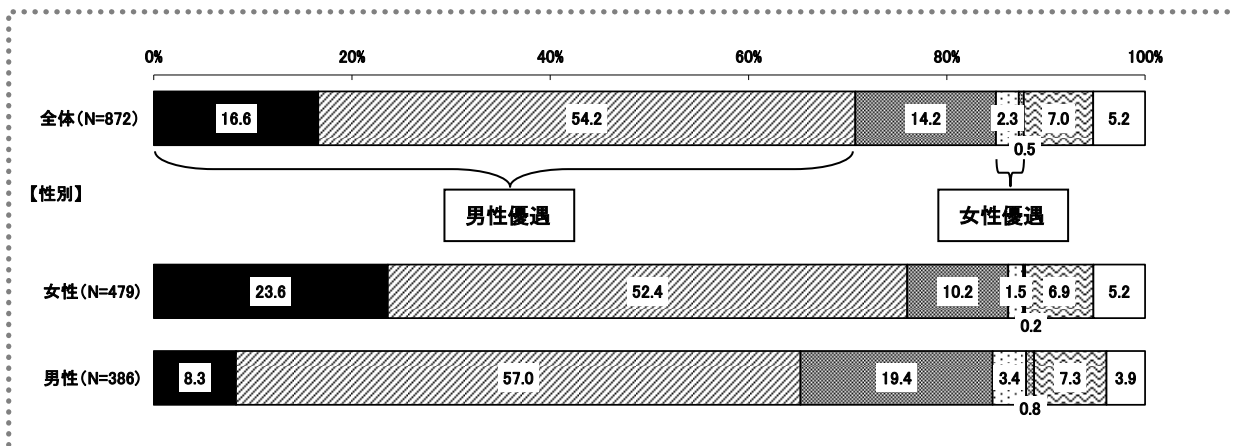


法律や制度の上においては、前回調査と比較すると、全体では「平等である」と回答した割合が最も高くなっていましたが、今回の調査では、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と答えた割合が高くなっています。

### G 社会通念、慣習、しきたりなど

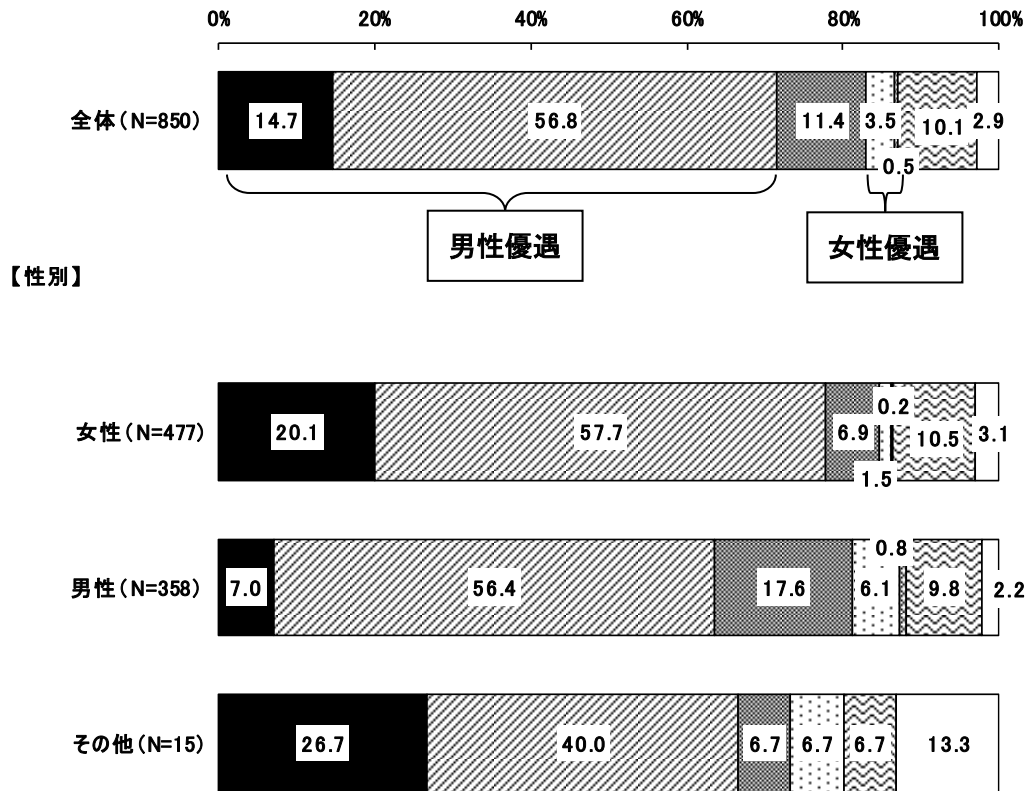


### 参考: 前回調査

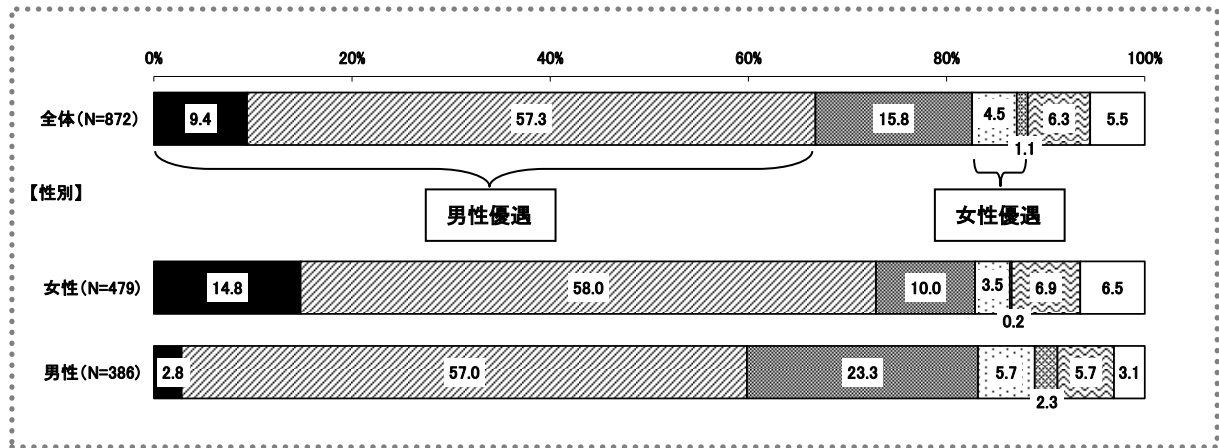


社会通念、慣習、しきたりなどにおいては、全体・性別いずれの回答でも「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高く、全体 50.9%、女性 49.7%、男性 53.1%となっています。前回調査と比較すると傾向は変わりません。

## H 社会全体として



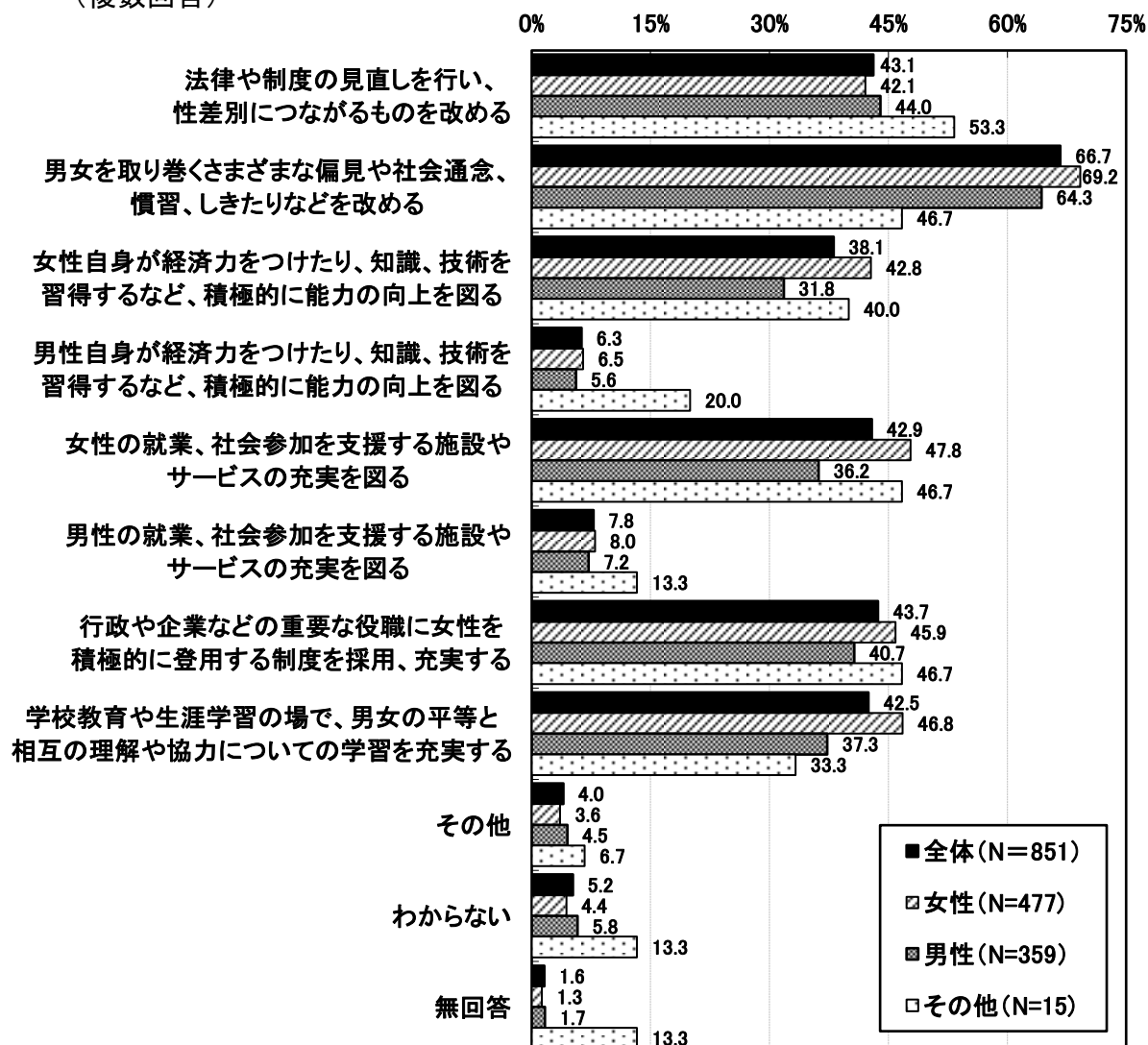
## 参考: 前回調査



社会全体においては、全体・性別いずれの回答でも「どちらかといえば男性が優遇されている」が最も高く、全体 56.8%、女性 57.7%、男性 56.4%となっています。前回調査と比較すると傾向は変わりません。

問8 あなたは、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには何が重要だと思いますか。

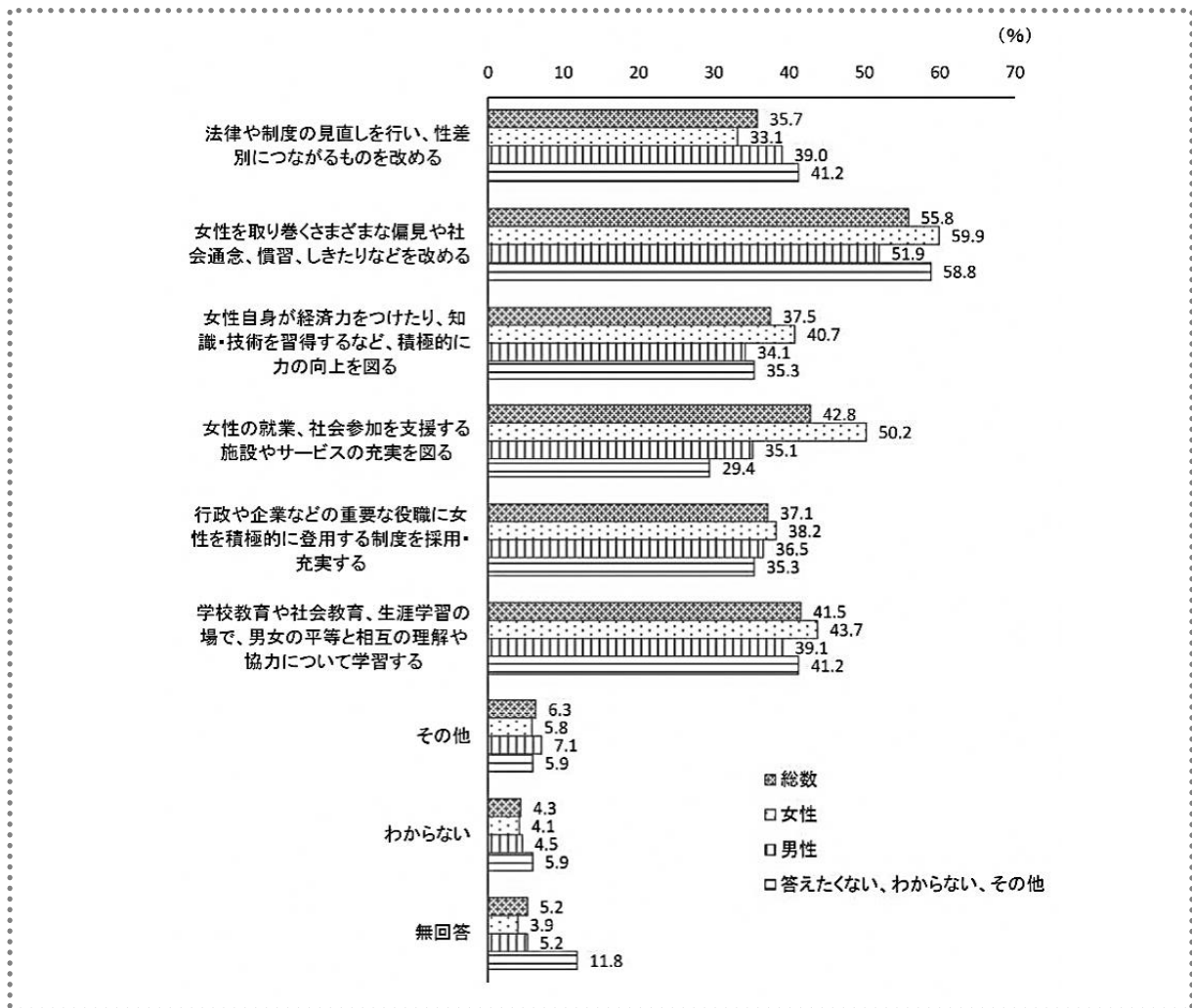
(複数回答)



男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために必要だと思うことについてみると、全体・性別ともに「男女を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める」が最も高く、全体では66.7%、女性は69.2%、男性は64.3%となっています。前回調査と比較すると傾向は変わりません。(全体58.7%、女性56.8%、男性61.9%)

性別で対比できる選択項目をみると、「女性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図る」「女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」の回答の割合はそれぞれ全体38.1%、女性42.8%、男性31.8%及び全体42.9%、女性47.8%、男性36.2%であり、「男性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図る」「男性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る」の回答の割合はそれぞれ全体6.3%、女性6.5%、男性5.6%及び全体7.8%、女性8.0%、男性7.2%で女性、男性ともに、男性よりも女性に能力を身につけたり、女性のサービスの充実を重要と考えていることがわかります。

参考：男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるために重要なこと（総数、性別）（愛知県）

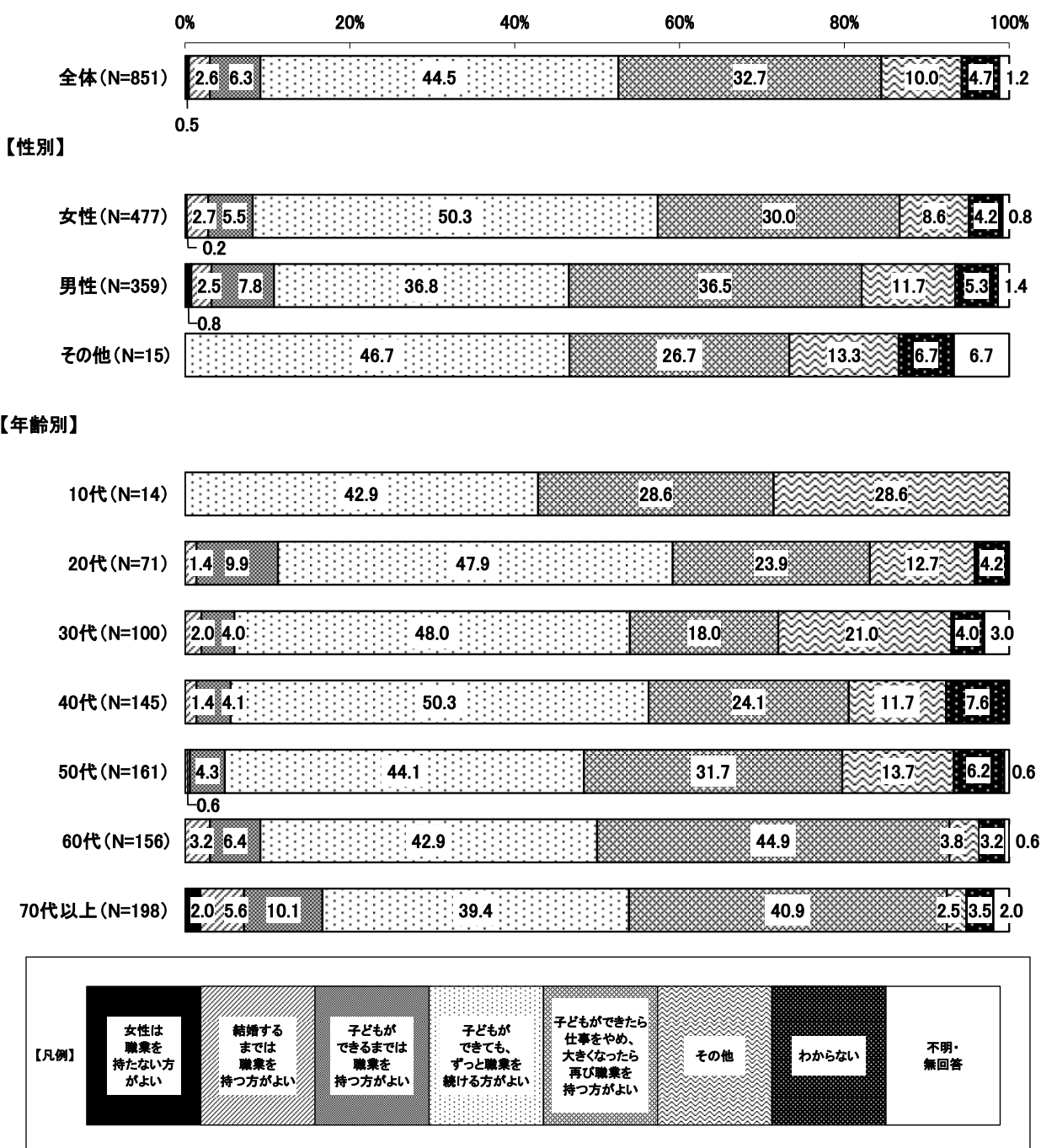


資料：愛知県「男女共同参画意識に関する調査」（2019年）

県と江南市を比較すると、ほぼ同様の結果となっています。

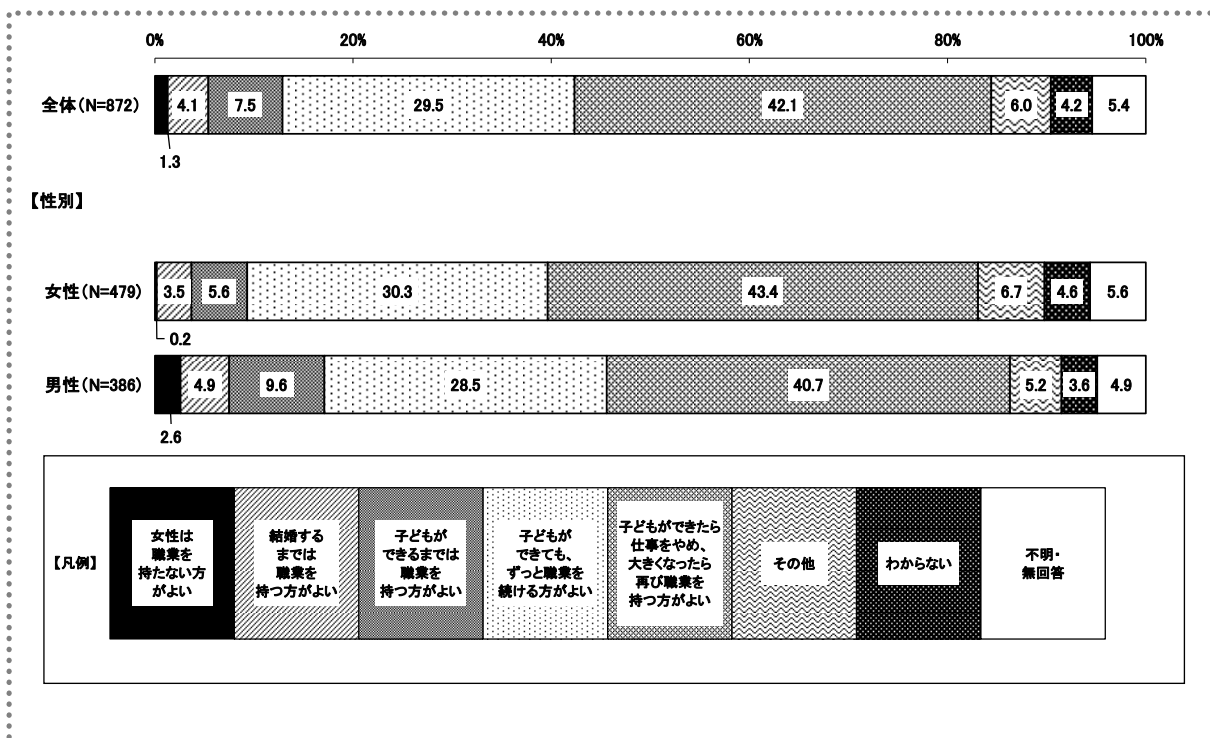
### 3. 職業・職場環境などについて

問9 あなたは、女性が職業を持つことについて、どう思いますか。(単数回答)



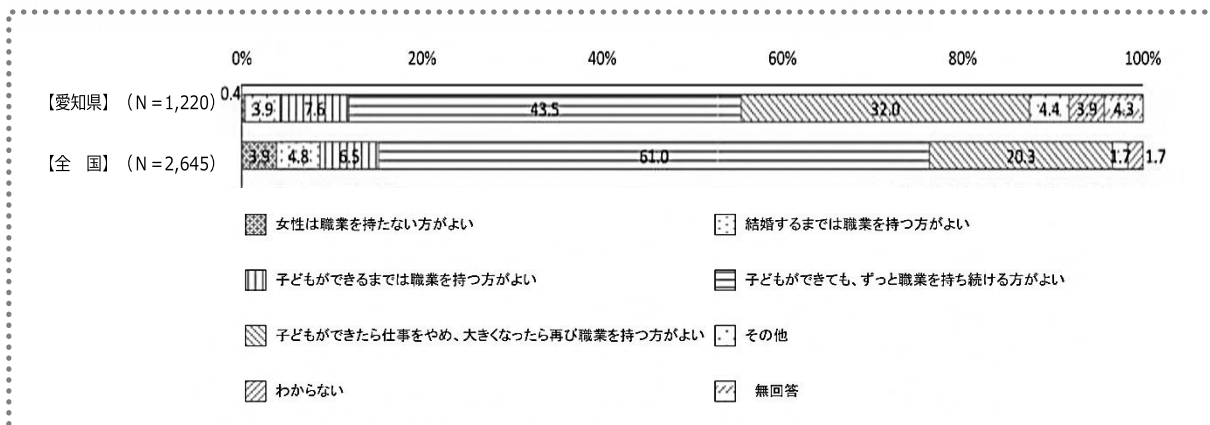
女性が職業を持つことについてみてみると、年齢別においては、10代から50代までは「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合が最も高く、60代、70代以上になると、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」と回答した割合が高くなっています。

## 参考：前回調査



前回調査と比較してみると、今回調査では、全体・性別とも「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した割合が最も高く、全体では44.5%、女性は50.3%、男性は36.8%となっています。前回調査では「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が全体、性別ともに最も回答する割合が高かった結果となっています。これは、子どもができて働き続けたいという考えが大きくなっていることがわかります。

## 参考：女性が職業を持つことについての考え（愛知県、全国）

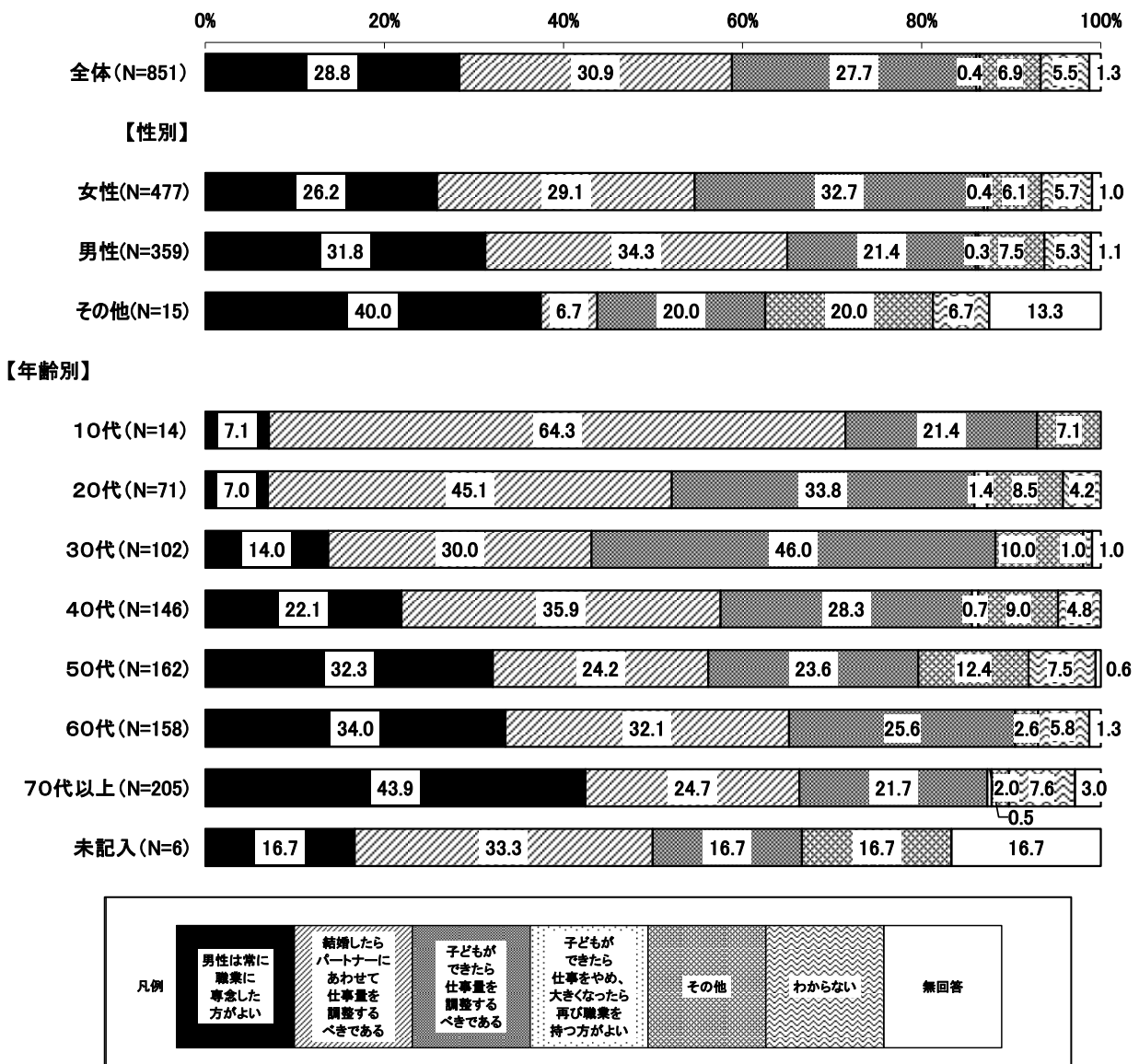


資料：愛知県「男女共同参画意識に関する調査」（2019年）  
内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（2019年）

また国、県と江南市を比較すると、国、県ともに江南市と同様に「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が最も高くなっています。



問 10 男性の働き方について、あなたの考えに近いものはどれですか。(単数回答)

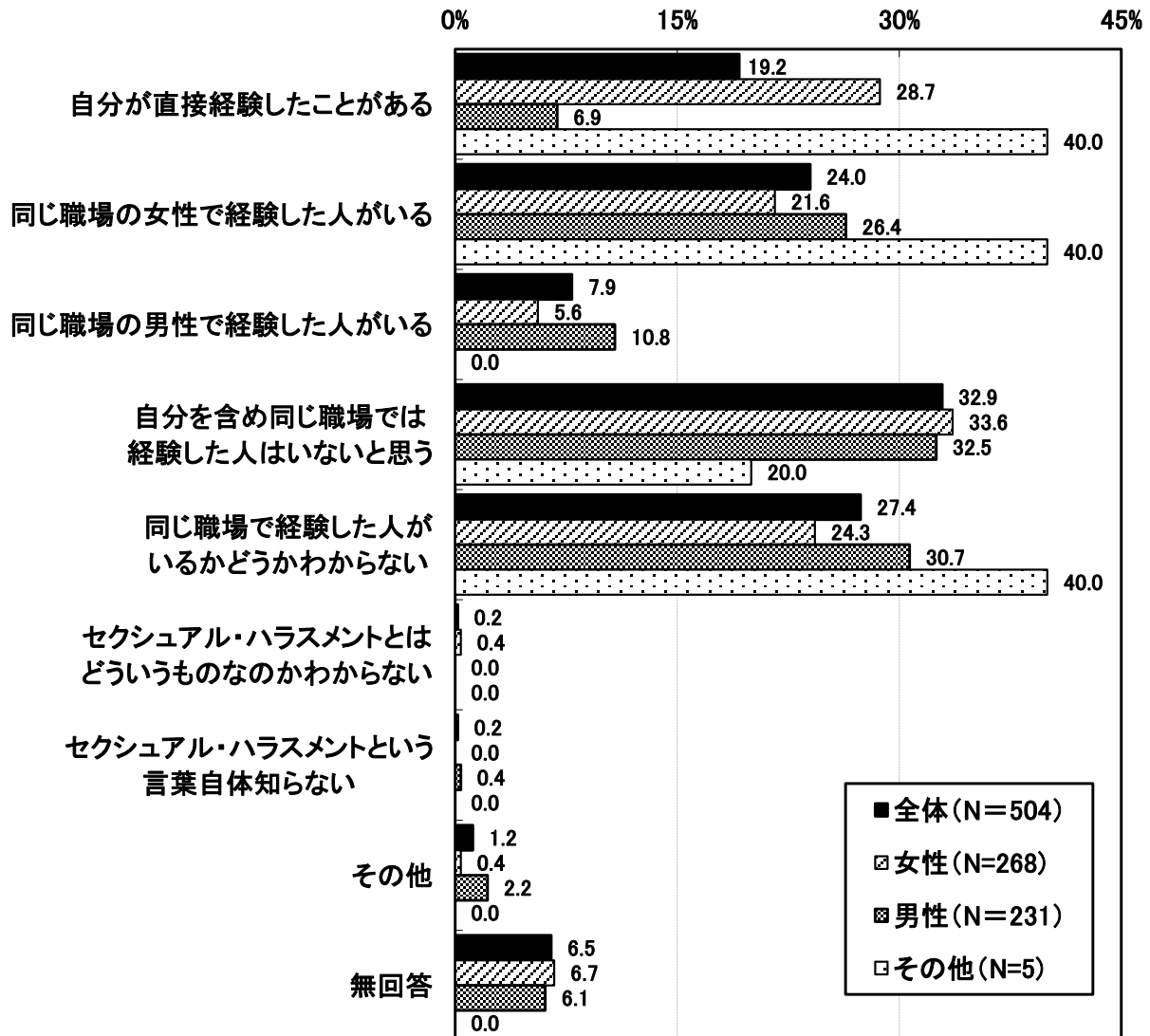


男性の働き方についてみると、全体、男性では「結婚したらパートナーにあわせて仕事量を調整するべきである」が最も高く、全体では30.9%、男性では34.3%となっています。女性では、「子どもができれば仕事量を調整するべきである」が最も高く32.7%となっています。

また、年齢別でみると、年齢が高くなるにつれ「男性は常に職業に専念した方がよい」と回答する割合が高くなっています。10代では、「結婚したらパートナーにあわせて仕事量を調整するべきである」と6割が回答しています。

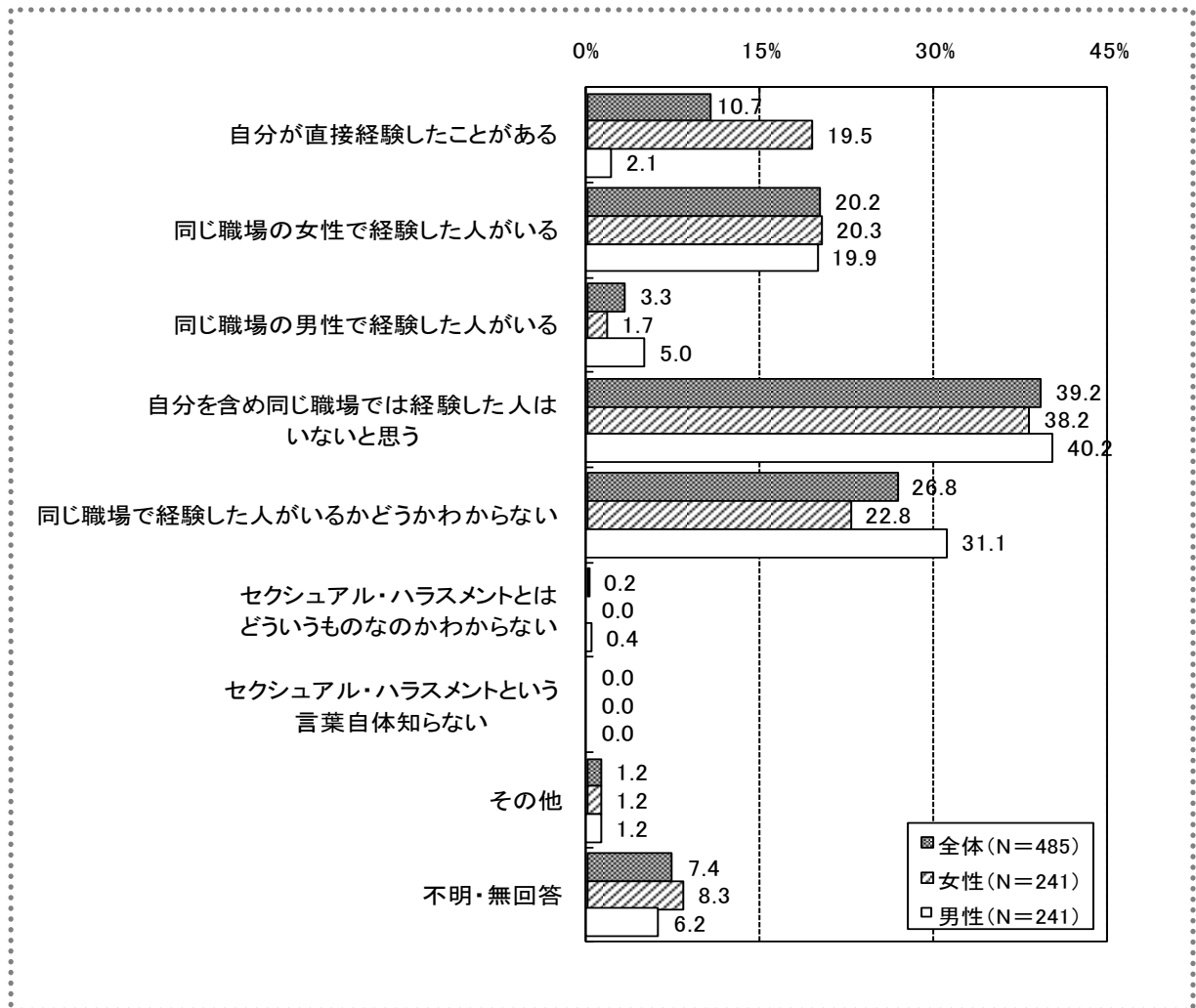
＜あなたの職業で「会社員」「自由業」「公務員、教職員」「契約社員、派遣社員」「パート、アルバイト」「学生」と答えた方におたずねします＞

問 11 あなたは、職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント（セクハラ、性的嫌がらせ）の経験がありますか。（複数回答）



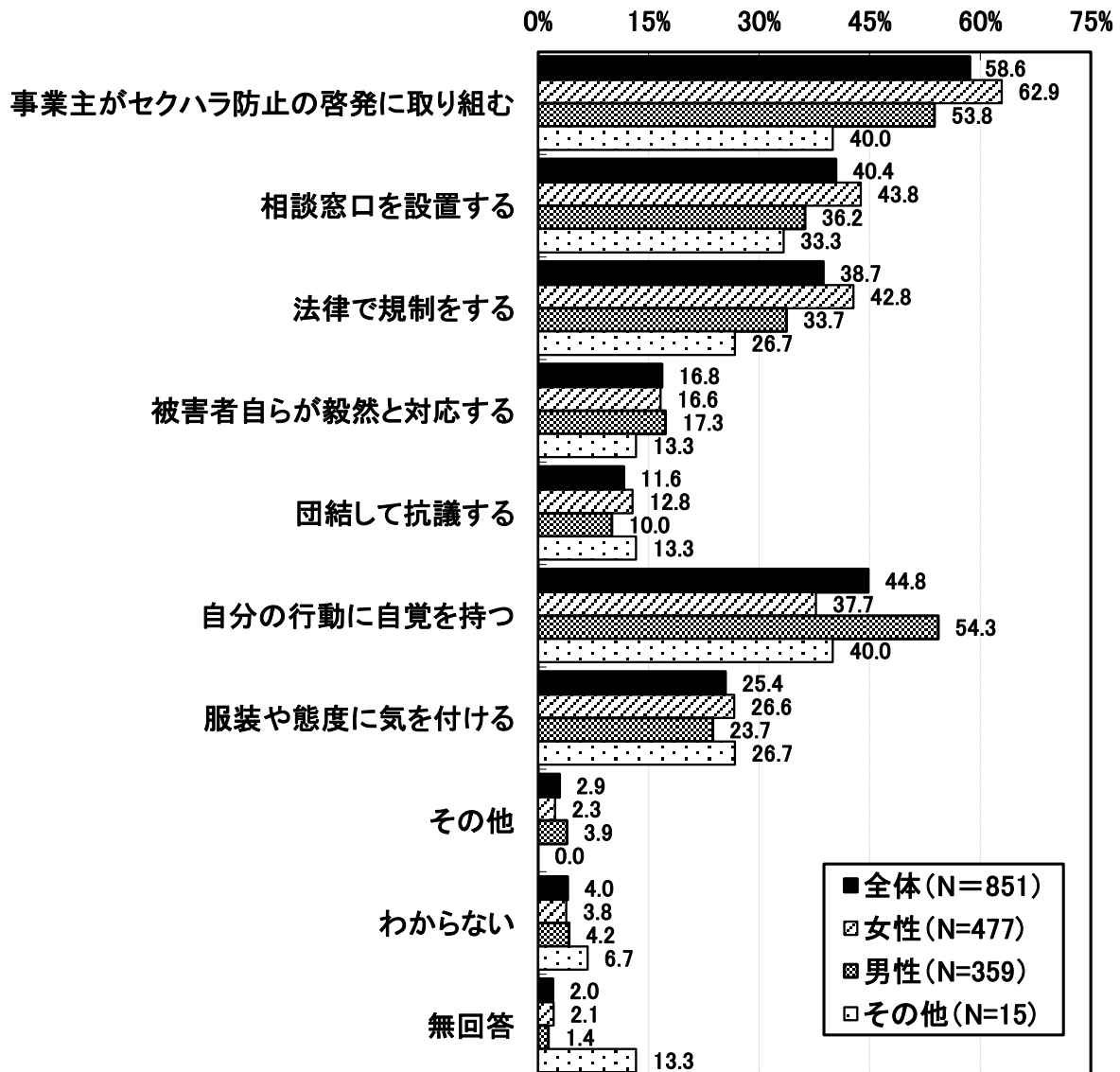
職場などにおけるセクシュアル・ハラスメントの経験においては、全体・性別でみると、全体では19.2%が「自分が直接経験したことがある」と答えています。性別でみると女性の被害経験が28.7%、男性の被害経験は6.9%となっています。

参考: 前回調査



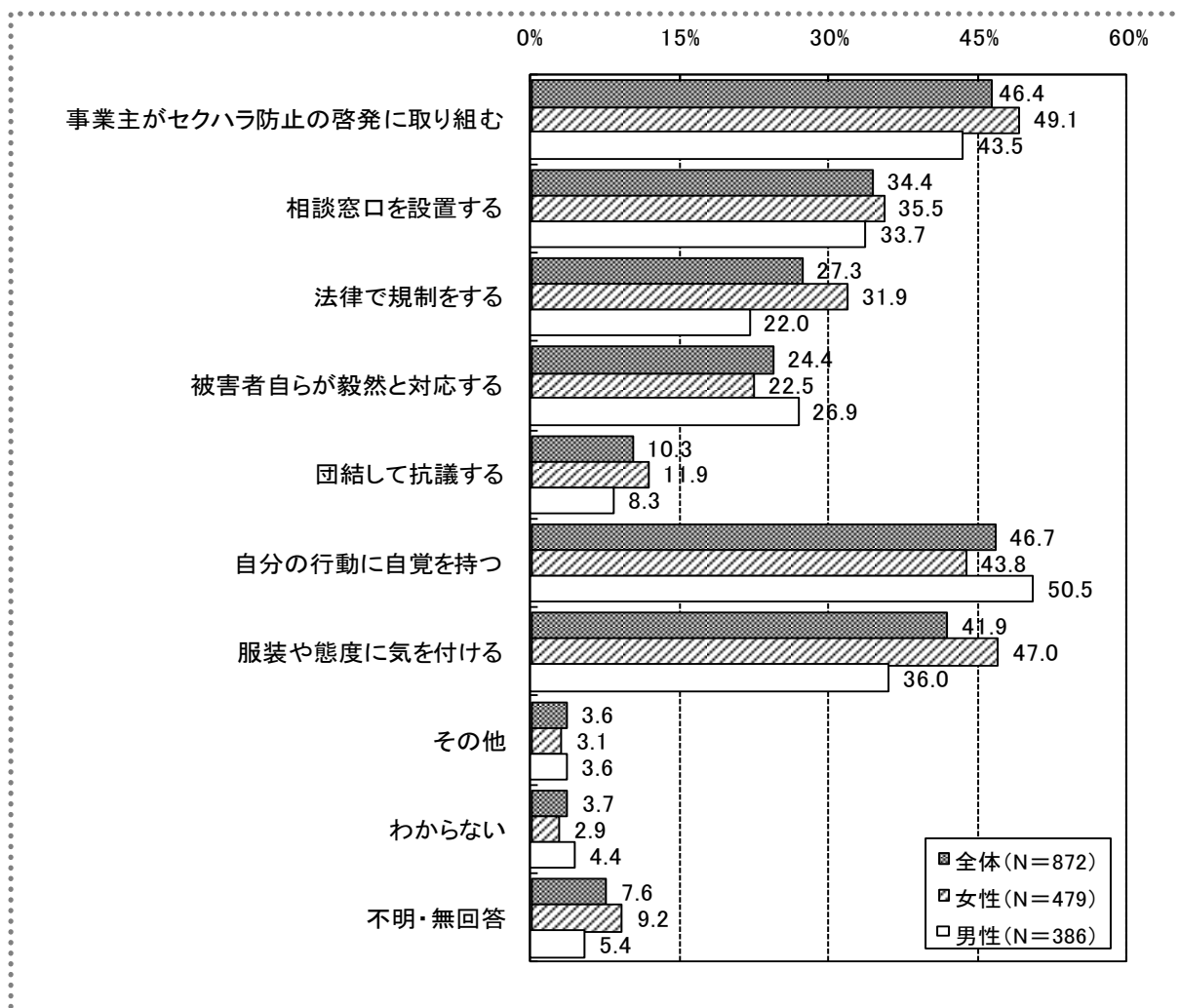
前回調査と比較すると被害経験があると回答した割合が、女性も男性も増加しています。(全体 10.7%、女性 19.5%、男性 2.1%)

問 12 あなたは、セクシュアル・ハラスメントをなくすためにどのような対策が必要だと考えますか。  
 (複数回答)



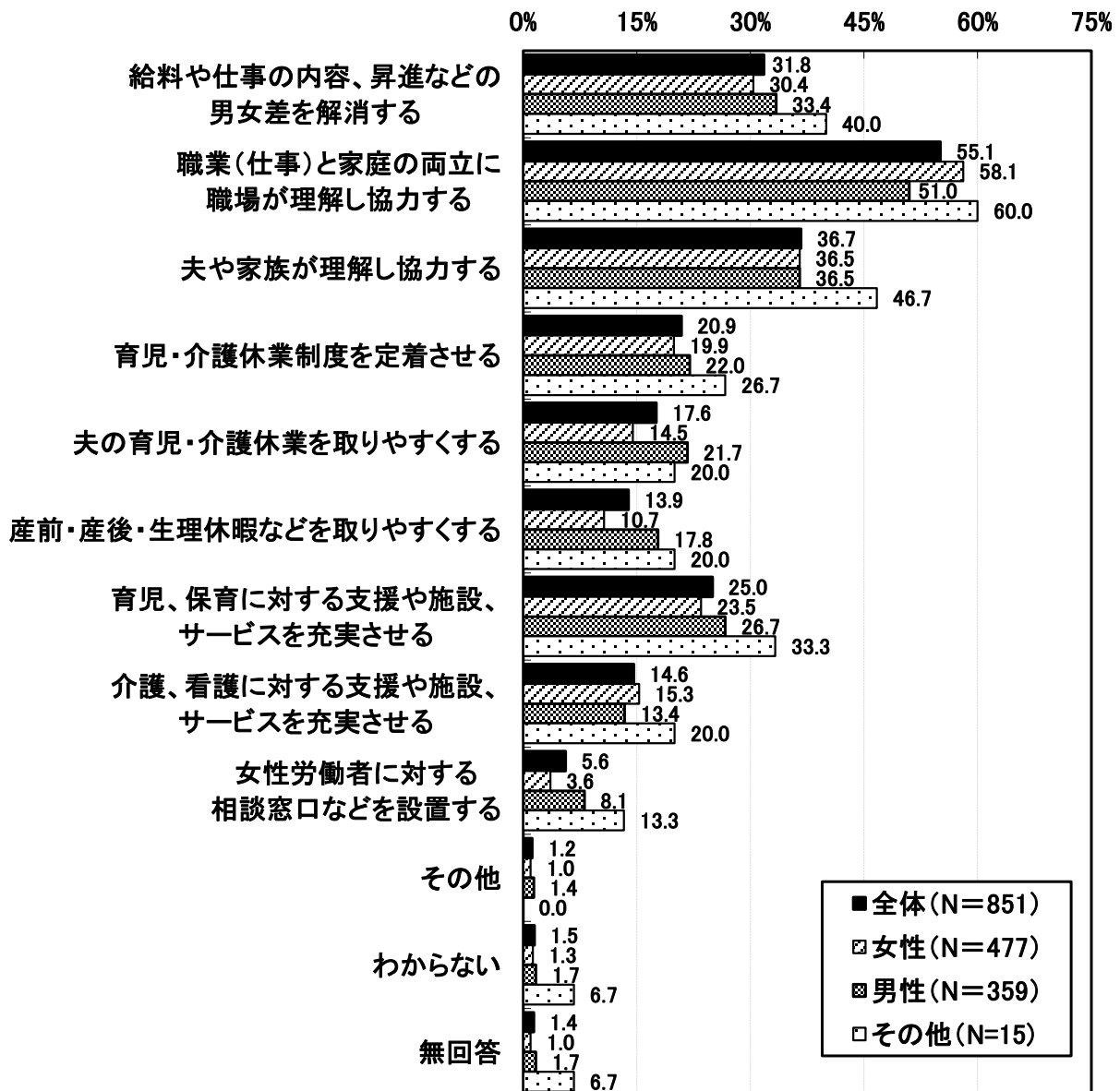
セクシュアル・ハラスメントをなくすための対策においては、全体・女性では「事業主がセクハラ防止の啓発に取り組む」が最も高く、全体が58.6%、女性が62.9%なのに対し、男性では「自分の行動に自覚を持つ」が最も高く54.3%となっています。次に男性では「事業主がセクハラ防止の啓発の取り組み」が53.8%で高く、女性では「相談窓口を設置する」が43.8%で高くなっています。

参考: 前回調査



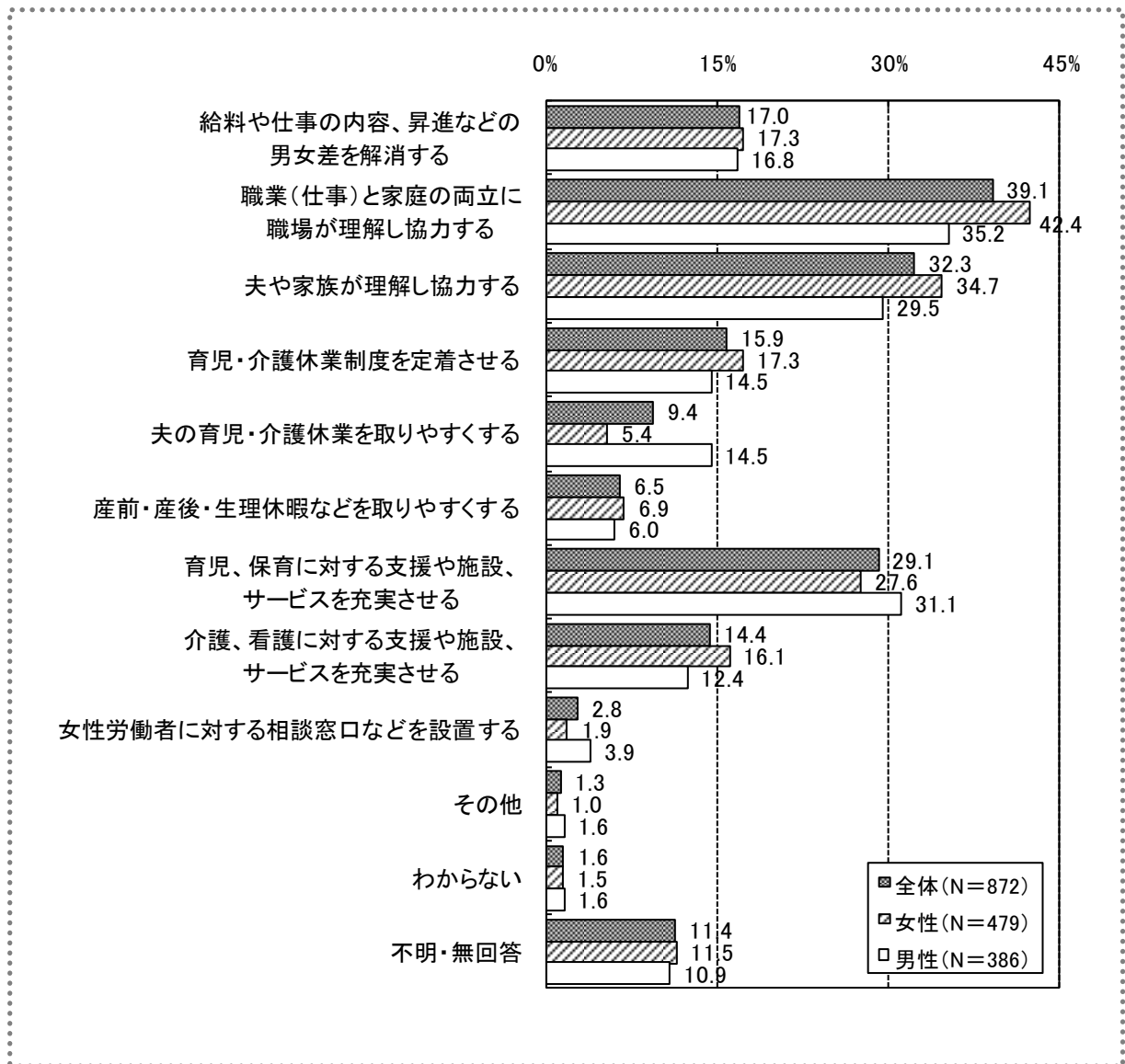
前回調査と比較すると、「被害者自らが毅然と対応する」「自分の行動に自覚を持つ」「服装や態度に気を付ける」が低くなっています。

問 13 あなたは、女性が安心して働ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。  
(複数回答)



女性が安心して働ける環境づくりのために必要なことにおいては、全体・性別ともに「職業（仕事）と家庭の両立に職場が理解し協力する」が最も高く、全体では55.1%、女性は58.1%、男性は51.0%となっていて前回調査と変わっていません。次に、全体・性別ともに「夫や家族が理解し協力する」が高く、全体では36.7%、女性は36.5%、男性は36.5%となっています。

参考: 前回調査



前回調査と比較すると、「夫の育児・介護休業を取りやすくする」と回答した割合は全体 17.6%、女性 14.5%、男性 21.7%で、前回調査よりも割合は高くなっています。

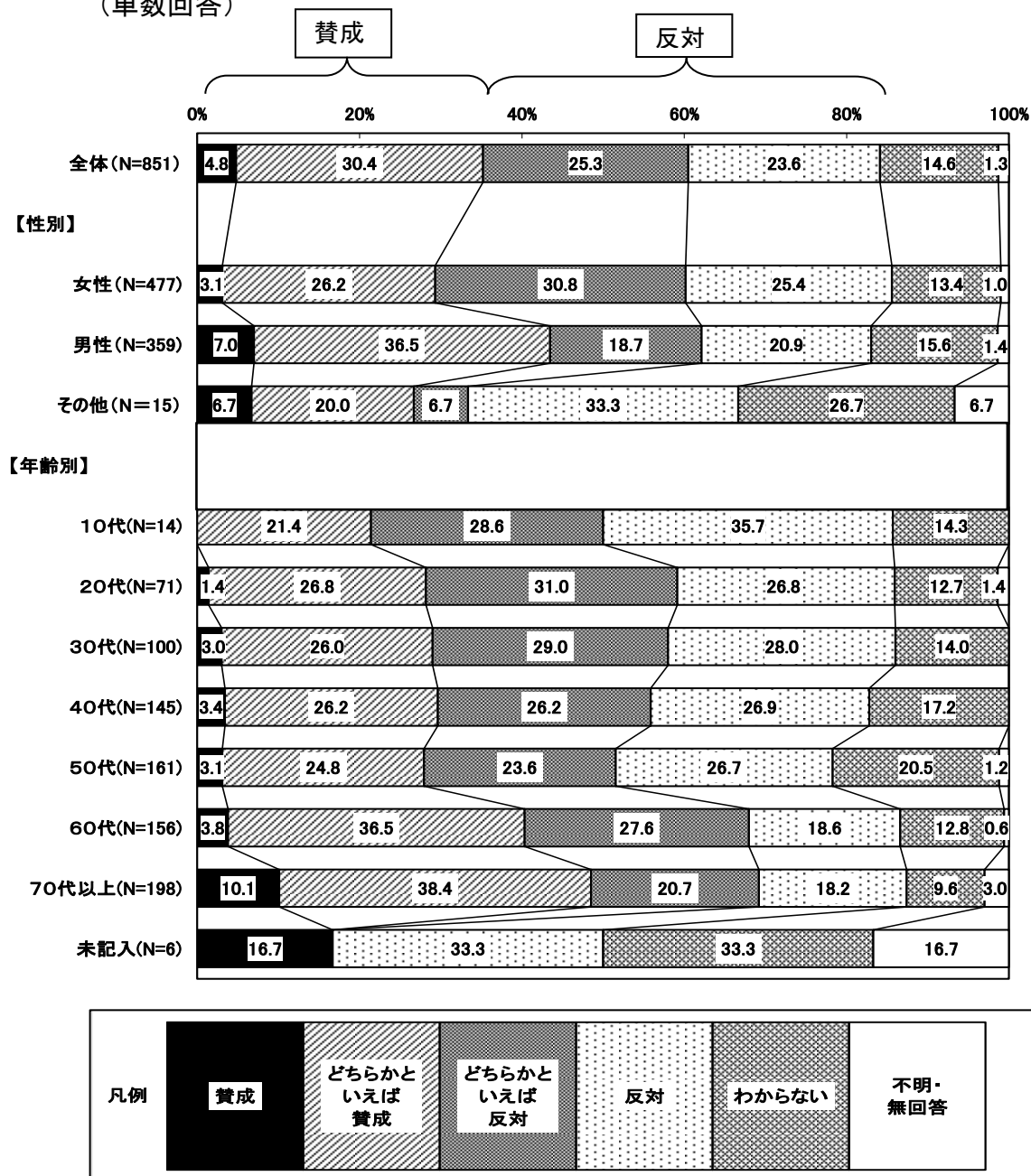
また、女性においては「夫や家族が理解し協力する」が2番目に割合が高く、男性では「育児、保育に対する支援や施設、サービスを充実させる」が高くなっていて、意識に若干の差がみられましたが、今回調査では、性別に差は出ていません。





## 4. 家庭・地域生活について

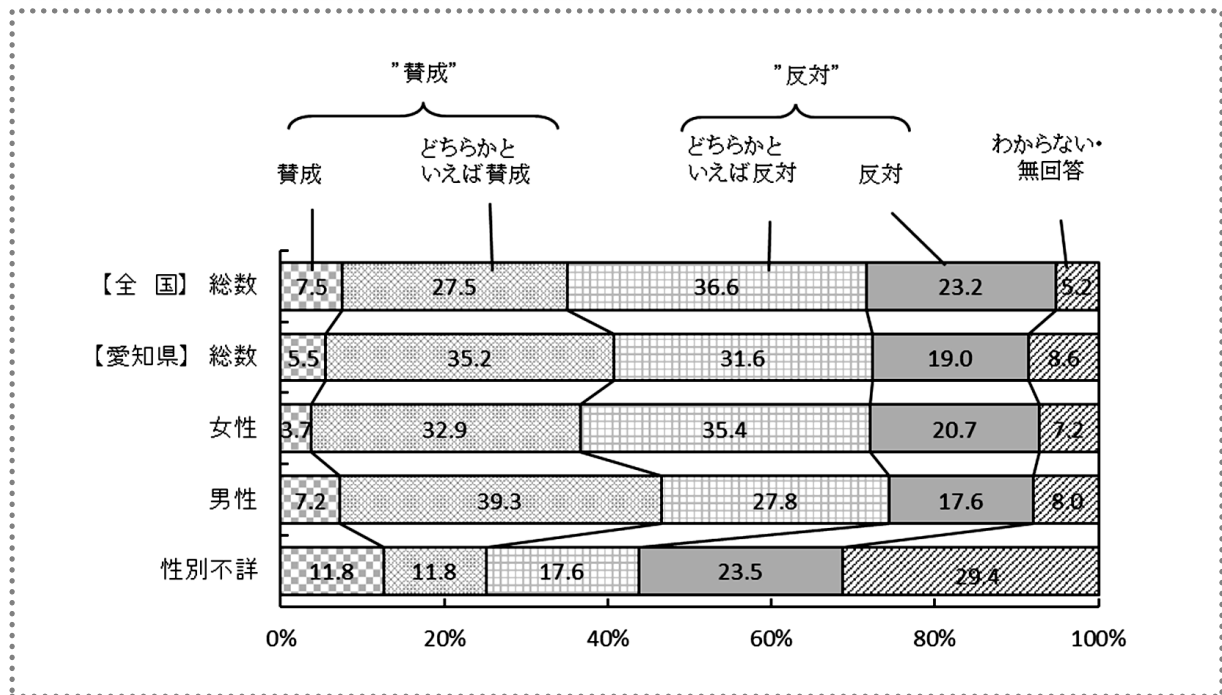
問 14 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。  
(単数回答)



「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」との考え方については、全体・女性において『反対（「反対」および「どちらかといえば反対」）』の割合が高く、全体では 48.9%、女性は 56.2% となっています。一方、男性では『賛成（「賛成」および「どちらかといえば賛成」）』の割合が高く、43.5% となっています。

また、年齢別でみると、年齢が高くなるにつれて『賛成（「賛成」および「どちらかといえば賛成」）』の割合が高くなる傾向にあります。

参考:「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方(総数、性別)(愛知県、全国)

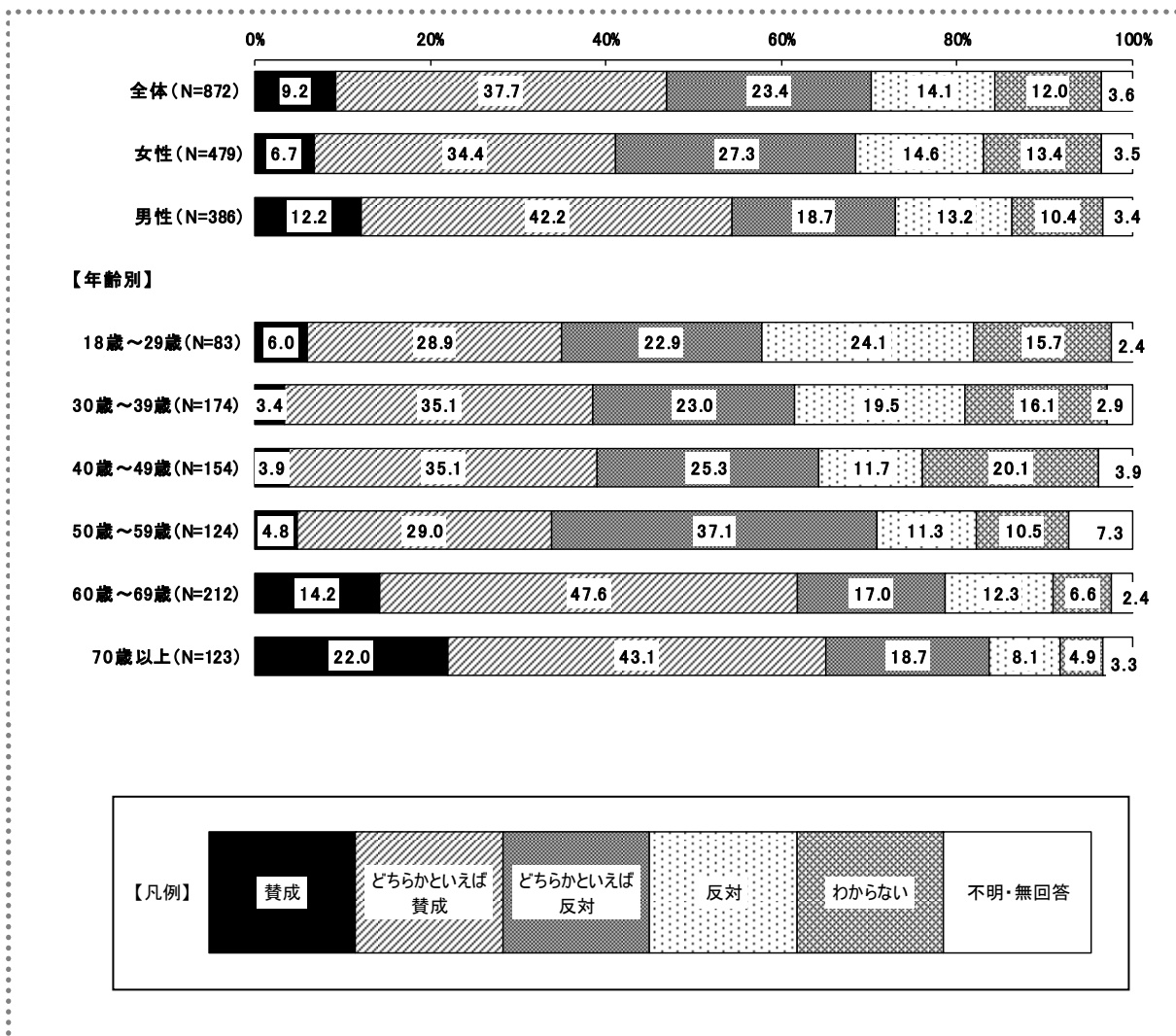


資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」(2019年)

愛知県「男女共同参画意識に関する調査」(2019年)

国、県の調査をみても、いずれも『反対(「反対」および「どちらかといえば反対」)』の割合が高くなっています。

参考：前回調査（「男は仕事、女は家庭」という考え方について）



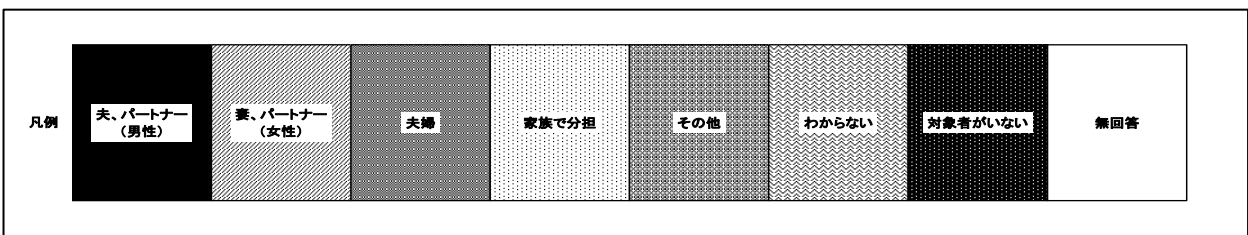
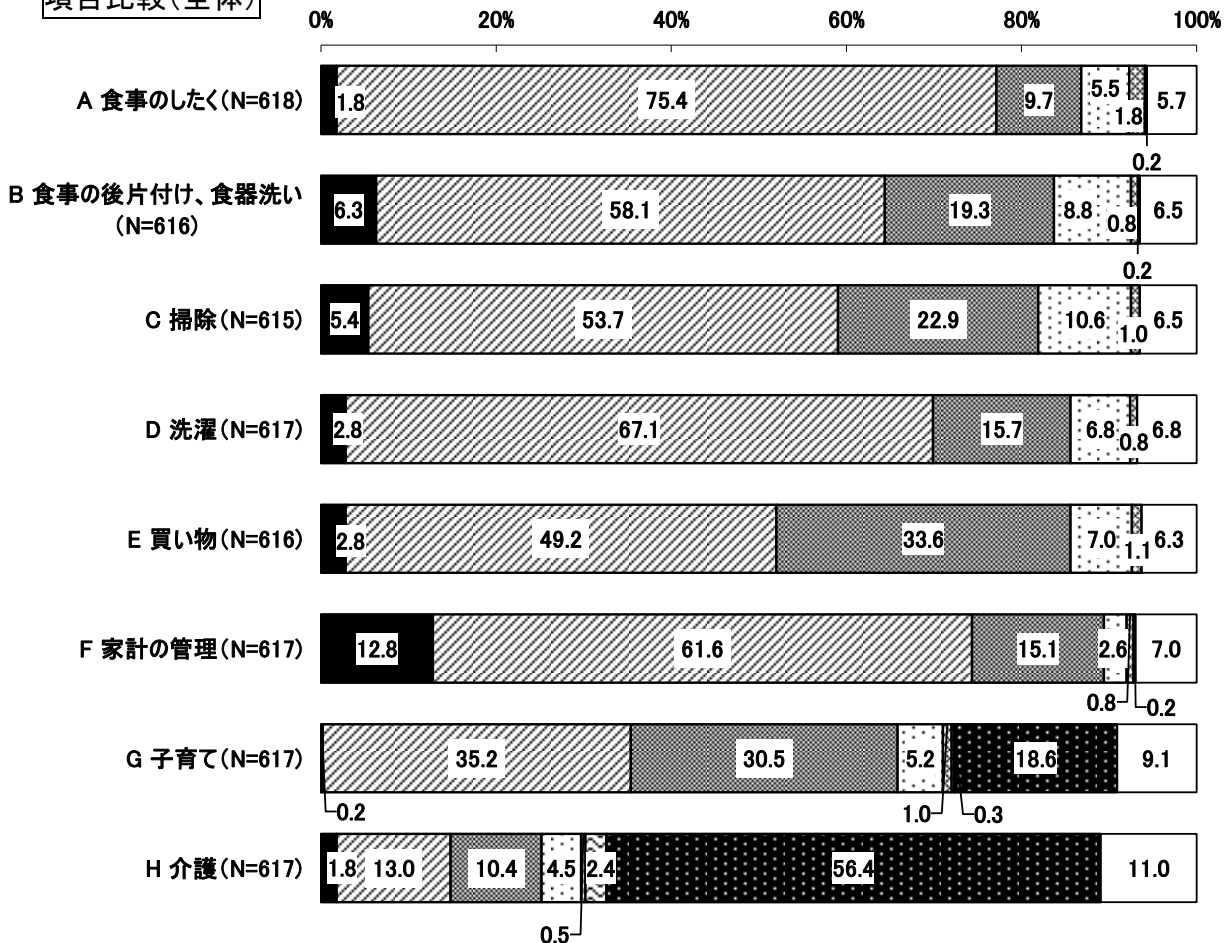
前回調査においては、全体・男性では『賛成』の割合が高く全体は46.9%、男性は54.4%であり、女性は『賛成』41.1%、『反対』41.9%で同程度の割合でした。男性は『賛成』の割合は高いですが、『反対』が7.7ポイント増えていること、女性は『反対』傾向は変わりませんが、14.3ポイント増えていることがわかります。

また、年齢別に比較してみると、すべての年代において『賛成』の割合が少なくなっており、意識に変化があることがわかります。

<「結婚している」「結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方におたずねします>

問 15 あなたの家庭では、次のような家事を、主に誰が分担していますか。(各項目単数回答)

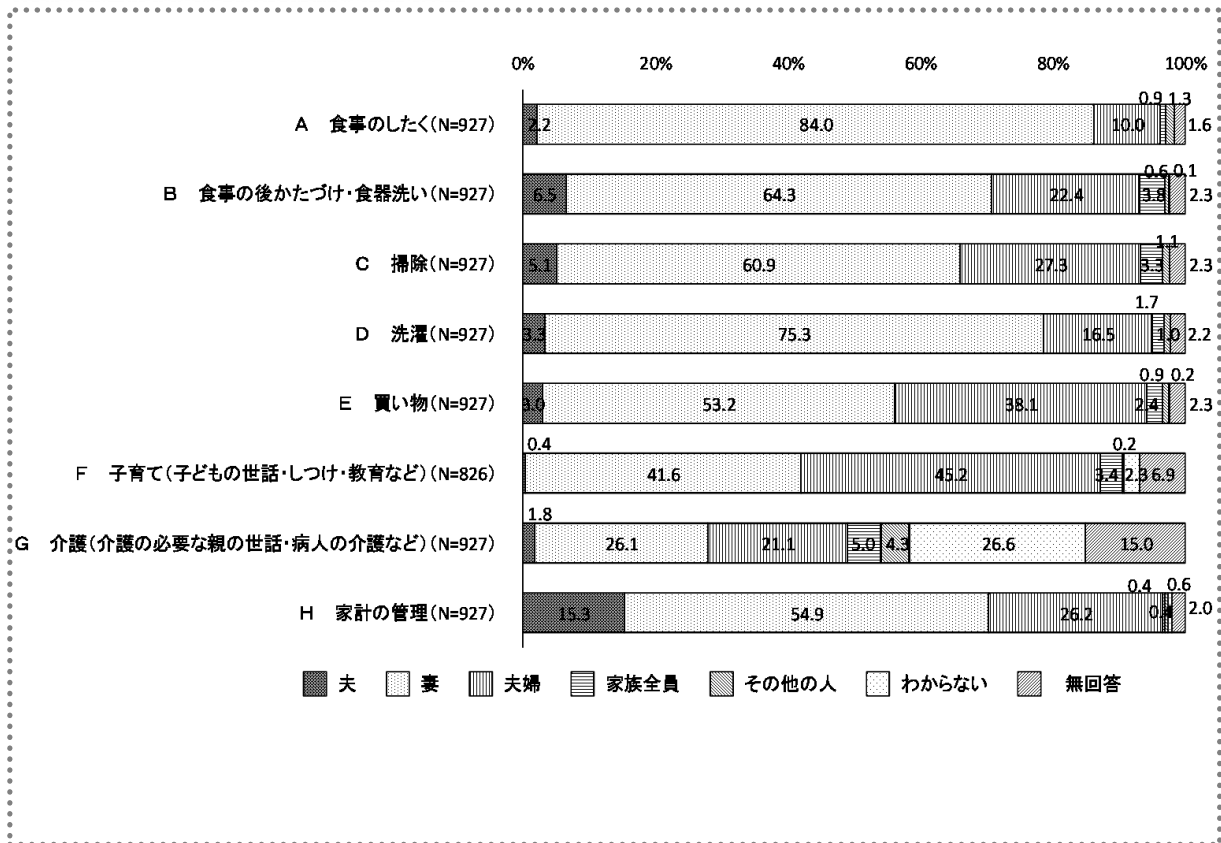
項目比較(全体)



家庭での家事を主に誰が担っているかにおいては、すべての設問において「妻、パートナー(女性)」が最も高くなっています。(※「対象者がいない」除く)

「妻、パートナー(女性)」の割合が高い順にみると、『A 食事のしたく』75.4%、『D 洗濯』67.1%、『F 家計の管理』61.6%、『B 食事の後片付け、食器洗い』58.1%、『C 掃除』53.7%、『E 買い物』49.2%、『G 子育て』35.2%、『H 介護』13.0%となっています。特に『A 食事のしたく』では、「妻、パートナー(女性)」との回答が75.4%の結果となっています。

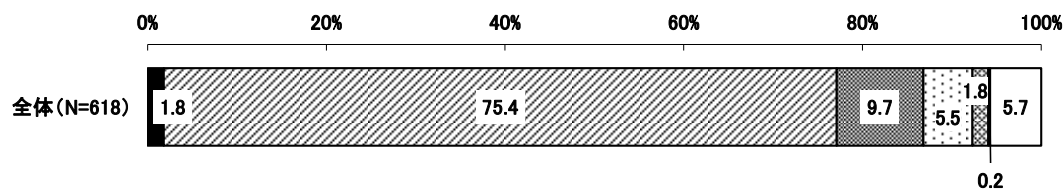
参考：家事の分担（愛知県）



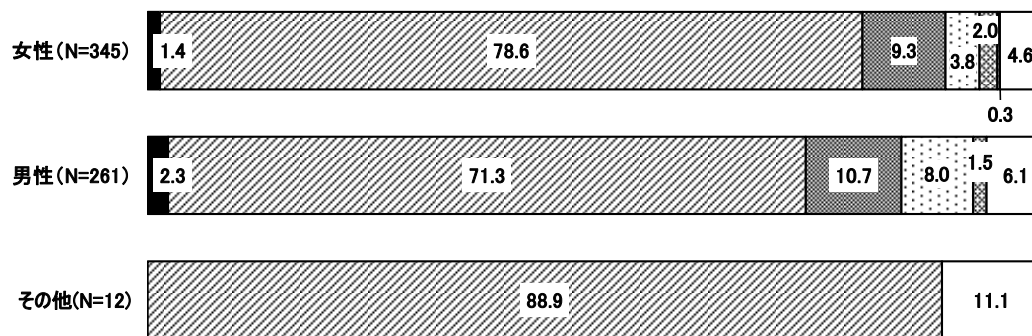
資料：愛知県「男女共同参画意識に関する調査」(2019年)

県と江南市を比較すると、江南市は全体的に家族で分担している割合が高い傾向にあります。

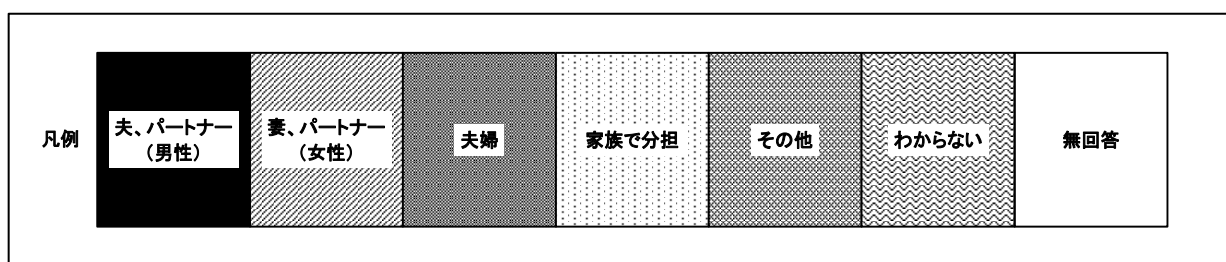
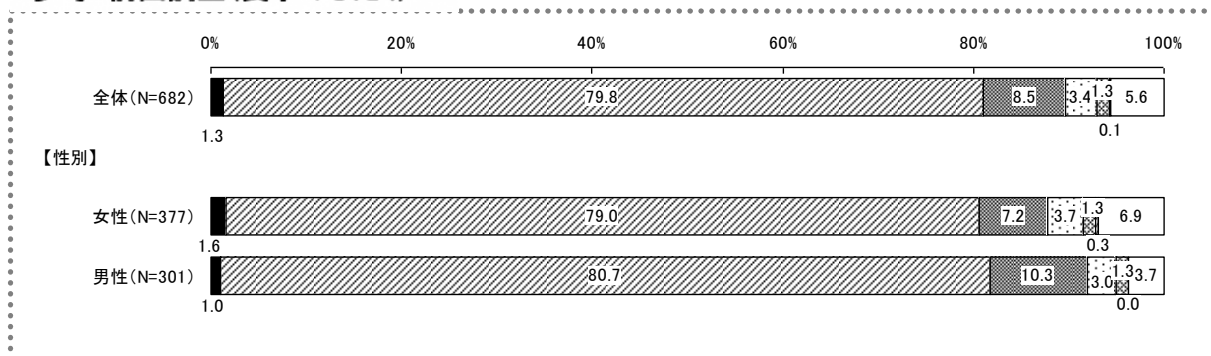
## A 食事のしたく



【性別】



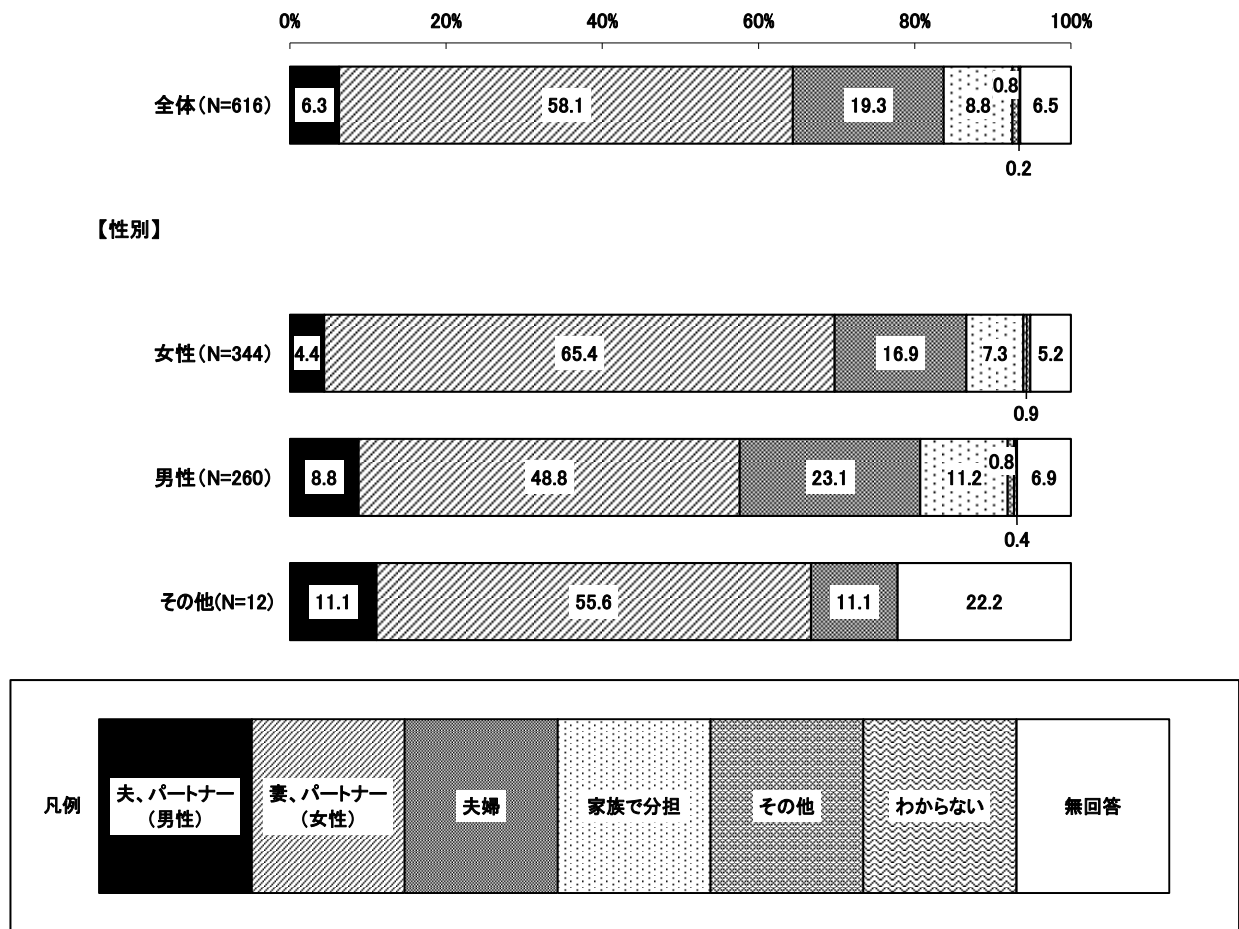
### 参考: 前回調査(食事のしたく)



食事のしたくについては、全体で見ると、「妻、パートナー（女性）」が最も高く、75.4%となっています。次に夫婦 9.7%、家族で分担 5.5%の順でこれは前回調査と変わりません。

性別では、女性は78.6%が「妻、パートナー（女性）」が食事のしたくをし、9.3%が「夫婦」でしていると回答しているのに対し、男性では71.3%が「妻、パートナー（女性）」が食事のしたくをし、10.7%が「夫婦」でしていると回答していることから、男女間で食事のしたくにおける認識の差があることがうかがえます。

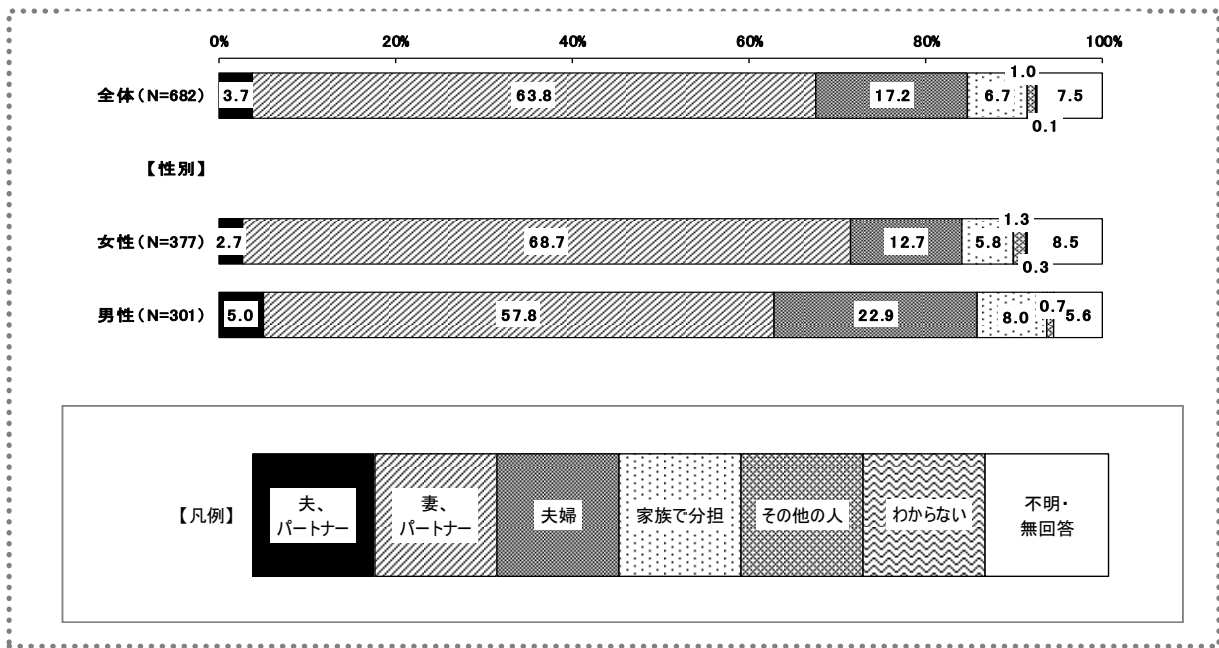
## B 食事の後片付け、食器洗い



食事の後片付け、食器洗いにおいては、全体で見ると、「妻、パートナー（女性）」が最も高く、58.1%となっています。次に「夫婦」19.3%、「家族で分担」8.8%です。

性別で見ると、女性は65.4%が「妻、パートナー（女性）」が行い、16.9%が「夫婦」でしていると回答しているのに対し、男性では48.8%が「妻、パートナー（女性）」、23.1%が「夫婦」でしていると回答していることから、男女間で認識の差があることがうかがえます。

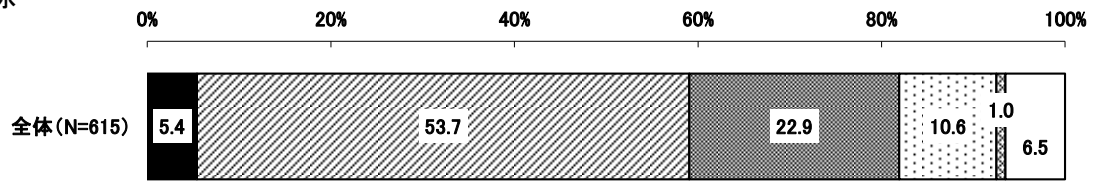
参考: 前回調査(食事の片付け、食器洗い)



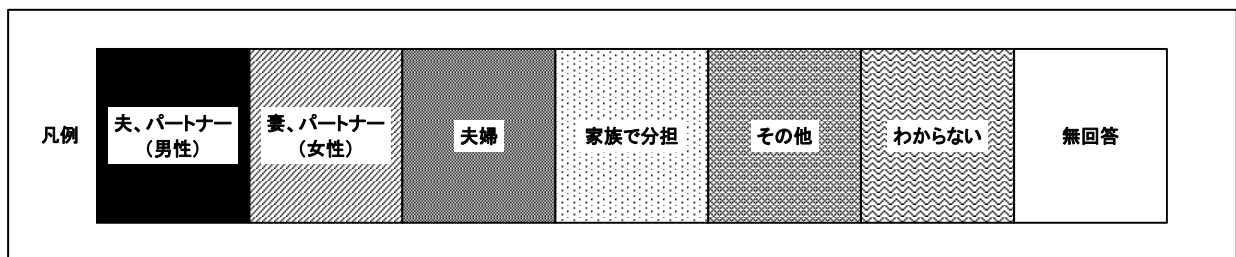
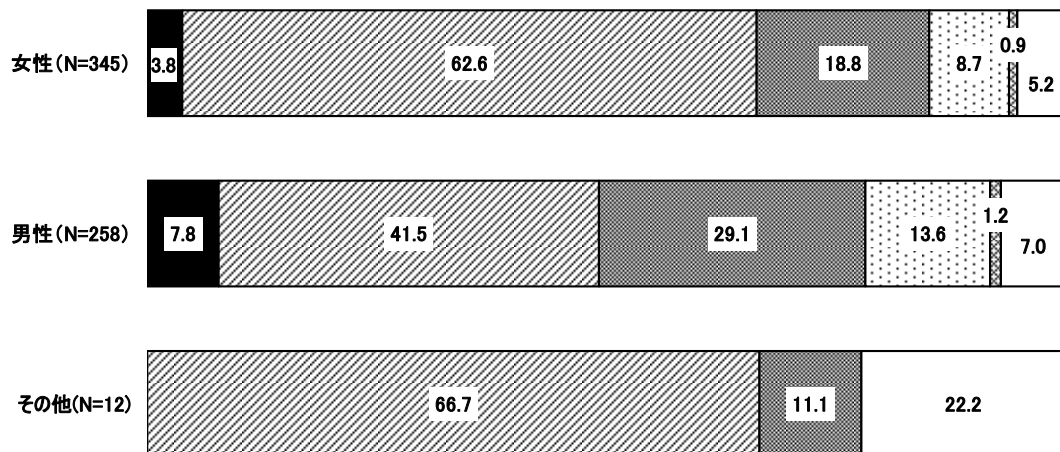
前回調査と比較すると、「妻、パートナー(女性)」が5.7ポイント低くなり、夫婦及び家族で分担が各2.1ポイント高くなっていることがわかります。



### C 掃除

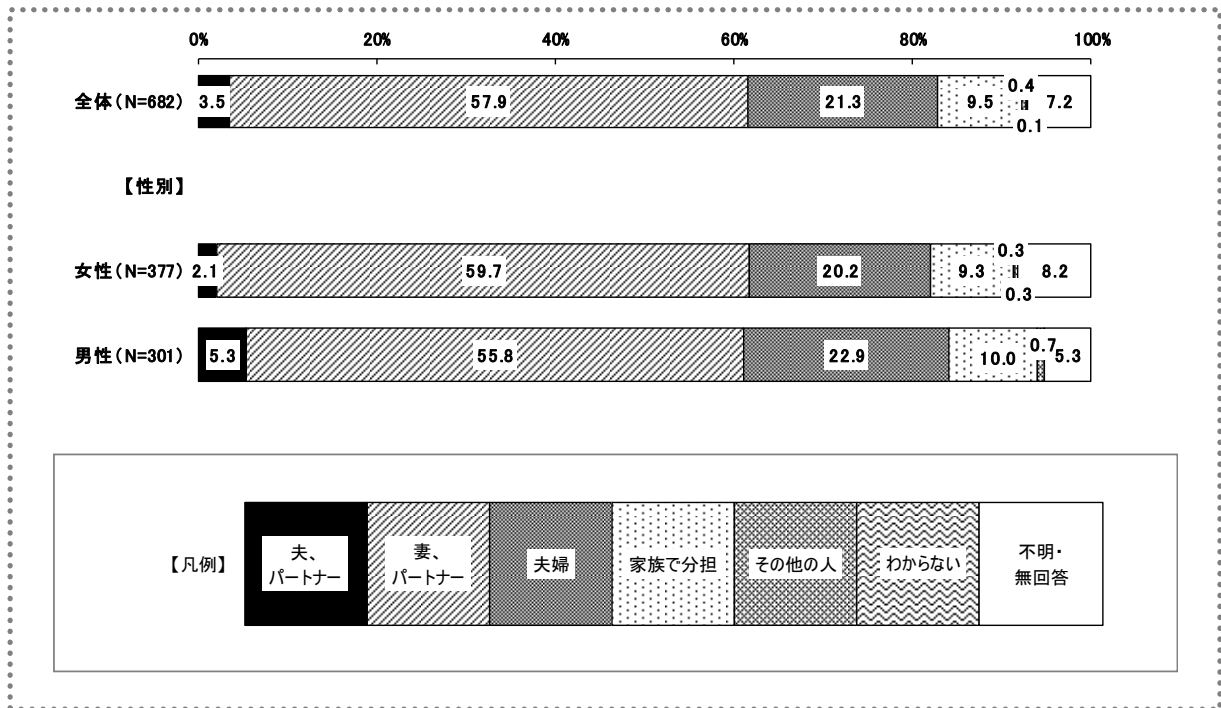


#### 【性別】



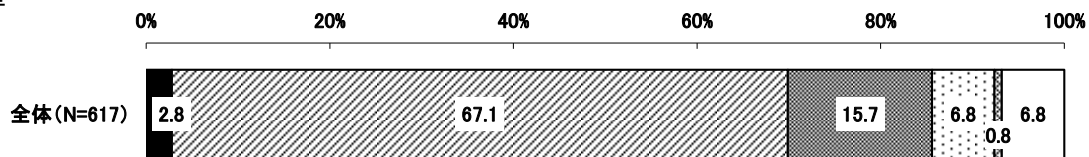
掃除においては、全体・性別で見ると、いずれも「妻、パートナー（女性）」が最も高く、女性では62.6%、男性では41.5%となっており、男女間では認識の差がみられます。次に「夫婦」、「家族で分担」の順で高くなっています。

参考: 前回調査(掃除)

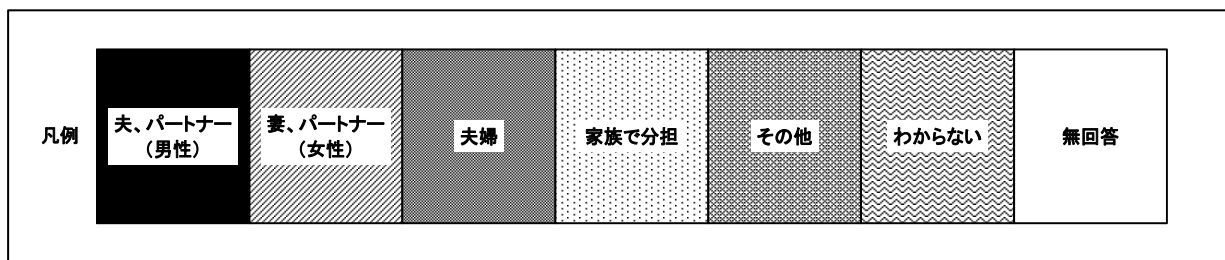
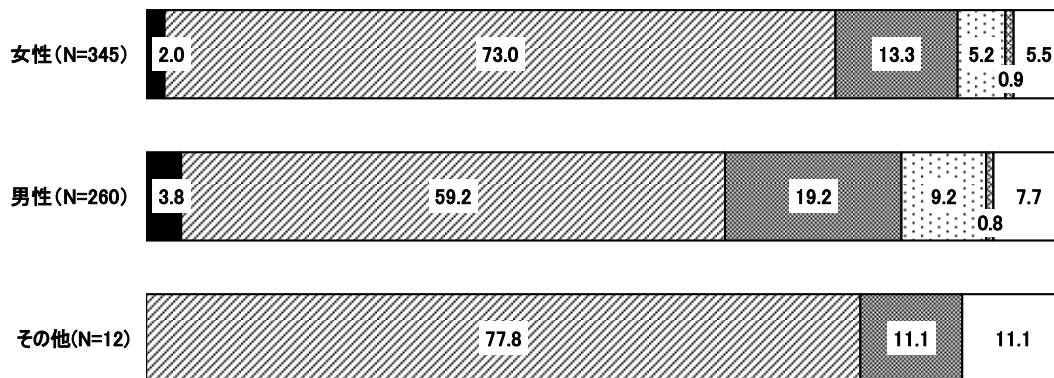


前回調査と比較すると、「妻、パートナー（女性）」の割合が少し低くなり、「夫婦」「家族の分担」が少し高くなっています。

## D 洗濯

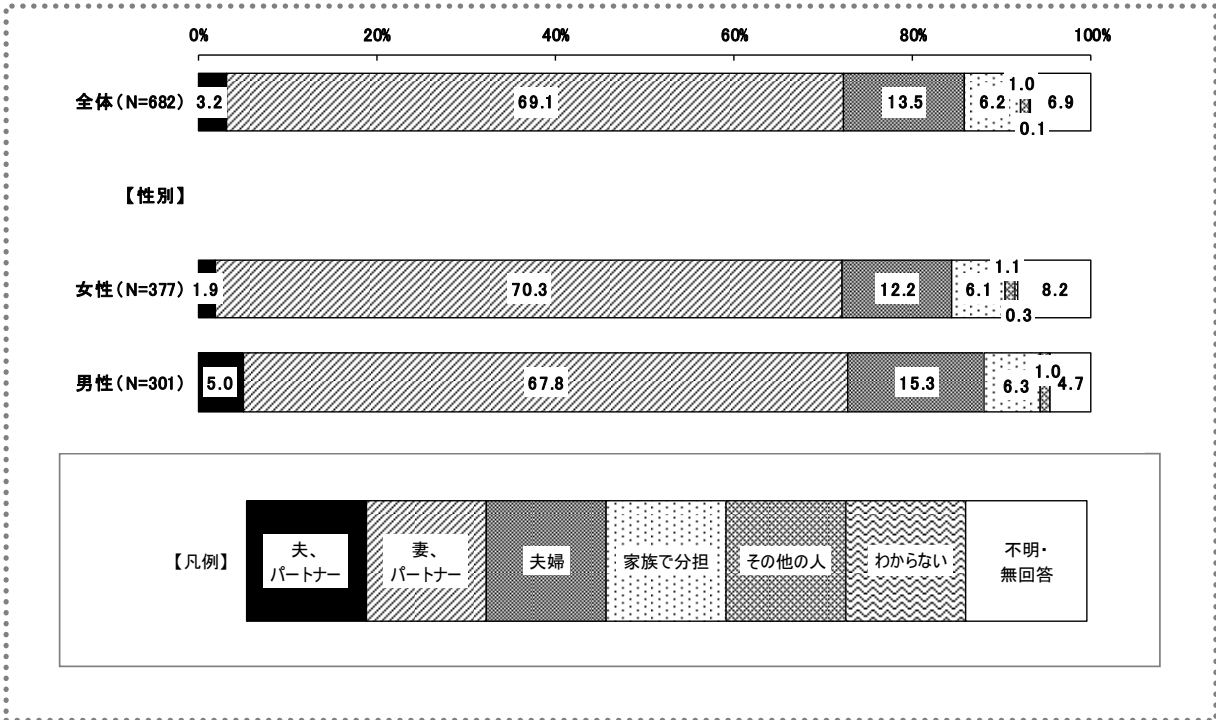


### 【性別】



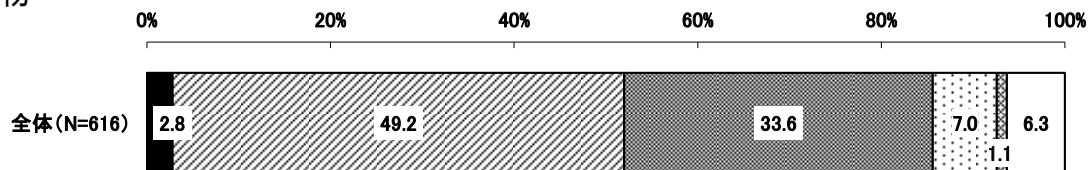
洗濯においては、全体・性別で見ると、いずれも「妻、パートナー（女性）」が最も高く、女性では73.0%、男性では59.2%となっており、男女間では認識の差がみられます。次に「夫婦」、「家族で分担」の順で高くなっています。

参考: 前回調査(洗濯)

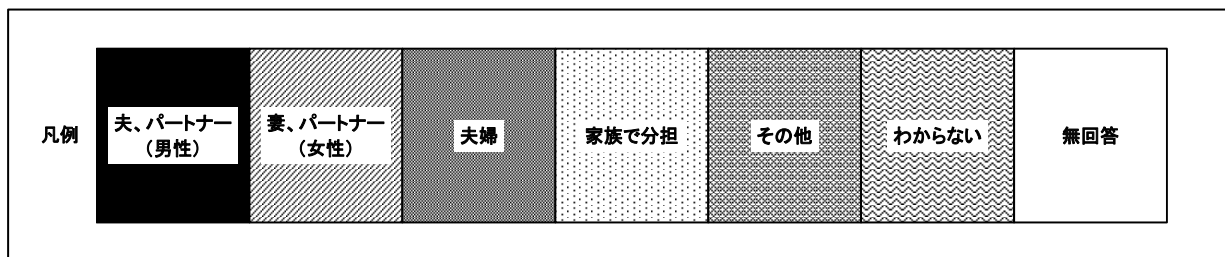
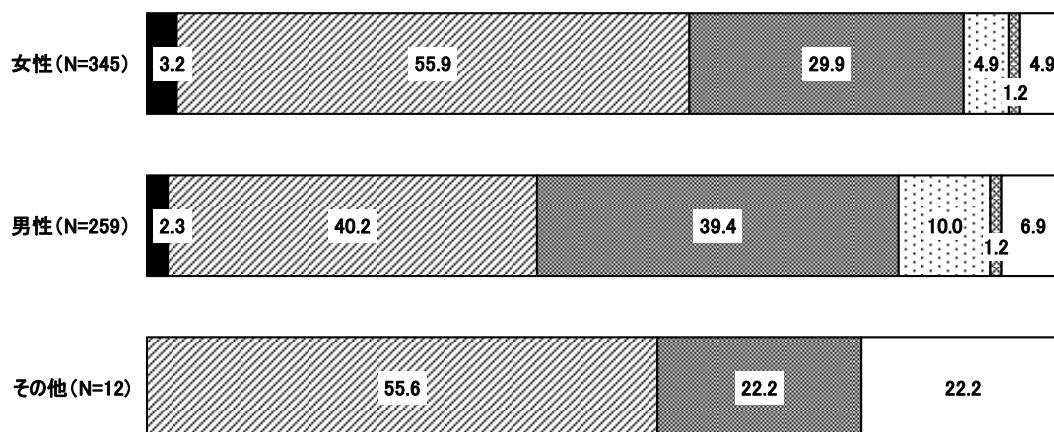


前回調査と比較すると、「妻、パートナー（女性）」の割合が少し低くなり、「夫婦」及び「家族の分担」の割合が少し高くなっています。

## E 買い物



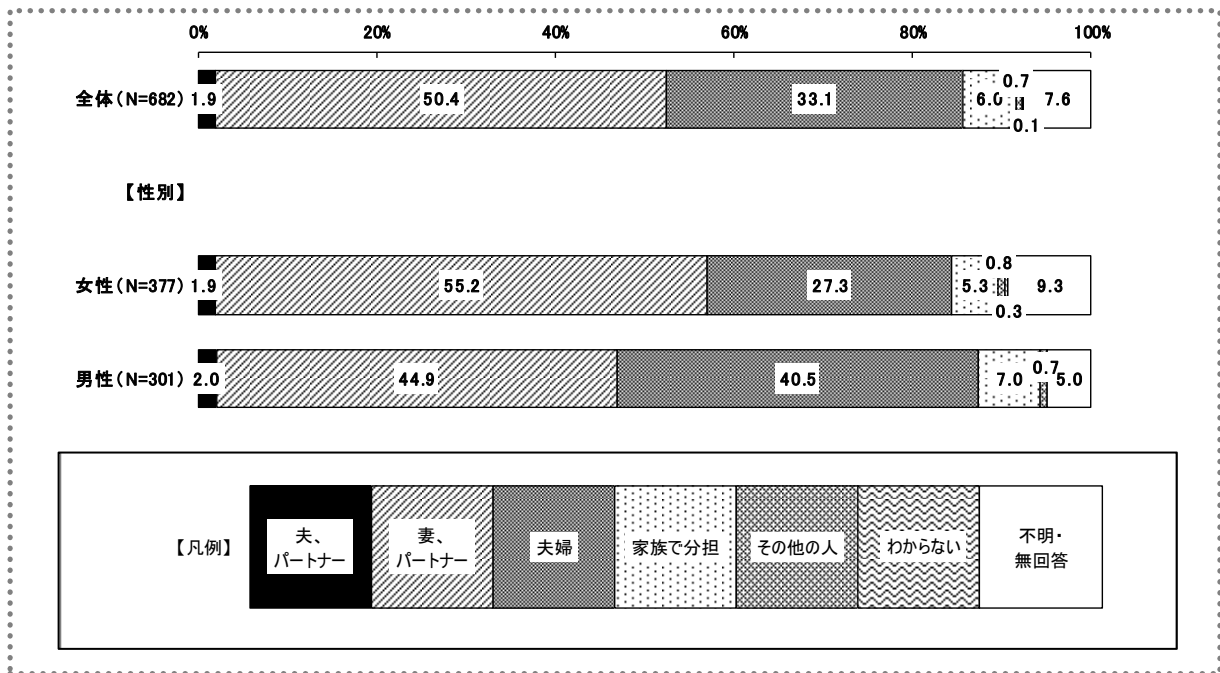
### 【性別】



買い物については、全体で見ると、「妻、パートナー（女性）」が最も高く、49.2%となっています。次に、「夫婦」、「家族で分担」の順で高くなっています。

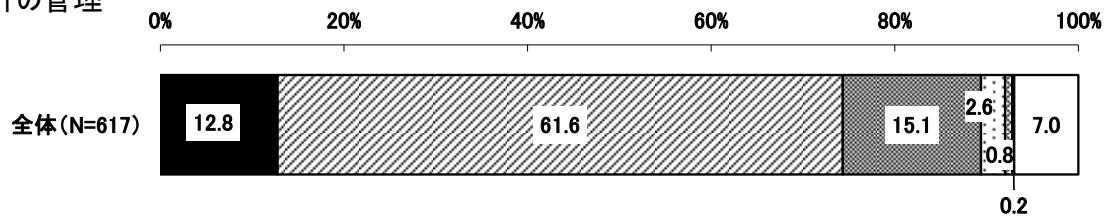
性別では、女性は55.9%が「妻、パートナー（女性）」が買い物をし、29.9%が「夫婦」でしていると回答しているのに対し、男性では40.2%が「妻、パートナー（女性）」が買い物をし、39.4%が「夫婦」でしていると回答していることから、男女間で認識の差があることがうかがえます。

参考：前回調査(買い物)

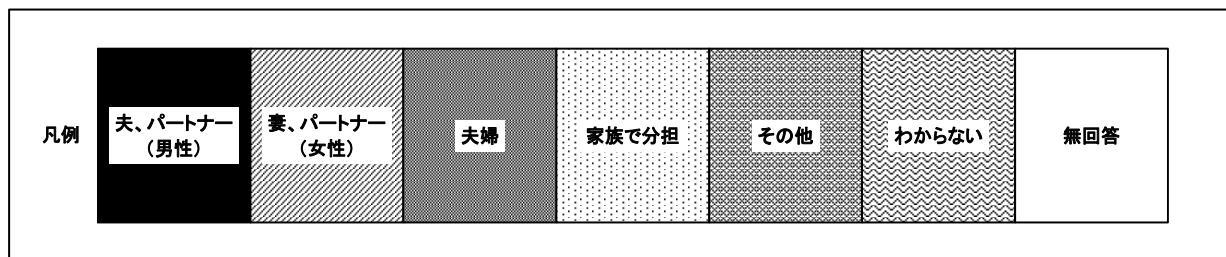
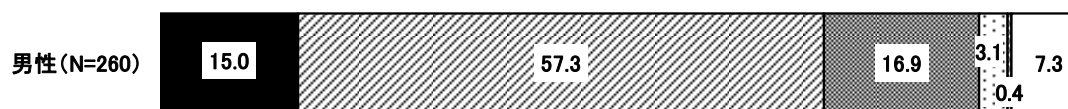
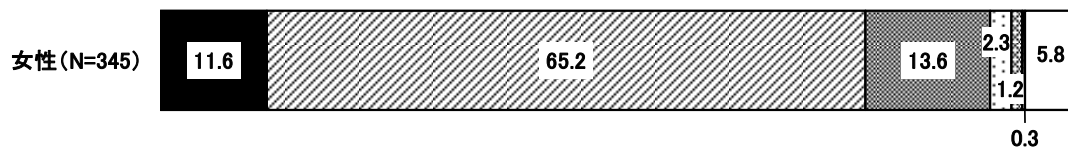


前回調査と比較すると、「妻、パートナー（女性）」の割合が少し低くなり、「夫婦」及び「家族で分担」の割合が少し高くなっています。

## F 家計の管理

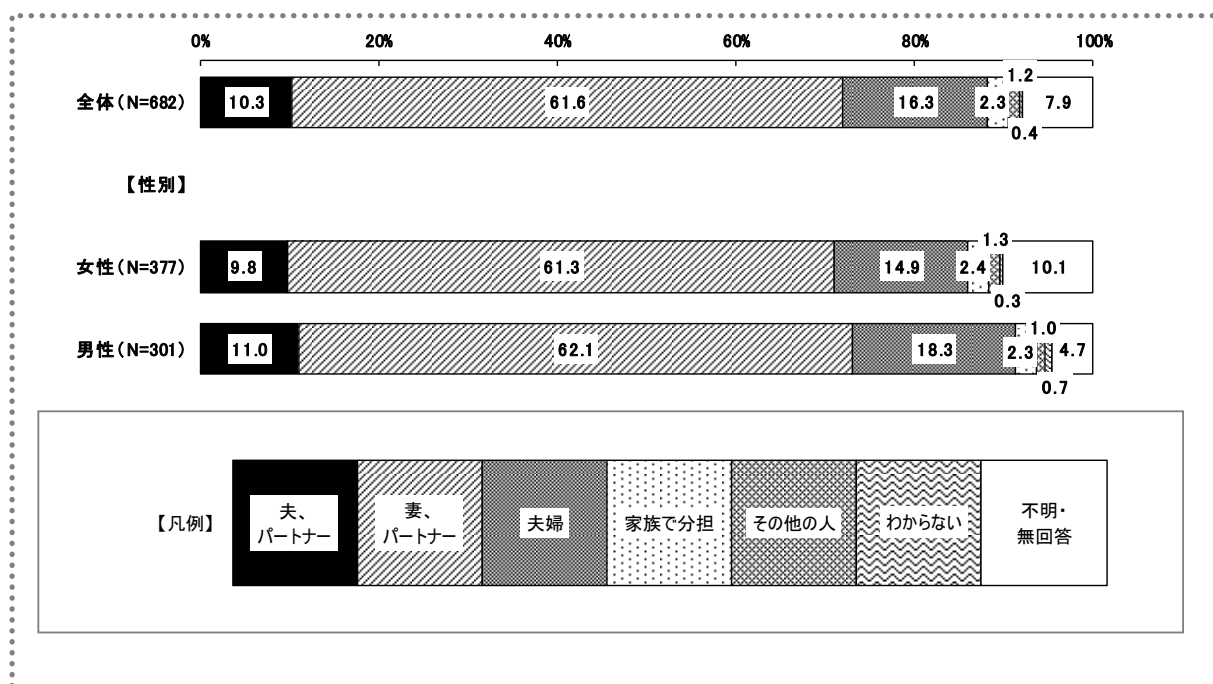


### 【性別】



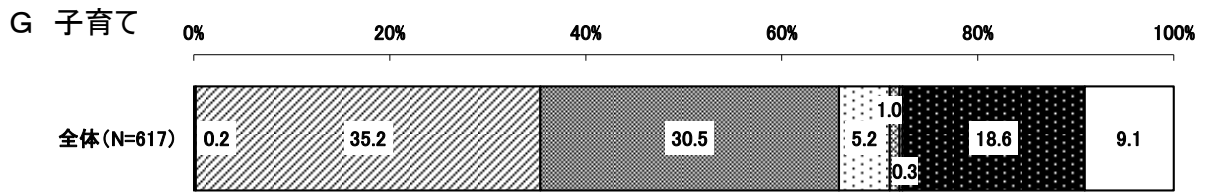
家計の管理については、全体・性別で見ると、いずれも「妻、パートナー（女性）」が最も高く、全体では 61.1%、女性では 65.2%、男性では 57.3%となっています。次に「夫婦」、「夫、パートナー（男性）」の順で高くなっています。

参考：前回調査(家計の管理)

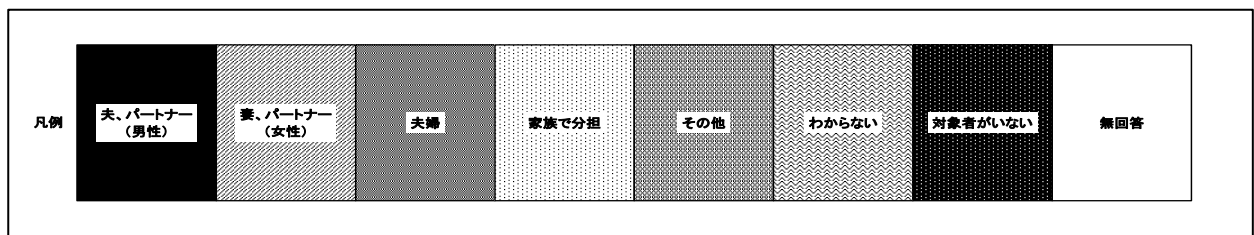
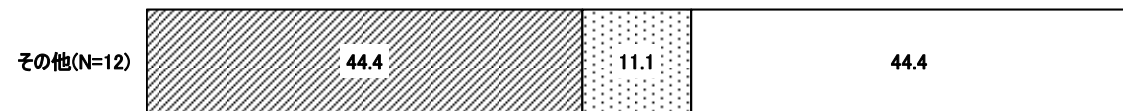
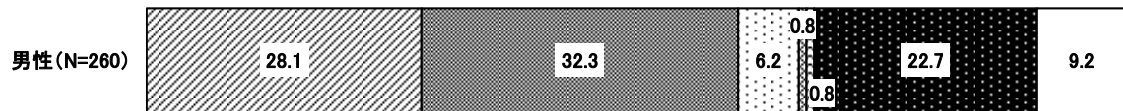


前回調査と比較すると、「夫、パートナー」の割合が少し高くなり、「夫婦」の割合が少し低くなっています。





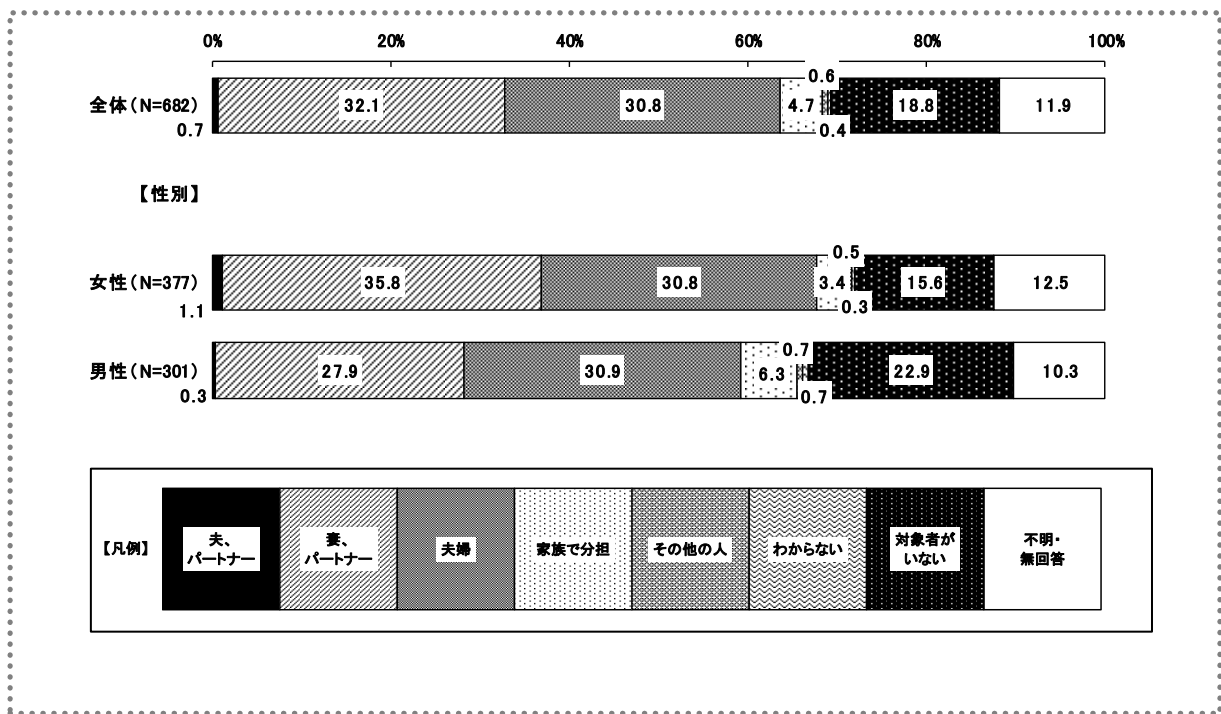
【性別】



子育てについては、全体で見ると、「妻、パートナー（女性）」が最も高く、35.2%となっています。次に「夫婦」「家族で分担」の順で高くなっています。

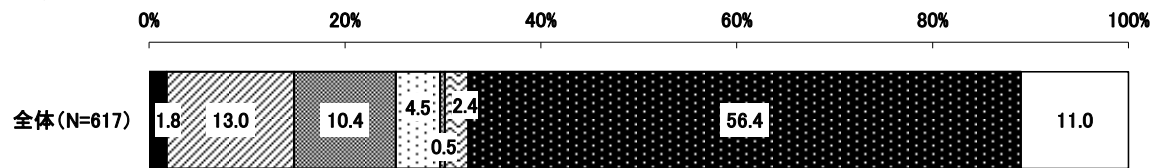
性別では、女性は40.3%が「妻、パートナー（女性）」が子育てをし、30.1%が「夫婦」でしていると回答しているのに対し、男性では28.1%が「妻、パートナー（女性）」が子育てをし、32.3%が「夫婦」でしていると回答しています。（※「対象者がいない」は除く）

参考：前回調査(子育て)

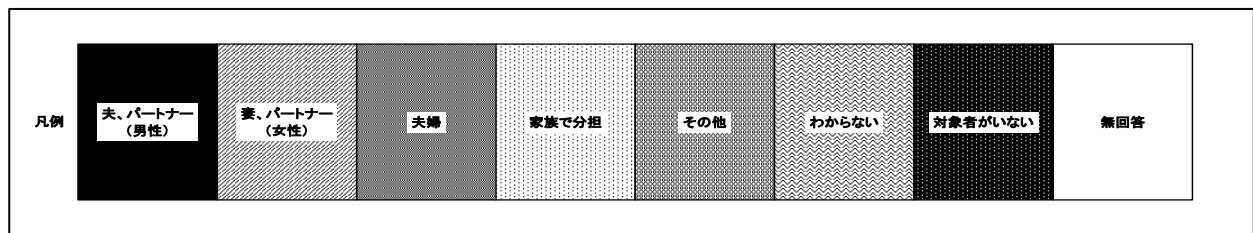
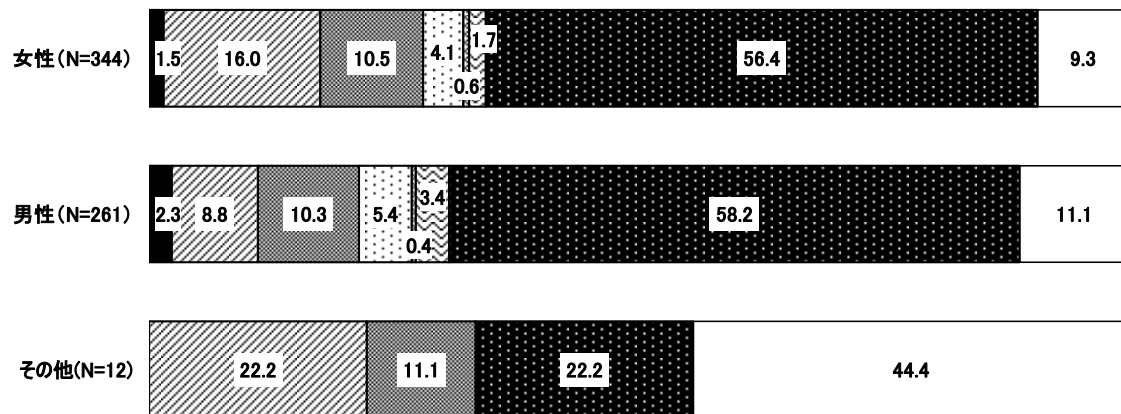


前回調査と比較すると、「妻、パートナー（女性）」の割合が少し高くなっています。

## H 介護

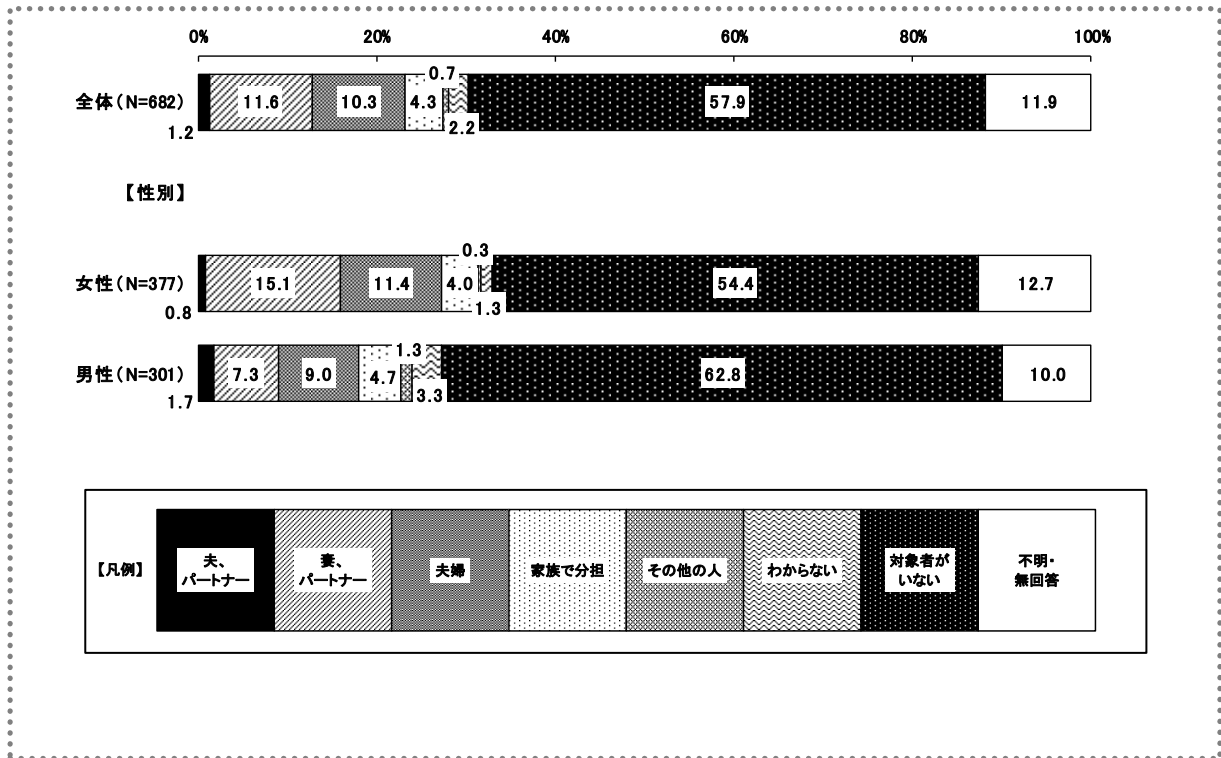


### 【性別】



介護においては、全体で見ると、「妻、パートナー（女性）」が最も高く、13.0%となっています。  
性別では、女性は16.0%が「妻、パートナー（女性）」が介護をし、10.5%が「夫婦」で介護をしていると回答しているのに対し、男性では8.8%が「妻、パートナー（女性）」が介護をし、10.3%が「夫婦」で介護をしていると回答しています。（※「対象者がいない」は除く）

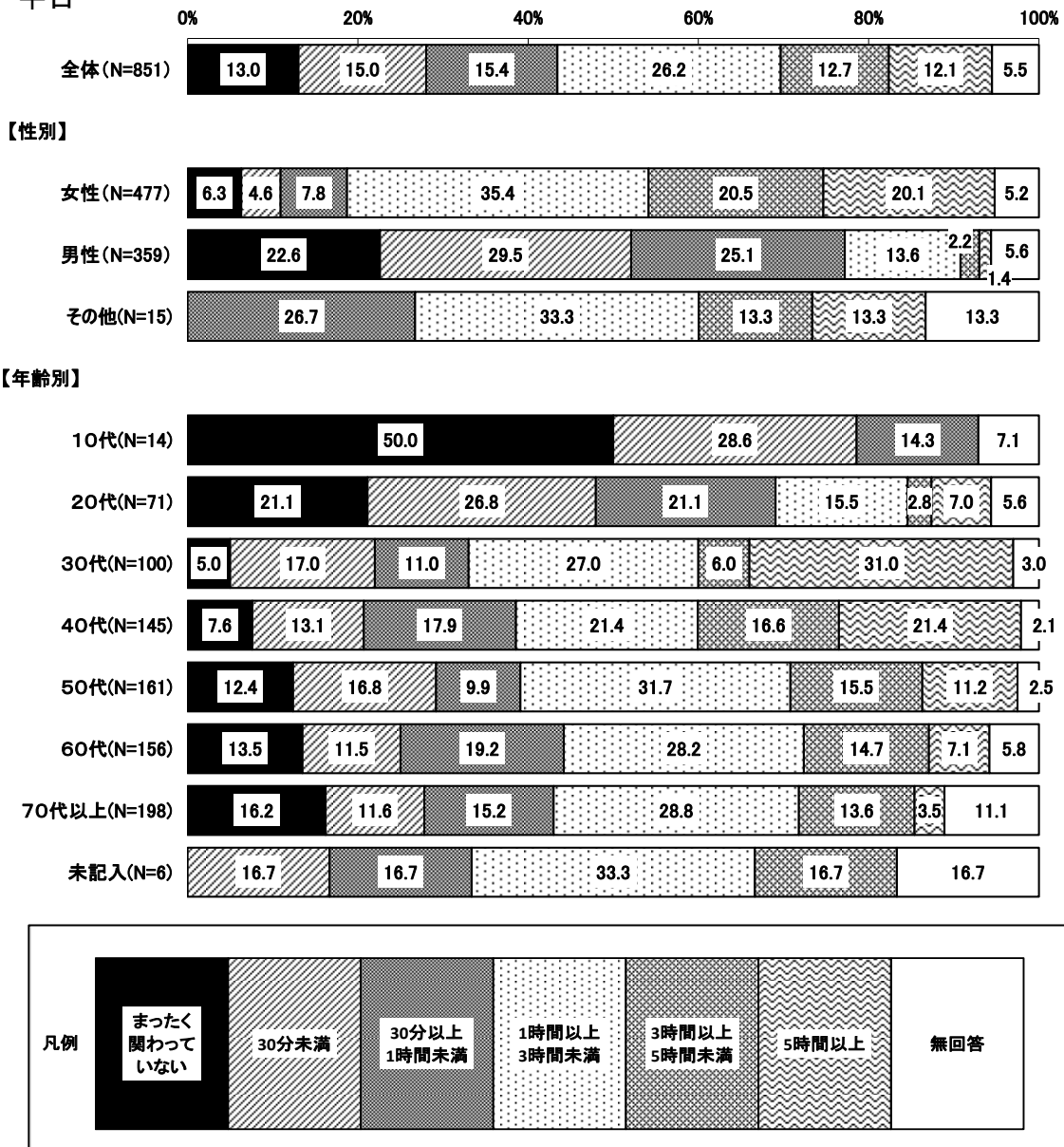
参考：前回調査(介護)



前回調査と比較すると、「妻、パートナー（女性）」の割合が少し高くなっています。

問 16 あなたが家事、育児、介護に関わる時間は、1日あたりどれくらいですか。(各項目単数回答)

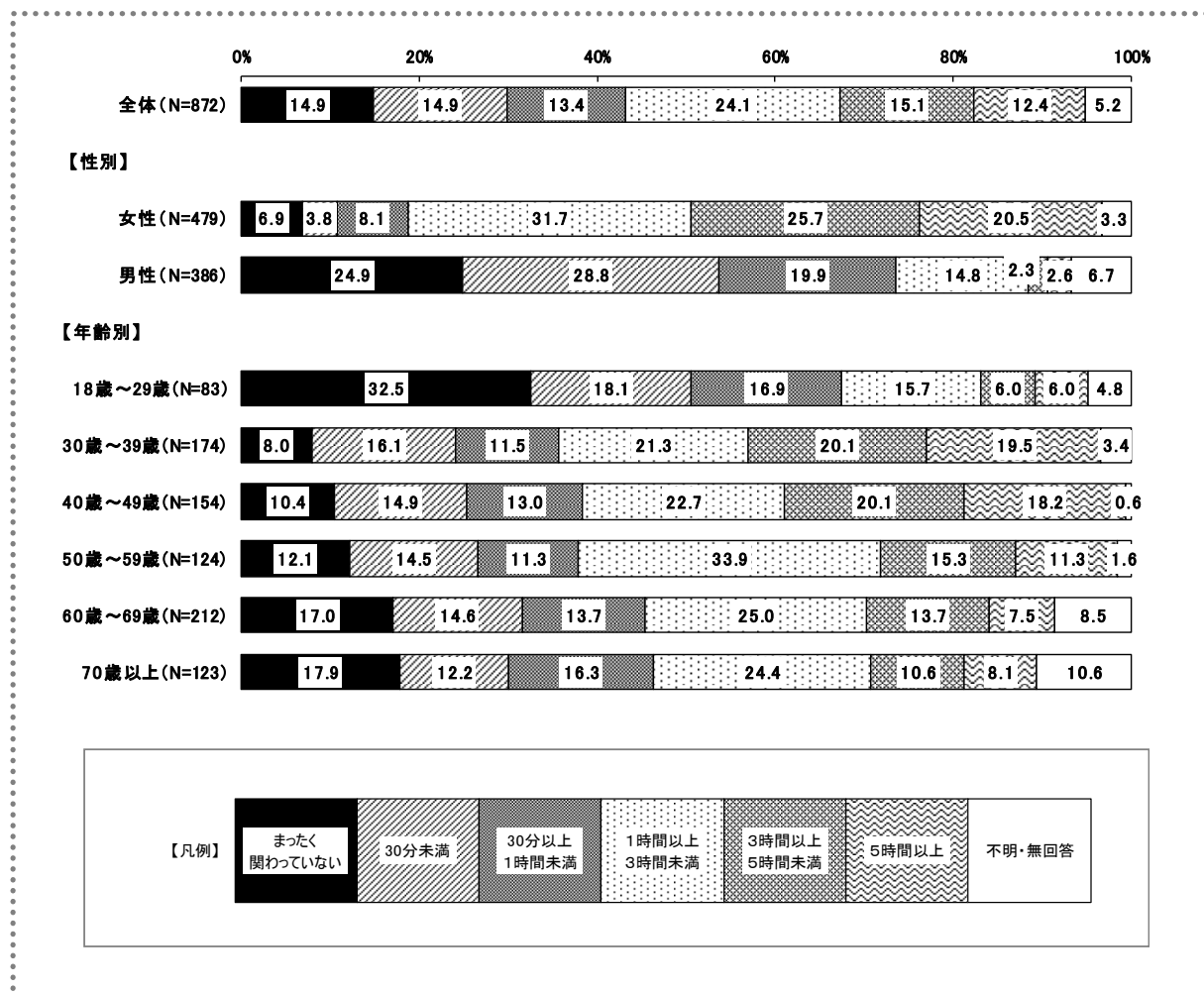
A 平日



平日の家事・育児・介護に携わる時間においては、性別では、女性は「1時間以上3時間未満」が35.4%、男性では「30分未満」が29.5%と、それぞれ最も高くなっています。

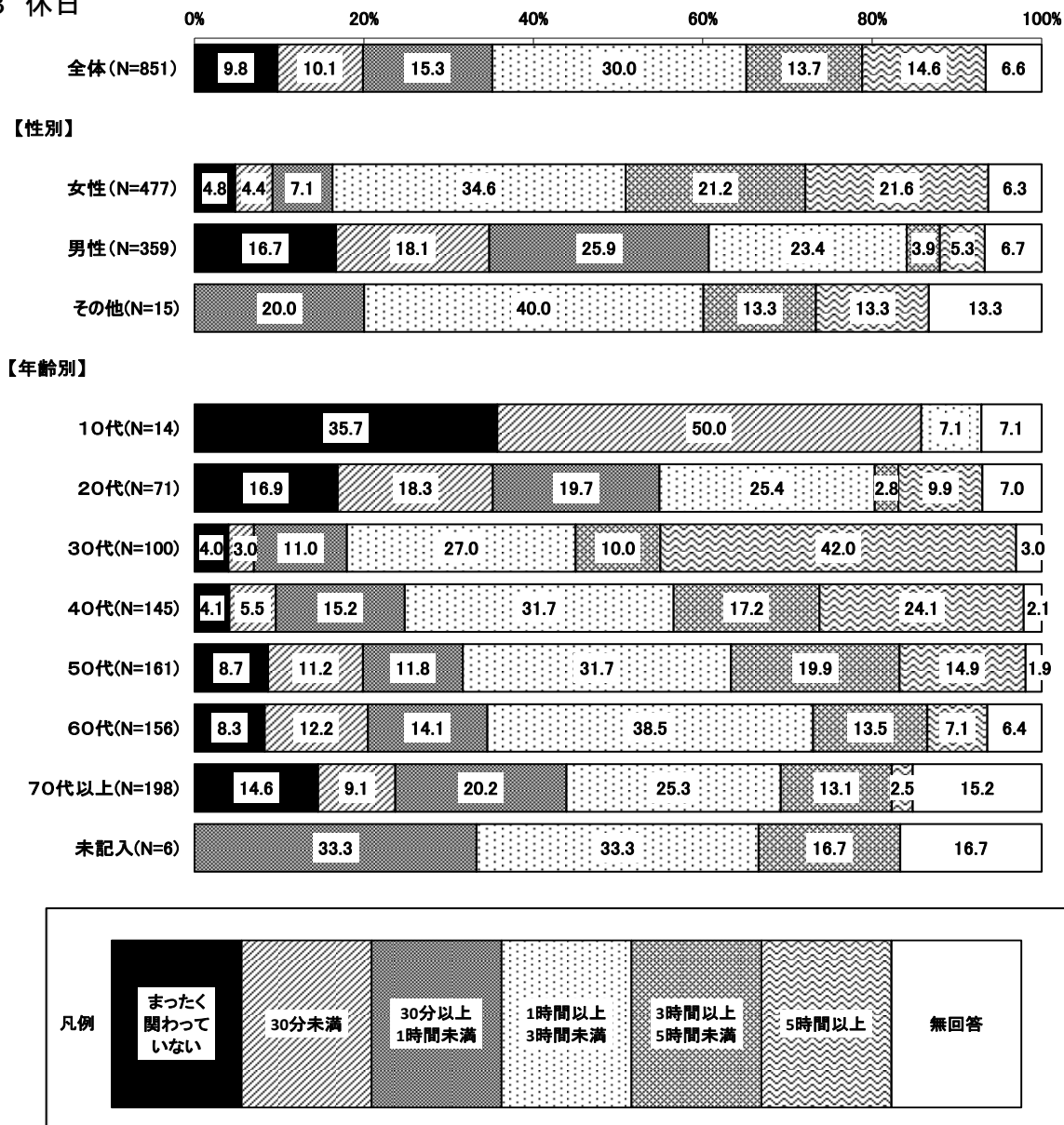
年齢別でみると、10代、20代は他年代と比べると「まったく関わっていない」の回答割合は高く、また30代以降は「1時間以上3時間未満」がそれぞれ高くなっています。

参考：前回調査(家事、育児、介護に関わる時間 <平日>)



前回調査と比較すると、30代の「5時間以上」と回答した割合が11.5ポイント増えています。

## B 休日

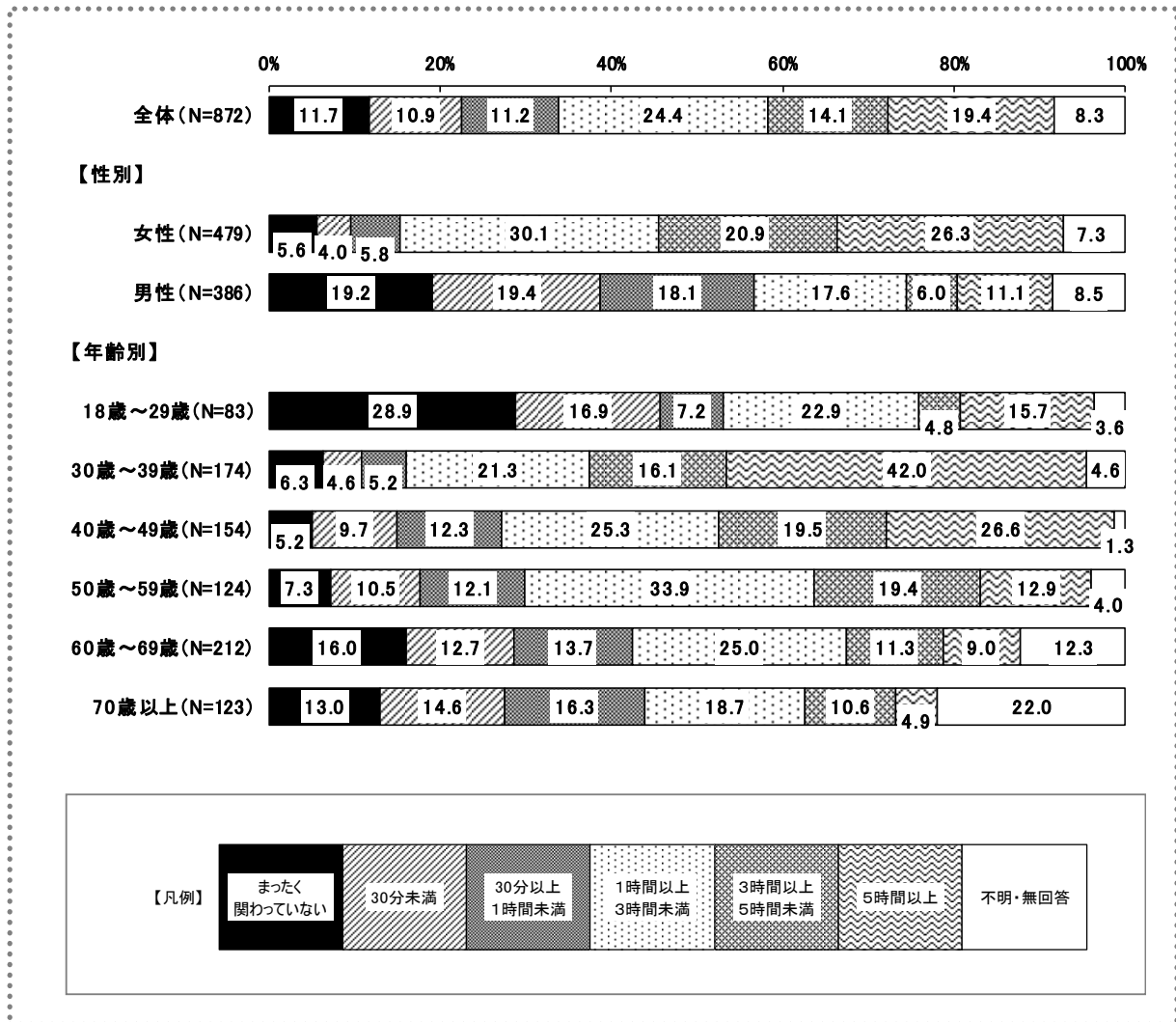


休日の家事・育児・介護に携わる時間においては、全体・性別で見るとそれぞれ回答が分散しています。

それでも、女性については平日と休日で家事・育児・介護に関わる時間にそれほど大きな差がないのに対して、男性の場合、「まったく関わっていない」とする割合が休日では減り、「1時間以上3時間未満」「3時間以上5時間未満」「5時間以上」の割合が15.4ポイント増えています。このことから、男性は休日に家事・育児・介護の分担を増やしていることがわかります。

年齢別でみると、10代、20代は「まったく関わっていない」の割合が平日ともに高くなっており、30代・40代では「5時間以上」でそれぞれ42.0%、24.1%、50代・60代・70代以上では「1時間以上3時間未満」がそれぞれ31.7%、28.2%、28.8%と高くなっています。

参考：前回調査(家事、育児、介護に関わる時間 <休日>)



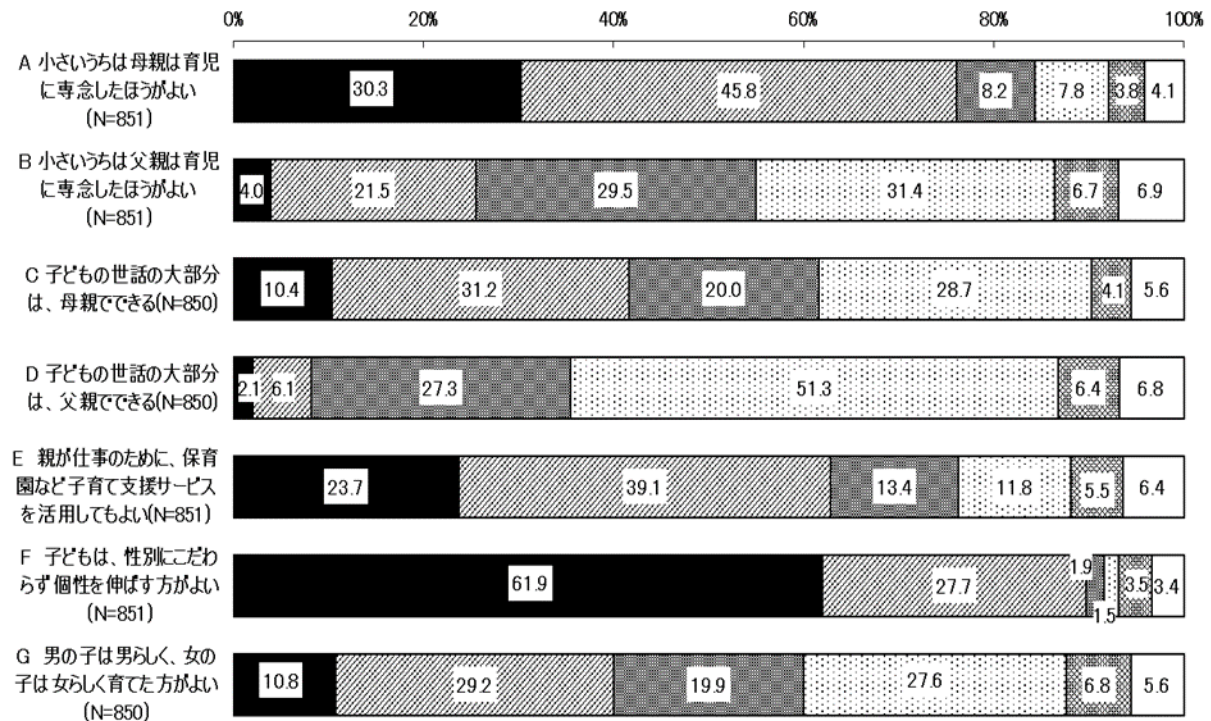
前回調査と比較すると、60代の「まったく関わっていない」と回答した割合が7.7ポイント減っています。



問 17 子育てや子どもの育て方について、あなたのご意見に近いものはどれですか。

(各項目単数回答)

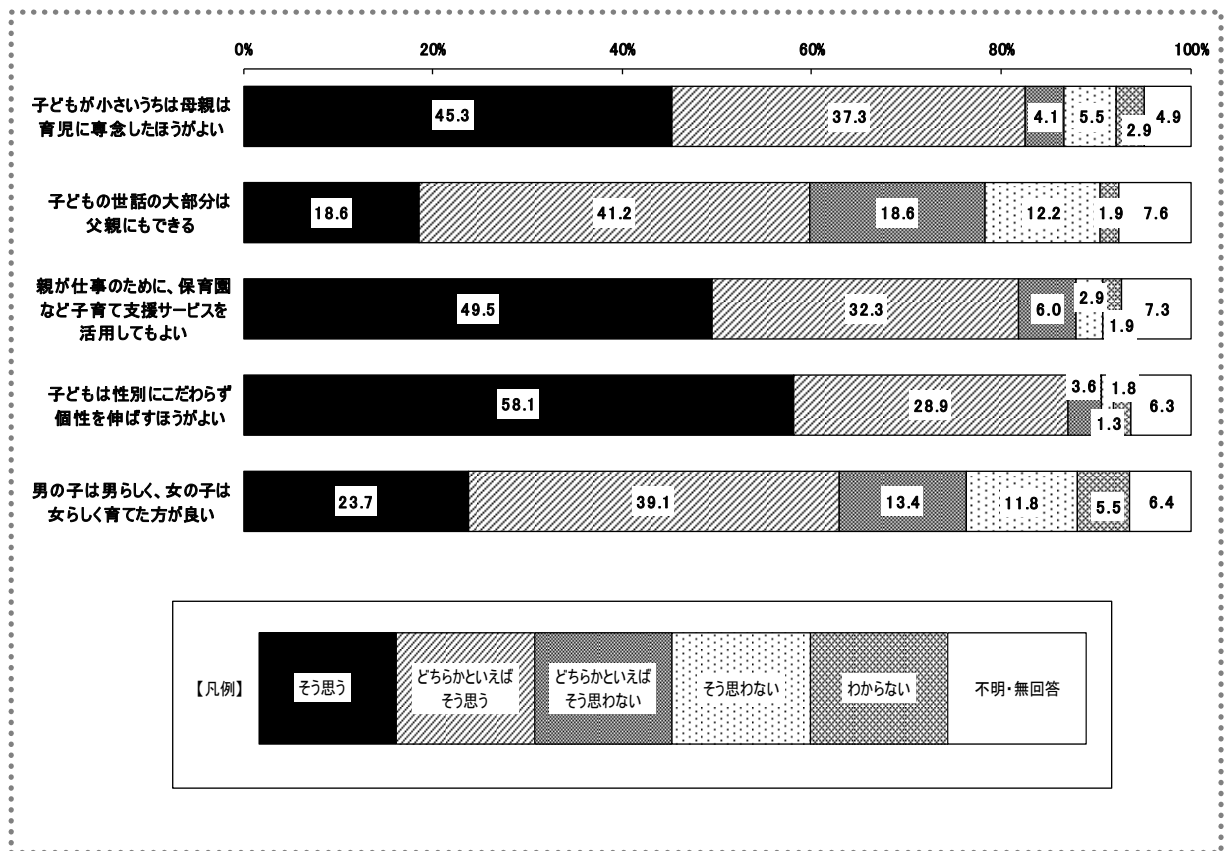
項目比較(全体)



子育てや子どもの育て方においては、特に子育てについて「小さいうちは母親は育児に専念」、子どもの育て方について『子どもは、性別にこだわらず個性をのびたほうがよい』において「そう思う」が最も高い割合になっています。

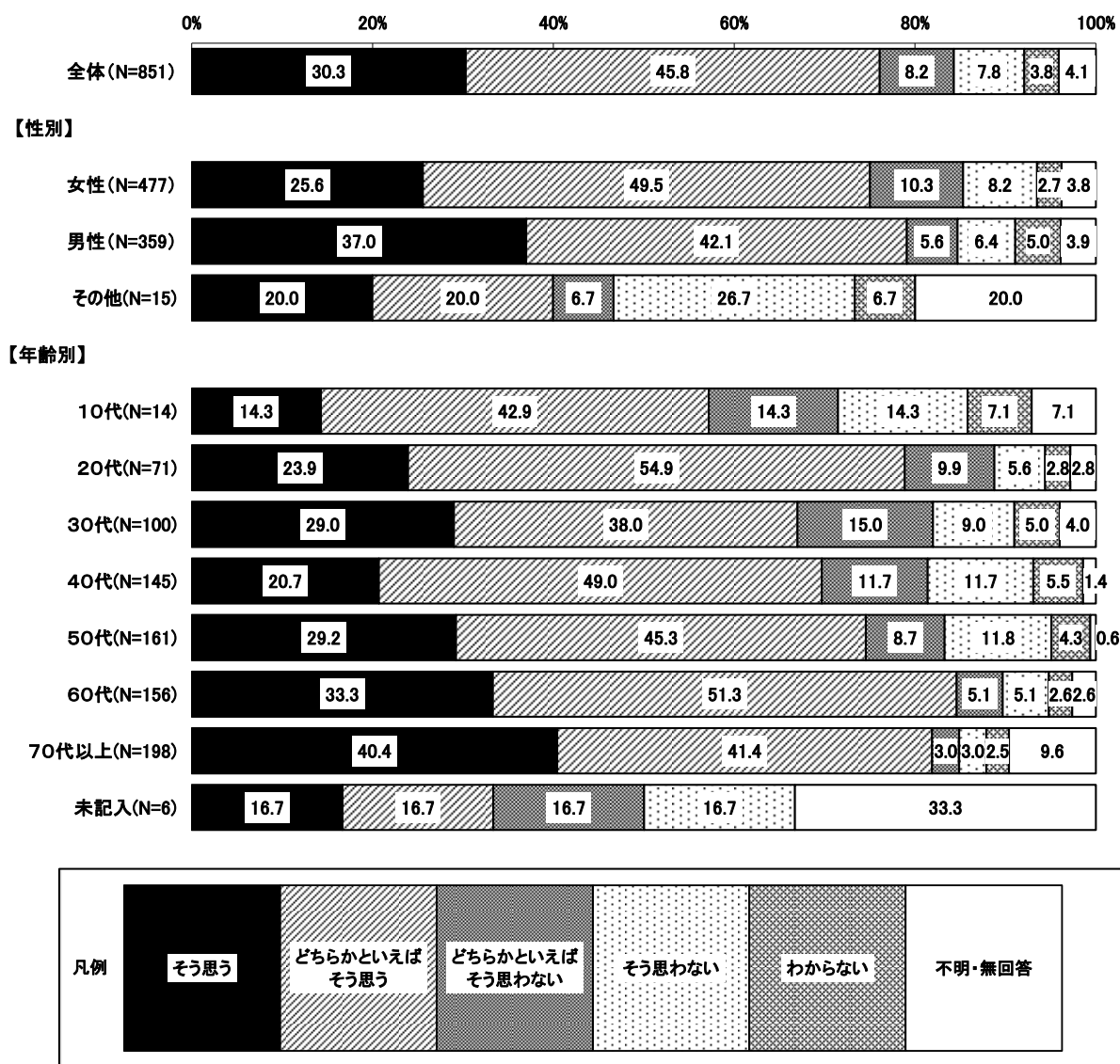
一方、子どもの育て方について『男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい』においては「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が高いとともに「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の割合も比較的高くなっています。

参考：前回調査(子育てや子どもの育て方について)



前回調査と比較すると、「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい」において、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した割合が22.8ポイント減っています。

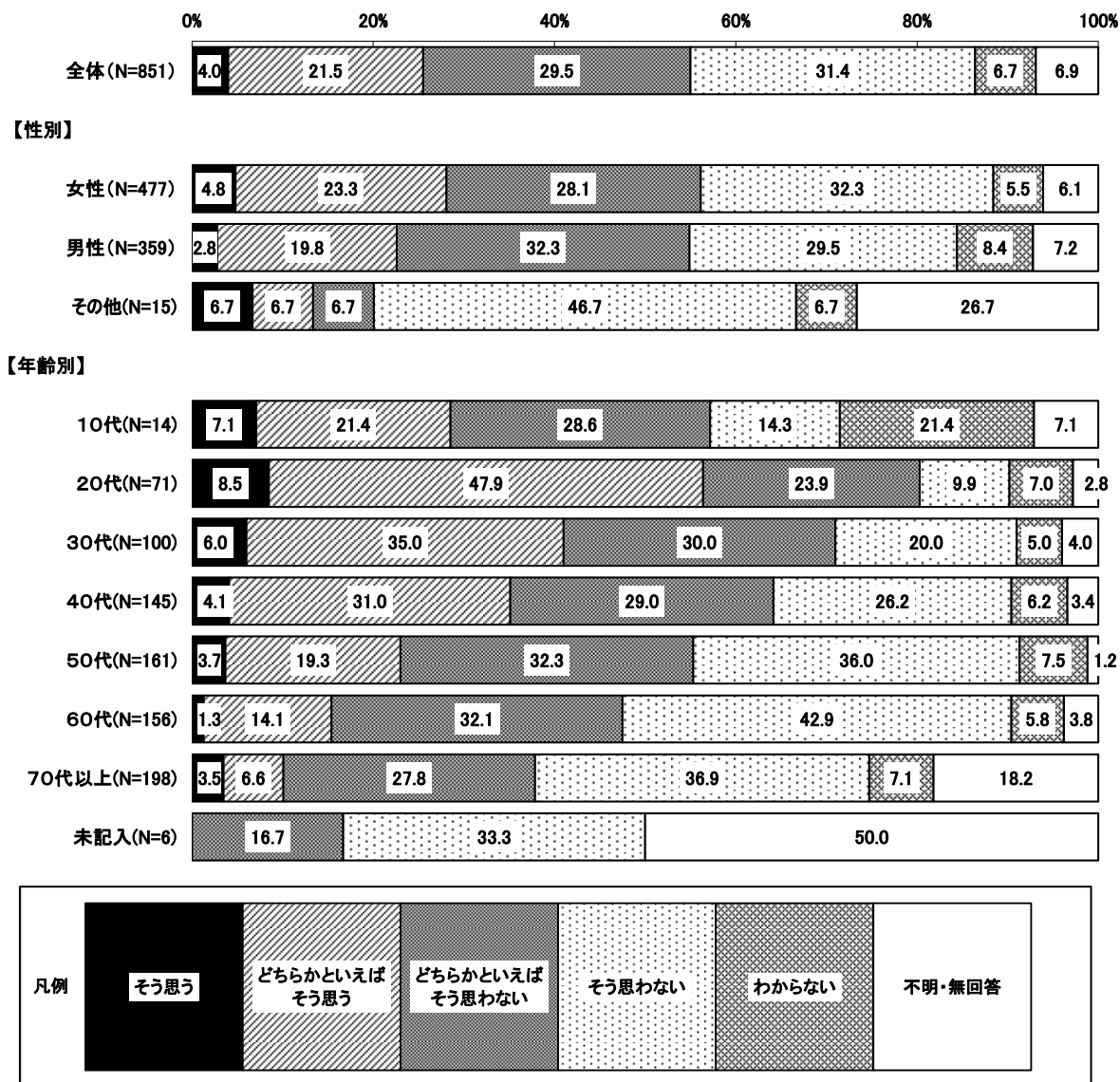
## A 子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい



子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよいにおいて、全体・性別ともに「どちらかといえばそう思う」が最も高く、全体では45.8%、女性は49.5%、男性は42.1%となっています。

また、年齢別では、すべての年代において「どちらかといえばそう思う」の割合が最も高くなっています。

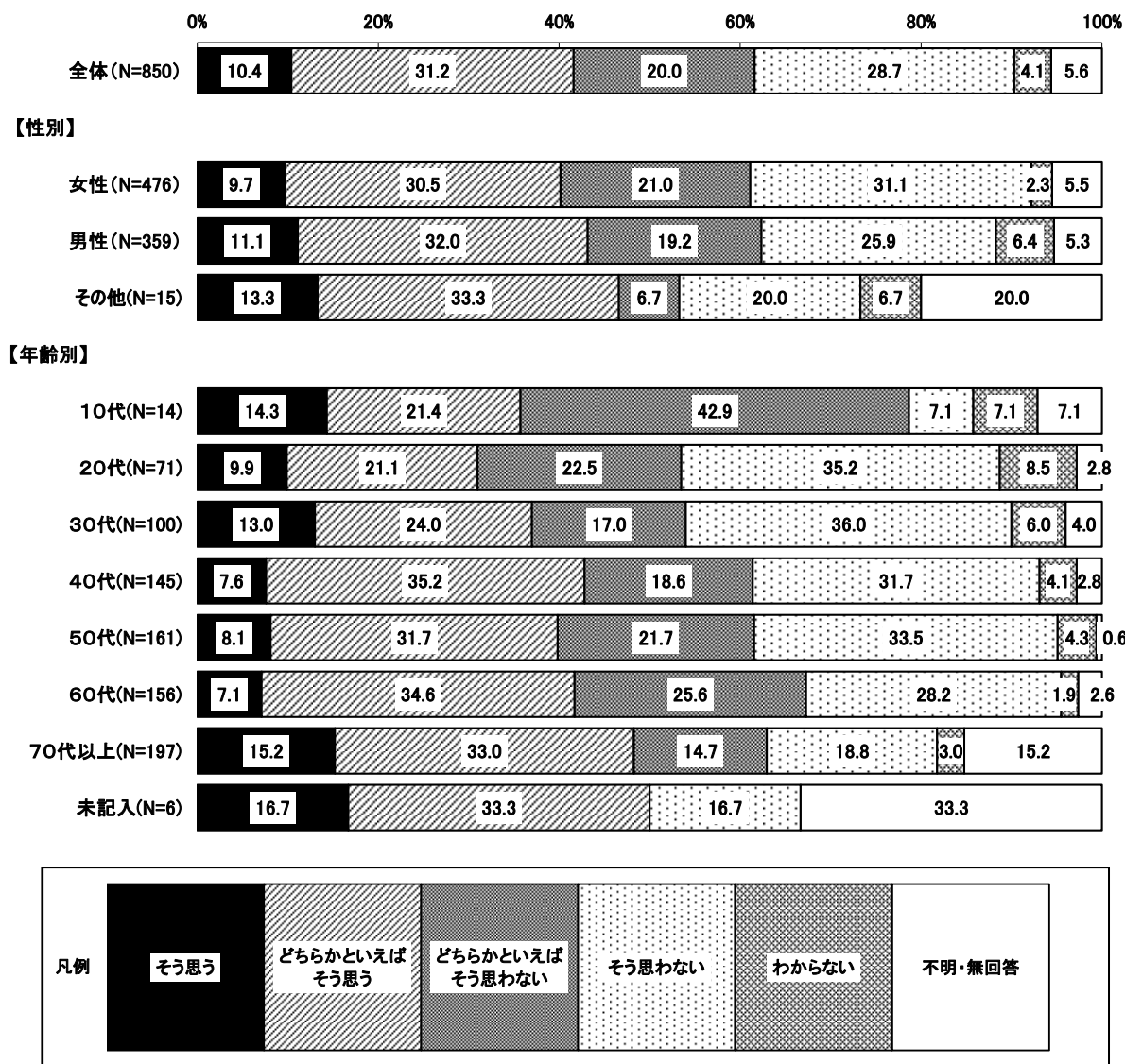
## B 子どもが小さいうちは、父親は育児に専念したほうがよい



子どもが小さいうちは、父親は育児に専念したほうがよいにおいて、全体では「そう思わない」が31.4%で最も高くなっています。性別では女性は「そう思わない」が32.3%、男性は「どちらかといえばそう思わない」が32.3%でそれぞれ最も高くなっています。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と回答した女性は28.1%、男性は22.6%で「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した女性は60.4%、男性は61.8%で男女の意識の差はみられません。

また、年齢別では、20代は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を回答した割合が56.4%と高くなっています。それに対し30代以降年齢が高くなるにつれ、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が低くなり、「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の割合が高くなっています。

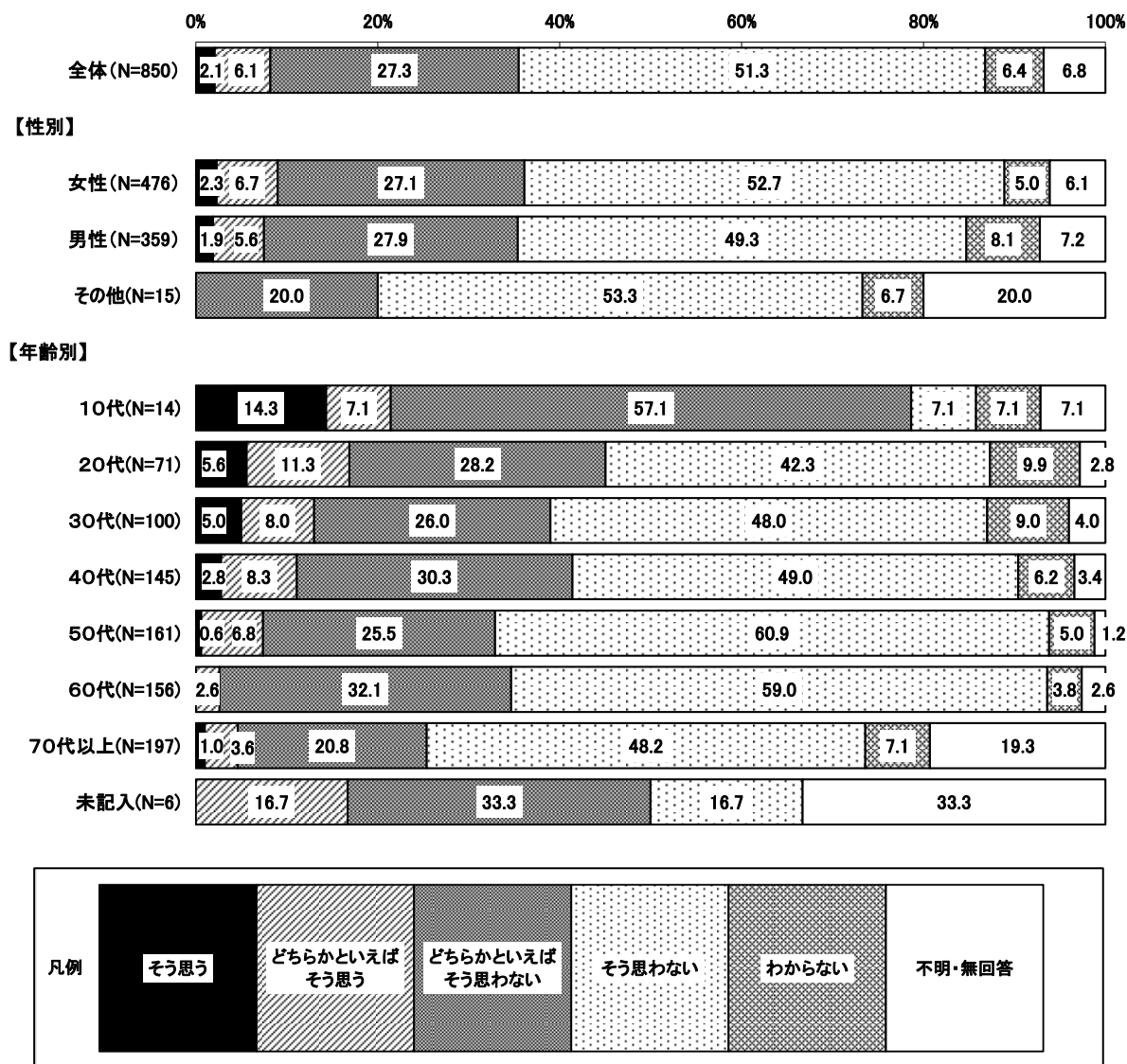
### C 子どもの世話の大部分は、母親でできる



子どもの世話の大部分は、母親でできるにおいて、全体・男性は「どちらかといえばそう思う」が最も高く、全体では31.2%、男性は32.0%、女性は「そう思わない」が最も高く31.1%となっています。また、全体・性別ともに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」よりも「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」を回答した割合の方が高くなっています。

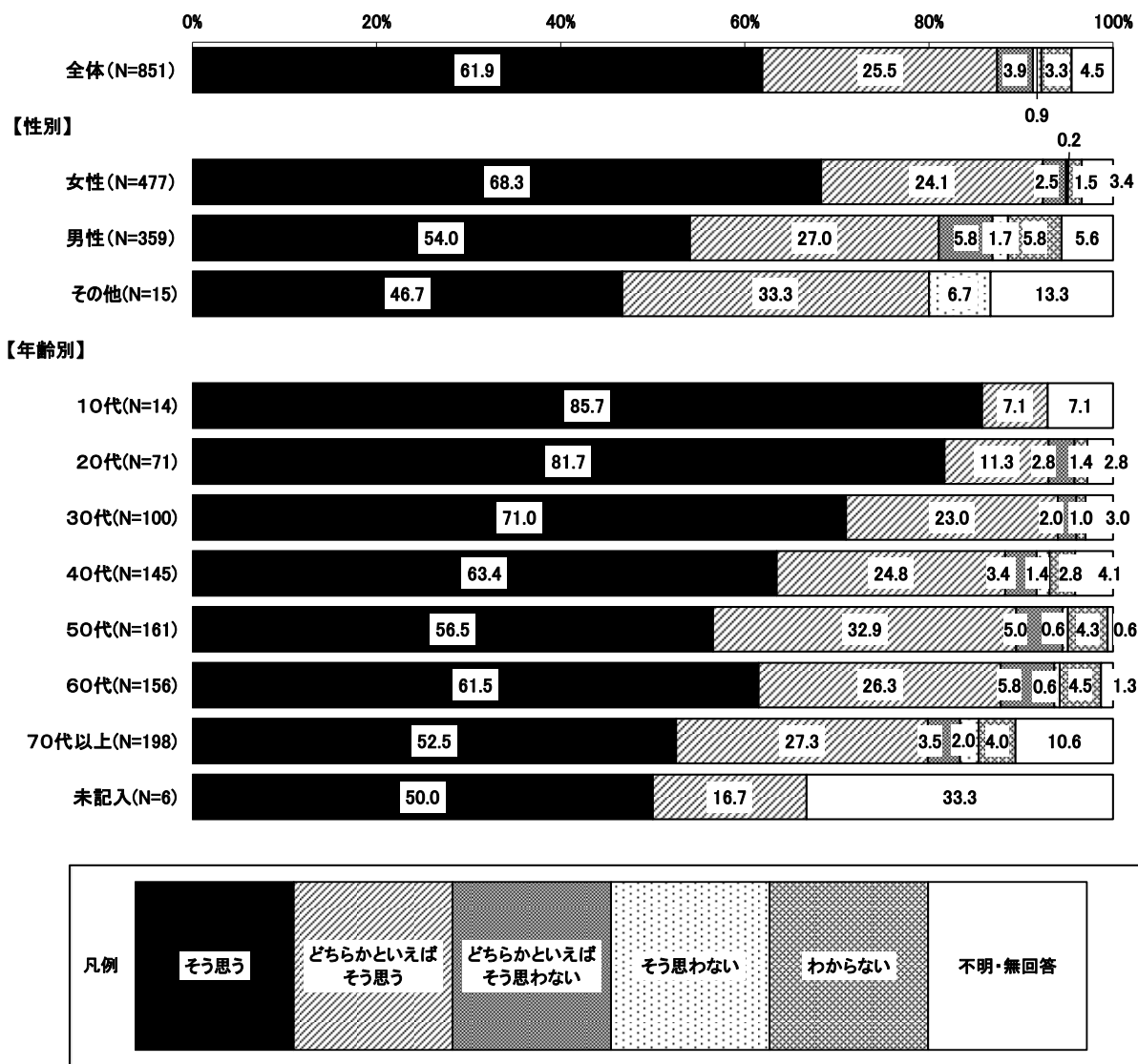
また、年齢別では、20代で「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の割合が高くありますが、年齢が高くなるにつれ、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が増え、70代以上では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっています。

## D 子どもの世話の大部分は、父親でできる



子どもの世話の大部分は、父親でできることにおいて、全体・性別ともに「そう思わない」が最も高く、全体では51.3%、女性は52.7%、男性は49.3%となっています。「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」と回答した割合は、全体・性別ともに8割程度です。

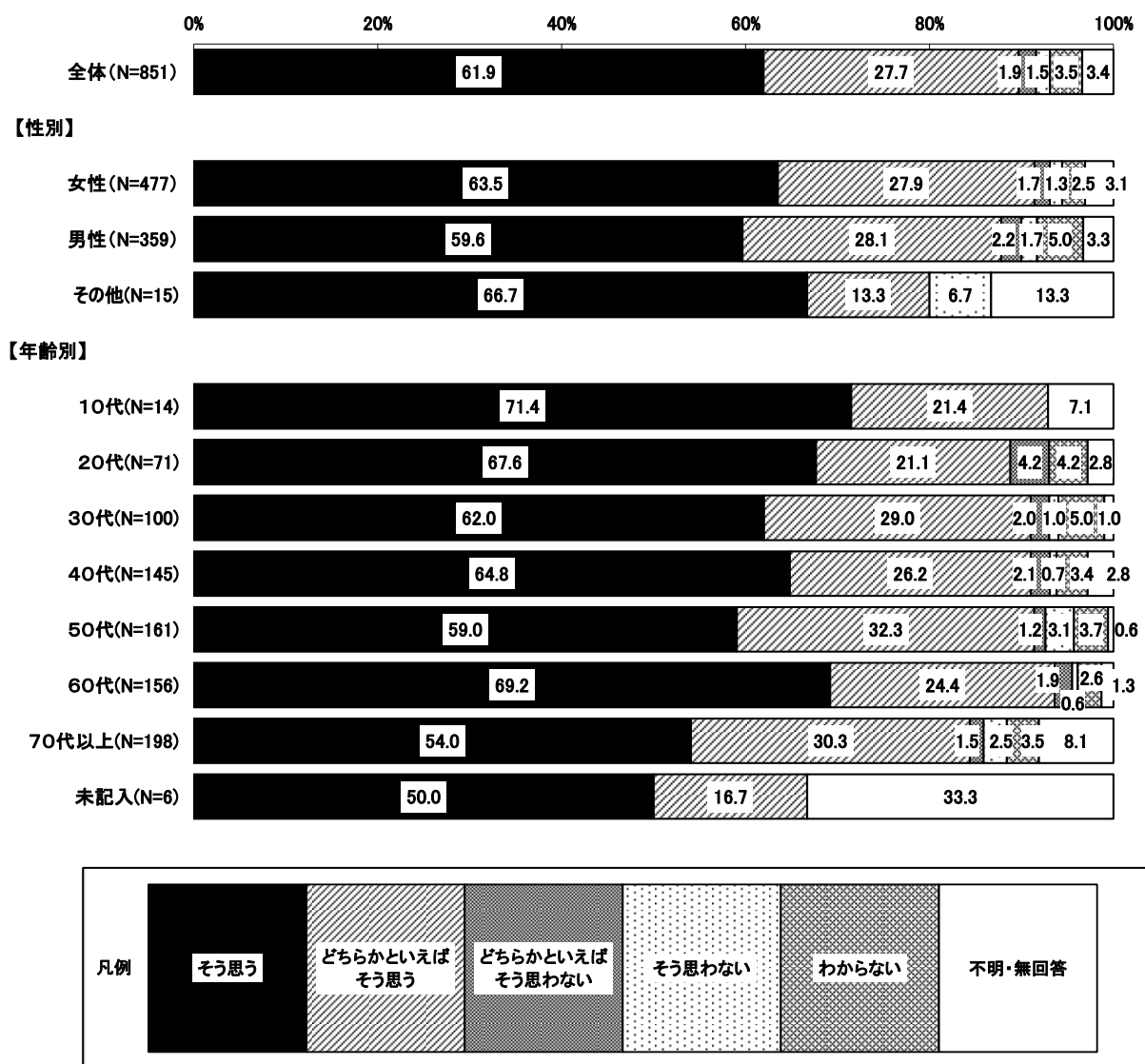
エ 親が仕事のために、保育園など子育て支援サービスを活用してもよい



親が仕事のために、保育園など子育て支援サービスを活用してもよいにおいて、全体・性別ともに「そう思う」が最も高く、全体 61.9%、女性 68.3%、男性 54.0%となっています。

年齢別では、全年代において「そう思う」が最も高くなっていますが、年齢が高くなるにつれ、「どちらかといえばそう思う」の割合が高くなっています。

F 子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばすほうがよい

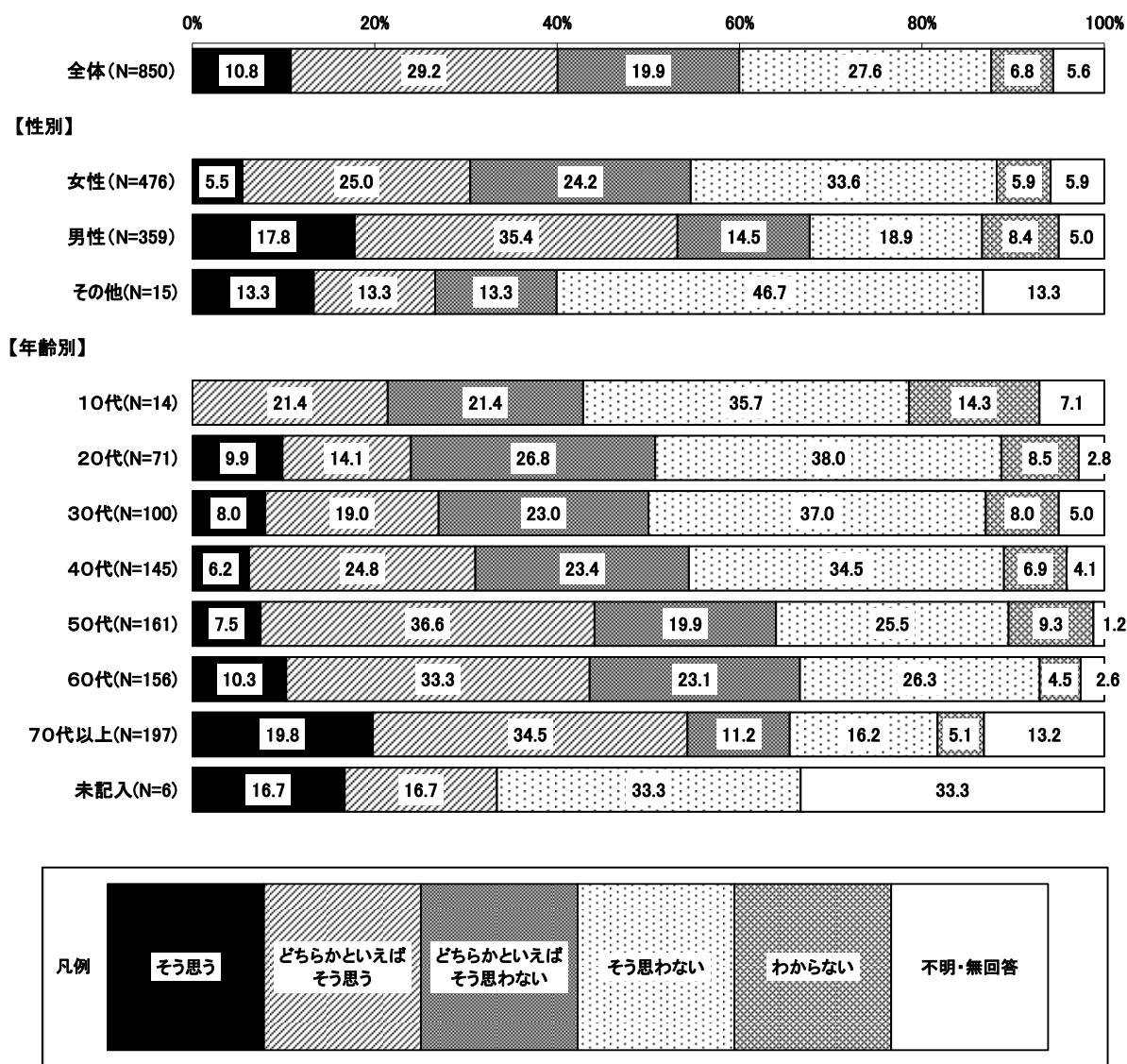


子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばすほうがよいにおいて、全体・性別ともに「そう思う」が最も高く、全体では61.9%、女性は63.5%、男性は59.6%となっています。

年齢別では、全年代において「そう思う」が最も高くなっています。



### G 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てたほうがよい



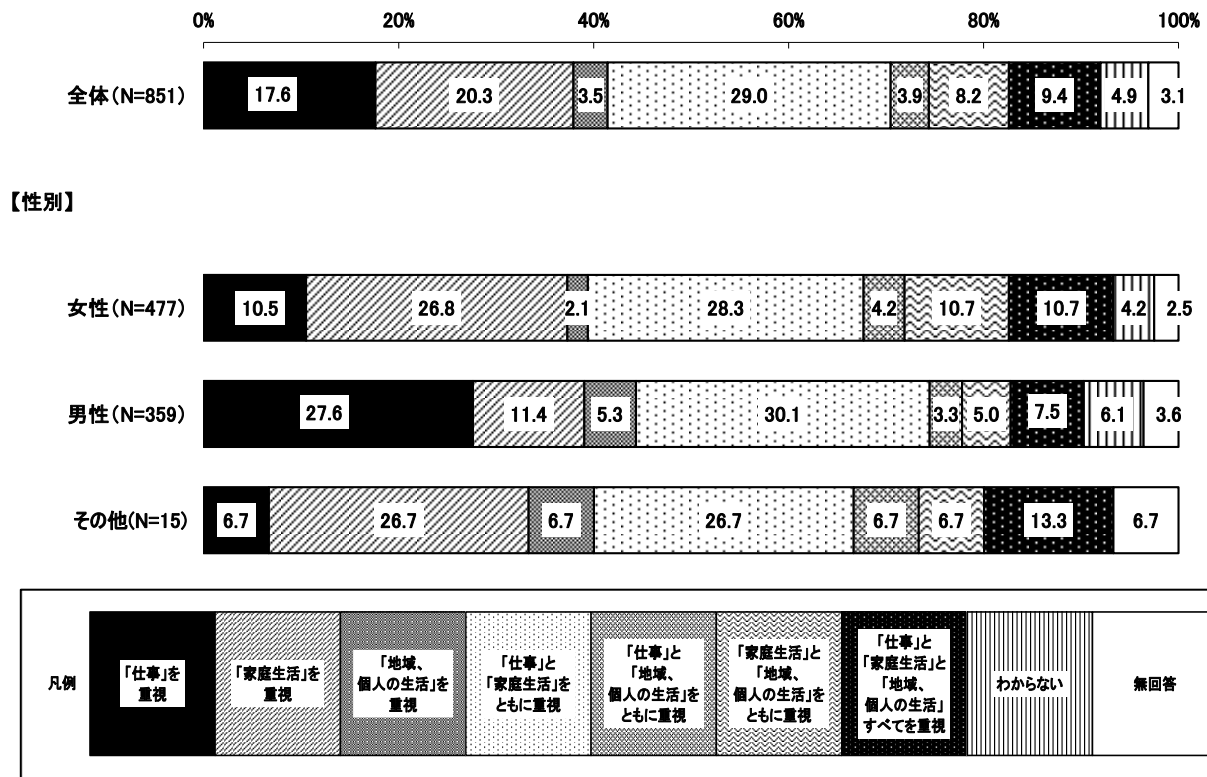
男の子は男らしく、女の子は女らしく育てたほうがよいにおいて、全体では「どちらかといえばそう思う」が最も高く、29.2%となっています。

性別では、女性は「そう思わない」の割合が高く33.6%、男性は「どちらかといえばそう思う」の割合が高く35.4%となっています。男女で意識の差がみられます。

年齢別では、40代までは「そう思わない」が最も高くなっていますが、50代以降は「どちらかといえばそう思う」の割合が最も高くなっており、年代によって意識の差がみられます。

問 18 あなたの生活は、次のどれにあてはまりますか。(各項目単数回答)

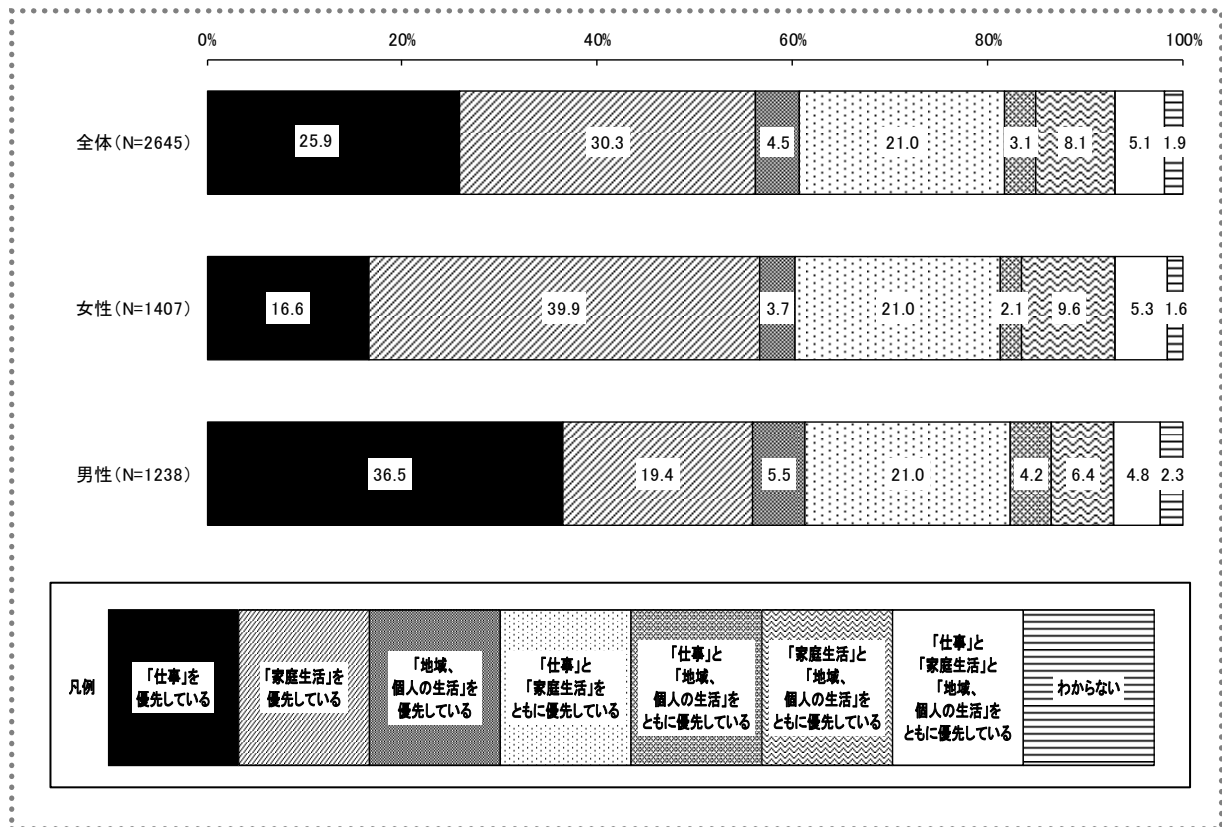
A 現実の生活



現実の生活については、『「仕事」と「家庭生活」をともに重視』が29.0%で最も高く、次いで『「家庭生活」を重視』が20.3%となっています。

性別では、女性は『「仕事」と「家庭生活」をともに重視』が28.3%で最も高く、次いで『「家庭生活」を重視』が26.8%となっています。男性では、『「仕事」と「家庭生活」をともに重視』が30.1%で最も高く、次いで『「仕事」を重視』が27.6%となっています。

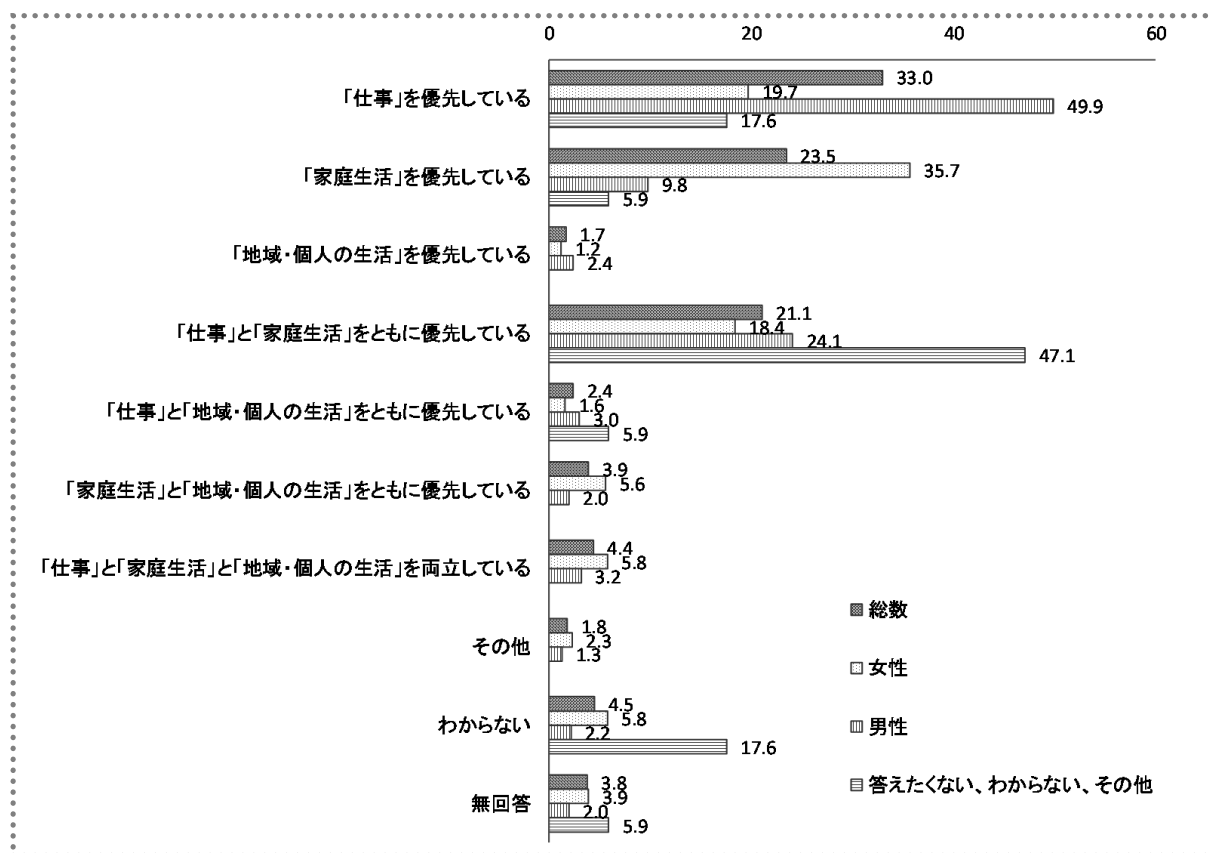
参考:「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(現実、現状)(全国)



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（2019年）

全国をみると、全体においては江南市とは異なり、『「家庭生活」を優先している』割合が最も高く、女性では『「家庭生活」を優先している』、男性では『「仕事」を優先している』割合が最も高くなっています。

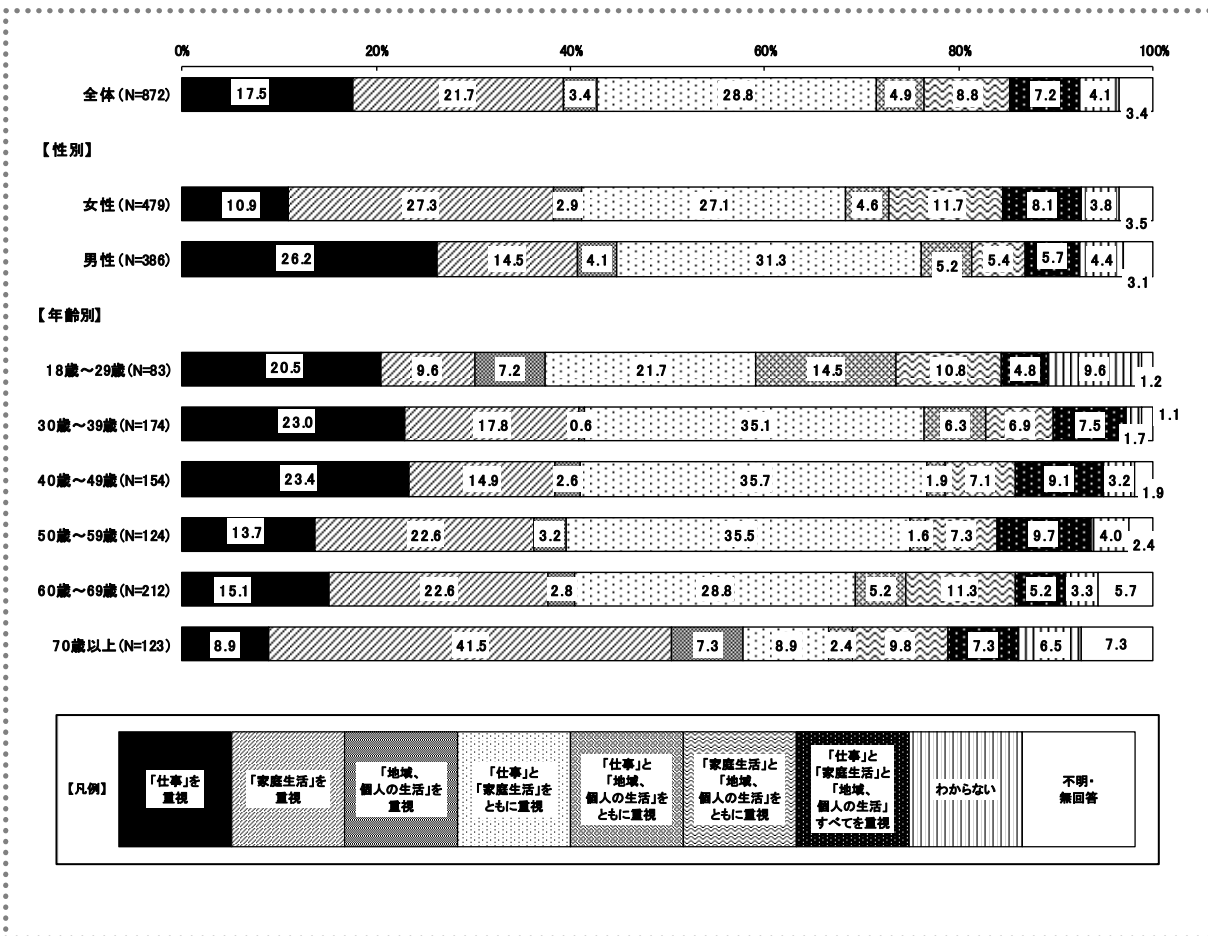
参考：生活の中で仕事、家庭生活、地域、個人の生活で優先すること（現実として）（総数、性別）＜愛知県＞



資料：愛知県「男女共同参画意識に関する調査」（2019年）

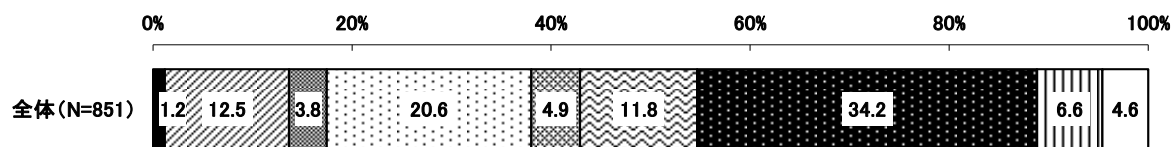
県をみると、全体では『「仕事」を優先している』が最も高く、女性では『「家庭生活」を優先している』、男性では『「仕事」を優先している』が最も高くなっています。

参考：前回調査(現実の生活で、仕事、家庭生活、地域・個人の生活で重視していること)

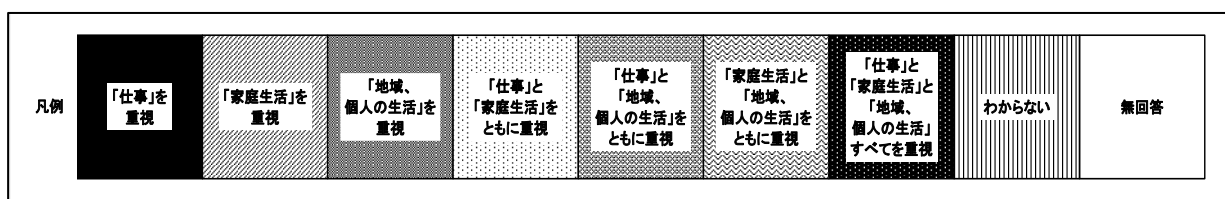
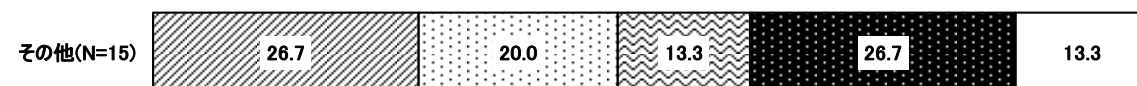
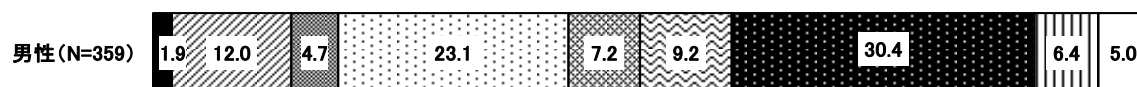
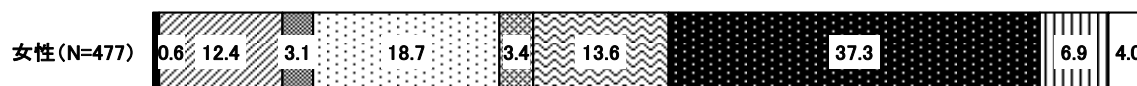


前回調査と比較してみると全体で大きな差はありませんが、最も多く回答しているのは、女性では『「家庭生活」を重視』から『「仕事」と「家庭生活」ともに重視』となっていることから意識が変化していることがわかります。男性では『「仕事」を重視』と回答した割合が増えていることがわかります。

## B 理想(希望)の生活



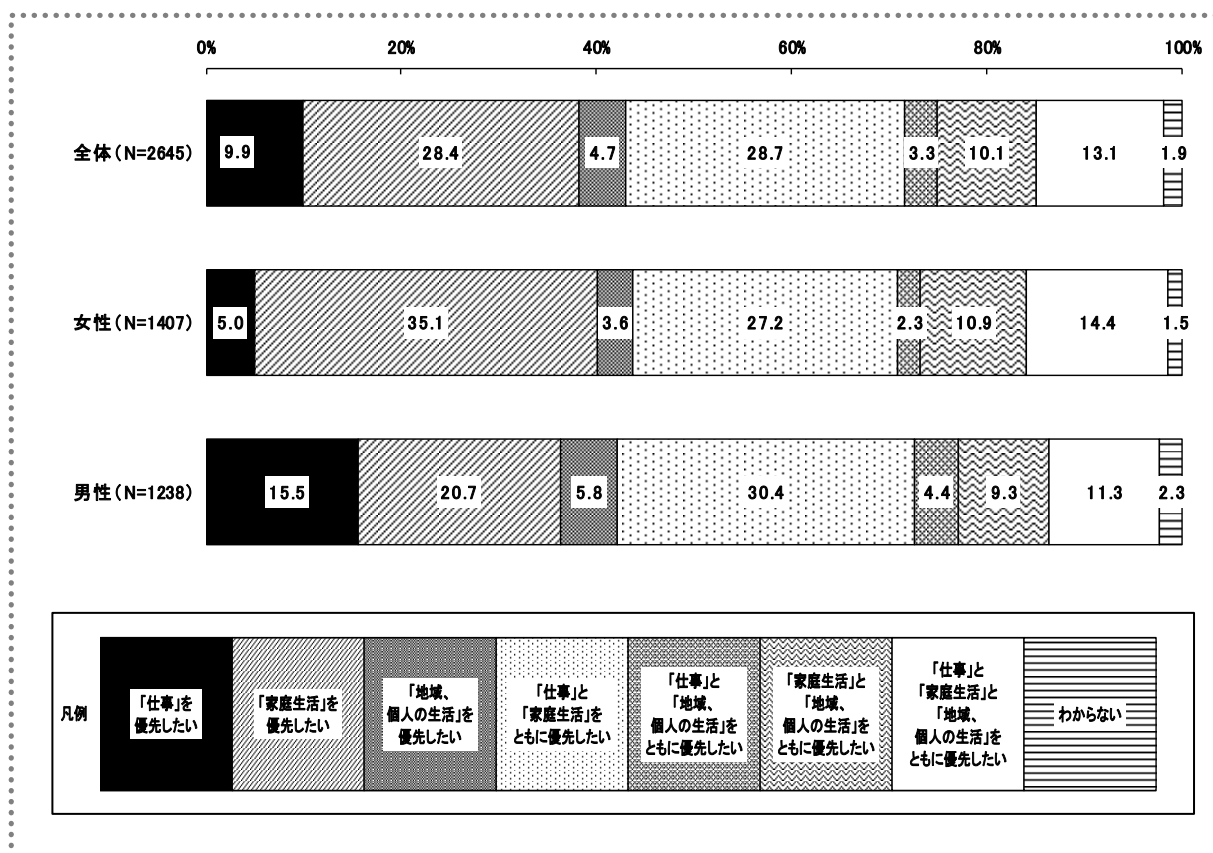
### 【性別】



理想(希望)の生活については、全体・性別ともに『「仕事」と「家庭生活」と「地域、個人の生活」すべてを重視』が最も高く、全体では34.2%、女性は37.3%、男性は30.4%となっています。

現実の生活と比べると、現実では『「仕事」と「家庭生活」をともに重視』されていますが、理想(希望)の生活では、「仕事」と「家庭生活」に加えて「地域、個人の生活」を重視したいことがうかがえ、現実と理想では差があることといえます。

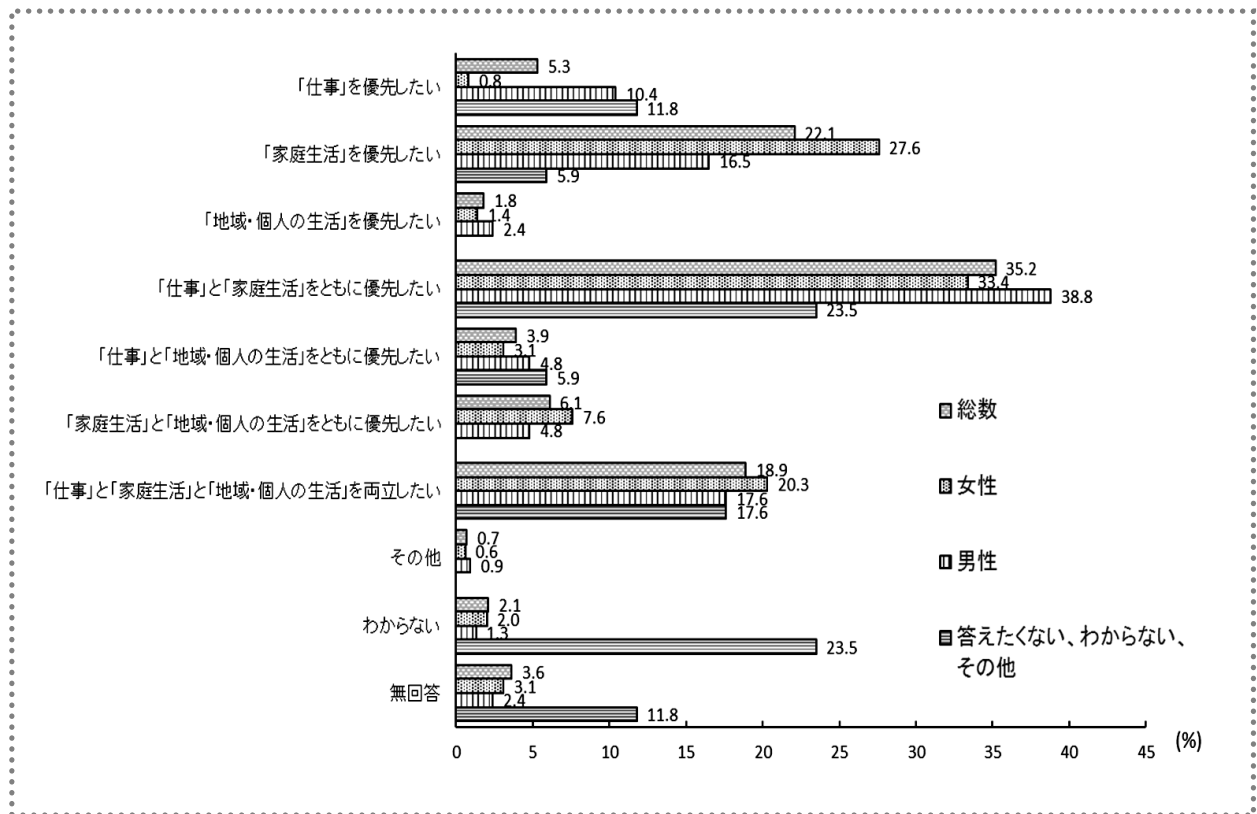
参考:「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人生活」の関わり方(希望優先度)(全国)



資料：内閣府「男女共同参画社会に関する世論調査」（2019年）

全国をみると、全体・男性では『「仕事」と「家庭生活」を共に優先したい』が最も高く、女性では『「家庭生活」を優先したい』が最も高くなっています。

参考：生活の中で仕事、家庭生活、地域、個人の生活で優先すること（希望として）（総数、性別）〈愛知県〉

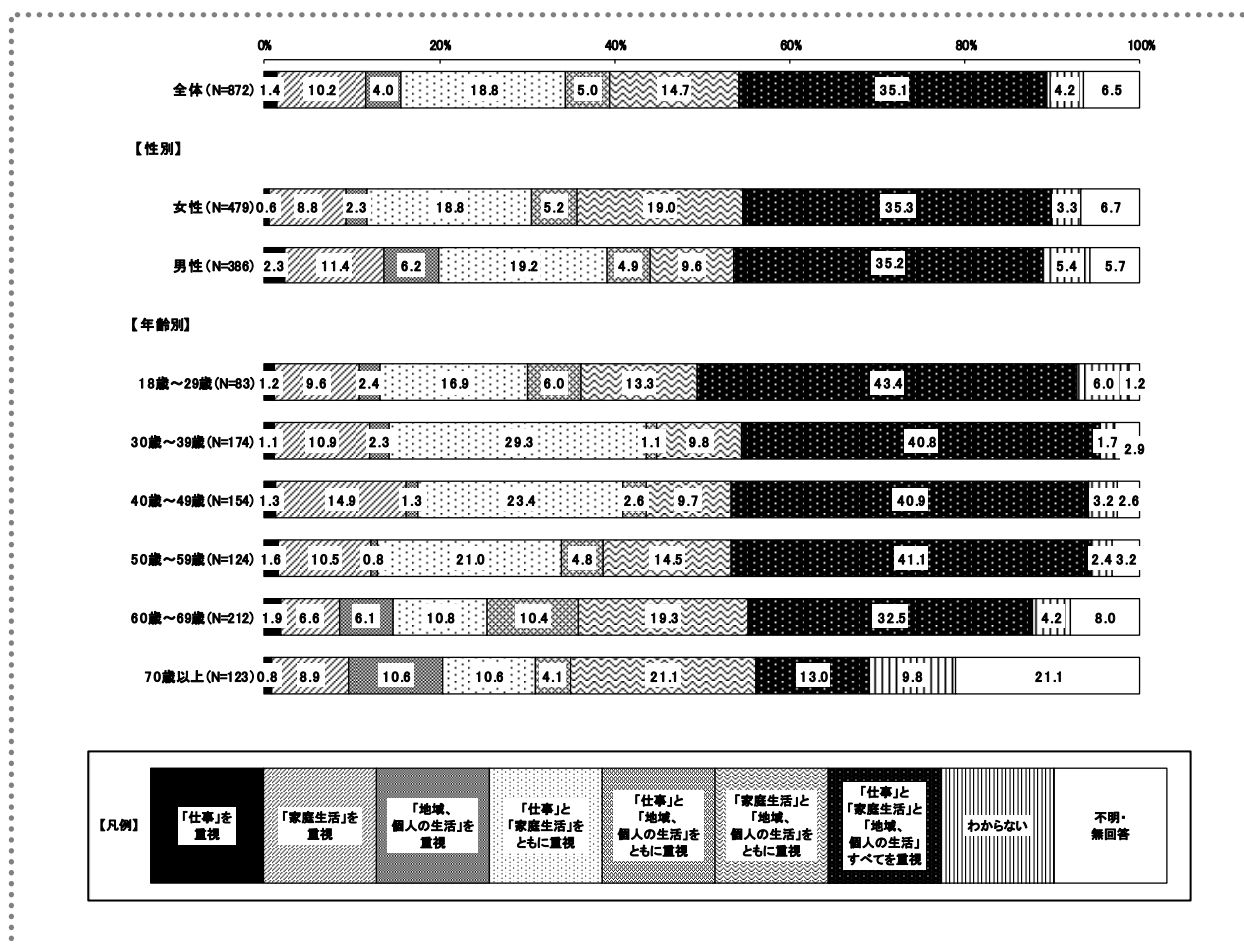


資料：愛知県「男女共同参画意識に関する調査」（2019年）

県をみても、全体・性別ともに『「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい』が最も高くなっています。

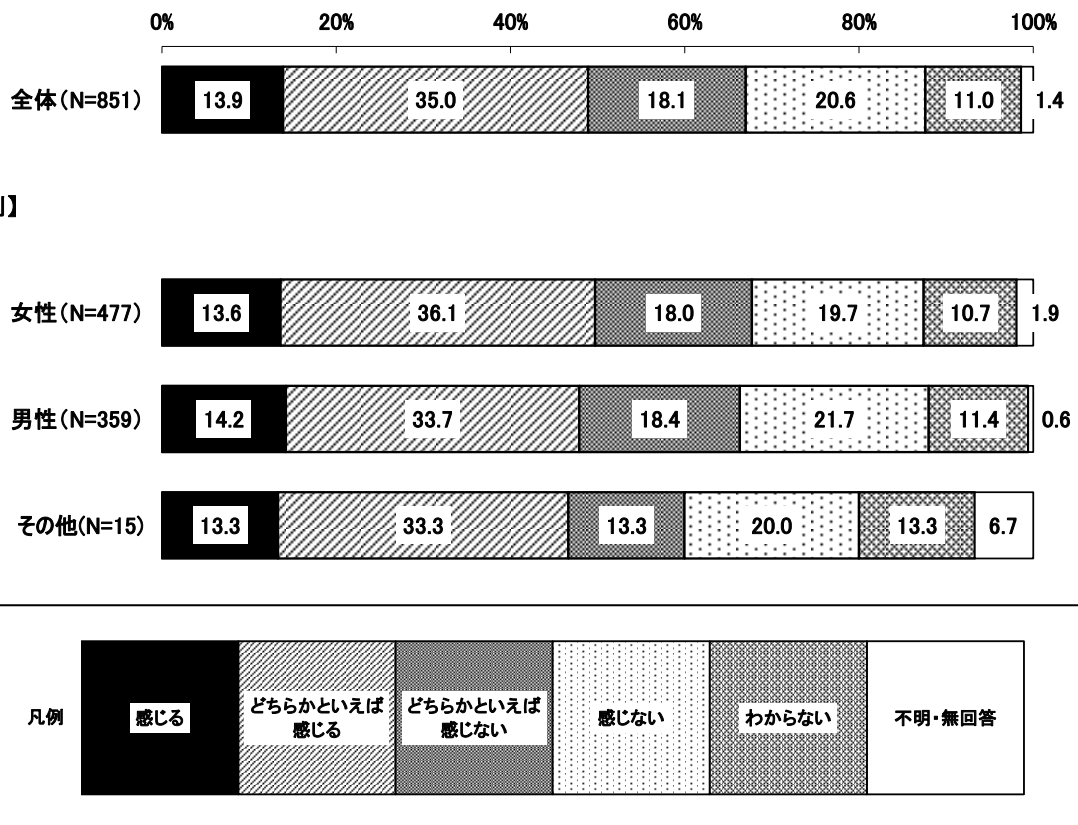


参考：前回調査(理想(希望)の生活の中で、仕事、家庭生活、地域・個人の生活で重視していること)



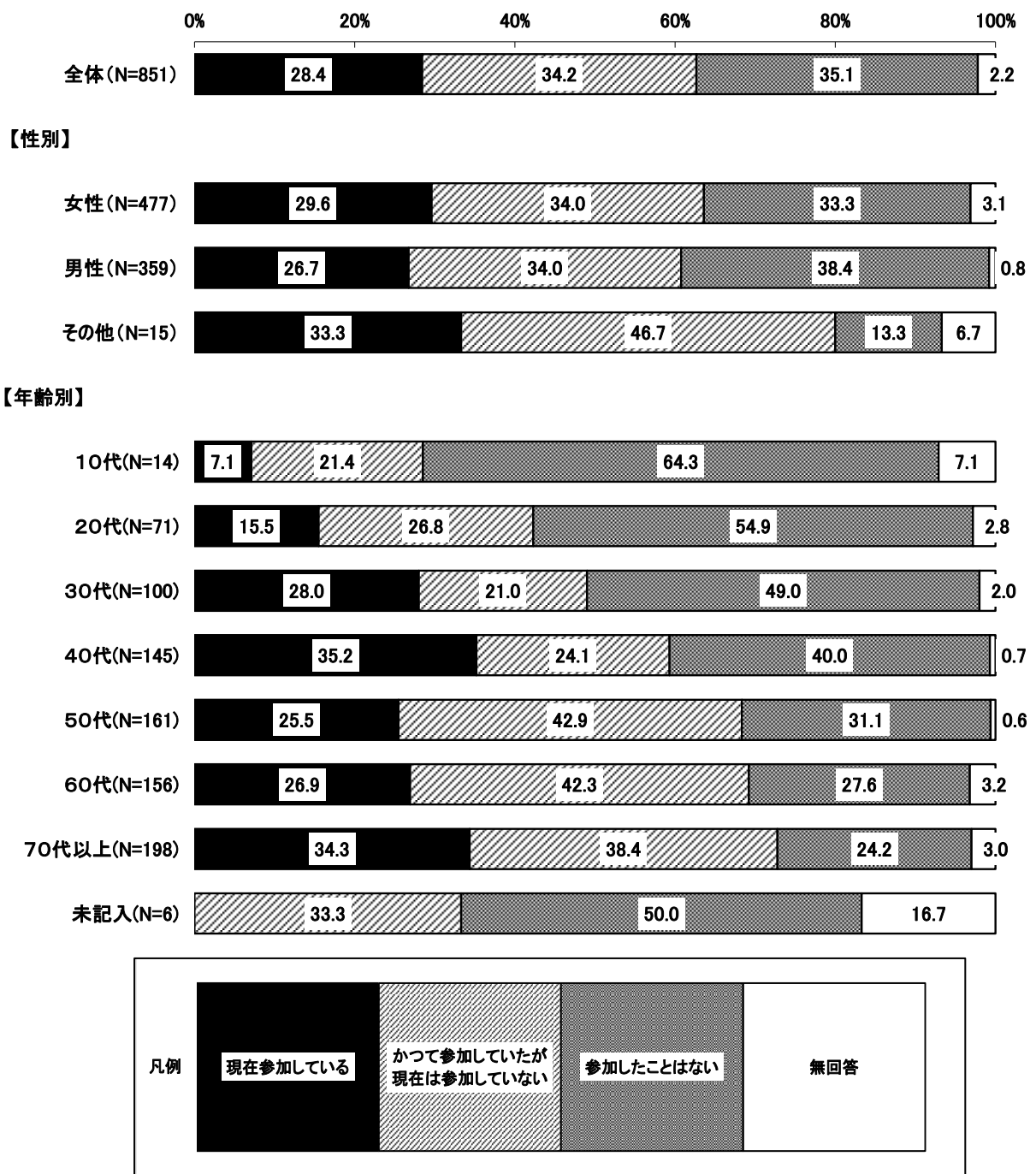
前回調査をみると、全体で大きな差はありませんが、『「仕事」と「家庭生活」と「地域、個人の生活」すべてを重視』が減り、『「仕事」と「家庭生活」をともに重視』が増えていることがわかります。

問 19 あなたは、現実の生活が理想（希望）の生活に近いと感じますか。（単数回答）



現実の生活が理想（希望）の生活に近いと感じるかにおいては、全体・性別ともに「どちらかといえば感じる」が最も高く、全体では35.0%、女性は36.1%、男性は33.7%となっています。

問 20 あなたは、仕事以外に地域・社会活動に参加した経験はありますか。(単数回答)

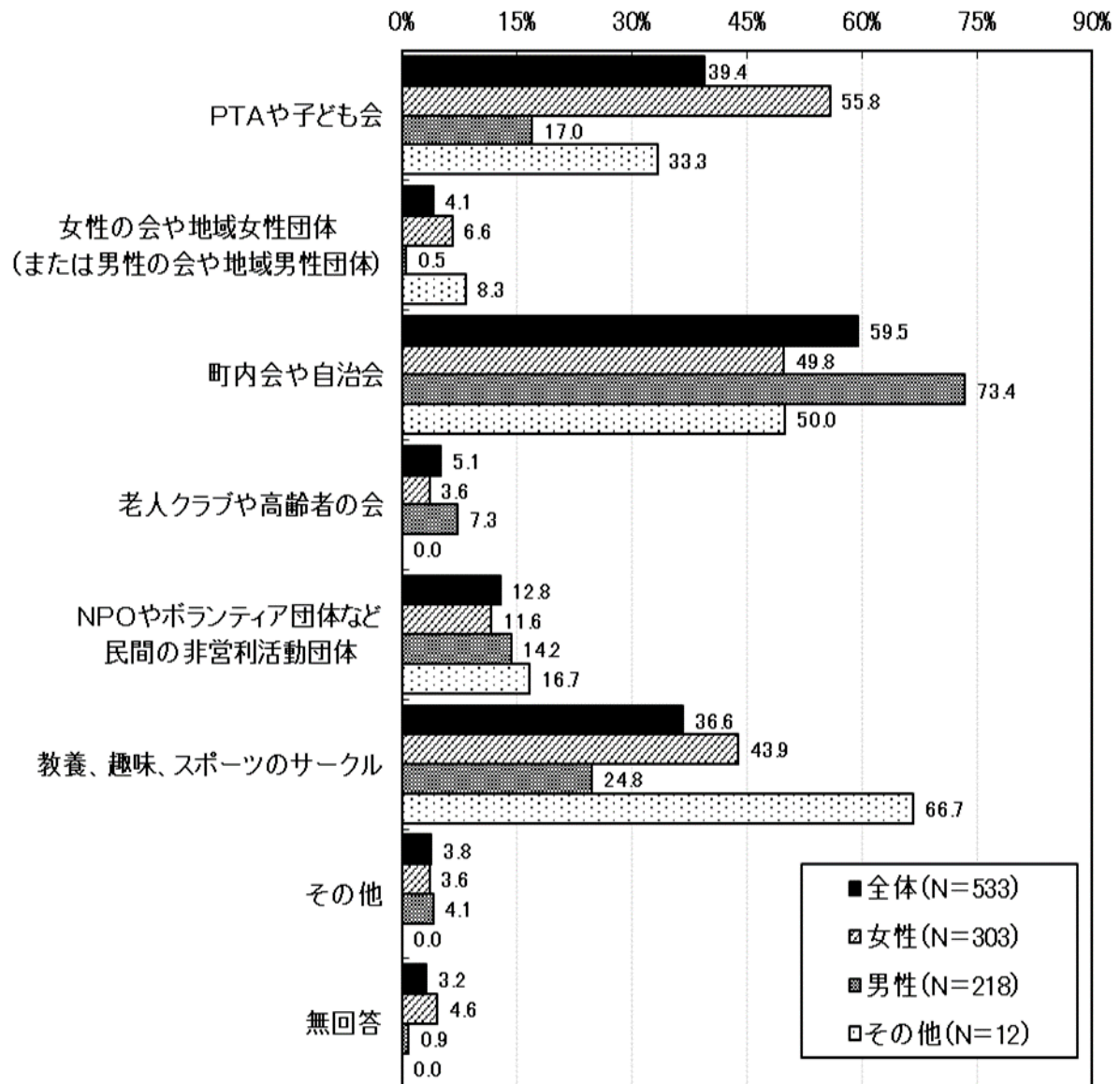


仕事以外で地域・社会活動に参加している活動内容においては、全体は「参加したことはない」が最も高く、35.1%となっています。

性別でみると、女性は「かつて参加していたが現在は参加していない」が34.0%、男性は「参加したことはない」が38.4%で最も高くなっています。

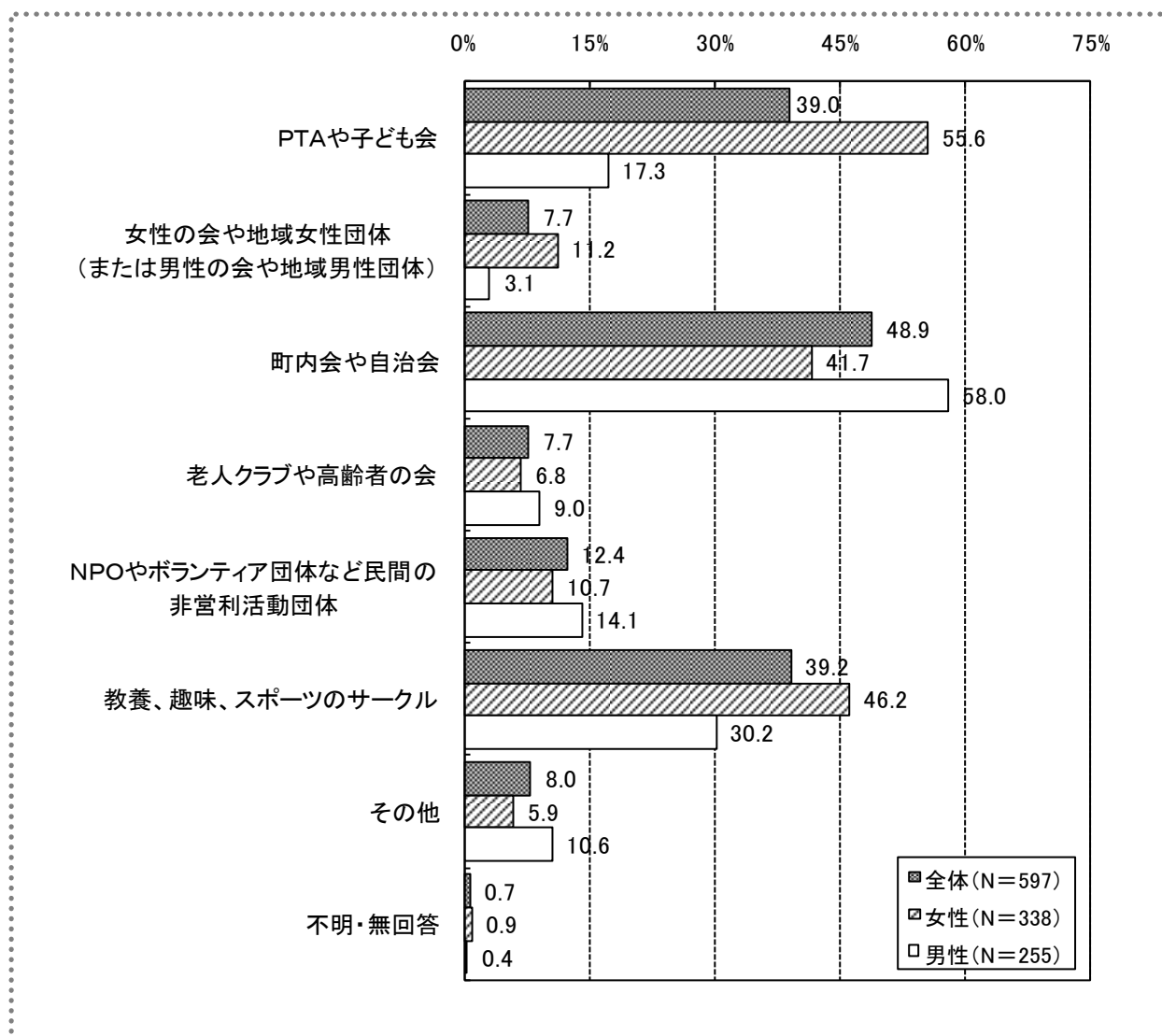
<仕事以外で地域・社会活動に参加している（したことがある）方におたずねします>

問 21 現在どのような活動に参加していますか。また、活動していましたか。（複数回答）



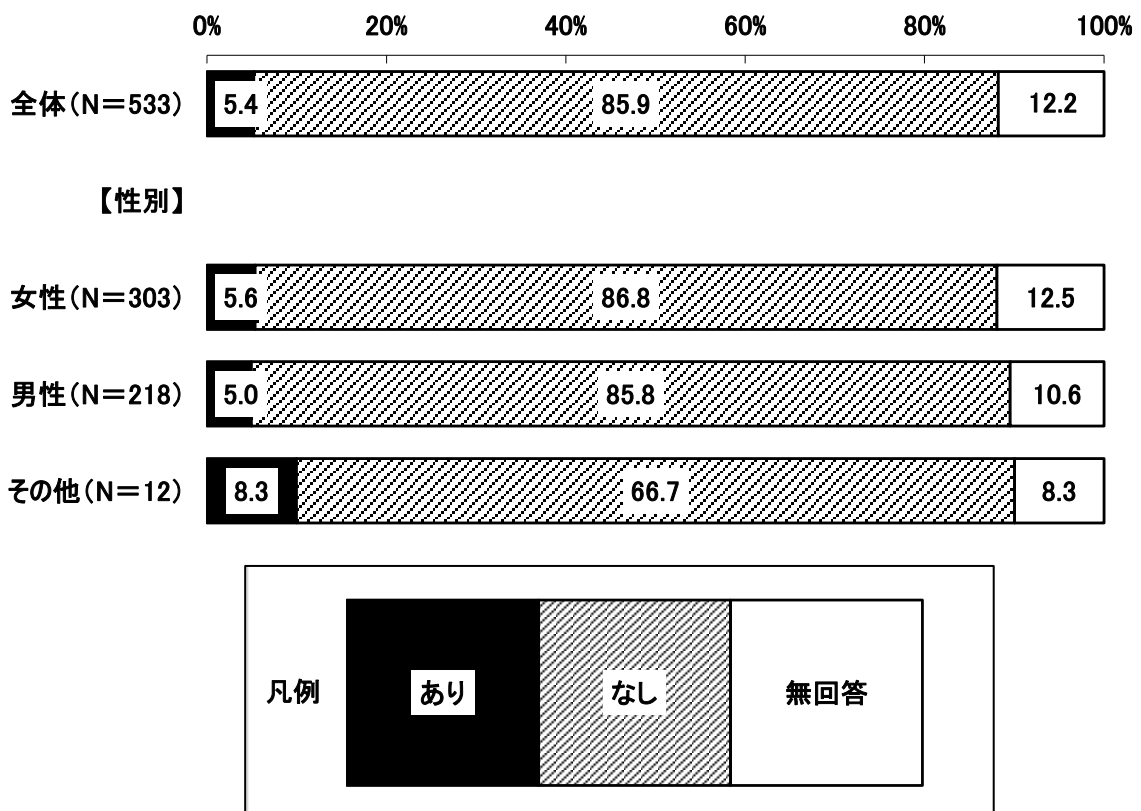
仕事以外で地域・社会活動に参加している活動内容においては、全体および男性は「町内会や自治会」がそれぞれ 59.5%、73.4%で最も高く、女性は「PTAや子ども会」が 55.8%で最も高くなっており、性別において活動内容が異なることがうかがえます。

参考：前回調査(どのような活動に参加している、活動していたか)



前回調査をみると、今回調査と同様、活動内容においては全体および男性は「町内会や自治会」が最も高く、女性は「PTAや子ども会」が最も高くなっています。

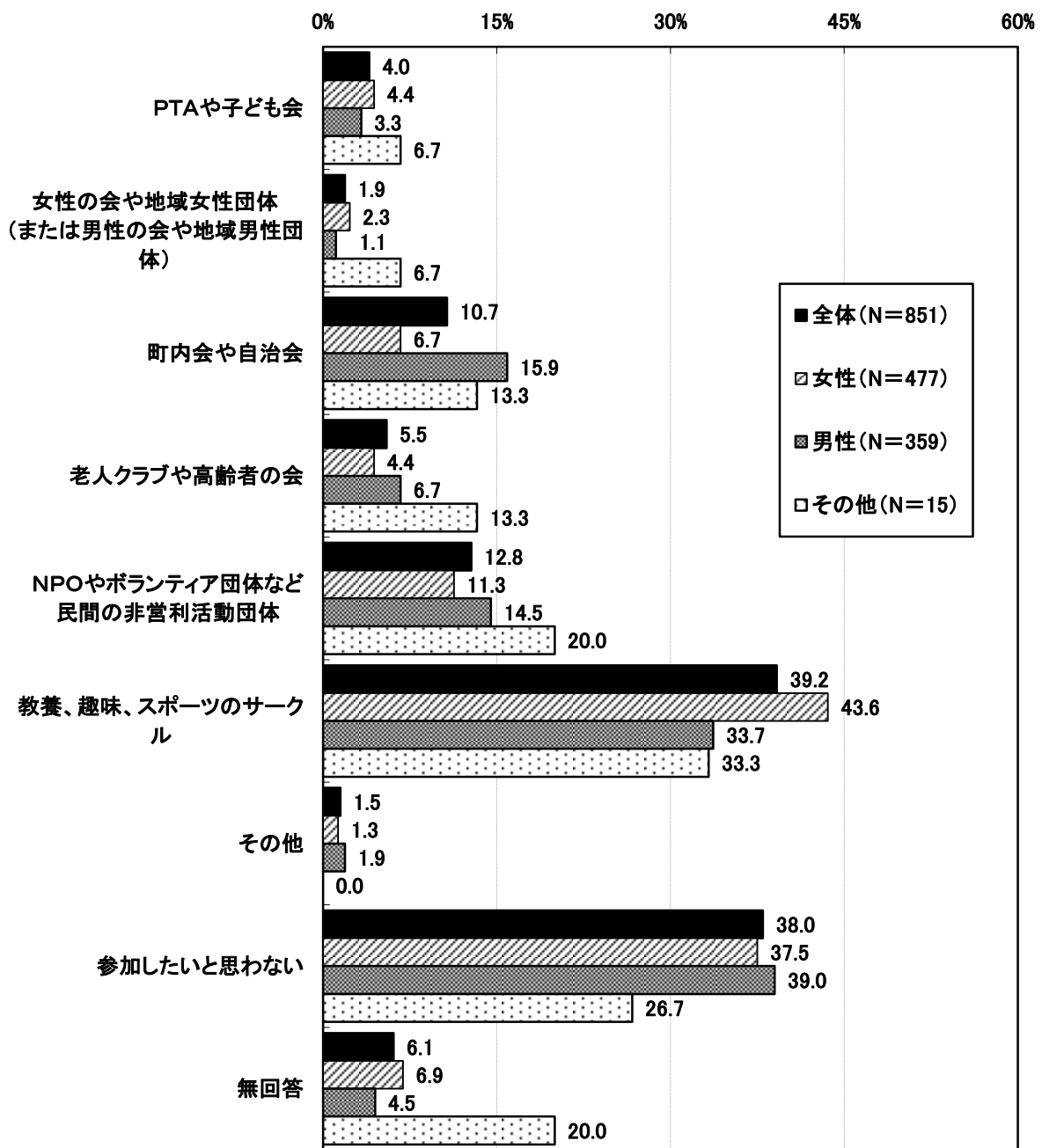
＜仕事以外で地域・社会活動に参加している（したことがある）方におたずねします＞  
 問 22 その活動に参加する（した）中で、性別を理由にした不平等な扱いを受けた経験はありますか。  
 （単数回答）



その活動に参加する（した）中で、性別を理由にした不平等な扱いを受けた経験はあるかについて、全体、性別ともに「なし」が9割弱程度となっています。

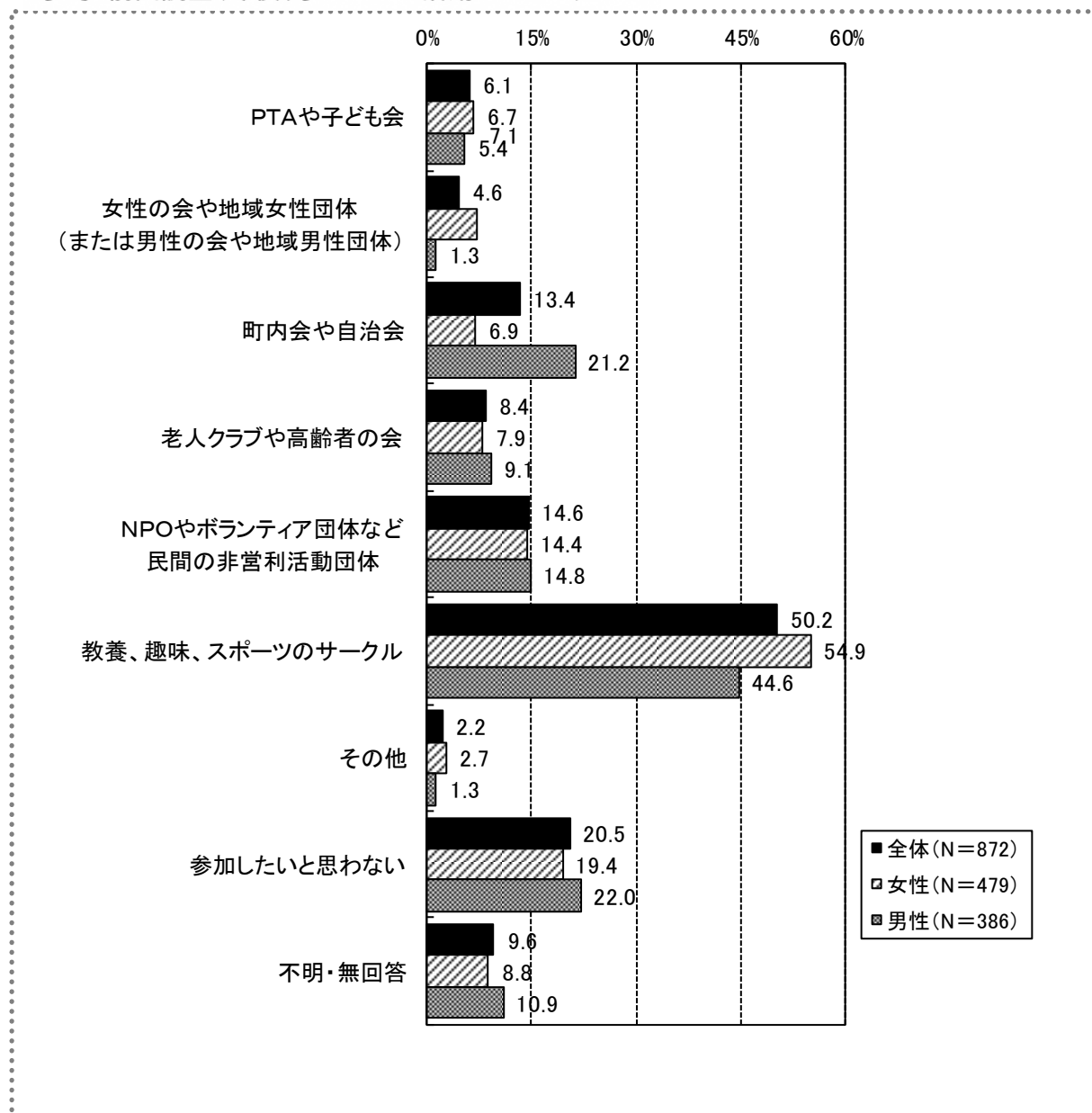
また、「ある」と回答した人は「力仕事は男性の仕事」「裁縫や炊事、会合でお茶を出すのは女性の仕事」「PTAの会長は男性でなければならない」などの不当な扱いをされたと回答しています。

問 23 今後または引き続き、あなたが参加したい活動はありますか。(複数回答)



今後または引き続き参加したい活動内容においては、全体・女性ともに「教養、趣味、スポーツのサークル」が最も高く、全体では39.2%、女性43.6%となっており、個人の生活を潤すための活動に参加したいと考えている人が多いといえます。また、男性では「参加したいと思わない」が最も高く39.0%で、次に「教養、趣味、スポーツのサークル」で33.7%となっています。

参考：前回調査(今後、参加したい活動について)

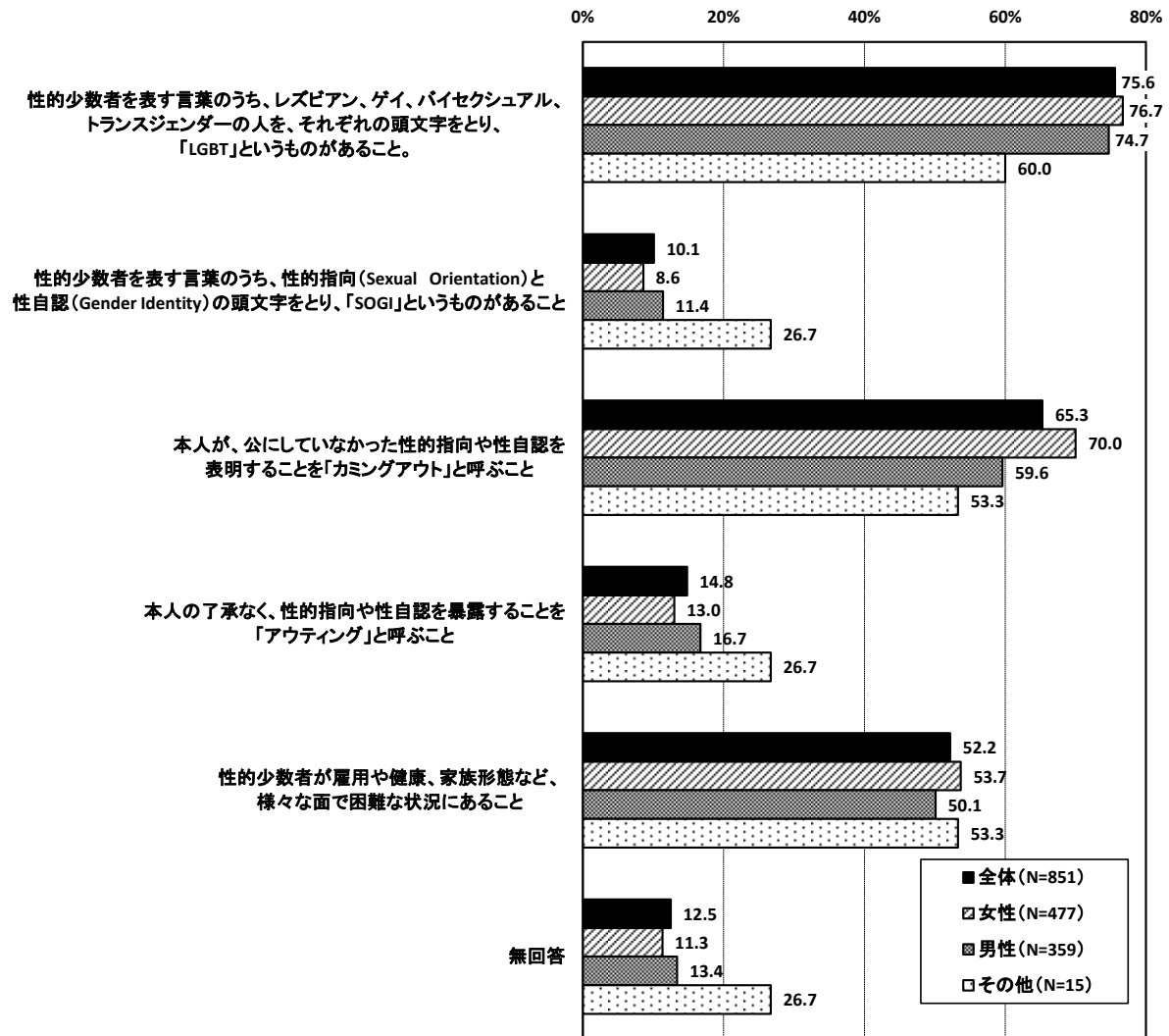


前回調査と今回調査を比較すると、全体、性別ともに「参加したいと思わない」の割合が高くなっています。



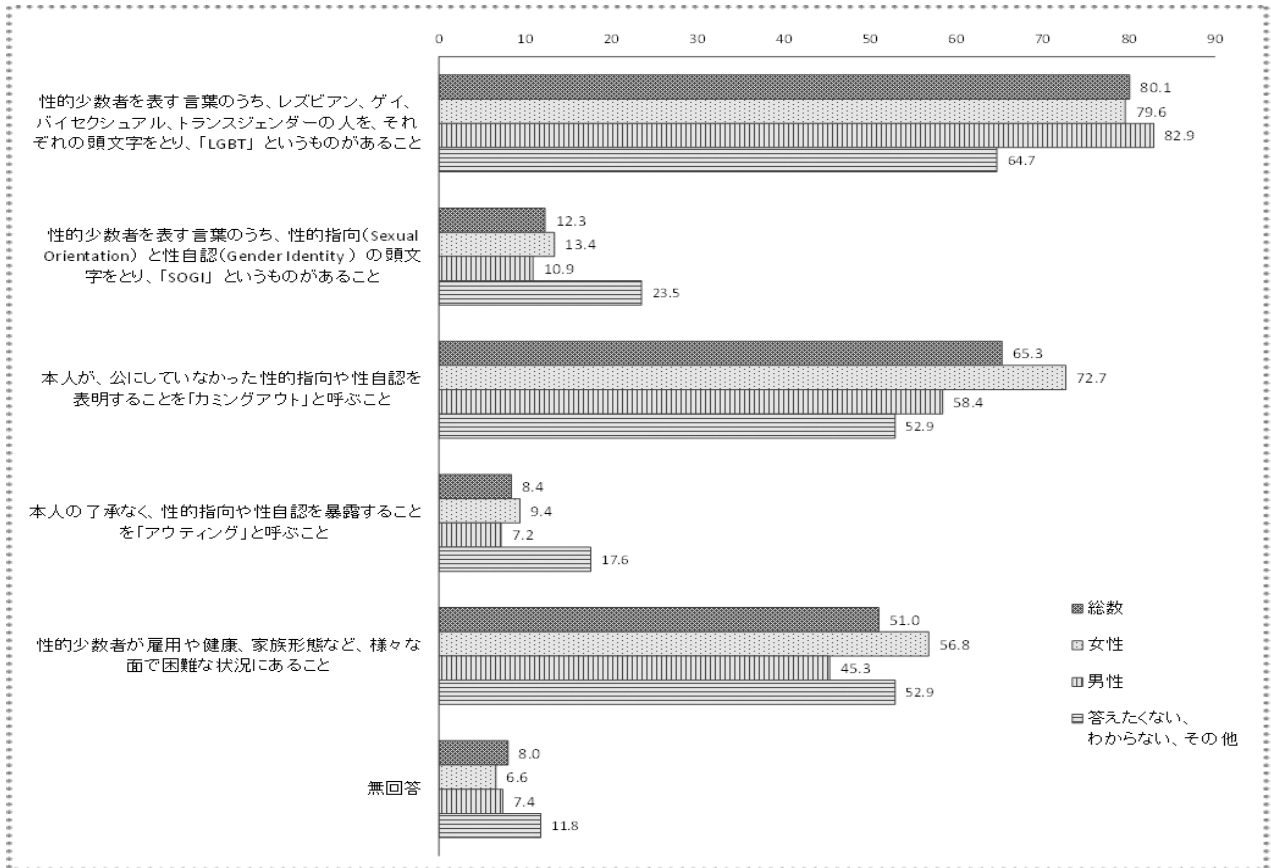
## 5. 性的少数者(性的マイノリティ)について

問 24 あなたは、性的少数者に関する次のことについて知っていますか。(複数回答)



性的少数者に関する言葉の認知度については、「LGBT」では7割程度、「カミングアウト」「様々な面で困難な状況にあること」が5割程度、「SOGI」「アウティング」は1割程度の認知度になっています。

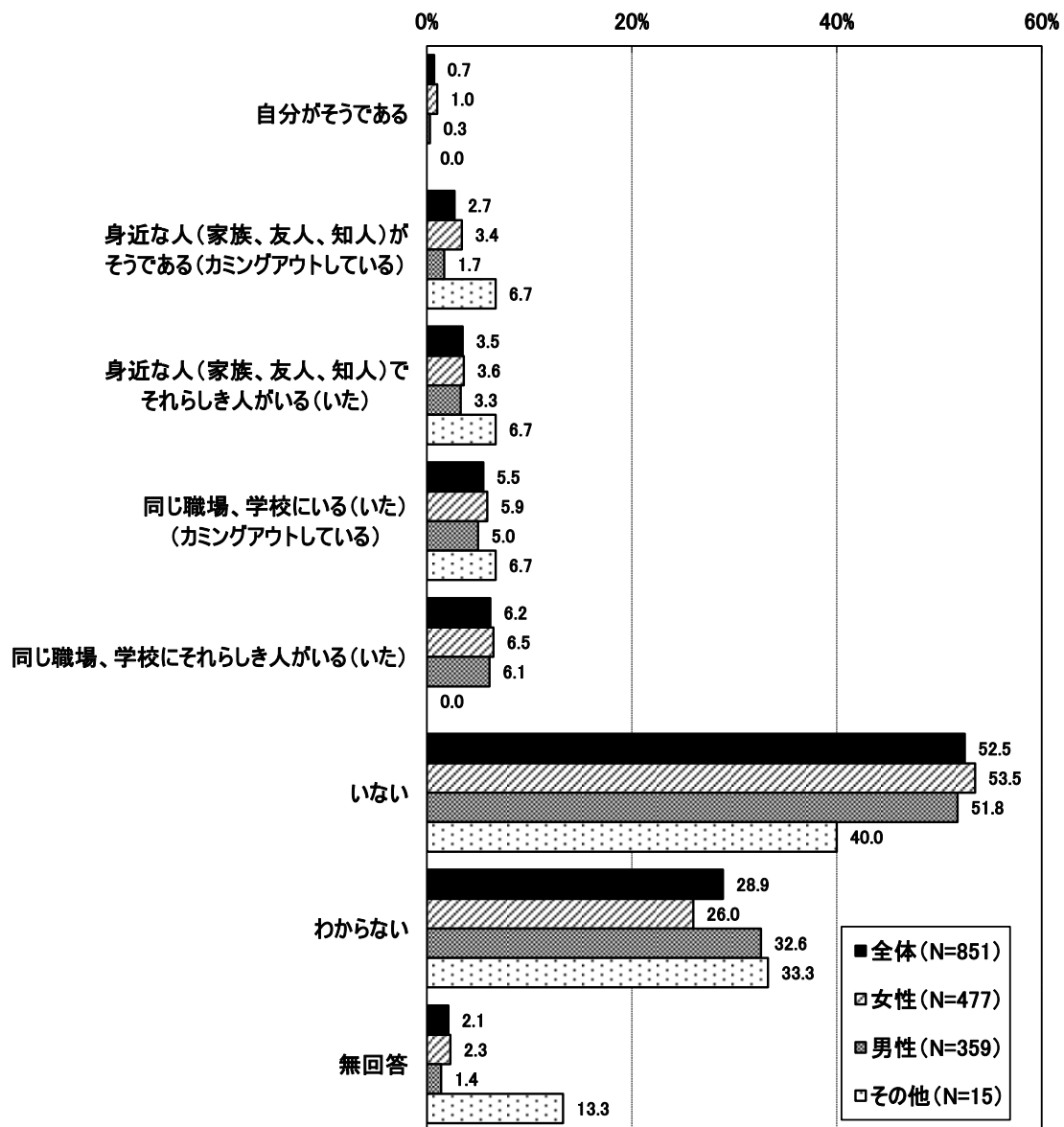
参考：性的少数者に関する用語の認知度について【総数、性別】（愛知県）



資料：愛知県「男女共同参画意識に関する調査」（2019年）

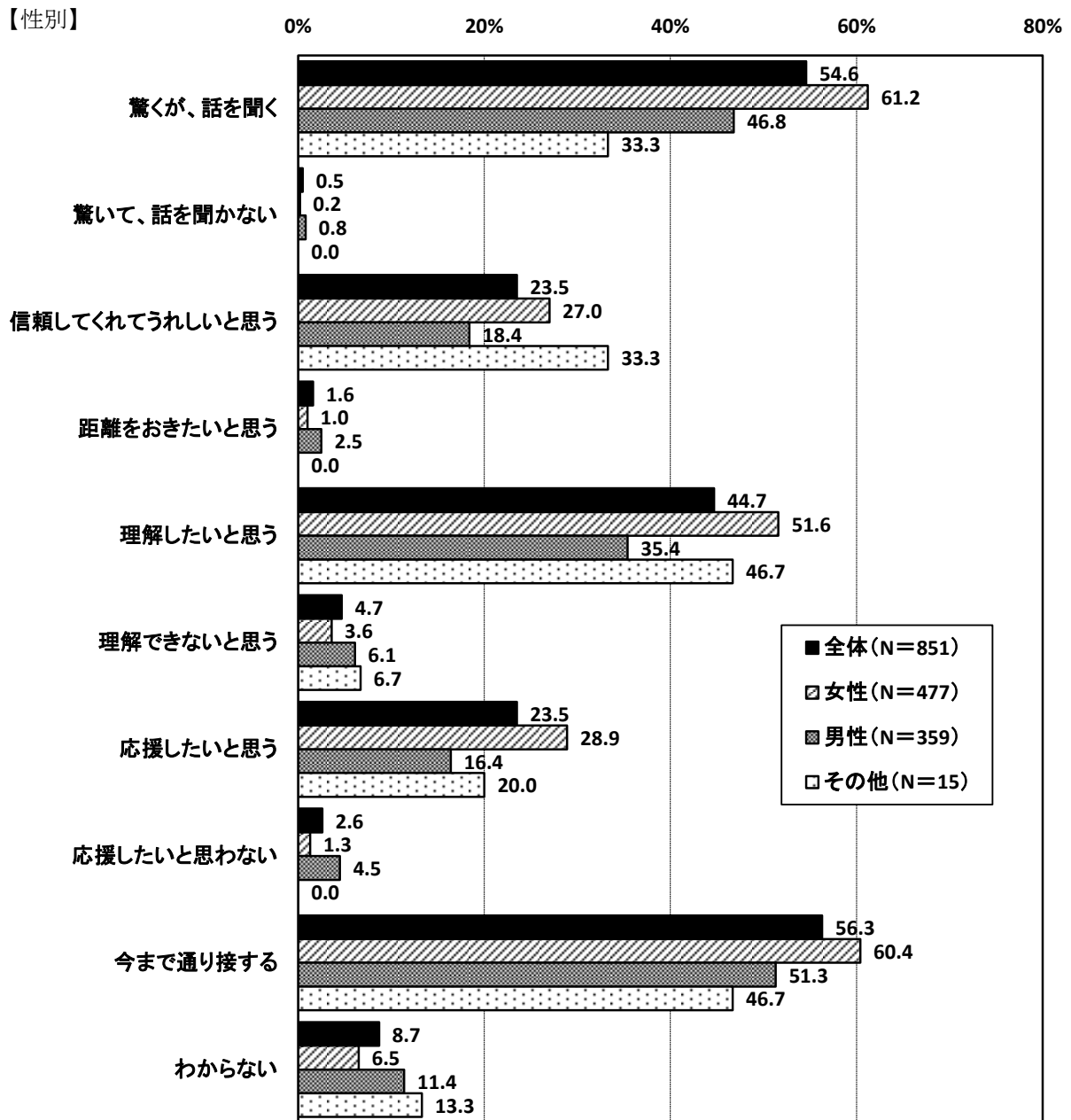
また、県と江南市を比較してみても、用語の認知度に対する割合はほぼ同じであることが分かります。

問 25 あなたの周りに性的少数者の人はいますか。(複数回答)



周りに性的少数者の人がいるかについては、「いない」の割合が最も高く全体で52.5%、「わからない」が全体で28.9%、全体2～6%の人が「身近な人がそうである」「身近な人でそれらしき人がいる(いた)」「同じ職場、学校にいる(いた)」「同じ職場、学校にそれらしき人がいる(いた)」と回答しています。

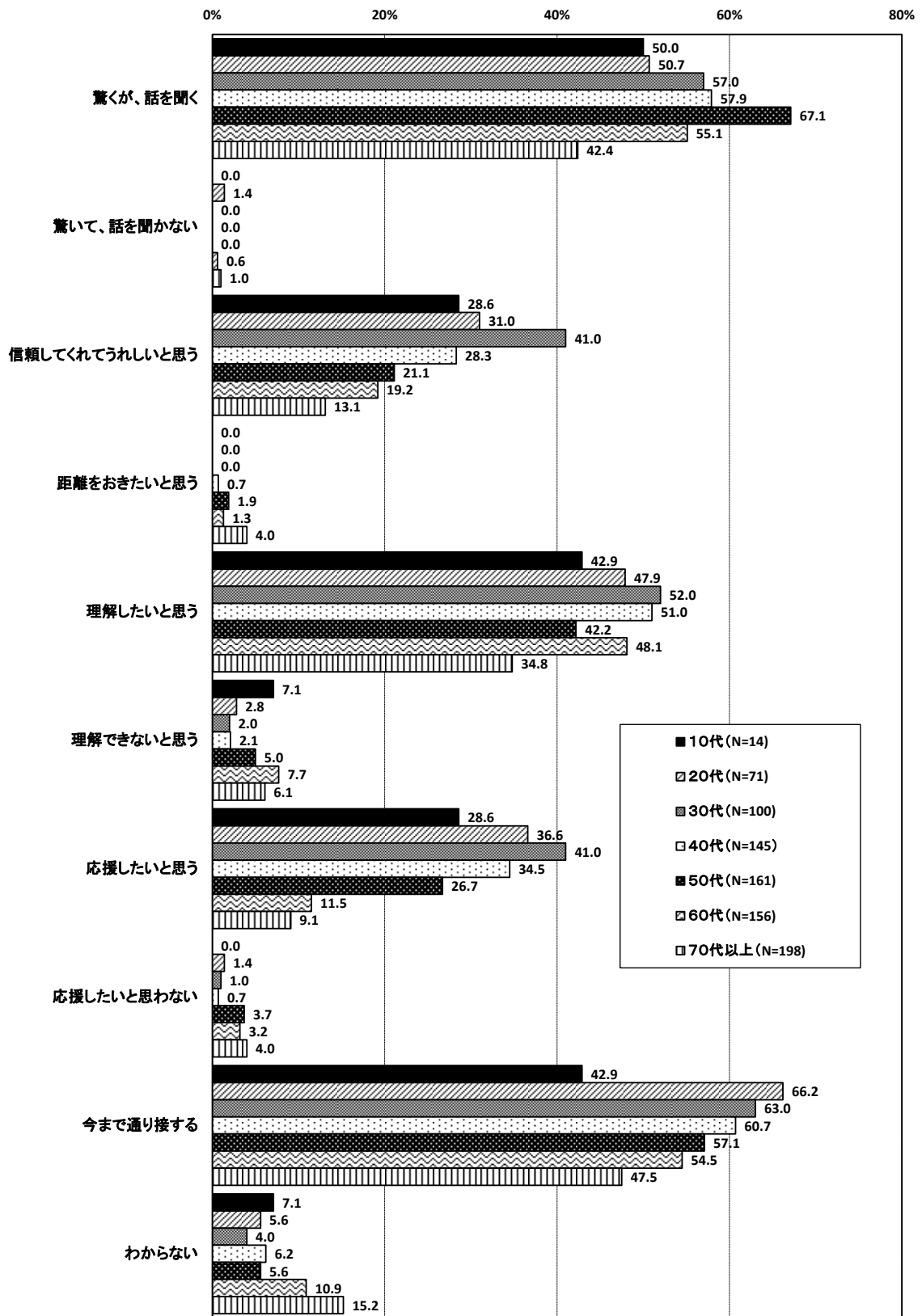
問 26 あなたの身近な人（家族、友人、知人）などから、性的少数者であることを打ち明けられた場合、あなたの気持ちに近いものを選んでください。（複数回答）



身近な人などから、性的少数者であることを打ち明けられた場合の気持ちについては、全体では「今まで通り接する」が最も高く 56.3%、次に「驚くが、話を聞く」は 54.6%となっています。

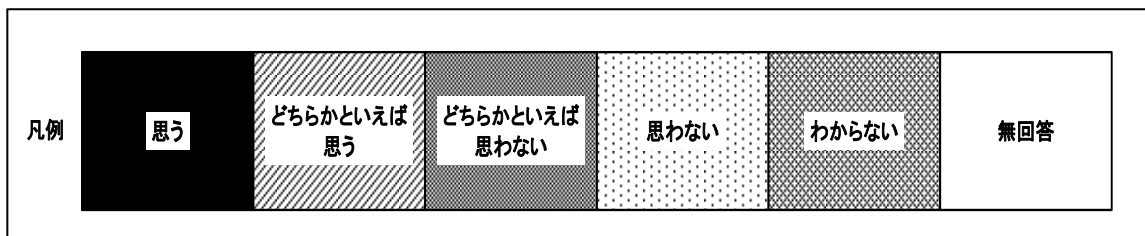
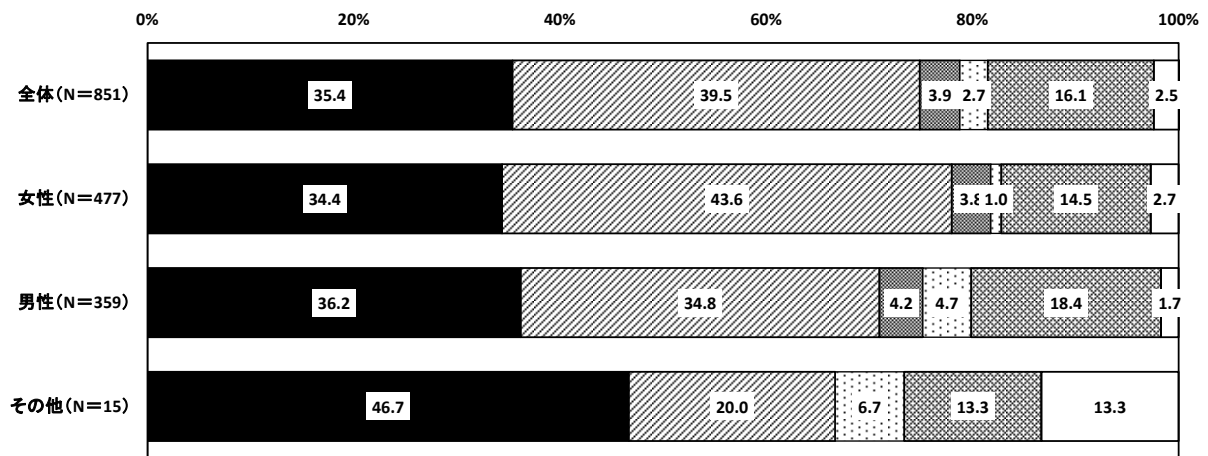
年齢別にみると、年齢毎に同じ傾向があり、「驚くが、話を聞く」「理解したいと思う」「応援したいと思う」「今まで通り接する」といった性的少数者を受け入れる回答が高い割合で見られます。

【年齢別】



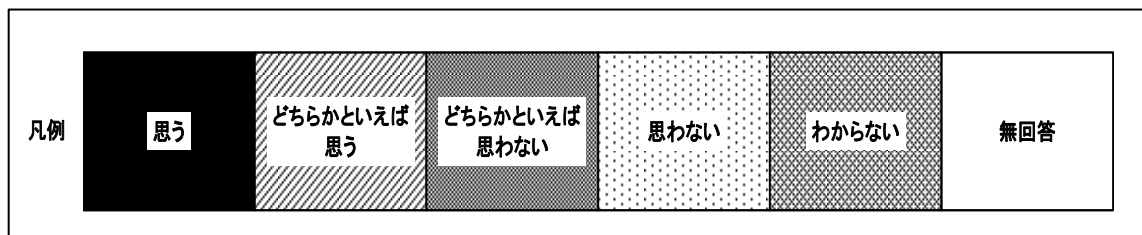
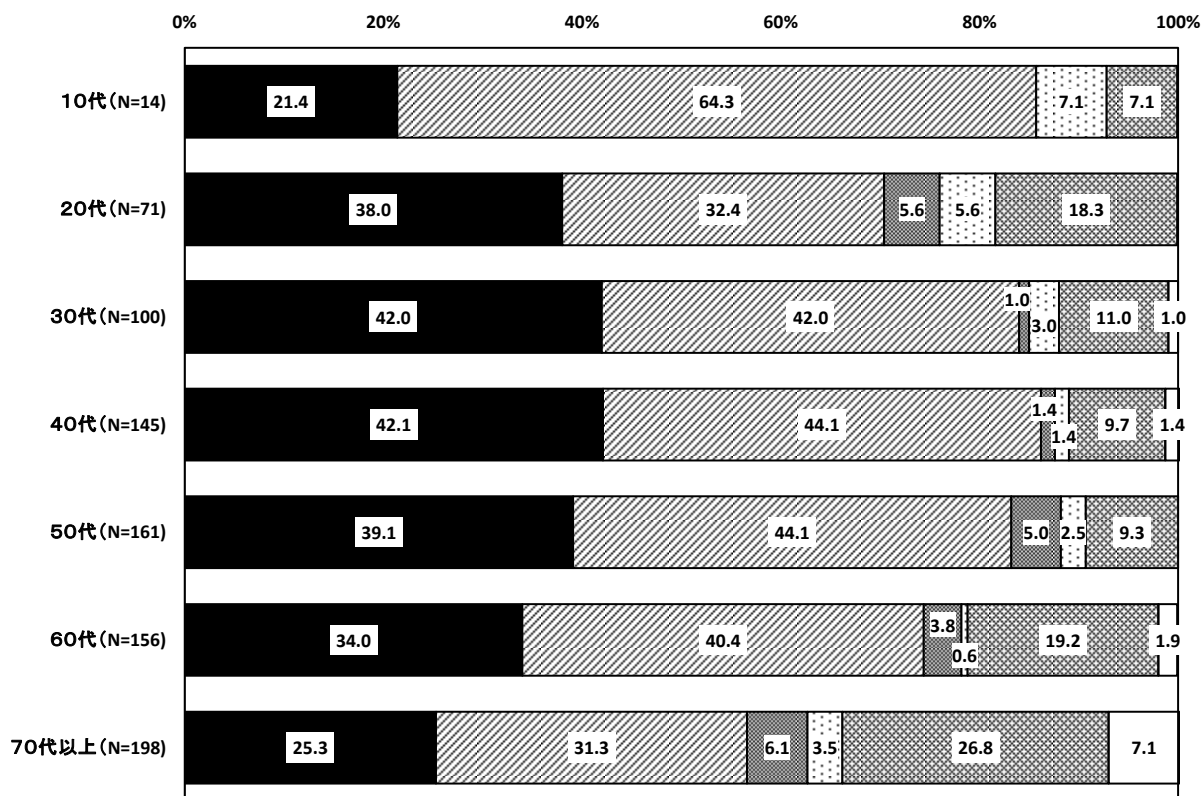
問 27 今の社会は性的少数者の方にとって、生きづらいと思いますか。(単数回答)

【性別】



今の社会は性的少数者にとって、生きづらいと思うかについては、「思う」「どちらかといえば思う」の割合が全体で74.9%となっています。また「わからない」の割合は16.1%となっています。問25の周りに性的少数者の人がいるかについて、「わからない」と回答した割合が2割程度あったことについても、性的少数者の存在や気持ちがわからないということは、性的少数者に関わる環境、社会が十分に整っていないということから表れているのではないかと考えられます。

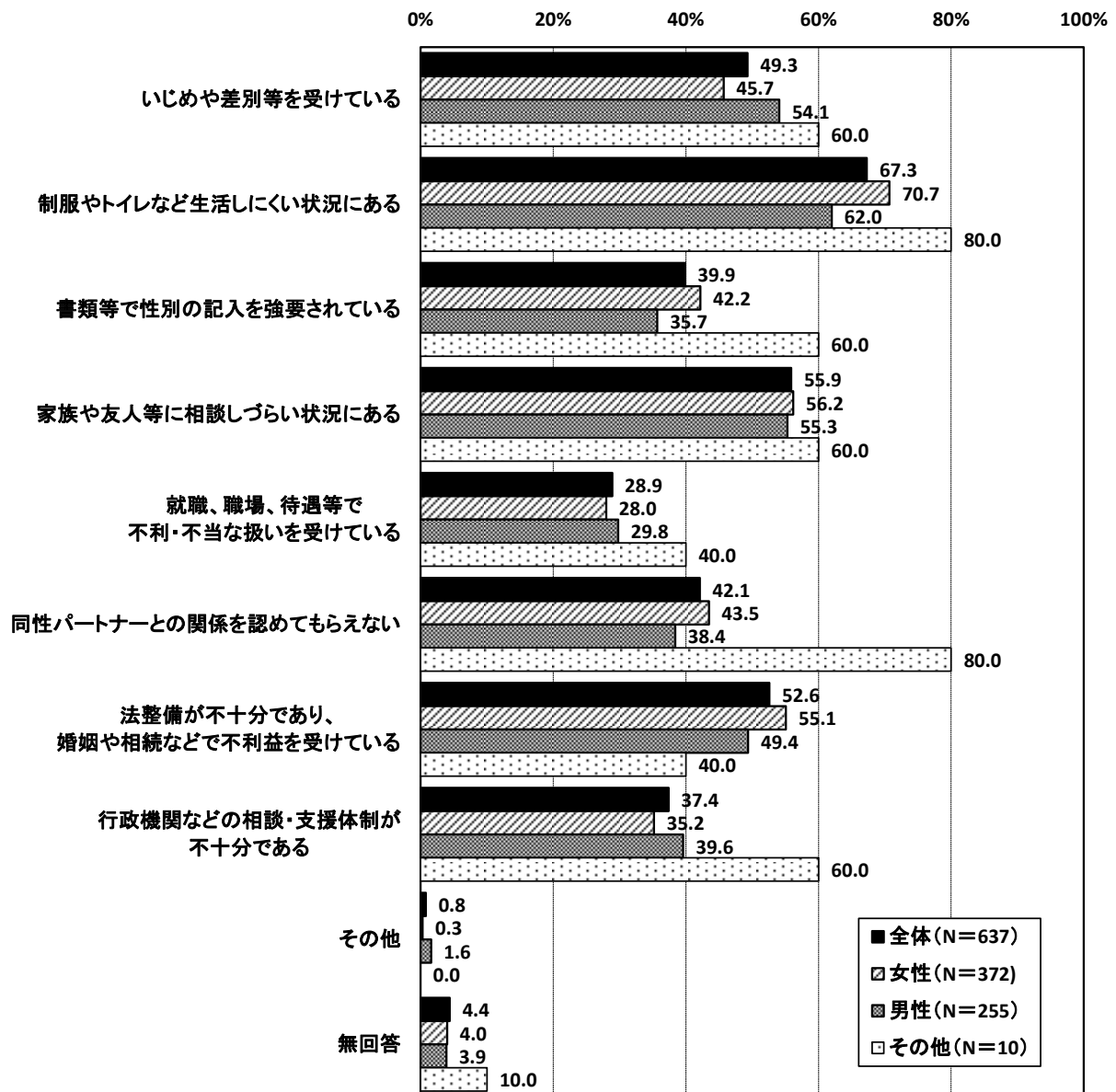
【年齢別】



年齢別にみると、20代および60代以上は「わからない」と回答した割合が他の年代に比べて高いことが分かります。

<「生きづらいと思う」または「どちらかといえば生きづらいと思う」と答えた方におたずねします>

問 28 その理由は何ですか。(複数回答)



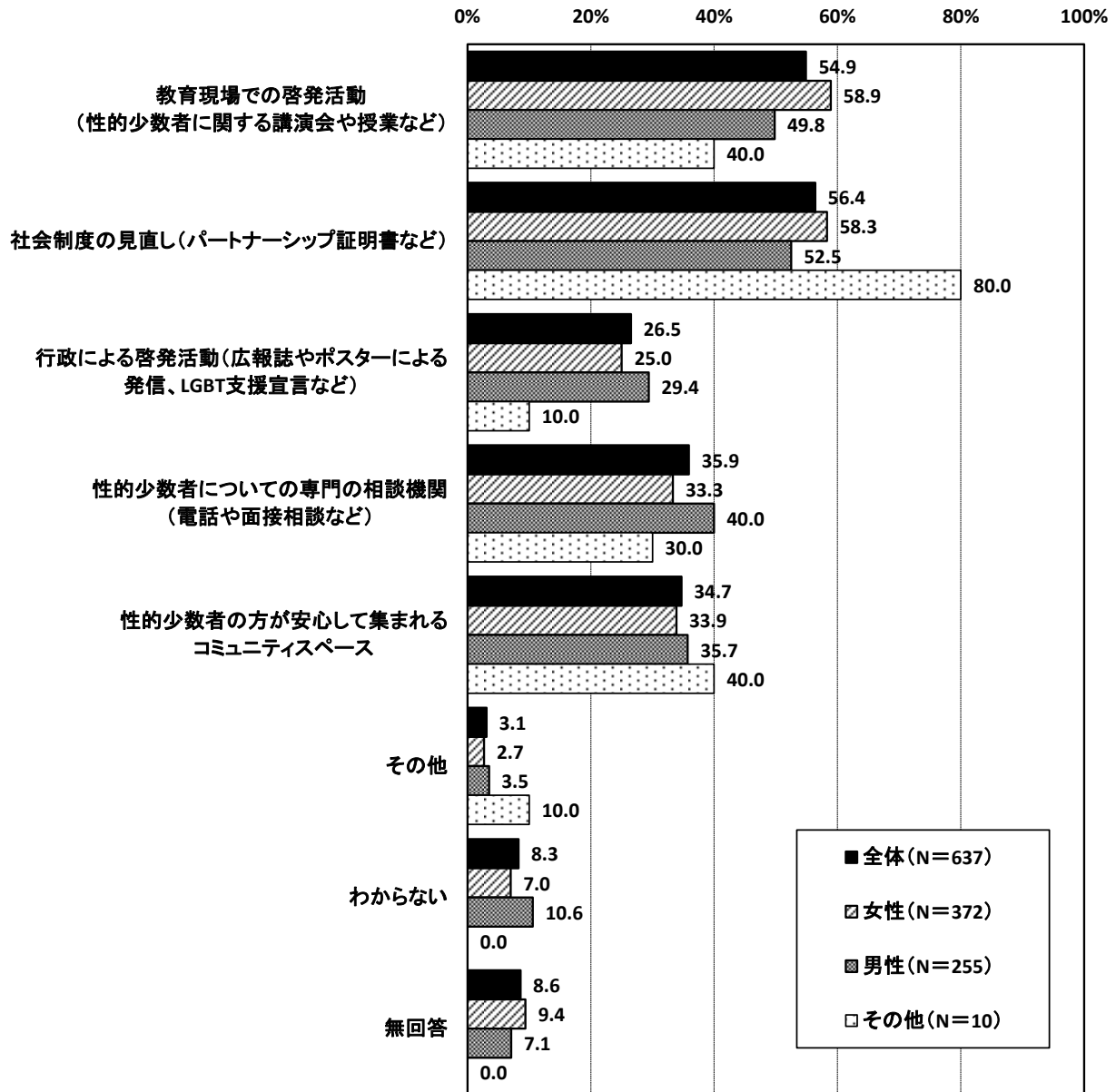
生きづらいと思う理由については、全体で「制服やトイレなど生活しにくい状況にある」が最も高く67.3%であり、次いで「家族や友人等に相談しづらい状況にある」が55.9%、「法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けている」が52.6%となっています。全項目について、3割程度の回答があります。



<「生きづらいと思う」または「どちらかといえば生きづらいと思う」と答えた方におたずねします>

問 29 性的少数者の方が生きやすくなるには、どのような取り組みが必要だと思いますか。

(複数回答)

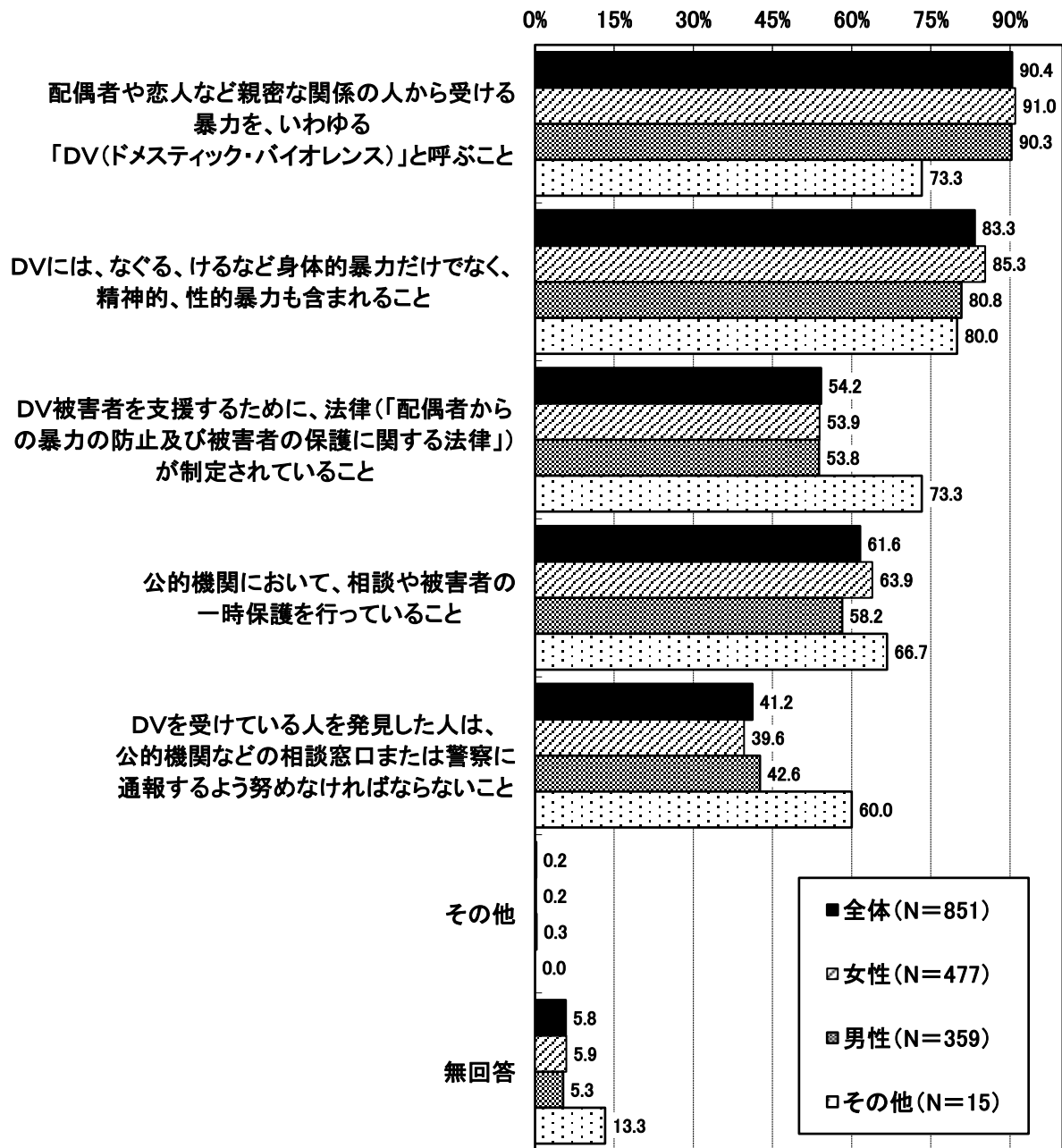


どのような取り組みが必要かにおいて、全体で見ると、「社会制度の見直し（パートナーシップ証明書など）」が最も高く 56.4%、次に「教育現場での啓発活動（性的少数者に関する講演会や授業など）」で 54.9%となっています。



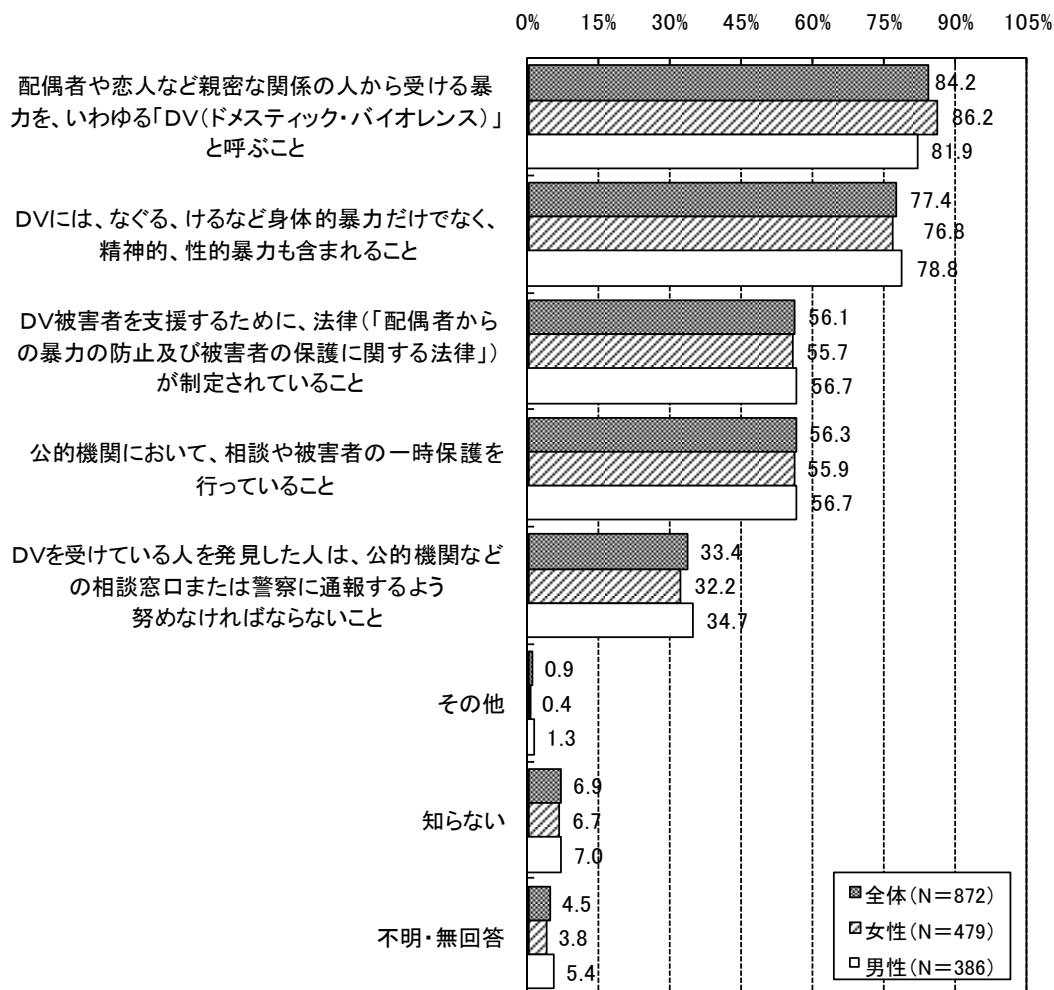
## 6. DV(ドメスティック・バイオレンス)について

問 30 あなたは、DVに関する次のことについて知っていますか。(複数回答)



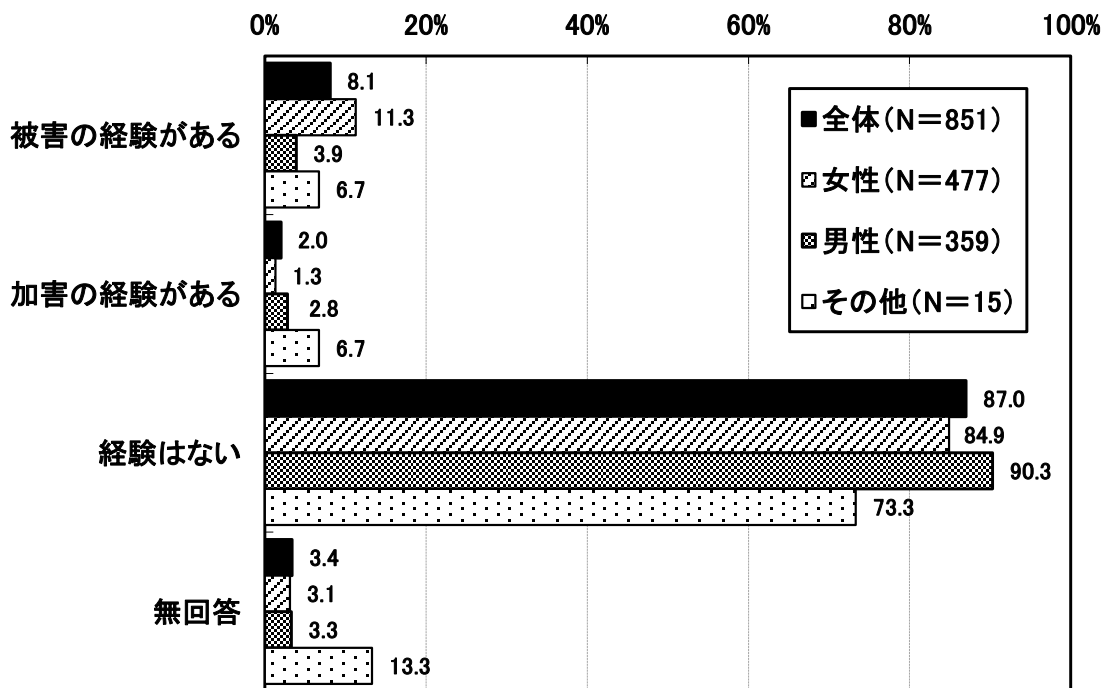
DVについて知っていることにおいては、全体・性別ともに『配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「DV(ドメスティック・バイオレンス)」と呼ぶこと』が最も高く、全体で90.4%、女性で91.0%、男性で90.3%となっています。

参考: 前回調査 (DVに関して知っていること)



前回調査と比較してみると、おおむねDVについての知識は広がっているといえますが、「DVを受けている人を発見した人は、公的機関などの相談窓口または警察に通報するよう努めなければならないこと」について知っている人は、前回調査より 7.8 ポイント増えていますが、4 割程度となっています。

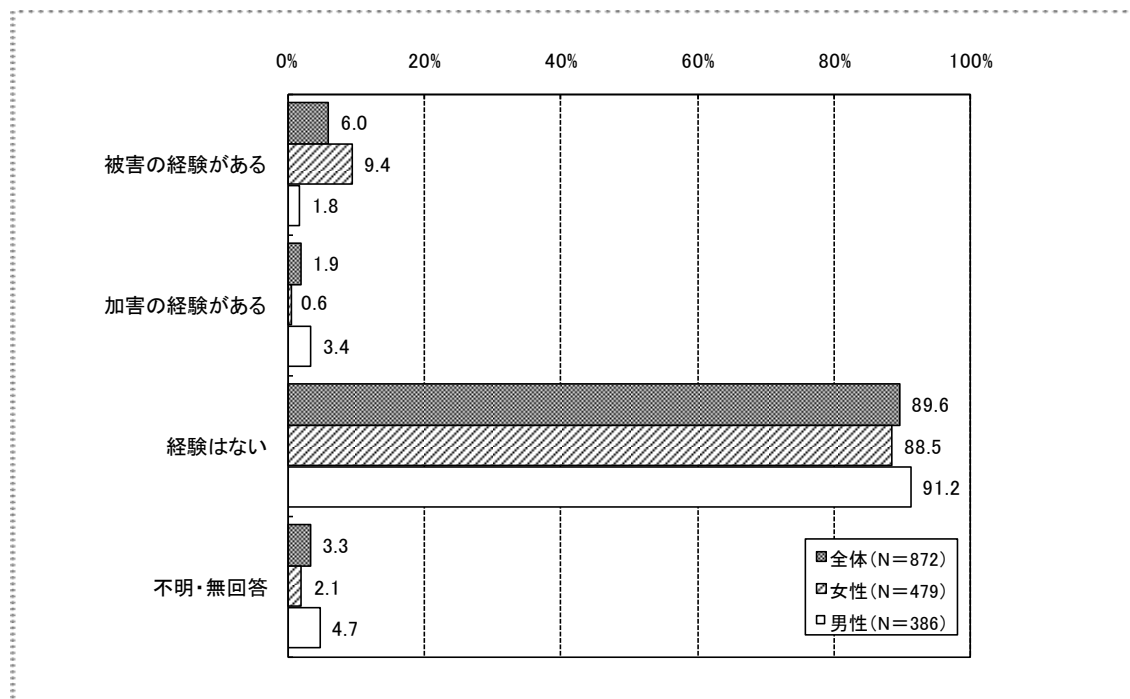
問 31 あなたは、DVの経験がありますか。(複数回答)



DVの経験においては、全体・性別で見ると、「被害の経験がある」は全体で8.1%、性別で見ると女性は11.3%、男性は3.9%となっています。

また、「加害の経験がある」では全体で2.0%、女性は1.3%、男性は2.8%となっています。

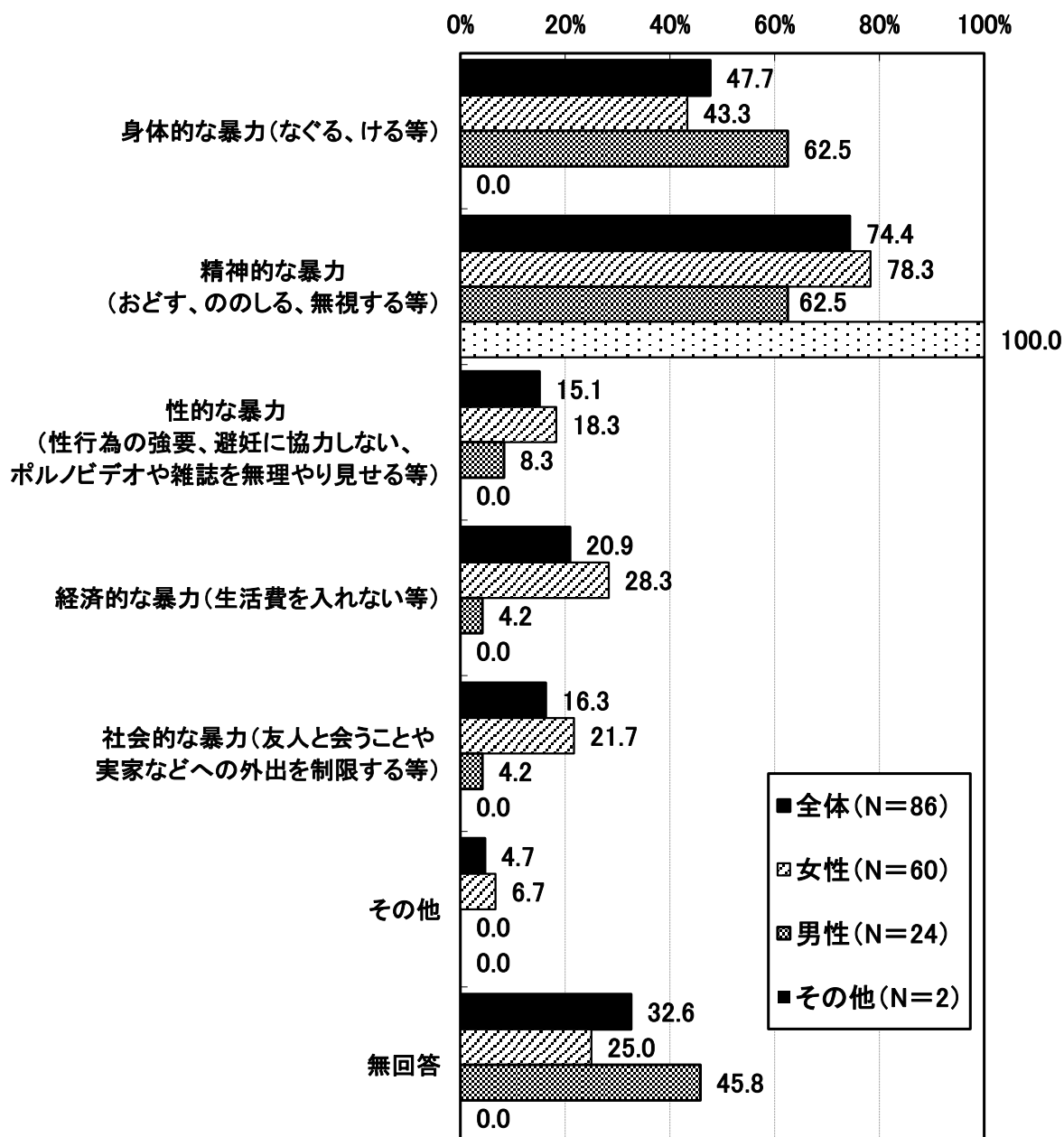
参考：前回調査



前回調査と比較すると、全体・性別ともに被害者の割合が増えています。

<DVの経験がある方におたずねします>

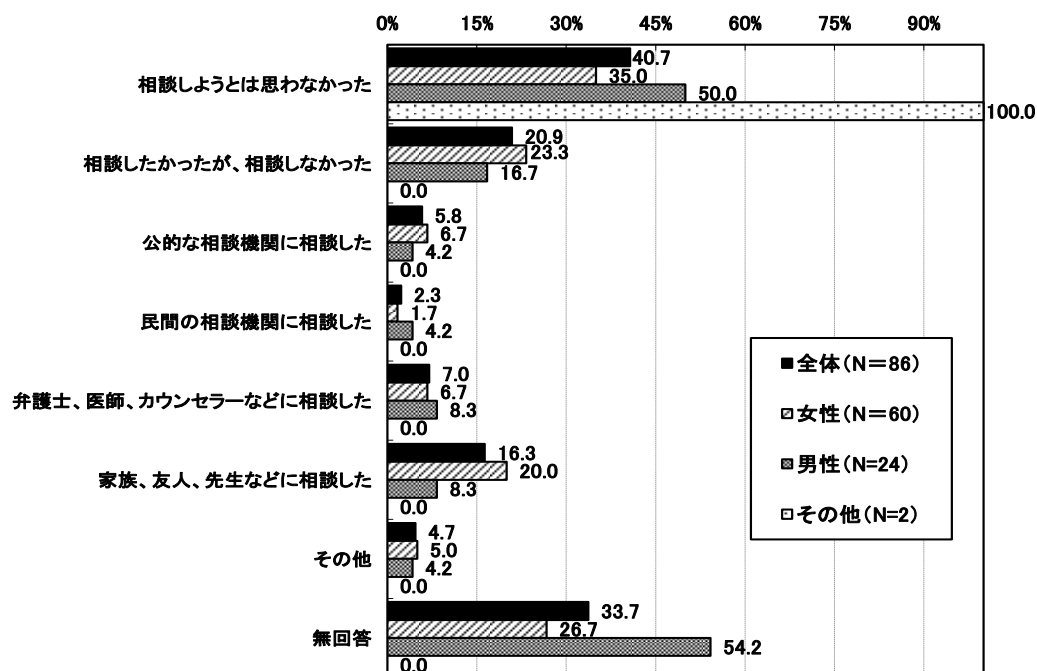
問 32 その暴力はどのようなものですか。(複数回答)



DVの経験においては、全体は「精神的な暴力(おどす、ののしる、無視する等)」が最も高く、74.4%となっています。性別では、女性は、「精神的な暴力(おどす、ののしる、無視する等)」が最も高く、78.3%となっています。男性では「身体的な暴力(なぐる、ける等)」「精神的な暴力(おどす、ののしる、無視する等)」が62.5%と、同じ割合で高くなっています。

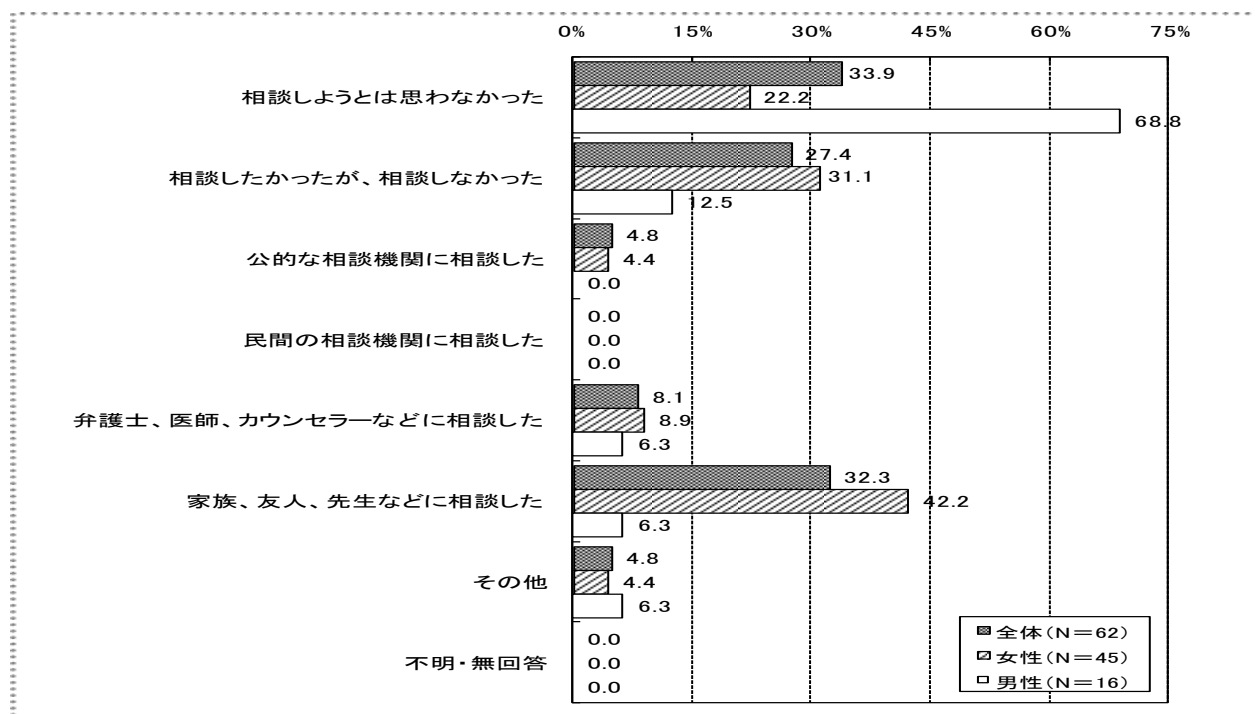
<DVの経験がある方におたずねします>

問 33 あなたは、DVを経験した時、だれかに相談したりしましたか。(複数回答)



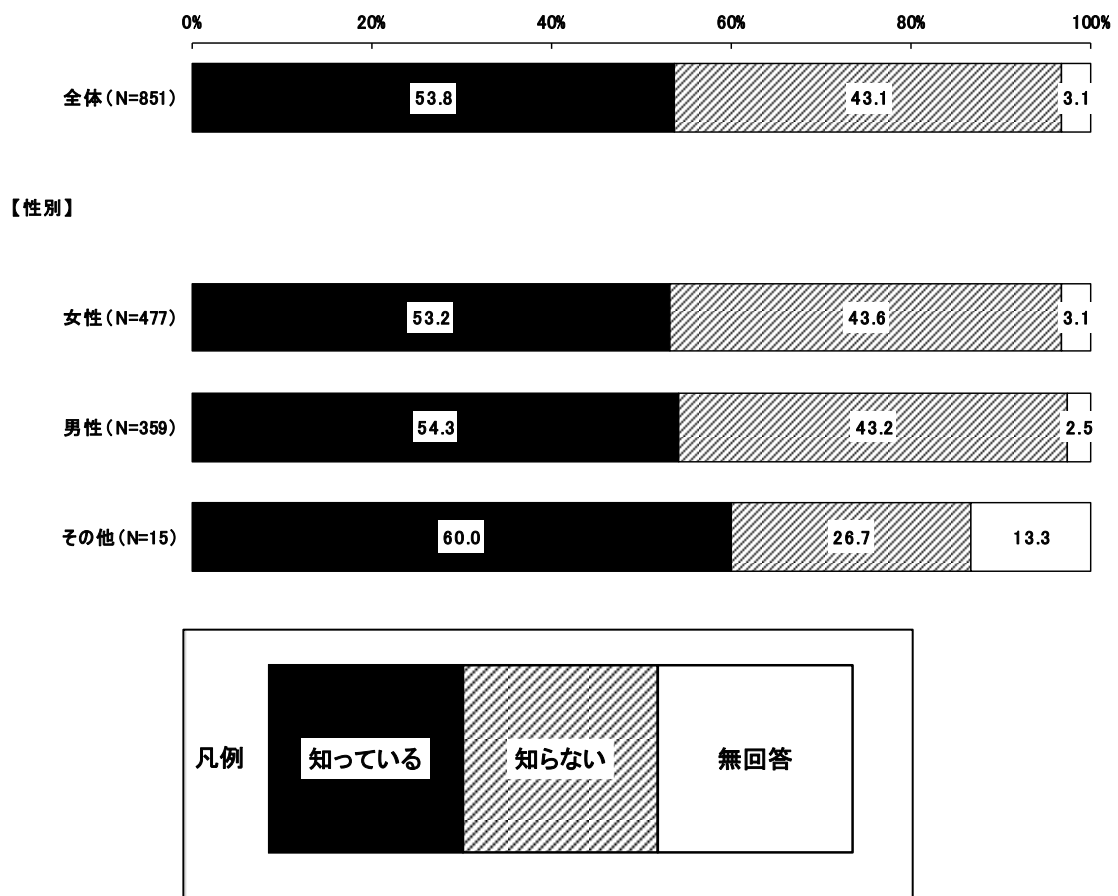
DVを経験した時の相談相手についてみると、全体、性別ともに「相談しようとは思わなかった」が最も高く、全体で40.7%、女性35.0%、男性50.0%となっています。

参考：前回調査



前回調査では、女性は「家族、友人、先生などに相談した」と回答した割合が42.2%でしたが、今回は20.0%に減っています。また「相談しようとは思わなかった」と回答した割合は33.9%から40.7%と増えています。

問 34 あなたは、DVについて相談できる窓口があることを知っていますか。(単数回答)

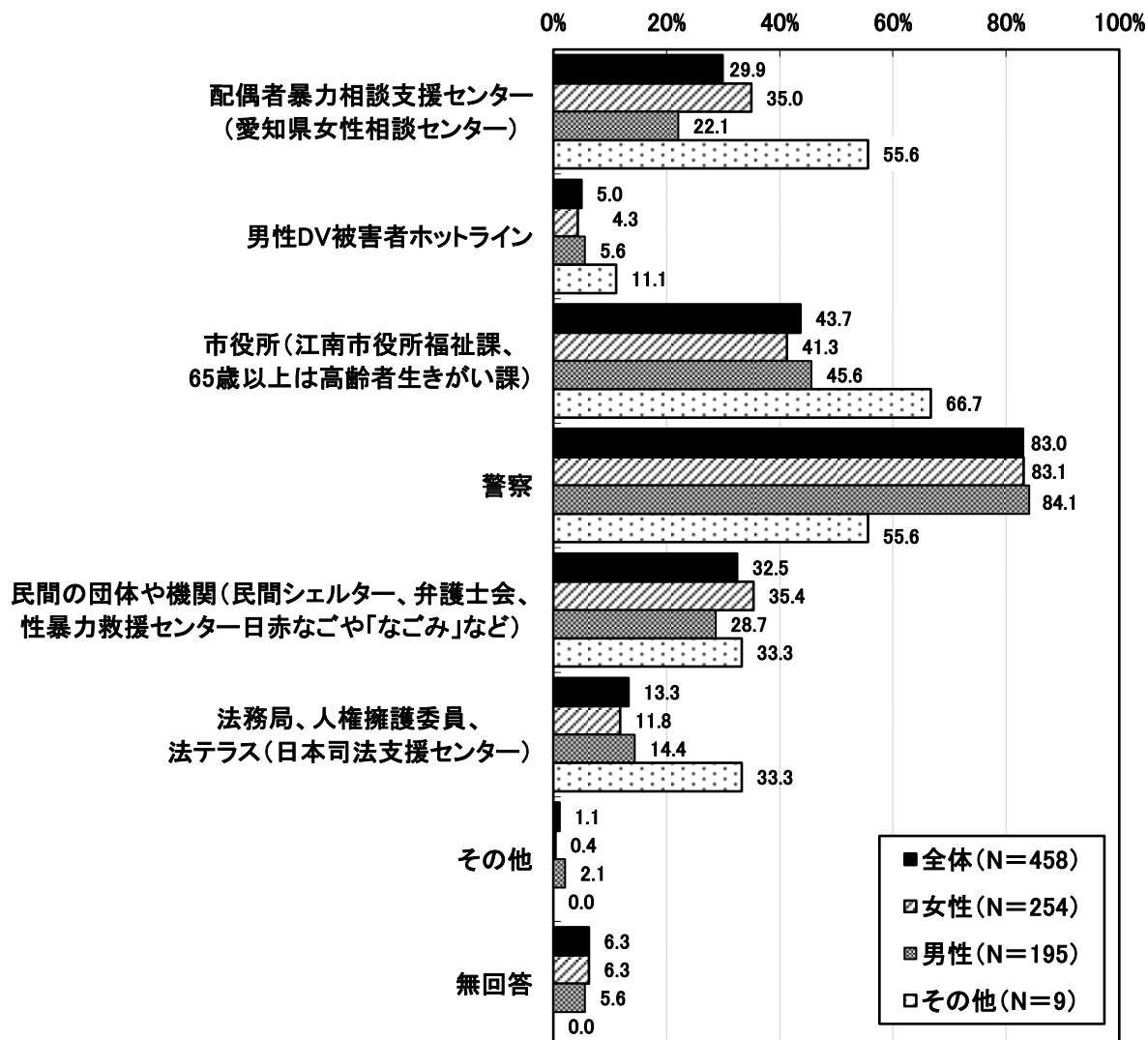


DVについて相談できる窓口の認知度については、全体・性別ともに、それぞれ5割程度の認知度です。



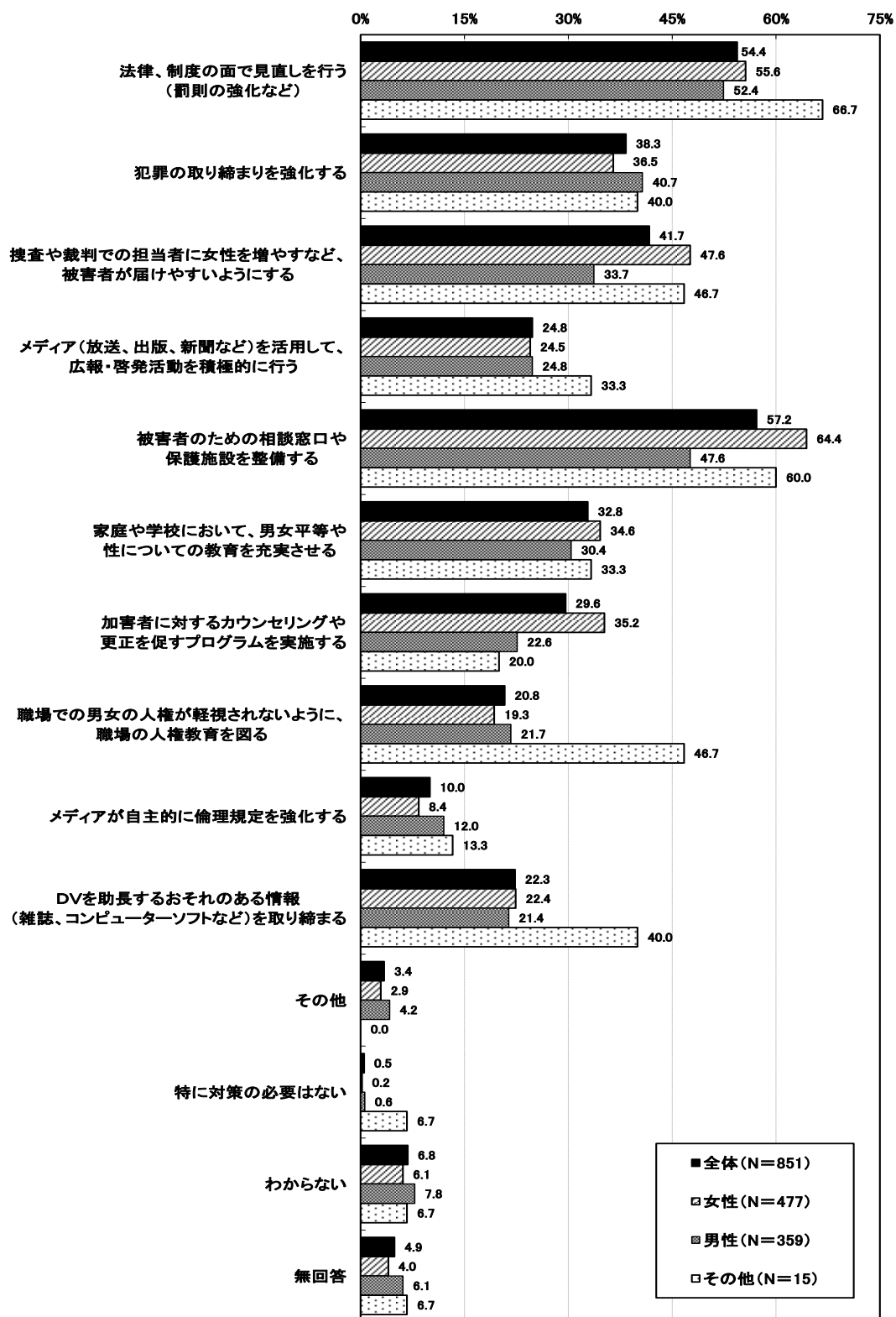
<DVについて相談できる窓口を知っている方におたずねします>

問 35 相談できる窓口についてどのようなところを知っていますか。(複数回答)



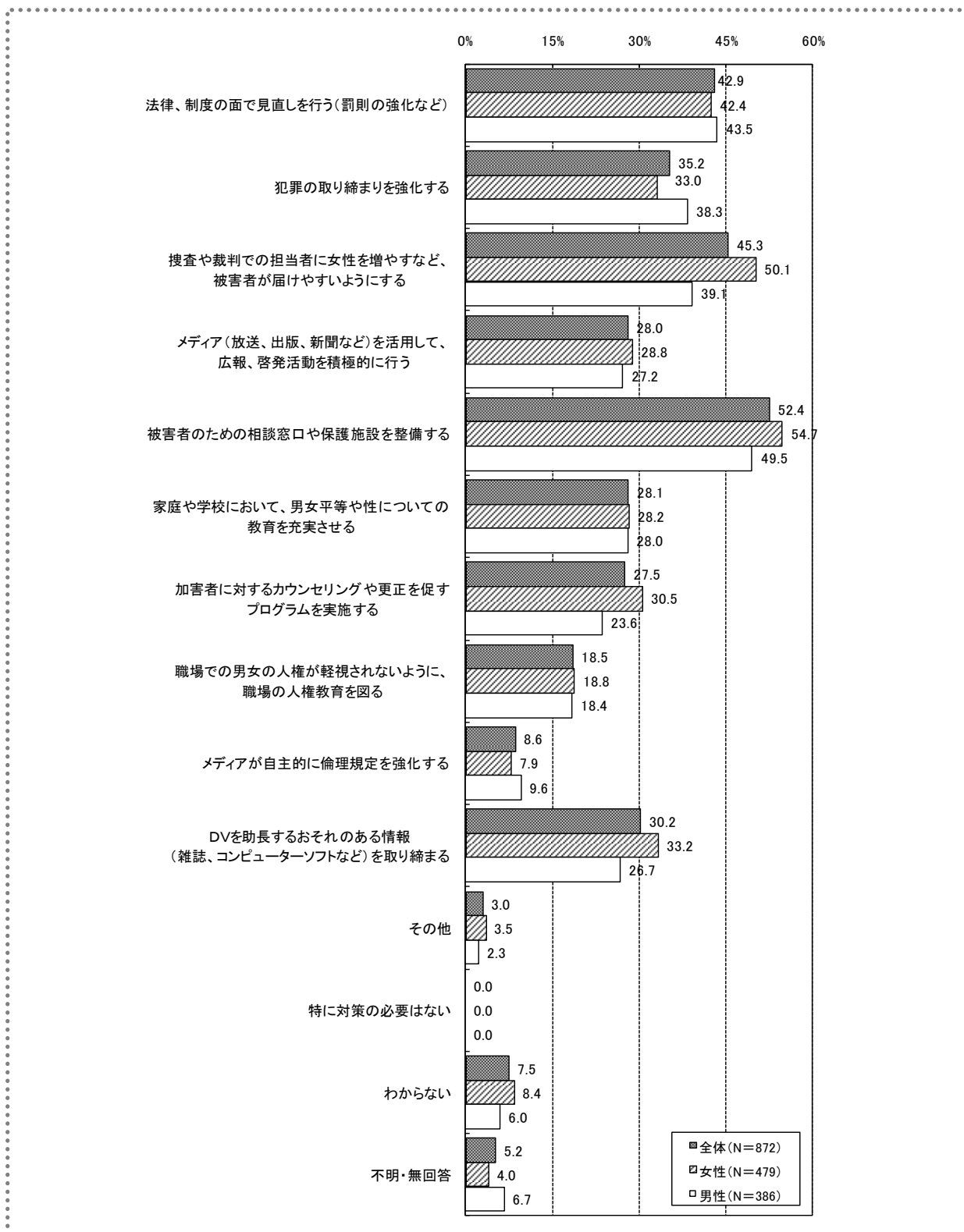
DVについて相談できる場所について、全体・性別ともに「警察」が最も高く、次いで「市役所(江南市役所福祉課、65歳以上は高齢者生きがい課)」となっています。「民間の団体や機関(民間シェルター、弁護士会、性暴力救援センター日赤なごや「なごみ」など)」は32.5%の認知度、「男性DV被害者ホットライン」は5%の認知度となっています。

問 36 あなたは、DVを防止するために何が必要だと思いますか。(複数回答)



DVを防止するために必要なことにおいては、全体で「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が最も高く 57.2%、次いで「法律、制度の面で見直しを行う (罰則の強化など)」が 54.4%となっています。女性は「被害者のための相談窓口や保護施設を整備する」が 64.4%で最も高く、男性は「法律、制度の面で見直しを行う (罰則の強化など)」が 52.4%で最も高くなっています。

参考：前回調査（DV 防止のために必要だと思うこと）

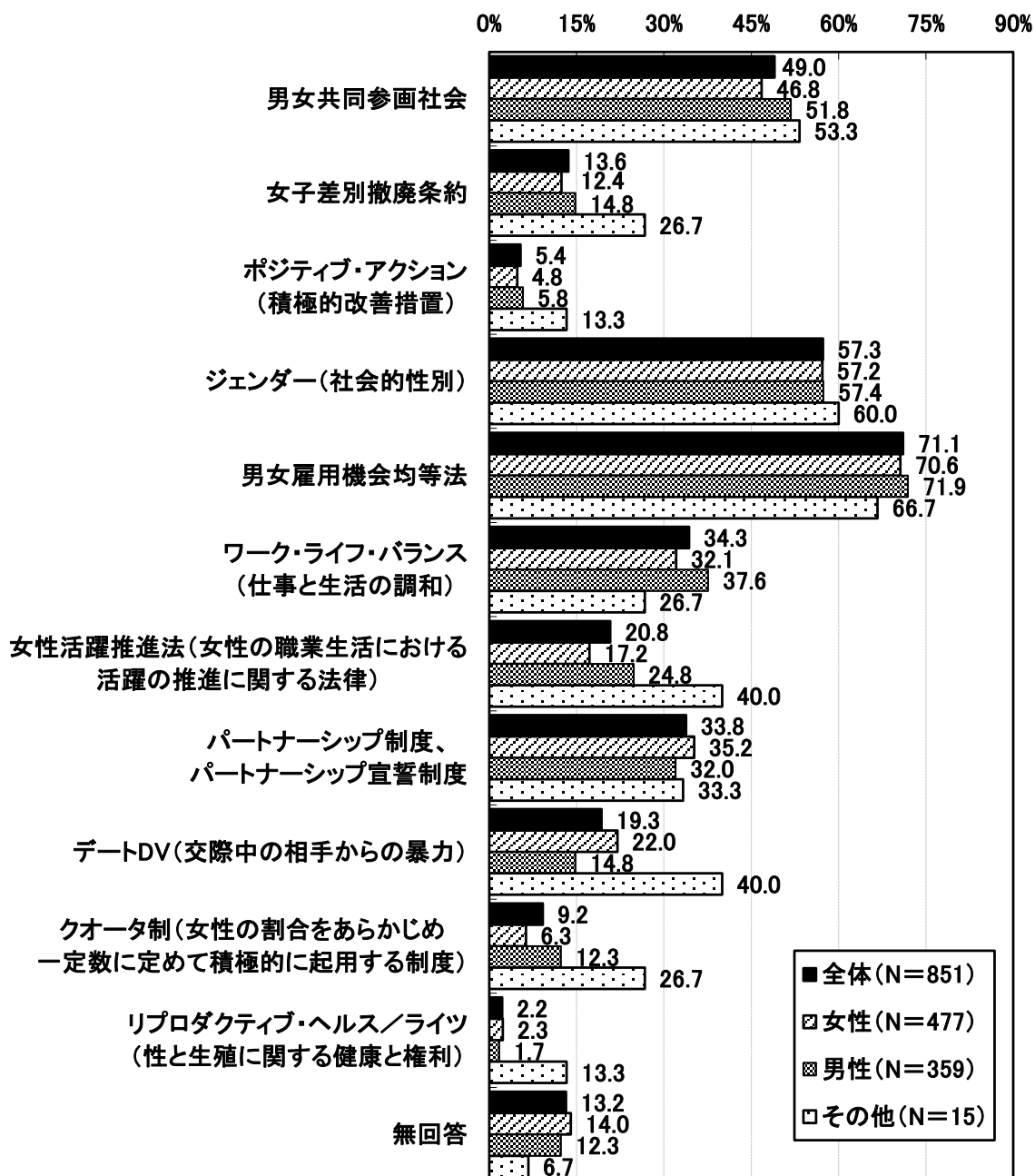


前回調査と比較してみると、「メディア（放送、出版、新聞など）を活用して、広報、啓発活動を積極的に行う」、「DVを助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を取り締まる」の割合は少なくなっていますが、その他の項目はすべて割合が高くなっています。



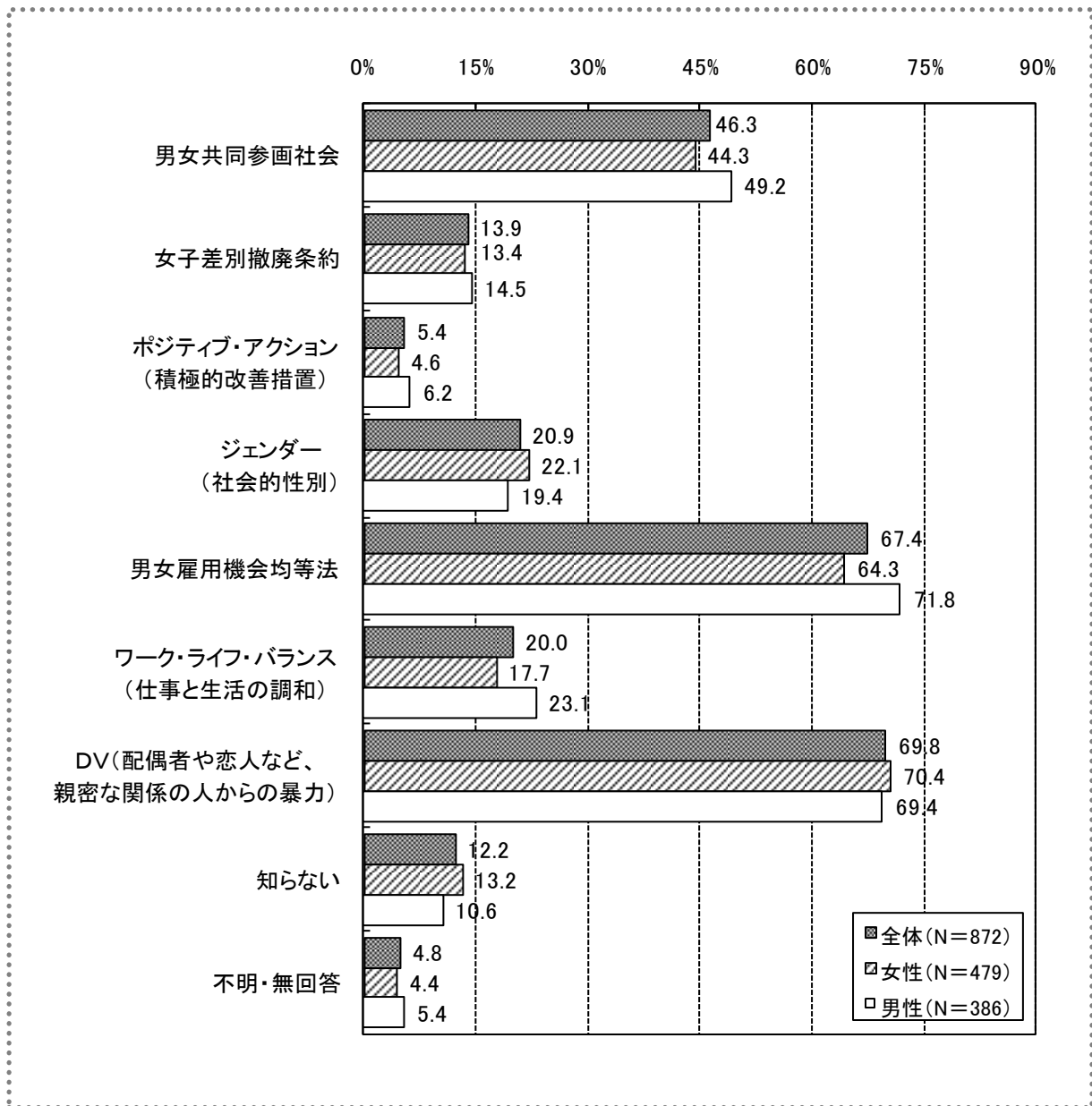
## 7. 男女共同参画全般について

問 37 あなたは、次にあげる男女共同参画に関する言葉を知っていますか。(複数回答)



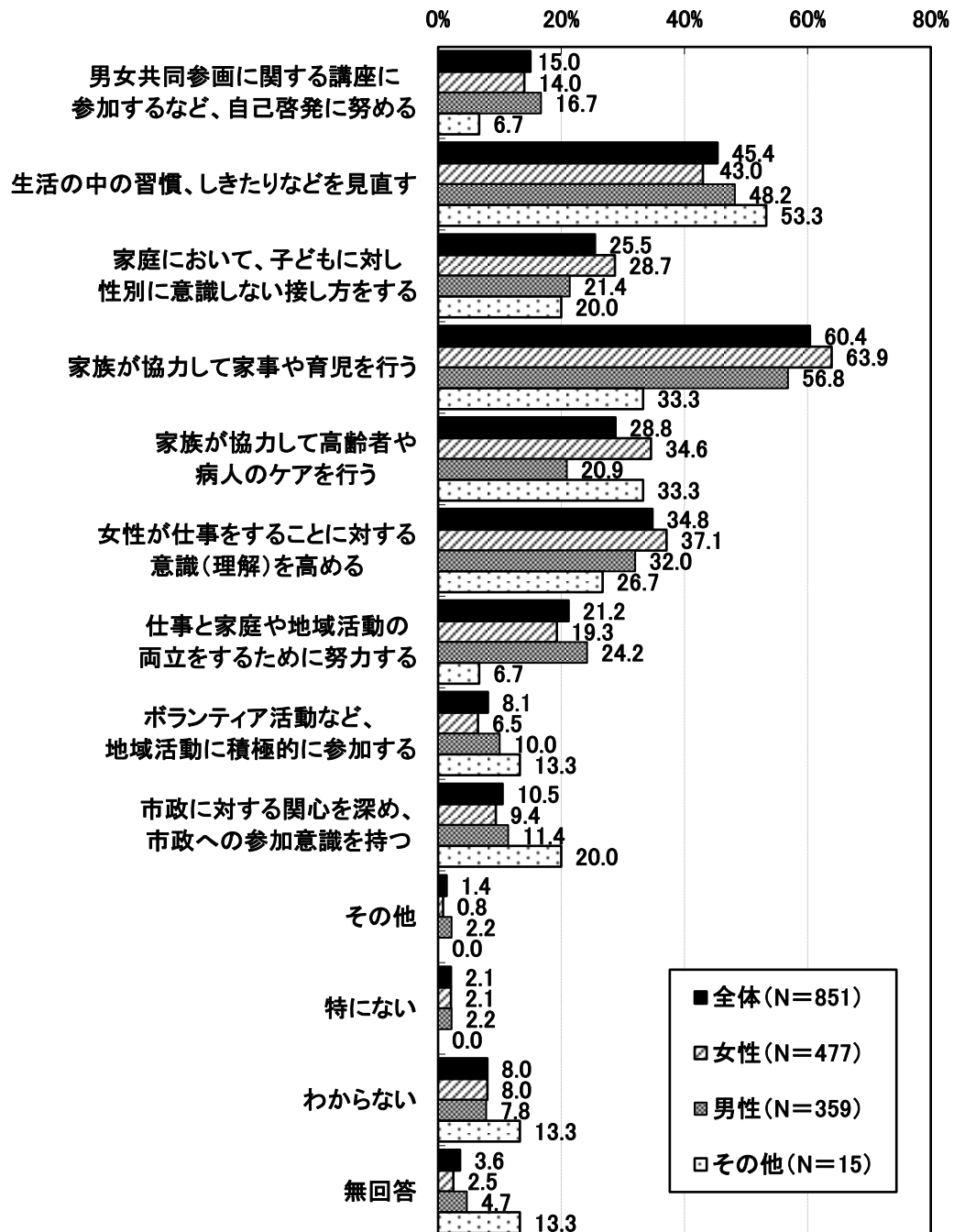
男女共同参画に関する言葉の認知度については、全体・性別ともに「男女雇用機会均等法」において7割程度、「男女共同参画社会」「ジェンダー」では5割程度、「ワーク・ライフ・バランス」「パートナーシップ制度、パートナーシップ宣誓制度」では3割程度、その他の言葉においては2割以下の認知度になっています。

参考：前回調査(男女共同参画に関する言葉の認知度)



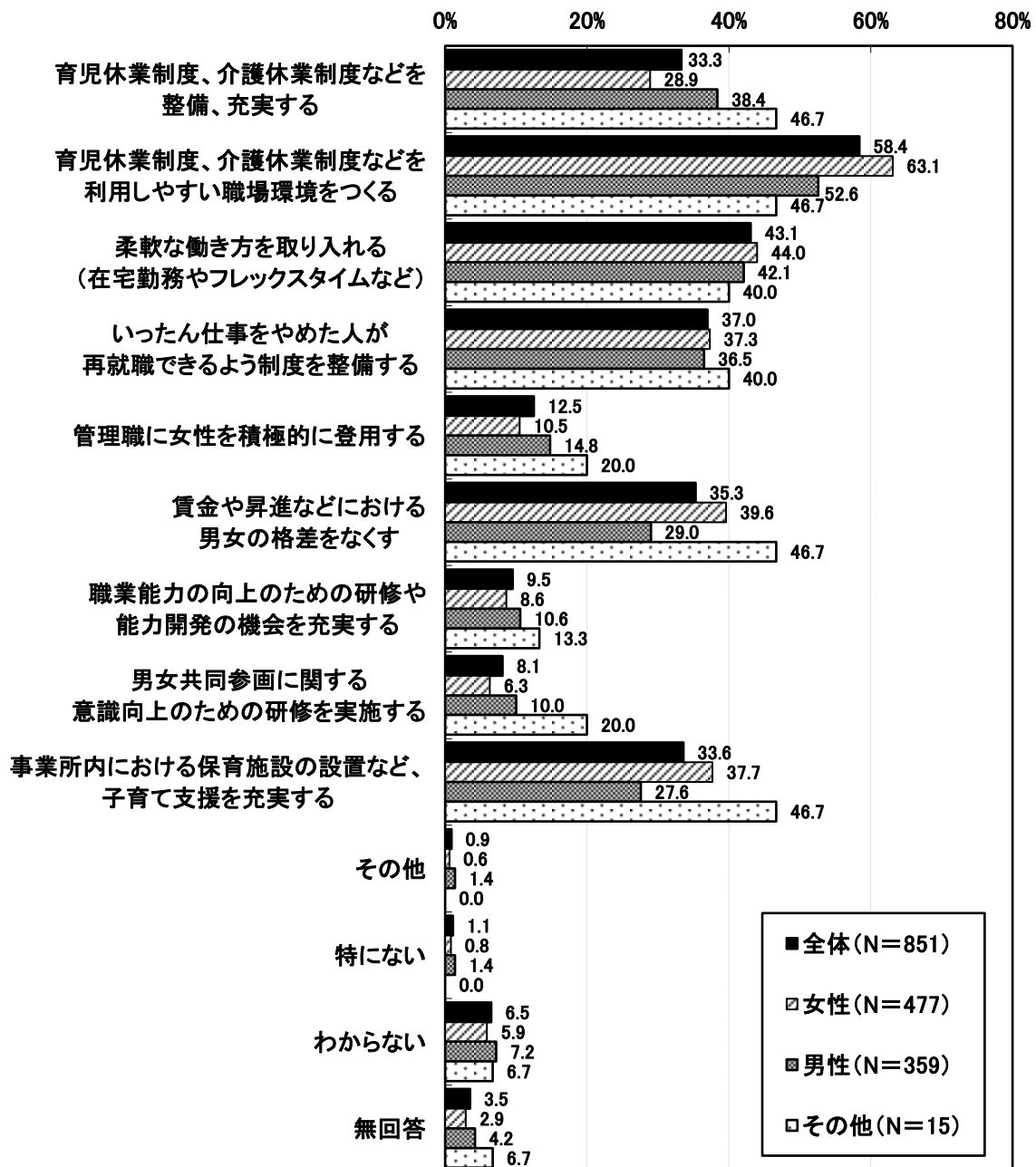
前回調査および問30では「DV」について高い認知度でしたが、今回調査の「デートDV」についての認知度は低くなっています。

問 38 あなたは、男女共同参画社会（男女がともに個性と能力を発揮できる社会）を実現するために、市民として何をすべきだと思いますか。（複数回答）



男女共同参画社会を実現するために市民がすべきことは、全体・性別ともに「家族が協力して家事や育児を行う」が最も高く、全体では60.4%、女性は63.9%、男性は56.8%となっています。次いで「生活の中の習慣、しきたりなどを見直す」の割合が高くなっています。

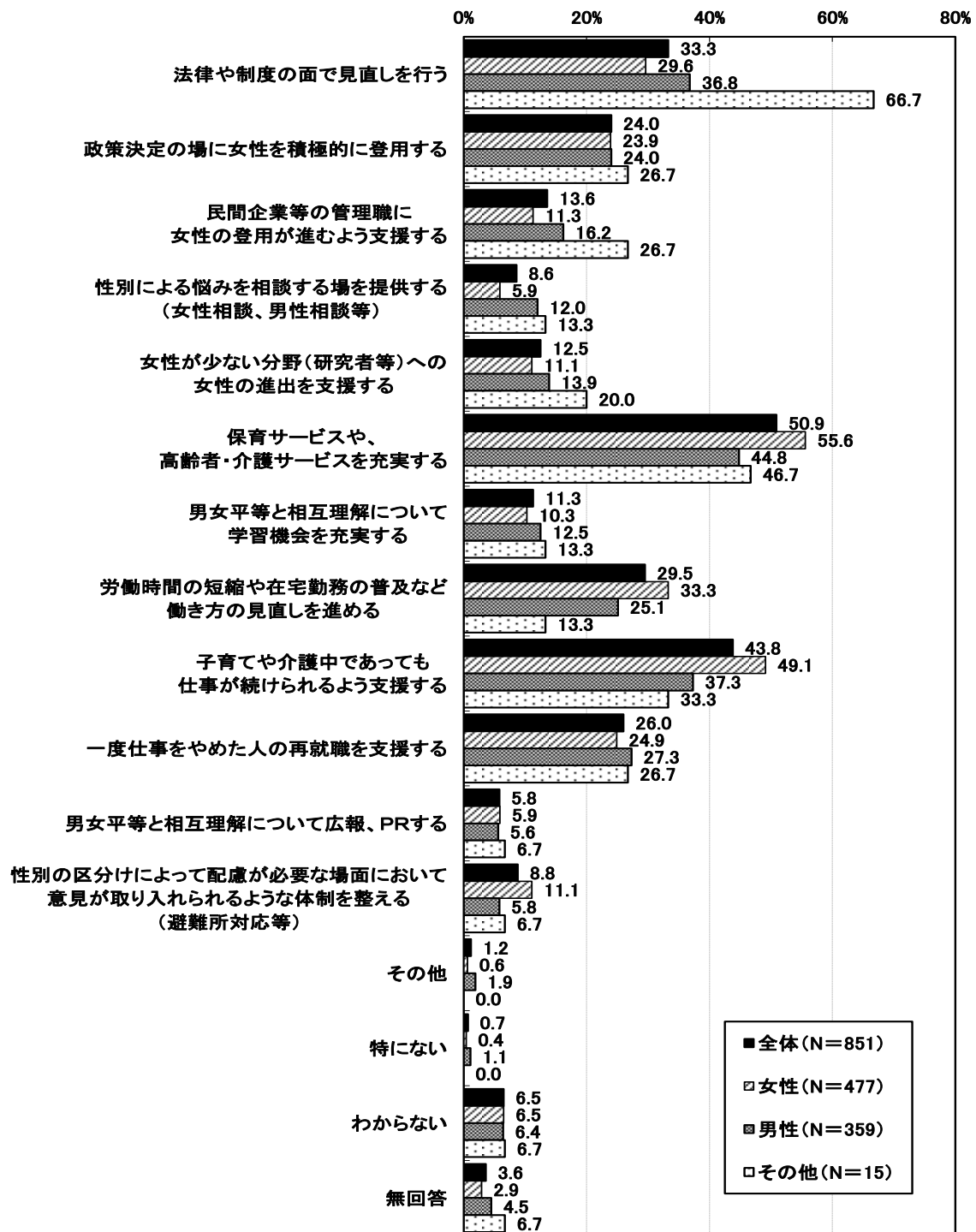
問 39 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、企業は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（複数回答）



男女共同参画社会を実現するために企業が力を入れるべきことにおいては、全体・性別ともに「育児休業制度、介護休業制度などを利用しやすい職場環境をつくる」が最も高く、全体では58.4%、女性は63.1%、男性は52.6%となっています。次いで、「柔軟な働き方を取り入れる」の割合が高くなっています。



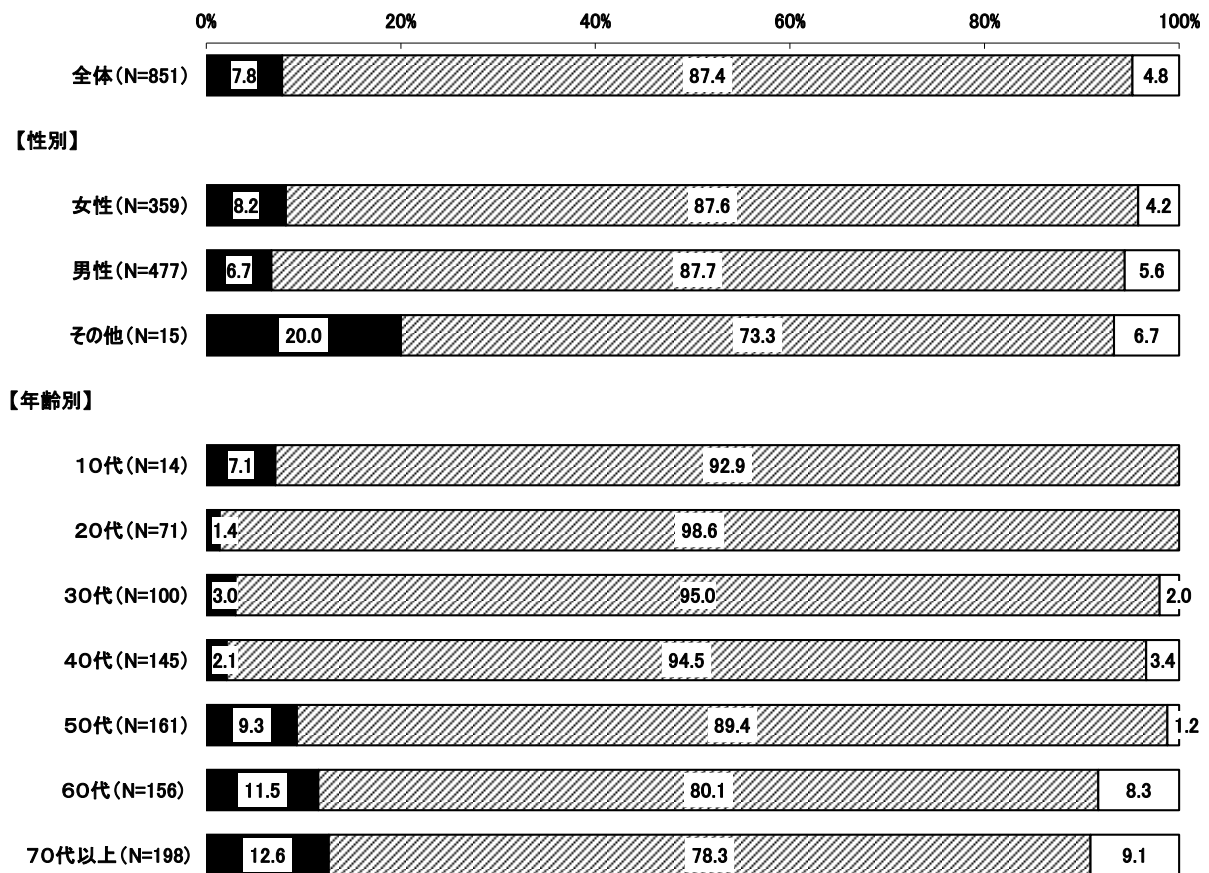
問 40 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（複数回答）



男女共同参画社会を実現するために行政が力を入れるべきことにおいては、全体・性別ともに「保育サービスや、高齢者・介護サービスを充実する」が最も高く、全体では50.9%、女性は55.6%、男性は44.8%となっています。次いで、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」の割合が高くなっています。

行政に対しては、福祉サービスの充実や就労環境支援に対して力を入れてほしいとの要望がうかがえます。

問 41 あなたは、江南市が平成 22 年 2 月 20 日に江南市男女共同参画都市宣言を行ったことを知っていますか。（単数回答）



江南市男女共同参画都市宣言の認知度においては、全体では 7.8%、女性は 8.2%、男性は 6.7%の認知度にとどまっています。

年齢別で見ると、20代～40代で「知っている」と回答した人の割合が特に少ないことがわかります。

## *IV. 自由記述*

---



◎男女共同参画に関する意見や要望

内容	性別
これから、男女という言葉や性別を問う書類や形式などの必要性をもっと考えていく必要があると思う。	女性
	男性
仕事場・家庭で、まだまだ男女差別の根強い意識を感じる。せめて公的な場で両性への待遇に差がない事を願う。	女性
今以上に仕事を続けながら、子育てや介護が出来る様に、行政や企業に制度の整備や充実を望む。	女性
女とか男とか関係なく全ての人が本人の思う（希望）ように働き、家庭との関係をもてるような市がもっともすてきな市だと思う。	未記入
教育現場での日々の教育がとても大切かと思う。社会の中や家庭の中でなど、どんな言葉や慣習が男女共同参画を進めるうえで良くないのか、わかり易い冊子など配布するとよいかと思う。皆が自分らしく生きることができる社会になるよう願う。	女性
男女平等を目指すのではなく男女尊重を目指すべきだと私は考える。男性、女性それぞれが互いに特性を尊重し合い、片方にしか出来ないことが世の中にはどうしても存在するのだから、助け合い認め合い、持ちつ持たれつを関係を尊重し、こういう思考を育むように社会教育をしていくのは有効ではなかろうか。	男性
性による差別はあってはならないが、割合を決めて、無理に女性を登用するのはおかしいと思う。男女の区別なく能力がある人が登用される社会が理想である。	女性
男女の区別なく互いに人として認め合う社会になったらと思う。	男性
すべて男女平等は、体力等、体の構造からして無理だと思う。男性は男性の女性は女性の得意分野があると思う。お互いを思いやり、尊重する気持ちが大事だと思う。性的少数者の方はそれなりの立場や考えを行使していただければよいと考える。	女性
男とか女とかに囚われず一人の人間、人格として向き合うことが大事。ただし、子育ては女性の方が適していると思う。仕事に対して男性主導の方がうまくいくような感覚である。ひとくりに考えない方が良いと思う。	男性
平等＝同一ではない。相互理解が必要。	男性
よく女性の方が給与が低かったり、重要な役職を任せてもらえなかったりと、女性は不遇であるという意見を耳にするが、それは女性だけでなく、例えば育児に積極的に参加したいと考えている男性も同時に不遇にしているからである。男性の育休不足なども男女が”平等”に不遇であると思う箇所である。	女性

◎男女共同参画に関する意見や要望

内容	性別
個人的には身体的構造が違う以上、生理、妊娠、出産は女性特有なものであり男女の平等は難しいと考えている。それだけに男女（男女に関係なく1人1人）が相互に理解し合い思いやることがとても大切だと思っている。どんなに法律制度が整っても利用できない利用しにくい環境や、権利の主張ばかりされても困る。	女性
女性が社会参加するために優遇されるならかえって不平等なのではないか。自分の生活環境を整える努力、周りに認められる人間になるためスキルアップする努力、簡単ではないけど必要だと思う。	女性
男女の能力の差は無いと思う。女性を積極的に何事にも参加させ登用すべきだと思う。	男性
現在では男性でも主婦（夫）をしている人、保育士をしている人、美容師をしている人、看護師をしている人が多くなってきている。女性でも警察官、消防士、医師、トラック・タクシー運転手、道路工事などで交通整理をする人、僧侶・神職などをする人が増えてきている。男女がお互いに能力を認め合い、協力し合える社会が、これからは必要だと思う。	女性
今、社会では「多様性を認め合う社会」の実現を目指している。男女の格差是正も必要だが、性別の枠を超えたジェンダー平等の方へより一層取り組むべきではないだろうか。	女性
能力があれば男女問わず昇給昇進は認めるべきだが一定の割合で女性を登用するのは反対。能力がなくても女性であれば優遇されるのは良くない。	男性
女性だけが過度に優遇されるような逆差別についても問題意識を持つべきだと思う。	男性
やみくもに女性の立場向上を目指すのではなく、男性への配慮も重視していかなければ、男女平等の理念を実現することも、住民に浸透させることも難しいのではないかと考えている。	男性
特に年齢の高い男性の意識改革が必要では。長い間にしみついてきた古い考えを見直す事ができず、時代の流れに精神が追い付いていない。悪意はなく、つい普通に行ってしまう現実がある。	女性
女性の町内会役員又は参加への募集等、広報、回覧等で流した（す）方法を考えるべきである。	男性

◎男女共同参画に関する意見や要望

内容	性別
<p>子ども会に参加し、子ども会に全く父親が関わらない事に驚いた。県内では当たり前のように父親も子ども会に参加し、企画運営などしているところもある中、地域にもよるかもしれないが、私の住むエリアではどこも母親のみ参加し父親不在。体質が古い地域である印象が拭えない。</p> <p>反対に自治会などの集まりは、役員など男性中心で担っているが、そのせいか女性が意見するのが躊躇われる雰囲気である。細々した雑用は妻、会合などは夫と言うようにこれもまた古い体質のままなのだと思う。</p> <p>どちらも男女問わず参加しやすい雰囲気や仕組みを取らなければ、今後の社会活動の継続は難しいのではないかと思う。</p>	女性
<p>友人などでも離婚した人がいるが、旧姓に戻す手続きや、子どもの姓が変わることなど、負担が大きいことも多い。選択的夫婦別姓制度も導入されることを願っています。</p>	女性
<p>日本は、こんなに発展しているのに、世界の中でも女性の位置は低い。まだまだ、男性社会だ。江南市が住みたい町の仲間入りが出来ると良い。</p>	女性
<p>子育て、家事、仕事に追われて自分の時間もない。女性の人権を、もっと女性にやさしい社会を、これから社会が変わっていくことを願う。</p>	女性
<p>社会全体としてまだ女性が家事育児を担うもの、という固定概念が根強いように思える。女性の社会進出を促したいのであれば、家庭環境から男女の格差をなくしていく活動をしていかないといつまで経っても女性に負担を強いる社会のままだと思う。</p>	女性

◎保育・子育て支援に関すること（仕事と家庭の両立のことを含む）

内容	性別
私自身の子育て中にはなかった、ファミリーサポートが現在はあり、働く母親にとってはとても有意義な支援体制だと思う。	女性
女性も働けるような働きやすい環境が欲しい。保育園の間は延長保育や土曜保育があり追加料金はかかるが預けることが可能。しかし小学校になるとすごく難しくなる。学童保育を利用するには勤務条件が厳しくフルタイムで（母親が）働いている家庭しか利用できない。	女性
個人に対し、理解、協力を求めるよりも、行政、会社が強制的に女性と男性の立場が逆になっても成り立つ生活環境を作してほしい。 女性が扶養者になれるような状況にならなければ見せかけの男女平等である。	男性
女性の地位向上が問題の本質ではなく男性が育児に参加できる制度が大事だと思う。	男性
子育てに関して、2人目の子供の育休中であっても、1人目の子供（年齢：2歳等未満児）が保育園を退園しなくてもいいようにしてほしい。ゆとりを持った子育てができるような環境を整えてほしい。	女性
育休の制度はあるが利用しづらい。	男性
市としては働いている女性が効率よく家事ができる情報を提供することで、女性が社会参画を続けるきっかけ作りを作れると思う。	女性
もっと男女どちらでも関係なく個々が自分の選びたいライフスタイルを実現しやすいように、自由なワークスタイル、自由な転職、自由なダブルワークが実現できる社会になり、それをサポートするための保育・介護支援ができることが本当の目指す社会であってほしいと感じている。	女性
安心して子供を産んで育てられるような社会になれば良いと思う。2人目3人目が欲しくても経済的な面や、保育の面での心配があり、実現できない事もあると思う。子育てしやすい江南市になって欲しい。	女性
昇給や給料に関して男女差をなくすことは確かに大切だ。それに加えて男女関係なく、まず働き方を見直すべきだと思う。労働時間が短縮されれば男性の育児家事への参加を促すことが出来ると思う。	女性



◎教育に関すること

内容	性別
小中学校の教育活動が土台となり、その上で、職場でのパワハラ等も含め、それとは気づかず差別を行っている人たちに気づかせていくような職場での研修などを義務化する等の施策が必要と思う。	男性
子供は家庭内でのやりとりから行動を学ぶので学校や職場以前に家庭教育、親の背中が大切だと思う。家庭外で教育するなら、保育園や幼稚園あたりから取り組むべき。	女性

◎行政に関すること

内容	性別
市議の男女比率はどうなっているか。また、かつて女性市長になるべく立候補した方、もしくはそういう動きがあったか。行政からして、男女共同参画を挙げながらもまだまだ実現には程遠いのに、民間、市民にその政策が広まるには難しいと思う。市政のあり方、市の取組を明らかに、そして率先して進めるべきだ。	女性
	男性
質問の選択肢にも制度の改善の取り組みや従業員の認知をもっと徹底させるといったいいこと（望ましいこと）が挙がっていたので、市役所や市の関連事業でもそのような取り組みが進んでいると良いと思った。すぐに結果を出すことはできないが、市が音頭をとって、先導して、市民にも男女共同参画社会や性的マイノリティの知識や認知が広がってほしいと思う。	女性
市はどんな取り組みをしているかなど知りたい。男女共同参画都市宣言している市にしては、あまり周知されていない。	女性
市役所の行政分担において幹部職員の女性登用を積極的に行い、副市長を女性にすることを進める。マイナス面をおそれずにチャレンジすることが必要である。	男性

◎その他、ご意見、ご感想

内容	性別
毎日仕事と家事で生活するのに大変で、男女共同参画の事も知らなかった。	女性
男女共同参画も大切であるが、女性の晩婚化による出生率の低下の方が問題である。女性の幸せのためにも、個人的には、女性には早期結婚・出産が重要であると考え方を広めることも大切であると考え。それを前提にした上で、子育て後の就業支援をすることが良いと考える。	男性



## V. アンケート調査票

---



# 江南市 男女共同参画に関するアンケート調査

## ご協力をお願い

市民の皆さまには、日ごろから市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

本市では、平成13年度に「こうなん男女共同参画プラン～ライフスタイルの無限の可能性を求めて～」を、平成23年度には「第2次こうなん男女共同参画プラン ～<sup>ひと</sup>支え合<sup>ひと</sup>おう女と男～」を策定し、男女共同参画社会の形成に関する施策を推進しているところです。

そして今年度第2次プラン策定から10年が経過します。令和3年度で計画の期間は終了しますが、社会経済情勢の変化に対応するとともに、男女共同参画社会の実現に向けた取組を一層推進するために、新たな計画を策定します。

今回の調査は、この計画の見直しを行うにあたり、市民の皆さまのお考えをお聞かせいただくため、江南市にお住まいの18歳以上の男性1,000人、女性1,000人の方を無作為に選び、実施するものです。

お答えは、すべて無記名で統計的に処理しますので、個人が特定されるなど、回答された方にご迷惑をおかけするようなことはございません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

令和3年4月

江南市長 澤田 和延

### 調査票に、ご記入いただくうえでのご注意

1. 回答は、封筒のあて名のご本人のお考えでご記入ください。
2. 令和3年4月1日現在の内容でご記入ください。
3. ご記入は黒のボールペンまたは濃い鉛筆でお願いいたします。
4. 回答は、**あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。**（複数回答の場合もあります。）また、記述を必要とする箇所は、ご記入ください。
5. 記入後は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らず**5月6日（木）までに**、ご返送ください。なお、市民サービス課（西分庁舎）または各支所の窓口へお持ちいただいても結構です。
6. パソコン、スマートフォンからも回答できます。  
次のURLから回答してください。

[https://www.shinsei.e-aichi.jp/city-konan-aichi-u/offer/offerList\\_detail.action?tempSeq=26676](https://www.shinsei.e-aichi.jp/city-konan-aichi-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=26676)



左記のQRコードからも回答できます。

7. この調査資料の利用にあたっては、江南市個人情報保護条例の規定に基づき、適正に行います。また、調査内容については、この統計以外の目的に使用することはございません。

# 1. あなたご自身のことについておたずねします。

問1 あなたの性についてお答えください。(〇は1つ)

- |       |       |                     |
|-------|-------|---------------------|
| 1. 男性 | 2. 女性 | 3. 答えたくない、わからない、その他 |
|-------|-------|---------------------|

問2 あなたの年齢についてお答えください。(〇は1つ)

- |        |          |
|--------|----------|
| 1. 10代 | 5. 50代   |
| 2. 20代 | 6. 60代   |
| 3. 30代 | 7. 70代以上 |
| 4. 40代 |          |

問3 あなたの職業についてお答えください。(出産休暇、育児休業中の方も働いているとみなしてください)(〇は1つ、2つ以上仕事をお持ちの方は主なものをお答えください。)

※自由業とは企業との雇用関係を持たず、労働時間に縛りがない個人事業主のこと。

- |                 |                         |
|-----------------|-------------------------|
| 1. 会社員(正社員)     | 7. パート、アルバイト            |
| 2. 自営業主         | 8. 専業主婦、専業主夫            |
| 3. 自由業(フリーランス)※ | 9. 学生                   |
| 4. 2・3の家族従事者    | 10. 無職(専業主婦、専業主夫、学生を除く) |
| 5. 公務員、教職員      | 11. その他                 |
| 6. 契約社員、派遣社員    | (具体的に: )                |

問4 あなたは、結婚していますか。(〇は1つ)

- |                 |                              |
|-----------------|------------------------------|
| 1. 結婚している →問5へ  | 3. 結婚していないがパートナーと暮らしている →問5へ |
| 2. 結婚していない →問6へ | 4. 結婚していたが、死別・離別している →問6へ    |

問5 <問4で「1」または「3」と答えた方におたずねします>あなたの配偶者(パートナー)の職業は何ですか。(出産休暇、育児休業中の方も働いているとみなしてください)

(〇は1つ、2つ以上仕事をお持ちの方は主なものをお答えください。)

※自由業とは企業との雇用関係を持たず、労働時間に縛りがない個人事業主のこと。

- |                 |                         |
|-----------------|-------------------------|
| 1. 会社員(正社員)     | 7. パート、アルバイト            |
| 2. 自営業主         | 8. 専業主婦、専業主夫            |
| 3. 自由業(フリーランス)※ | 9. 学生                   |
| 4. 2・3の家族従事者    | 10. 無職(専業主婦、専業主夫、学生を除く) |
| 5. 公務員、教職員      | 11. その他                 |
| 6. 契約社員、派遣社員    | (具体的に: )                |

問6 あなたが、いま一緒に住んでいる家族は誰ですか。（一緒に住んでいる方すべてに○）

1. 一人暮らし	6. 祖父母
2. 配偶者（パートナー）	7. 孫
3. 親（配偶者の親を含む）	8. 子どもの配偶者
4. 子ども	9. その他
5. 兄弟姉妹	（具体的に： _____）

## 2. 男女の地位に関する意識についておたずねします。

問7 あなたは、次のような場面において、男女の地位は平等になっていると思いますか。

（A～Hのそれぞれについて、○は1つ）

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇されている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない
A 家庭生活	1	2	3	4	5	6
B 職場	1	2	3	4	5	6
C 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
D 地域活動の場	1	2	3	4	5	6
E 政治の場	1	2	3	4	5	6
F 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6
G 社会通念、慣習、しきたりなど	1	2	3	4	5	6
H 社会全体として	1	2	3	4	5	6

問8 あなたは、男女が社会のあらゆる分野でもっと平等になるためには何が重要だと思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 法律や制度の見直しを行い、性差別につながるものを改める</li> <li>2. 男女を取り巻くさまざまな偏見や社会通念、慣習、しきたりなどを改める</li> <li>3. 女性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図る</li> <li>4. 男性自身が経済力をつけたり、知識、技術を習得するなど、積極的に能力の向上を図る</li> <li>5. 女性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る</li> <li>6. 男性の就業、社会参加を支援する施設やサービスの充実を図る</li> <li>7. 行政や企業などの重要な役職に女性を積極的に登用する制度を採用、充実する</li> <li>8. 学校教育や生涯学習の場で、男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する</li> <li>9. その他（具体的に： _____）</li> <li>10. わからない</li> </ol>
--

### 3. 職業・職場環境などについておたずねします。

問9 女性が職業を持つことについて、あなたの考えに近いものはどれですか。(〇は1つ)

1. 女性は職業を持たない方がよい
2. 結婚するまでは職業を持つ方がよい
3. 子どもができるまでは職業を持つ方がよい
4. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
5. 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
6. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
7. わからない

問10 男性の働き方について、あなたの考えに近いものはどれですか。(〇は1つ)

1. 男性は常に職業に専念した方がよい
2. 結婚したらパートナーにあわせて仕事量を調整するべきである
3. 子どもができたなら仕事量を調整するべきである
4. 子どもができたなら仕事をやめ、大きくなったら再び職業を持つ方がよい
5. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
6. わからない

問11 <問3 あなたの職業で「1. 会社員」「3. 自由業」「5. 公務員、教職員」「6. 契約社員、派遣社員」「7. パート、アルバイト」「9. 学生」と答えた方におたずねします>

あなたは、職場などにおけるセクシュアル・ハラスメント\*(セクハラ、性的嫌がらせ)の経験がありますか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 自分が直接経験したことがある
2. 同じ職場の女性で経験した人がある
3. 同じ職場の男性で経験した人がある
4. 自分を含め同じ職場では経験した人はいないと思う
5. 同じ職場で経験した人があるかどうかわからない
6. セクシュアル・ハラスメントとはどういうものなのかわからない
7. セクシュアル・ハラスメントという言葉自体知らない
8. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

\* セクシュアル・ハラスメント

相手方の意に反した不快な性的言動や経験(例: 身体に触れる、肉体関係をせまる、性的な質問やうわさを流したりする等)、それに対する反応によって仕事をするうえで一定の不利益を与えられたり、それを繰り返すことによって就業環境を著しく悪化させること。



問 12 あなたは、セクシュアル・ハラスメントをなくすためにどのような対策が必要だと考えますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                       |                |
|-----------------------|----------------|
| 1. 事業主がセクハラ防止の啓発に取り組む | 6. 自分の行動に自覚を持つ |
| 2. 相談窓口を設置する          | 7. 服装や態度に気を付ける |
| 3. 法律で規制をする           | 8. その他         |
| 4. 被害者自らが毅然と対応する      | (具体的に： )       |
| 5. 団結して抗議する           | 9. わからない       |

問 13 あなたは、女性が安心して働ける環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。(あなたが思うもの上位2つに○をつけてください)

- |                              |
|------------------------------|
| 1. 給料や仕事の内容、昇進などの男女差を解消する    |
| 2. 職業(仕事)と家庭の両立に職場が理解し協力する   |
| 3. 夫や家族が理解し協力する              |
| 4. 育児・介護休業制度を定着させる           |
| 5. 夫の育児・介護休業を取りやすくする         |
| 6. 産前・産後・生理休暇などを取りやすくする      |
| 7. 育児、保育に対する支援や施設、サービスを充実させる |
| 8. 介護、看護に対する支援や施設、サービスを充実させる |
| 9. 女性労働者に対する相談窓口などを設置する      |
| 10. その他(具体的に： )              |
| 11. わからない                    |

#### 4. 家庭・地域生活についておたずねします。

問 14 あなたは、「夫は外で働き、妻は家庭を守るべき」という考え方について、どう思いますか。(○は1つ)

- |               |          |
|---------------|----------|
| 1. 賛成         | 4. 反対    |
| 2. どちらかといえば賛成 | 5. わからない |
| 3. どちらかといえば反対 |          |

問15 <問4で「1. 結婚している」または「3. 結婚していないがパートナーと暮らしている」と答えた方に  
おたずねします>あなたの家庭では、次のような家事を、主に誰が分担していますか。  
(A~Hはそれぞれ○は1つ)

	夫、 パートナー (男性)	妻、 パートナー (女性)	夫婦	家族で 分担	その他 ( ※	わからない	対象者が いない
A 食事のしたく	1	2	3	4	5	6	
B 食事の後片付け、食器洗い	1	2	3	4	5	6	
C 掃除	1	2	3	4	5	6	
D 洗濯	1	2	3	4	5	6	
E 買い物	1	2	3	4	5	6	
F 家計の管理	1	2	3	4	5	6	
G 子育て	1	2	3	4	5	6	7
H 介護	1	2	3	4	5	6	7

※その他で複数該当がある場合は、詳細を次に記入してください。(例：Aは自分、Cはヘルパー)  
( )

問16 あなたが家事、育児、介護に関わる時間は、1日あたりどれくらいですか。  
(A・Bはそれぞれ○は1つ)

	まったく 関わって いない	30分未満	30分以上 1時間未満	1時間以上 3時間未満	3時間以上 5時間未満	5時間以上
A 平日	1	2	3	4	5	6
B 休日	1	2	3	4	5	6

問17 子育てや子どもの育て方について、あなたのご意見に近いものはどれですか。  
(A~Gはそれぞれ0は1つ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
<b>①子育てについて</b>					
A 子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい	1	2	3	4	5
B 子どもが小さいうちは、父親は育児に専念したほうがよい	1	2	3	4	5
C 子どもの世話の大部分は、母親でできる	1	2	3	4	5
D 子どもの世話の大部分は、父親でできる	1	2	3	4	5
E 親が仕事のために、保育園など子育て支援サービスを活用してもよい	1	2	3	4	5
<b>②子どもの育て方について</b>					
F 子どもは、性別にこだわらず個性を伸ばすほうがよい	1	2	3	4	5
G 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てた方がよい	1	2	3	4	5

問18 あなたの生活は、次のどれにあてはまりますか。(A・Bはそれぞれ0は1つ)

※この質問における次ページにあります用語の意味は、次のとおりとします。

「仕事」	自営業主（農林漁業を含む）、家族従事者、雇用者として、週1時間以上働いていること。常勤（フルタイム）、パート、アルバイト、嘱託などは問わない。
「家庭生活」	家族と過ごすこと、家事（食事のしたく、片付け、掃除、洗濯、買い物など）、育児、介護、看護など
「地域、個人の生活」	地域・社会活動（ボランティア活動、社会参加活動、交際、つきあいなど）、学習、研究（学業も含む）、趣味、娯楽、スポーツなど

	「仕事」を重視	「家庭生活」を重視	「地域、個人の生活」を重視	「仕事」と「家庭生活」をともに重視	「仕事」と「地域、個人の生活」をともに重視	「家庭生活」と「地域、個人の生活」をともに重視	「仕事」と「家庭生活」と「地域、個人の生活」すべてを重視	わからない
A 現実の生活	1	2	3	4	5	6	7	8
B 理想（希望）の生活	1	2	3	4	5	6	7	8

問19 あなたは、現実の生活が理想（希望）の生活に近いと感じますか。（〇は1つ）

1. 感じる	4. 感じない
2. どちらかといえば感じる	5. わからない
3. どちらかといえば感じない	

問20 あなたは、仕事以外に地域・社会活動に参加した経験はありますか。（〇は1つ）

1. 現在参加している →問21へ
2. かつて参加していたが現在は参加していない →問21へ
3. 参加したことはない →問23へ

問21 <問20で「1」または「2」と答えた方におたずねします> 現在どのような活動に参加していますか。または、活動していましたか。（あてはまるものすべてに〇）

1. PTAや子ども会	5. NPOやボランティア団体など民間の非営利活動団体
2. 女性の会や地域女性団体 (または男性の会や地域男性団体)	6. 教養、趣味、スポーツのサークル
3. 町内会や自治会	7. その他
4. 老人クラブや高齢者の会	(具体的に )

問22 <問20で「1」または「2」と答えた方におたずねします> その活動に参加する(した)中で、性別を理由にした不平等な扱いを受けた経験はありますか。また「あり」と答えた方はどんな時にありましたか。

- |                |            |
|----------------|------------|
| 1. あり<br>(どんな時 | 2. なし<br>) |
|----------------|------------|

問23 今後または引き続き、あなたが参加したい活動はありますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                    |                             |
|------------------------------------|-----------------------------|
| 1. PTAや子ども会                        | 5. NPOやボランティア団体など民間の非営利活動団体 |
| 2. 女性の会や地域女性団体<br>(または男性の会や地域男性団体) | 6. 教養、趣味、スポーツのサークル          |
| 3. 町内会や自治会                         | 7. その他(具体的に )               |
| 4. 老人クラブや高齢者の会                     | 8. 参加したいと思わない               |

## 5. 性的少数者(性的マイノリティ)についておたずねします。

問24 あなたは、性的少数者に関する次のことについて知っていますか。

(知っているものすべてに○)

- |  |
|--|
| 1. 性的少数者を表す言葉のうち、レズビアン(Lesbian:女性同性愛者)、ゲイ(Gay:男性同性愛者)、バイセクシュアル(Bisexual:両性愛者)、トランスジェンダー(Transgender:性同一性障害などで、心と体の性が一致しない人)の人を、それぞれの頭文字をとり、「LGBT」というものがあること。 |
| 2. 性的少数者を表す言葉のうち、性的指向(Sexual Orientation:「どのような性別を好きになるか」と性自認(Gender Identity:「自分の性をどのように認識しているか」、「心の性」)の頭文字をとり、「SOGI」というものがあること                             |
| 3. 本人が、公にしていなかった性的指向や性自認を表明することを「カミングアウト」と呼ぶこと   |
| 4. 本人の了承なく、性的指向や性自認を暴露することを「アウティング」と呼ぶこと   |
| 5. 性的少数者が雇用や健康、家族形態など、様々な面で困難な状況にあること  |

問25 あなたの周りに性的少数者の人はいますか。(あてはまるものすべてに○)

- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1. 自分がそうである                          |
| 2. 身近な人(家族、友人、知人)がそうである(カミングアウトしている) |
| 3. 身近な人(家族、友人、知人)でそれらしき人がいる(いた)      |
| 4. 同じ職場、学校にいる(いた)(カミングアウトしている)       |
| 5. 同じ職場、学校にそれらしき人がいる(いた)             |
| 6. いない                               |
| 7. わからない                             |

問26 あなたの身近な人(家族、友人、知人)などから、性的少数者であることを打ち明けられた場合、あなたの気持ちに近いものを選んでください。(あてはまるものすべてに○)

- |                   |               |
|-------------------|---------------|
| 1. 驚くが、話を聞く       | 6. 理解できないと思う  |
| 2. 驚いて、話を聞かない     | 7. 応援したいと思う   |
| 3. 信頼してくれてうれしいと思う | 8. 応援したいと思わない |
| 4. 距離をおきたいと思う     | 9. 今まで通り接する   |
| 5. 理解したいと思う       | 10. わからない     |

問27 今の社会は性的少数者の方にとって、生きづらいと思いますか。(○は1つ)

- |                       |
|-----------------------|
| 1. 思う →問28へ           |
| 2. どちらかといえば思う →問28へ   |
| 3. どちらかといえば思わない →問30へ |
| 4. 思わない →問30へ         |
| 5. わからない →問30へ        |

問28 <問27で「1」または「2」と答えた方におたずねします>その理由は何ですか。  
(あてはまるものすべてに○)

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1. いじめや差別等を受けている                |
| 2. 制服やトイレなど生活しにくい状況にある          |
| 3. 書類等で性別の記入を強要されている            |
| 4. 家族や友人等に相談しづらい状況にある           |
| 5. 就職、職場、待遇等で不利・不当な扱いを受けている     |
| 6. 同性パートナーとの関係を認めてもらえない         |
| 7. 法整備が不十分であり、婚姻や相続などで不利益を受けている |
| 8. 行政機関などの相談・支援体制が不十分である        |
| 9. その他(具体的に: _____)             |

問29 <問27で「1」または「2」と答えた方におたずねします>性的少数者の方が生きやすくなるには、どのような取り組みが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

- |  |
|--|
| 1. 教育現場での啓発活動(性的少数者に関する講演会や授業など)       |
| 2. 社会制度の見直し(パートナーシップ証明書など)             |
| 3. 行政による啓発活動(広報誌やポスターによる発信、LGBT支援宣言など) |
| 4. 性的少数者についての専門の相談機関(電話や面接相談など)        |
| 5. 性的少数者の方が安心して集まれるコミュニティスペース          |
| 6. その他(具体的に: _____)                    |
| 7. わからない                               |

## 6. DV（ドメスティック・バイオレンス）についておたずねします。

問30 あなたは、DVに関する次のことについて知っていますか。（知っているものすべてに○）

1. 配偶者や恋人など親密な関係の人から受ける暴力を、いわゆる「DV（ドメスティック・バイオレンス）」と呼ぶこと
2. DVには、なぐる、けるなど身体的暴力だけでなく、精神的、性的暴力も含まれること
3. DV被害者を支援するために、法律（「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」）が制定されていること
4. 公的機関において、相談や被害者の一時保護を行っていること
5. DVを受けている人を発見した人は、公的機関などの相談窓口または警察に通報するよう努めなければならないこと
6. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

問31 あなたは、DVの経験がありますか。（あてはまるものすべてに○）

1. 被害の経験がある →問32へ
2. 加害の経験がある →問32へ
3. 経験はない →問34へ

問32 <問31で「1」または「2」と答えた方におたずねします> その暴力はどのようなものですか。（あてはまるものすべてに○）

1. 身体的な暴力（なぐる、ける等）
2. 精神的な暴力（おどす、ののしる、無視する等）
3. 性的な暴力（性行為の強要、避妊に協力しない、ポルノビデオや雑誌を無理やり見せる等）
4. 経済的な暴力（生活費を入れない等）
5. 社会的な暴力（友人と会うことや実家などへの外出を制限する等）
6. その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

問33 <問31で「1」または「2」と答えた方におたずねします> あなたは、DVを経験した時、だれかに相談したりしましたか。（あてはまるものすべてに○）

1. 相談しようとは思わなかった
2. 相談したかったが、相談しなかった
3. 公的な相談機関に相談した
4. 民間の相談機関に相談した
5. 弁護士、医師、カウンセラーなどに相談した
6. 家族、友人、先生などに相談した
7. その他（ \_\_\_\_\_）

問34 あなたは、DVについて相談できる窓口があることを知っていますか。(〇は1つ)

1. 知っている →問35へ

2. 知らない →問36へ

問35 <問34で「1」と答えた方におたずねします>相談できる窓口についてどのようなところを知っていますか。(知っているものすべてに〇)

1. 配偶者暴力相談支援センター(愛知県女性相談センター)
2. 男性DV被害者ホットライン
3. 市役所(江南市役所福祉課、65歳以上は高齢者生きがい課)
4. 警察
5. 民間の団体や機関(民間シェルター、弁護士会、性暴力救援センター日赤なごや「なごみ」など)
6. 法務局、人権擁護委員、法テラス(日本司法支援センター)
7. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)

問36 あなたは、DVを防止するために何が必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに〇)

1. 法律、制度の面で見直しを行う(罰則の強化など)
2. 犯罪の取り締まりを強化する
3. 捜査や裁判での担当者に女性を増やすなど、被害者が届けやすいようにする
4. メディア(放送、出版、新聞など)を活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
5. 被害者のための相談窓口や保護施設を整備する
6. 家庭や学校において、男女平等や性についての教育を充実させる
7. 加害者に対するカウンセリングや更正を促すプログラムを実施する
8. 職場での男女の人権が軽視されないように、職場の人権教育を図る
9. メディアが自主的に倫理規定を強化する
10. DVを助長するおそれのある情報(雑誌、コンピューターソフトなど)を取り締まる
11. その他(具体的に: \_\_\_\_\_)
12. 特に対策の必要はない
13. わからない



## 7. 男女共同参画全般についておたずねします。

問37 あなたは、次にあげる男女共同参画に関する言葉を知っていますか。

(知っているものすべてに○)

1. 男女共同参画社会
2. 女子差別撤廃条約
3. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
4. ジェンダー（社会的性別）
5. 男女雇用機会均等法
6. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
7. 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）
8. パートナーシップ制度、パートナーシップ宣誓制度
9. デートDV（交際中の相手からの暴力）
10. クォータ制（女性の割合をあらかじめ一定数に定めて積極的に起用する制度）
11. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性と生殖に関する健康と権利）

問38 あなたは、男女共同参画社会（男女がともに個性と能力を発揮できる社会）を実現するために、市民として何をすべきだと思いますか。（あなたが思うもの上位3つに○をつけてください）

1. 男女共同参画に関する講座に参加するなど、自己啓発に努める
2. 生活の中の習慣、しきたりなどを見直す
3. 家庭において、子どもに対し性別に意識しない接し方をする
4. 家族が協力して家事や育児を行う
5. 家族が協力して高齢者や病人のケアを行う
6. 女性が仕事をするに対する意識（理解）を高める
7. 仕事と家庭や地域活動の両立をするために努力する
8. ボランティア活動など、地域活動に積極的に参加する
9. 市政に対する関心を深め、市政への参加意識を持つ
10. その他（具体的に： \_\_\_\_\_ )
11. 特にない
12. わからない

問39 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、企業は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あなたが思うもの上位3つに○をつけてください)

1. 育児休業制度、介護休業制度などを整備、充実する
2. 育児休業制度、介護休業制度などを利用しやすい職場環境をつくる
3. 柔軟な働き方を取り入れる(在宅勤務やフレックスタイムなど)
4. いったん仕事をやめた人が再就職できるよう制度を整備する
5. 管理職に女性を積極的に登用する
6. 賃金や昇進などにおける男女の格差をなくす
7. 職業能力の向上のための研修や能力開発の機会を充実する
8. 男女共同参画に関する意識向上のための研修を実施する
9. 事業所内における保育施設の設置など、子育て支援を充実する
10. その他(具体的に: )
11. 特にない
12. わからない

問40 あなたは、男女共同参画社会を実現するために、行政は今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。(あなたが思うもの上位3つに○をつけてください)

1. 法律や制度の面で見直しを行う
2. 政策決定の場に女性を積極的に登用する
3. 民間企業等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
4. 性別による悩みを相談する場を提供する(女性相談、男性相談等)
5. 女性が少ない分野(研究者等)への女性の進出を支援する
6. 保育サービスや、高齢者・介護サービスを充実する
7. 男女平等と相互理解について学習機会を充実する
8. 労働時間の短縮や在宅勤務の普及など働き方の見直しを進める
9. 子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する
10. 一度仕事をやめた人の再就職を支援する
11. 男女平等と相互理解について広報、PRする
12. 性別の区分けによって配慮が必要な場面において意見が取り入れられるような体制を整える(避難所対応等)
13. その他(具体的に: )
14. 特にない
15. わからない

問41 あなたは、江南市が平成22年2月20日に江南市男女共同参画都市宣言を行ったことを知っていますか。(○は1つ)

1. 知っている
2. 知らない



---

---

江 南 市  
男女共同参画に関する市民意識調査  
結果報告書

発 行 : 江南市

編 集 : 江南市企画部 市民サービス課

〒483-8701

愛知県江南市赤童子町大堀 90 番地

TEL 0587-54-1111

FAX 0587-53-0132

発行年月 : 令和3年6月

---

---